

1. 科目名 (単位数)	社会福祉援助技術特論 (4 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5103
2. 授業担当教員	田中 利光・田代 幹康			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークの三大要素、価値・理論・実践を検討する。田中が担当する前半部の授業（第 1 回～第 15 回）では、主に価値と理論に関する講義を行う。価値に関しては歴史的観点から価値の変遷を考察する。理論に関しては主にエコロジカル・システム論を概念の枠組みとして使用し、諸々の援助技術論・モデルの理解と実践への応用の学習に繋げる素材とする。</p> <p>田代が担当する後半部の授業（第 16 回～第 30 回）では、主要なソーシャルワークの理論と実践方法について学習する。ソーシャルワークの理念の一つであるノーマライゼーションの理念とコミュニティワークの視点について学習し、その実践例と方法について検討する。またいくつかの代表的なソーシャルワークの理論・アプローチ方法について学び福祉現場の事例と結びつけて学習する。</p> <p>特に強調されるのは実践と理論の結びつきの理解であり、専門職としての能力の向上を目指している。</p>			
8. 学習目標	<p><b>ソーシャルワークの価値と理論（第 1 回～第 15 回；田中担当）</b></p> <p>1～2. 幸福と福祉追求の歩み（歴史的観点）  3～4. 幸福・福祉追求の根拠としての「正義」「社会的公正」の検討  5～6. 社会福祉実践とは何をする事なのか。①社会福祉実践の目的。②ソーシャルワークの三大要素。③ソーシャルワークの価値観。  7～8. ソーシャルワークの価値観（各論的考察）  9～10. 社会福祉援助技術の歴史的発展（総論的考察）  11～12. 社会福祉援助技術の歴史的発展（各論的考察）  13～14. 統合ソーシャルワークの理論的背景。①システムの視点の展開、②エコロジカル・アプローチ。  15. ジェネラリスト・ソーシャルワークの課題と展開</p> <p><b>ソーシャルワークの実践（第 16 回～第 30 回；田代担当）</b></p> <p>16～17. ノーマライゼーションの理念、実践方法とコミュニティワークの視点(スウェーデンにおける実践)  18～19. コミュニティワークの理論と実践方法  20～21. エコロジカル理論と実践方法  22～23. 行動理論・アプローチの理論と実践方法  24～25. 認知理論・アプローチの理論と実践方法  26～27. 問題解決理論・アプローチの理論と実践方法  28～29. 課題中心理論・アプローチの理論と実践方法  30. スウェーデンの知的障害のある人の生活支援方法についての理論と実践方法</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p><b>【田中担当授業（第 1 回～第 15 回）の必読書】</b></p> <p>① 秋山智久、平塚良子、横山穰『人間福祉の哲学』ミネルヴァ書房、2004 年。  ② 秋山智久『社会福祉の思想 入門—なぜ「人」を助けるのか』ミネルヴァ書房、2016 年。  ③ 田中利光『ユダヤ慈善研究』教文館、2014 年。</p> <p><b>【田中担当授業（第 1 回～第 15 回）の参考書】</b></p> <p>① 秋山智久『社会福祉実践論—方法原理・価値観・専門職—』ミネルヴァ書房、2013 年改訂版。  ② フレデリック・G. リーマー、秋山智久監訳『ソーシャルワークの価値と倫理』中央法規、2001 年。  ③ フランシス・J. ターナー編、米本秀仁監訳『ソーシャルワーク・トリートメント—相互連結理論アプローチ』(上・下)、中央法規、1999 年。  ④ 平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子 (1998)『社会福祉実践の新潮流・エコロジカル・システム・アプローチ』ミネルヴァ書房、1998 年。  ⑤ Carel Germain &amp; Alex Gitterman, <i>The Life Model of Social Work Practice</i>, Columbia University Press, 1980.  ⑥ 山辺 朗子 岩間 伸之 訳『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』中央法規、2004 年。  ⑦ 山辺 朗子『ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開』(新・MINERVA 福祉ライブラリー) ミネルヴァ書房、2011 年。</p> <p>その他の文献は、課題にしたがってクラスで示す。図書館で探すこと。また、文献に関しては院生が積極的に情報交換を行い、絶えず自分の読書量と読書幅を増やす努力をすること。</p> <p><b>【田代担当授業（第 16 回～第 30 回）の必読書】</b></p> <p>① 小田兼三、宮川敦君編 『社会福祉援助技術論』 第 2 版 勁草書房 2010  ② 小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第 3 版 勁草書房 2014  ③ 田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007 年  ④ 田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネル</p>			

	ヴァ書房 2011 年 <b>【田代担当授業（第 16 回～第 30 回）の参考書】</b> ① 秋山智久編 『世界のソーシャルワーカー』 簡井書房、2012 年 ② 秋山智久著 『社会福祉専門職の研究』 ミネルヴァ書房 2007 年
11. 成績評価の方法	1. 成績の評価は小論文の評価と期末試験の結果によって決められる。 (通信生の場合はスクーリング時の試験) 2. 授業中の発表も重要な評価対象となる。評価基準 論文 50 % 期末試験 25 % (通信の場合はスクーリング時に行う) クラス発表 25 % (評価点) A : 100～90、B+ : 89～80、B : 79～70、C : 69～60、F : 59 点以下
12. 受講生へのメッセージ	現代の社会福祉援助においては、複雑化する生活上の問題と福祉ニーズを全体としてとらえ、人々が問題解決に向けて主体的に取り組むのを社会的に支援するための理論が重要となる。システム理論、生活モデル、生態学、ソーシャル・サポート・ネットワーク論などの実践理論、実践モデルについて分析・考察し、今後の社会福祉専門職と社会福祉援助について基礎概念を押さえつつ、高度専門職業人としてのあり方を探究する。このようなソーシャルワークの主要な理論を検討するとともに、Evidence-based practice(EBP=証拠に基づく実践)を基盤とする社会福祉援助技術を学習する。エコロジカル・システム論を概念の枠組みとして使用し、諸々の援助技術論・モデルの理解と実践への応用の学習をすすめる。また、ソーシャルワークの三大要素の一つ「価値(観)」について、考察する。
13. オフィスアワー	教員の講義日、または教員の所属キャンパス研究室のメールを介しての質問は可。詳細は別途指示する。
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1～2. テーマ	幸福と福祉追求の歩み (歴史的観点)
<b>【学習のねらい】</b> 幸福、福祉、社会福祉、社会福祉実践、ソーシャルワーク実践の相違点を明確にし、概念・用語の厳密な点検を行う。 <b>【学習の内容】</b> (1) 福祉の言語上の意味は「幸福」であるが、社会福祉実践の対象は「不幸」にある。幸福とは何かを、世界の五大幸福論から検討する。 (2) 幸福、福祉、社会福祉、社会福祉実践、ソーシャルワーク実践の相違点を明確にする。 <b>【主要な概念・用語】</b> 幸福、福祉、幸福及び福祉の追求 <b>【学習と研究課題】</b> (1) 幸福・福祉の捉え方を、歴史的観点から検討する。 (2) 相互扶助、慈善、博愛の概念を整理する。 (3) 慈善、博愛を歴史の中に位置づけ、それらの特徴を検討する。 (4) 社会福祉の概念を、歴史的観点から整理する。 (5) 社会福祉実践とソーシャルワーク実践の相違点を検討する。	
3～4. テーマ	幸福・福祉追求の根拠としての「正義」「社会的公正」の検討
<b>【学習のねらい】</b> 幸福・福祉を追究する根拠としての「正義」「社会的公正」の概念を歴史的観点から検討する。 <b>【学習の内容】</b> (1) 福祉と正義との関係を考察する。 (2) 歴史的視座から、社会的公正の発達を考察する。 <b>【主要な概念・用語】</b> 正義、社会的公正 <b>【学習と研究課題】</b> (1) 幸福・福祉を追求する根拠としての正義の観念について学習する。 (2) 欧米福祉思想における正義ないしは社会的公正の根源思想を探究する。 (3) 正義ないし社会的公正は社会福祉援助実践とどのように関連しているのか。 (4) 社会的公正は今日の社会福祉援助実践の根拠となり得るかを検討する。あわせて今日の社会福祉援助実践における根拠となるものについて考察する。	
5～6. テーマ	社会福祉実践とは何をする事なのか。①社会福祉実践の目的。②ソーシャルワークの三大要素。 ③ソーシャルワークの価値。
<b>【学習のねらい】</b> 社会福祉実践の目的は何かを、ソーシャルワークの三大要素から考察する。また、ソーシャルワークの価値を検討する。 <b>【学習の内容】</b> (1) 社会福祉実践とは何をする事なのか。社会福祉実践の目的とは何か。 (2) ソーシャルワークは何から成り立っているか (ソーシャルワークを構成する三大要素)。 (3) 社会福祉の価値観の主要な内容を検討する。 <b>【主要な概念・用語】</b> 社会福祉、社会福祉実践、ソーシャルワークの三大要素、価値 <b>【学習と研究課題】</b> (1) 社会福祉実践の目的を検討する。 (2) ソーシャルワークを構成する三大要素からソーシャルワークの目的を考察する。	

(3) ソーシャルワークの価値について価値論を踏まえたうえで検討する。	
7～8. テーマ	ソーシャルワークの価値観 (各論的考察)
<p><b>【学習のねらい】</b>          ソーシャルワークの価値観としてこれまで出された様々な見解を挙げ、さらに価値観の歴史の変遷とも交差させて検討し、自分自身のソーシャルワークの価値観を醸成する。</p> <p><b>【学習の内容】</b>          (1) ソーシャルワークの価値として出されている様々な見解を取り上げる。          (2) 一般ソーシャルワーク (ソーシャルワーク専門職) の価値観と、宗教ソーシャルワーク (ユダヤ教、キリスト教、仏教など) の価値観を取り上げ、両者の特徴を比較する。          (3) 今日における一般ソーシャルワークと宗教ソーシャルワークの共存の可能性とその意味を探索。</p> <p><b>【主要な概念・用語】</b>          価値、宗教的価値観、ソーシャルワーク専門職の価値観、共存</p> <p><b>【学習と研究課題】</b>          (1) ソーシャルワーク専門職の価値について、一般ソーシャルワークと宗教ソーシャルワークの価値の特徴を分類する。          (2) ソーシャルワーク実践において、援助の実践現場における宗教ソーシャルワーク (及びその価値観) の長所と短所を検討する。          (3) 宗教法人を母体とする施設・事業所等における援助の価値観がどのように運用されているか、その実際を調べる。</p>	
9～10. テーマ	社会福祉援助技術の歴史的発展 (総論的考察)
<p><b>【学習のねらい】</b>          社会福祉援助技術の歴史的発展を学習する。英国、アメリカ合衆国、日本に焦点を当て、知識・技術の移行がどのように起こったのかを検証する。</p> <p><b>【学習の内容】</b>          (1) 社会福祉援助技術に関する英国の COS。          (2) アメリカ合衆国における社会福祉援助技術の体系化。          (3) 社会福祉援助技術が日本に導入された経緯、状況の説明。          (4) アメリカ合衆国の援助技術の直輸入という批判。</p> <p><b>【主要な概念・用語】</b>          援助技術の歴史、実践理論の発展、英国の社会福祉実践、アメリカ合衆国の社会福祉実践、日本の社会福祉実践</p> <p><b>【学習と研究課題】</b>          (1) ケースワークの歴史的発展を調べ、どのような過程を経て発展したのかを理解する。          (2) グループワークの歴史的発展を調べ、ケースワークとの違いを明確にする。          (3) ケースワーク、グループワークの日本への導入経緯を理解する。</p>	
11～12. テーマ	社会福祉援助技術の歴史的発展 (各論的考察)
<p><b>【学習の内容】</b>          医療分野におけるソーシャルワーカーの前身は、イギリスではアルモナー (Hospital Almoner) に、アメリカ合衆国ではキャボット博士 (Dr. Cabot) の取り組みに求められる。アメリカ合衆国における医療ソーシャルワーカー誕生のきっかけを作ったマサチューセッツ総合病院のキャボット博士は、効果的な医療を行うためには、クライアントと彼を取り巻く環境との関係を探り、その接点に介入するソーシャルワーカーが不可欠であると説いた。このように、ソーシャルワーク以外の分野からも、人と環境との接点への介入の必要性が指摘された。それらソーシャルワークの隣接領域はソーシャルワークと関わりながらソーシャルワークの発展に寄与してきた。そのような外国の状況と、わが国の医療ソーシャルワーカー導入の経緯を比較する。11～12 回講義では他にも受講生の関心に沿ってそのような個々の各論的課題を扱う。</p> <p><b>【主要な概念・用語】</b>          医療とソーシャルワーカー、アルモナー (Hospital Almoner)、キャボット (Richard C. Cabot)、キャノン (Ida M. Cannon)、人とその環境への介入、ソーシャルワーク隣接領域とソーシャルワークの発展、わが国の医療ソーシャルワークの萌芽、聖路加国際病院、浅賀ふさ</p> <p><b>【学習と研究課題】</b>          (1) イギリスの医療施設におけるアルモナーについて調べる。          (2) アメリカ合衆国における医療ソーシャルワーカー誕生の経緯を調べる。とくに利用者 (患者) の環境へのソーシャルワーカーの介入の必要性に焦点を当てる。          (3) 日本の MSW 誕生の経緯を調べる。          (4) そのほか、院生が関心を持っている社会福祉援助技術の歴史的発展に関する各論的な課題があれば、それについて調べる (例えば、ホスピスなど)。</p>	
13～14. テーマ	統合ソーシャルワークの理論的背景。①システムの視点の展開、②エコロジカル・アプローチ。
<p><b>【学習のねらい】</b>          ①社会福祉の二元論への批判 (G. コノプカ Gisela Konopka など)。          ②システム論 (Eco-system) とは何か。          システムとは何か、社会学及びジェネラル・システムの観点から探究する。どのような過程でシステムの視点が社会福祉実践に導入され、その結果、実践理論にどのような変化が起こったかを学習する。          ③エコロジカル・アプローチの視点と特徴。          エコ・システム論の社会福祉への応用を学習する。特に、ジャーメイン (C. Germain) とギッターマン (A. Gitterman) によるエコ・システム論を基にしたライフモデル (Life Model) がどのように構成されているかを学習する。</p> <p><b>【学習の内容】</b>          (1) システムの概念とは何か。          (2) システム視点の社会福祉実践への導入の過程。</p>	

	<p>(3) システム視点が社会福祉実践に与えた影響。                  (4) エコ・システム論とは何か。                  (5) ジャーメインとギッターマンによるライフ・モデルとは何か。                  (6) エコ・システム論と社会福祉実践の関連性を学習する。  <b>【主要な概念・用語】</b>                  システム、パーソンズ (Talcot Parsons)、ベルタランフィ (Ludwig Von Bartlanffy)、ジェネラル・システム論 (General Systems)、システムと社会福祉実践、エコ・システム、ライフ・モデル、ジャーメイン、ギッターマン、  <b>【学習と研究課題】</b>                  (1) システムの概念と社会福祉実践の関係を考察する。                  (2) システム論がどのように社会福祉実践に応用されるか考察する。                  (3) システム論の長所と短所を探る。                  (4) ライフ・モデルはどのように理論構成がなされているか。                  (5) ライフ・モデルの長所と短所を探る。                  (6) エコ・システムとライフ・モデルの関連性とは何か。                  (7) ライフ・モデルと社会福祉実践の目的と関連性は何か。</p>
<p>15. テーマ</p>	<p>ジェネラリスト・ソーシャルワークの課題と展開</p>
	<p><b>【学習のねらい】</b>                  統合ソーシャルワークに至った後のソーシャルワークの在り方が、ジェネラリスト・ソーシャルワーク (Generalist Social Work) であり、その理論と課題を検討する。  <b>【学習の内容】</b>                  (1) ジェネラリスト・ソーシャルワークとは何か、その特徴を理解する。                  (2) なぜいまジェネラリスト・ソーシャルワークが注目されているのか、その意味について検討する。  <b>【主要な概念・用語】</b>                  ジョンソン (Louise C. Johnson)、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、社会的機能、人と社会システムとの間の交互作用  <b>【学習と研究課題】</b>                  (1) ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開例を挙げ汎用性について検討する。                  (2) ジェネラリスト・ソーシャルワークを用いた支援の特徴についてまとめる。</p>
<p>16～17 テーマ</p>	<p>ノーマライゼーションの理念、実践方法とコミュニティワークの視点(スウェーデンにおける実践)</p>
	<p><b>【学習のねらい】</b>                  ノーマライゼーションの理念の歴史の変遷と理念のいくつかの視点について学ぶ。特にスウェーデンにおける実践の展開について検討する。  <b>【学習の内容】</b>                  (1) ノーマライゼーションの歴史の変遷                  (2) ノーマライゼーションの視点(北欧型・北アメリカ型)                  (3) 脱施設化とコミュニティワークについての検討  <b>【主要な概念・用語】</b>                  ノーマライゼーション、ノーマライゼーションの 8 つの要因、脱施設化、コミュニティワーク、Social Role Valorization  <b>【学習と研究課題】</b>                  (1) ノーマライゼーションの歴史的展開の概要についてまとめる。                  (2) 北欧型・北アメリカ型のノーマライゼーションの相違点について検討する。                  (3) 脱施設化とコミュニティワークの手法について考察する。</p>
<p>18～19 テーマ</p>	<p>コミュニティワークの理論と実践方法</p>
	<p><b>【学習のねらい】</b>                  コミュニティワークの主要な理論・視点について学び、地域での展開方法について検討する。  <b>【学習の内容】</b>                  (1) コミュニティワークの歴史の変遷                  (2) コミュニティワークの理論・視点                  (3) 地域におけるコミュニティワークの実践例  <b>【主要な概念・用語】</b>                  コミュニティワーク、COS、セツルメント、ニーズ・資源調整説、インターグループワーク説、地域組織化説  <b>【学習と研究課題】</b>                  (1) コミュニティワークの歴史の変遷についてまとめる                  (2) コミュニティワークの主要な理論・視点について整理する。                  (3) 地域におけるコミュニティワークの実践例について調査し、発表する。</p>
<p>20～21 テーマ</p>	<p>エコロジカルアプローチと実践方法</p>
	<p>エコロジカルアプローチについて理解し、その支援方法について実践できるようにする。  <b>【学習のねらい】</b>                  (1) エコロジカル理論の概念                  (2) アセスメントについて                  (3) 支援方法・アプローチについて                  (4) 事例から実践を考える。  <b>【主要な概念・用語】</b>                  ライフモデル、ストレッサー、ジェルグラム、エコマップ  <b>【学習と研究課題】</b></p>

(1) エコロジカル理論の概念を学びその内容を理解し発表する。 (2) 事例を通じて実践方法について検討する。	
22～23 テーマ	行動理論・アプローチと実践方法
<p>行動理論について理解し、その支援方法について実践できるようにする。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <p>(1) 行動理論の概念 (2) 応用行動分析 (3) 行動随伴性、シェイピング、モデリング (4) 事例から実践を考える</p> <p><b>【主要な概念・用語】</b> レスポデント、オペラント条件づけ、シェイピング、モデリング</p> <p><b>【学習と研究課題】</b></p> <p>(1) 行動理論の概念を学びその内容を理解し発表する。 (2) 事例を通じて実践方法について検討する。</p>	
24～25 テーマ	認知理論・アプローチと実践方法
<p><b>【学習のねらい】</b> 認知理論について理解し、その支援方法について実践できるようにする。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <p>(1) 認知理論の概念 (2) エリスの ABC 理論 (3) 認知行動療法 (4) 事例から実践を考える</p> <p><b>【主要な概念・用語】</b> 認知、ABC 理論、非合理信念・合理信念、自動思考</p> <p><b>【学習と研究課題】</b></p> <p>(1) 認知理論について学びその内容を理解し発表する。 (2) 事例を通じて実践方法を検討する。</p>	
26～27 テーマ	問題解決理論・アプローチと実践方法
<p><b>【学習のねらい】</b> 問題解決理論について理解し、その支援方法について実践できるようにする。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <p>(1) 問題解決理論の概念 (2) 事例から実践を考える</p> <p><b>【主要な概念・用語】</b> パールマン、自我機能、動機づけ</p> <p><b>【学習と研究課題】</b></p> <p>(1) 問題解決理論の概念について学びその内容を理解し発表する。 (2) 事例を通じて実践方法を検討する。</p>	
28～29 テーマ	課題中心理論・アプローチと実践方法
<p><b>【学習のねらい】</b> 課題中心アプローチ理論について理解し、その支援方法について実践できるようにする。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <p>(1) 課題中心アプローチ理論の概念 (2) 事例から実践を考える</p> <p><b>【主要な概念・用語】</b> リード、エプスタイン、心理社会モデル</p> <p><b>【学習と研究課題】</b></p> <p>(1) 課題中心アプローチ理論の概念について学びその内容を理解し発表する。 (2) 事例を通じて実践方法を検討する。</p>	
30. テーマ	スウェーデンの知的障害のある人の生活支援方法の理論と実践方法
<p><b>【学習のねらい】</b> スウェーデンにおける知的障害者への支援モデルとしての、Grepp om Live を学びその支援の視点と方法について学ぶ。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <p>(1) 困難な状況と環境からの要求 (2) 本人による自立の評価 (3) 支援者による自立の評価 (4) 本人がどのように能力を活用しているのかの評価 (5) 状況の分析と事例</p> <p><b>【主要な概念・用語】</b> 環境からの要求、評価、状況分析、構造化、具体化</p> <p><b>【学習と研究課題】</b></p> <p>(1) スウェーデンにおける知的障害者への支援モデル、Grepp om Live の支援モデルの概念について理解する。 (2) 事例を通じて実践方法を検討する。</p>	

1. 科目名 (単位数)	社会福祉研究法特論 (4 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5102						
2. 授業担当教員	金 貞任、花村 誠一、藤田 伍一、洪 金子、佐々木 貴雄									
4. 授業形態	講義、討論		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	SR						
7. 講義概要	<p>社会福祉実践は応用科学と考えられている。専門知識と技術の創造には、科学的研究方法の適用は必要不可欠と考えられる。この講義は、現在、社会福祉学が応用している量的研究法と質的研究法の基礎が比較できる。</p> <p>春期に学んだ量的研究法と合わせて、質的研究法の習得をめざす。そのため、臨床実証研究法の主体であるシングル・システム・デザイン (Single System Design 計画法) を始め、質的研究法の KJ 法、SCAT(Steps for Coding and Theorization)法、M-GTA(Modified Grounded Theory Approach)、事例検討法(Case Study)の習得と応用に焦点を当てる。</p> <p>社会福祉実践の効果が検証できる(実際の事例に当てはめて検証ができるようになる)</p>									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 応用科学としての社会福祉専門職の理解</li> <li>2. 科学、または科学的という意味、定義と範囲、形態、限度の理解</li> <li>3. 社会福祉実践の評価、または、効果測定とは何であるか、なぜ必要としているのかを修得</li> <li>4. 量的研究法と質的研究法の基本的原理、理論、概念、技術的方法の習得</li> <li>5. 研究の始めから終結にいたるプロセスの理解</li> <li>6. 諸々の研究計画法 (デザイン) の長所と短所の理解</li> <li>7. 集団比較実験調査計画法とシングル・システム・デザイン結果の分析方法について理解する。</li> <li>8. 他の研究者が行った研究計画、実行、結果に対する批判的能力の発展</li> <li>9. 自分で研究計画書を作成し、実行する能力の発達</li> <li>10. 行動観察法や行動抽出法およびインタビューのポイントとして、測定の対象となる行動の特定、どのように特定したらよいかを探索する。行動観察の記録方法、例えば、頻度の記録、継続時間の記録、時間間隔の記録などが分かる</li> <li>11. 標準化された測定質問書 (スケール) の作成方法と使用方法が分かる。</li> <li>12. 質的研究法の KJ 法、SCAT(Steps for Coding and Theorization)法、M-GTA(Modified Grounded Theory Approach)で書かれた論文を読みながら KJ 法、SCAT、M-GTA について理解する</li> </ol>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Team Teaching で行われるため、授業時間に伝える。									
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平山尚、武田丈、呉裁喜、藤井美和、李政行 『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』 ミネルヴァ 書房、2003 年。</li> <li>2) 平山尚、武田丈、藤井美和 『ソーシャルワーク実践の評価方法・シングル・システム・デザインによる理論と技術』 中央法規、2002 年。</li> </ol> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>A) 平山尚、武田丈、呉裁喜、藤井美和、李政行 『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』 ミネルヴァ 書房、2003 年。</li> <li>B) 斎藤嘉孝『社会福祉調査－企画・実施の基礎知識とコツ』 新曜社、2010 年。 (pp.170-178－Informed consentと個人情報法)</li> <li>C) 川喜田二郎『発想法』 中公新書、1967 年。</li> <li>D) 保科寧子、奥野英子『社会福祉学』 (p.49(2)、pp.111-122 在宅高齢者を対象として対話や交流を行うボランティアの機能分析)</li> <li>E) 鳩間亜紀子、田村静子『社会福祉学』 2004 年。 (p.45(2)、pp.67-80 高齢者向け住宅改良の効果に関する介護専門職の評価指標と要介護度別特徴)</li> <li>F) Martin Bloom, Joel Fischer, &amp; John Orme, 『Evaluating Practice, Guidelines for the Accountable Professional, Boston: Allyn &amp; Bacon』 1999 年。</li> <li>G) Dean Hepworth, Ronald Rooney, &amp; Jo Ann Larsen, 『Direct Social Work Practice: Theory and Skills, Pacific Grove, CA: Brooks/Cole』 1997 年。</li> <li>H) Tony Tripodi『A Primer on Single-Subject Design for Clinical』Social Workers. Washington D.C. NASW Press. 1994 年。</li> </ol>									
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成績の評価は 2 本の小論文の評価によって決める。(通信教育課程は小論文の他にスクーリング最終時間の修了試験の評価が加えられる。)</li> <li>2. 修士課程の院生としての基準に満たない論文は、最低基準に達するまで書き直しが求められる。</li> </ol> <p>評価基準</p> <table> <tr> <td>小論文 1</td> <td>: 30%</td> </tr> <tr> <td>小論文 2</td> <td>: 30%</td> </tr> <tr> <td>発表・授業中課題</td> <td>: 40%</td> </tr> </table>				小論文 1	: 30%	小論文 2	: 30%	発表・授業中課題	: 40%
小論文 1	: 30%									
小論文 2	: 30%									
発表・授業中課題	: 40%									
12. 受講生への メッセージ	本大学院は、将来の日本の社会福祉専門職の指導者を養成することを目指している。さらに、本学の修士論文の基準は、世界的視野からみても引けをとらないレベルに置かれている。研究法の習得は、福祉専門職の知識と技術の発展に欠かすことができない分野である。全力を尽くし、学習に専念することが求められる。									
13. オフィスアワー	授業に関して質問、相談、苦情などある受講生のために、以下の時間を面接時間とする。 各授業の終了時から 2 時間、または、教員が執務室にいる時。									

14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1～3 テーマ	研究とは何か、現場の視点と研究、研究の倫理について (金)
<p>【学習の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究をする理由とは何かを学習する。</li> <li>・現場の視点と研究の視点について探求する。</li> </ul> <p>【学習の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究とは何かを理解する。</li> <li>・社会福祉研究の分野と研究の範囲について学習する</li> <li>・論文発表の倫理基準、科学的知識の正確さ、引用文献を表記する理由について探る</li> </ul> <p>【キーワード】</p> <p>研究、先行研究、研究の倫理、社会福祉研究</p> <p>【学習の課題】</p> <p>各自の論文の構成と内容を探索的に探る。</p> <p>【参考文献】</p> <p>岩田正美ほか『社会福祉研究法』有斐閣アルマ、2006年</p>	
4～5 テーマ	先行研究、仮説の構築、国際比較研究について (金)
<p>【学習の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究のレビューが必要な理由とは何かについて吟味する。</li> <li>・仮説の構築と検証の手続きについて学習する。</li> <li>・国際比較研究の手法、課題とは何かを探る</li> </ul> <p>【学習の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レビューの目的、意義について学習する。</li> <li>・先行研究の展開をどのようにするかを理解する。</li> <li>・先行研究のレビューのまとめをどのようにするかを学習する。</li> <li>・仮説の構築はどのようにし、仮説の検証のプロセスを学習する。</li> <li>・国際比較研究はどのようにするかを探る。</li> <li>・国際研究のまとめはどのようにするかを学習する。</li> </ul> <p>【キーワード】</p> <p>先行研究、仮説の構築、国際比較研究</p> <p>【学習の課題】</p> <p>各自のテーマに基づき先行研究レビューをする。 仮説を作成する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>安部陽子、『看護研究のための文献レビュー：マトリックス方式』医学書院 (2012)</p>	
6～7 テーマ	比較制度分析、研究の背景と目的、先行研究について (金)
<p>【学習の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較制度分析とは何かについて吟味する。</li> <li>・各自の研究の背景と目的について発表する。</li> <li>・先行研究をレビューする。</li> </ul> <p>【学習の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度とは何かについて学習する。</li> <li>・制度と社会的規範の分析の道具を身につける。</li> <li>・制度と社会的規範の観点から論文の作成を試みる。</li> </ul> <p>各自の研究テーマに基づき、</p> <p>【キーワード】</p> <p>制度、社会的規範、研究の背景、研究の目的、先行研究、仮説</p> <p>【学習の課題】</p> <p>比較制度とは何かについてレビューする 社会的規範に関連する研究をレビューする。 各自の研究の作成を試みる。</p> <p>【参考文献】</p> <p>中村真幸他、『比較制度分析・入門』有斐閣 (2010)</p>	
8～10. テーマ	社会福祉実践研究法、または、効果測定とは何であるか、なぜ必要としているのかを修得する。 (洪)
<p>【学習の目標】</p> <p>専門職として発生してきた実践評価の課題を社会福祉専門職としての歴史的発展段階から分析を加え、科学的実践的意味の解明をする。なぜ実践評価が必要かを解明する。社会福祉実践の評価、効果測定、シングル・システム・デザインとは何であるか、なぜ必要としているか、の修得を目的としている。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>実践評価、または、実践の効果測定の意味するものは何か、何を目的としているのか。 実践評価の最も科学的程度が高い集団比較実験調査研究法とシングル・システム・デザインとを比較検討することをする。 実践評価と実践の統合化は何時、どのような理由で起こったのか、底辺にある理由は何であるのかを探索することをする。 シングル・システム・デザインの主要要素が分かる。</p> <p>【キーワード】</p> <p>実践評価、実践の効果測定、個人情報と調査倫理、シングル・システム・デザイン</p> <p>【学習の課題】</p> <p>1. 集団比較実験調査計画法を社会福祉実践に応用した場合に、どのような問題が起こるか。実践面と調査・研究面から吟味してください。</p>	

	<p>2. シングル・システム・デザインの実践に応用した場合に長所と短所は何か明確に書き出すことをしなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>①平山尚、武田丈、藤井美和『ソーシャルワーク実践の評価方法：シングル・システム・デザインによる理論と技術』中央法規。</p> <p>②平山尚、武田丈、呉裁喜、藤井美和、李政行『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、2003年。</p> <p>③斎藤嘉孝『社会福祉調査』一企画・実施の基礎知識とコツ、新曜社、2010：170-178—Informed consentと個人情報法、</p>
<p>11～12.テーマ</p>	<p>集団比較実験調査計画法の主要概念、ランダム化などを学習し、シングル・システム・デザインと比較検討し、類似点と相違点を明確にする。(洪)</p>
	<p>【学習の目標】</p> <p>シングル・システム・デザインの実践への応用の第一歩として、クライアントの提出する問題の特定化と目標の設定ということが行われる。問題・目標を漠然とした概念から、より具体的な概念にするという過程が含まれる。問題の特定化ということは概念の操作定義をして測定、または、客観的に観察できるようにすることを言う。実践のインテークの段階をシングル・システム・デザインでは、基礎線（ベースライン）と呼び、アセスメントの結果選択される介入と明確に区別をしている。ここでは、実践の過程と評価の過程を比較しながら、効果測定方法の理解が期待される。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題の特定化と目標設定の過程の理解と実行。</li> <li>2. 基礎線（ベースライン）と介入の明確な定義と区分。</li> <li>3. 概念の操作定義の意味。</li> <li>4. 測定とはどのような意味か、客観的観察とはどのような意味か。</li> <li>5. シングル・システム・デザインを実践に応用する過程の理解と実行。</li> </ol> <p>【キーワード】</p> <p>集団比較実践調査計画法、ランダム、基礎線（ベースライン）、介入、実践過程、概念定義、操作的定義、客観的観察、問題の特定化、目標設定</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例を使用して問題の特定化と目標の具体的な設定を試みる。</li> <li>2. 実践を基礎線（ベースライン）期間と介入期間に分けて考えてみて、実践の過程を考察する。</li> <li>3. クライアントの提出する問題の特定化にまつわる問題の理解と実行をする。</li> <li>4. クライアントが提出する問題を、漠然としたものから測れるように書き出すことをする技術の修得をする。</li> </ol>
<p>13～14.テーマ</p>	<p>質的研究法の KJ 法、SCAT(Steps for Coding and Theorization)法、M-GTA(Modified Grounded Theory Approach)で書かれた論文を読みながら KJ 法、SCAT、M-GTA について理解する。(洪)</p> <p>【学習の目標】</p> <p>質的研究法の KJ 法・SCAT(Steps for Coding and Theorization)・M-GTA(Modified Grounded Theory Approach)法で書かれた論文を読みながら KJ 法、SCAT、M-GTA について勉強する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質的研究法とは何か、KJ 法・SCAT(Steps for Coding and Theorization)、M-GTA(Modified Grounded Theory Approach)法の各々の特徴・主な概念、段階あるいはプロセスなどについて分かる。</li> <li>・質的研究法に基づいて書かれた論文を通して、質的研究方法の特徴や使い方について分かる。</li> </ul> <p>【キーワード】</p> <p>叙述化、図解化、現象の構造化、発話内容の「テキスト」記入、4ステップコーディング、カテゴリーのグルーピング、ストーリー・ライン、理論記述</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブレインストーミングと KJ 法：多くの意見・アイデアをグループ化し、論理的に整序して問題解決の道筋を明らかにする。</li> <li>2. SCAT 法：発話内容「テキスト」記入、4ステップコーディング、理論記述ができる。</li> <li>3. M-GTA 法：カテゴリーのグルーピング、ストーリー・ラインの形成、理論記述ができる。</li> </ol>
<p>15～17.テーマ</p>	<p>精神保健医療福祉の系譜：ペータースの論文「ひとつの対立」を読む（花村）</p> <p>【学習の目標】</p> <p>アメリカ精神医学会による DSM-III（1980年）の刊行は、全世界の精神保健医療福祉に従事する者に「共通言語」をもたらしたと言われる。DSM-IVを経て19年ぶりに改訂されたDSM-5では、カテゴリーカルからディメンショナルな分類へとシフトしており、実践場面での混乱が予想される。ここでは、前ケルン大学精神科教授ペータースの論文に即して、精神医学における DSM-III以前と以後の断層を浮上させてみるが、メンタルヘルスに関する研究法の基礎論として役立ててもらいたい。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ精神医学の底流をなす「病像」把握の源流は、ゲーテ自然学やその影響を受けたフンボルトの「自然絵図」に求めることができ、ロックやヒュームの英国経験論に立脚するアングロアメリカンの精神医学とは大きく異なっている。</li> <li>2. 英国におけるクエーカー教徒テューク家による「リトリート」開設に象徴されるように、彼らにとっては、心病む人たちの救護こそが重要であったのであり、ドイツ精神医学における疾患単位や疾患の像の創出などは関心の外にあった。</li> <li>3. アメリカ精神医学は、独自にフロイトの学説に影響された力動精神医学を展開したが、向精神薬の登場とともに、薬効の判定のために診断の信頼性を上げる必要に迫られ、一挙に、操作的診断基準を掲げる「DSM革命」を成し遂げた。</li> </ol> <p>【キーワード】</p> <p>ゲーテ自然学、フンボルト兄弟、クレペリン、英国経験論、テューク家、記述精神医学、フロイト、精神分析学、ヤスパース、現象学派、シュナイダー、一級症状、マイヤー、力動精神医学、ウィーン学団、論理的経験論、行動主義、プラグマティズム、サイバネティクス、メイシー・カンファランス、システム論、薬物療法、脱施設化、DSM-III、新クレペリン主義、生物学的精神医学</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ペータースが強調するように、DSM が世界標準になってからも、ドイツの精神科医の表象世界と英米の精神科医の表象世界の違いが解消されたわけではなく、診断においても治療においても、両者の間で「行き違い」が生じ続けている。</li> <li>2. ドイツ精神医学における「類型」、英米の精神医学における「基準」というアプローチの違いは、それぞれ質的研究法と</li> </ol>

量的研究法のアナログであるとみなせるが、少なくとも DSM-III 以後、後者のほうが圧倒的に優勢であったと言える。

3. DSM-5 の登場によって、計量的尺度（ディメンジョン）によって評価し、統計的な数理モデルを用いて分類する方向に向かうのか、それとも正常と連続するスペクトラムによって個別性重視のほうに向かうのか、両方の可能性がある。

【参考文献】

Peters U. H.: Diagnostische Bilder, Phänomene und Kriterien in der Psychiatrie—eine Gegenüberstellung. Fortsch. Neurol. Psychiat. 62 : 137-146, 1994. (本論文については日本語による詳細なレジュメを配布する)

ロレン R. モンジャー、ロレンゾ・ブルチ著(公衆衛生精神保健研究会訳)『コミュニティメンタルヘルス』中央法規出版、2003 年

【学習する上での留意点】

DSM-IV の定義変更により、発達障害や気分障害の過剰診断が生じ、製薬資本による新薬の開発ラッシュとも絡んで批判されている。DSM の改訂は、もはや精神医学領域を超え、アメリカの社会全体に大きな影響を及ぼし、さながら一つの「社会実験」と化した観がある。受講生の諸君には、こういう大局的な観点からも、精神保健医療福祉の現状と未来を展望してくれるように望む。

18～19. テーマ 精神保健医療福祉の方法：ヘンペルの基調講演「分類学の基礎」再考（花村）

【学習の目標】

DSM 革命の哲学的バックボーンは、ナチ時代にアメリカに亡命したヘンペルがアメリカ症候学会に招かれて行った基調講演である。ウィーン学団の一員として論理的経験論の普及に努め、精神医学はもとより社会科学の方法論にも多大な寄与をしている。本講演の射程は、DSM-III によって採用された操作主義にとどまらず、DSM-5 の次元分類にまで届くものであった。

【学習の内容】

1. ヘンペルは、科学的概念の機能として記述と理論の体系化の 2 つをあげ、DSM-II における「転換反応」の概念が理論的に仮定された心理力動的諸因子に言及したものでしかなく、科学的とは言えないと批判している。
2. 物理学者ブリッジマンから「操作的定義」のアイデアを借り受け、精神科医がかつて統合失調所の診断に用いたプレコックス感、診察者から独立していないがゆえに操作主義の要件を満たしていないと批判している。

【キーワード】

クラスと概念、記述と理論の体系化、操作的定義、プレコックス感、適用基準、体系的な仮定、「自然の」分類、テスト可能性、分類と順序 (ordering)、次元 (dimension)、構造化面接、症状評価尺度、アンカーポイント、信頼性、Cohen のカップ

【学習の課題】

1. ヘンペルは類型学的な体系にも十分に目を配り、結論の章において、分類的な概念から比較的かつ量的な概念へと移行すべく、分類図式をいくつかの「次元」からなる参照「空間」に置き換えることを提唱している。
2. ここには、明らかに、DSM-5 において前景化しつつあるディメンジョン分類が先取りされており、翻って考えると、DSM-III におけるカテゴリー偏重が、けっしてヘンペルに忠実なものではなかったことがわかる。

【参考文献】

Hempel, C. G.: Fundamentals of Taxonomy. In: Aspects of Scientific Explanation. Free Press, New York, 1965.

(本論文については日本語による詳細なレジュメを配布する)

アレン・フランセス著 (大野 裕ほか訳)『精神疾患診断のエッセンス—DSM-5 の上手な使い方』金剛出版、2014 年。

【学習する上での留意点】

本講演の内容は、今なお、精神保健医療福祉における「科学的なものの考え方」を身につけるための叩き台たりうる。量的研究のための操作的定義、質的研究のための類型的把握のうち、必ずしも前者に重点が置かれているわけではない。

20～21. テーマ 精神保健医療福祉への科学論的アプローチ：QOL をめぐって（花村）

【学習の目標】

戦後アメリカ哲学の旗手クワインによる画期的な論文「経験主義の 2 つのドグマ」が論理実証主義を根底から揺さぶる。もはや事実/価値二分法は厳密には維持しがたいものとなったが、ここではその帰結を 2 つの事例に即して追認してみる。

【学習の内容】

1. 世界的大経済学者の一人アマルティア・センは、経済学における財や効用概念から人々の福祉にアプローチすることを批判し、これに代わる概念としてケーパビリティ(潜在能力)を登場させた。
2. 彼によれば、貧困とはこのケーパビリティにおける不平等に基づいており、「受け入れ可能な最低限の水準に達するのに必要な基本的ケーパビリティが欠如した状態」と定義される。
3. 科学哲学者レイチェル・クーパーは、精神医学を「価値負荷的な科学」として特徴づけているが、このことの科学論的含意においても、QOL との関連はけっして小さくは見積もれないであろう。

【キーワード】

事実/価値二分法、分析的/総合的、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)、潜在能力アプローチ、平均規範、価値規範、ベルカーブ、自然誌、自然種、個人誌、パラダイム、通約不可能性、還元主義、事例研究、ランダム化比較試験 (RCT)

【学習の課題】

1. フーコーの処女作『狂気の歴史』は、どういう点で、かつての反精神医学運動の主張「精神疾患は実在しない」とひとしなみに扱うことができないのか、改めて考えてみよう。
2. クーパーは、たとえ精神疾患の輪郭の確定に価値判断が入ったとしても、そこで輪郭づけられた対象について通常科学と同様の探究を行っていくことは何ら問題ではないと述べているが、本当にそう言えるだろうか。

【参考文献】

マーサ・ヌスパウム、アマルティア・セン編著(竹友安彦監修・水谷めぐみ訳)『クオリティ・オブ・ライフ—豊かさの本質とは』、里文出版、2006 年

イアン・ハッキング著(出口康夫、久米 暁訳)『何が社会的に構成されるのか』、岩波書店、2006 年

ヒラリー・パットナム著(藤田晋吾、中村正利訳)『事実/価値二分法の崩壊』、法政大学出版局、2006 年

レイチェル・クーパー著(伊勢田哲治・村井俊哉監訳)『精神医学の科学哲学』名古屋大学出版会、2015 年

【学習する上での留意点】

社会福祉学における evidence based practice(EBP)は、医学における evidence based medicine(EBM)から波及したものである。精神疾患ないし精神障害への科学的アプローチについて一瞥しておくことは、ソーシャルワーク実践を科学的に展開するためにも大いに役立つはずである。

22～24.テーマ	研究論文の構成 (佐々木)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p>	<p>研究論文の構成について実際の論文を基に理解したうえで、自らの研究計画書や修士論文の作成に反映できるようにする。</p> <p>序論に含むべき内容、問題意識の明確化、先行研究と自らの研究の関連の整理</p> <p>序論・本論・結論、研究計画書、先行研究</p> <p>この時期までに書き進めているであろう研究計画書を踏まえて、自らの修士論文の序論部分を書いてみる。</p>
25～28.テーマ	政策研究とは何か・政策研究の実際 (佐々木)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p>	<p>政策研究とは何かということを、実際の研究論文を通して理解し、自分の研究にも役立てるようにする。</p> <p>①政策研究とは何か ②地域政策の分析 ③社会保障制度の国際比較</p> <p>地域の課題、過疎高齢化、所得保障、失業保険</p> <p>論文を読みこむことを通じて、実際の政策研究の論文構成や研究手法、結論の述べ方等について理解する。また、自らの研究の先行研究として位置づけることを考える。</p>
29～30.テーマ	政策論の領域から福祉を考える (藤田)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p>	<p>福祉の概念とその方法論の基本的な変遷過程を経済政策と社会政策の領域から取り上げてみたい。</p> <p>経済政策と社会政策の構造的な違いを世界史的な流れの中で整理して福祉の捉え方を考えてみる。</p> <p>マクロ経済政策、社会政策、アダム＝スミス、ピグー、ケインズ、ガルブレイス、福祉国家、</p> <p>社会福祉学が社会（政策）学の一分支であることを認識したうえで、社会福祉学の方法論を探っていく。貧困の時代から豊かな時代への展開過程で福祉概念と方法論も変化していくこと、そして、福祉国家体制の確立如何が社会福祉のありようを規定することを理解してほしい。（経済学や社会政策の履修者でなくても分かるようにペーパーを用意して解説します）</p>

1. 科目名 (単位数)	社会福祉調査統計特論 (4 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5104
2. 授業担当教員	金 貞任			
4. 授業形態	発表、統計分析 (情報処理室)、調査票作成、調査実施など		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	社会調査とは、その国あるいは社会事象について、状況と問題点等を科学的に調査し、収集したデータを分析して社会の動向と原因を究明する一連の過程である。本講座では、社会調査の基礎から学習し、仮説の設定、調査項目の作成、調査票の完成、面接調査の実施、収集したデータの入力、単純集計および多変量解析分析等を通して、調査対象者の置かれている状況や諸問題の発見、仮説の検定等因果関係の発見など社会調査の一連の過程に即し、社会調査で求められる考え方・知識について理解を深めることを目的とする。本講座では、量的調査を実施し、受講生全員で同一の調査対象者を設定するが、個々人がテーマの設定、文献・資料の収集、仮説の構築、面接調査、収集したデータの入力と分析、レポート作成に至る一連の作業を実施する。			
8. 学習目標	I. 社会の絶対的状況と相対的状況を理解する。 II. 社会事象について多様な問題の発見と仮説構築、仮説検証のための量的調査を設計する。 III. データ分析を行い、社会事象の多様な問題の因果関係を究明する。 IV. 受講生全員で調査結果をまとめ報告書を作成する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマ参照			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 大谷信介など『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房。 村瀬洋一他『SPSS による多変量解析』Ohmsha。 金貞任『高齢社会と家族介護の変容』法政大学出版局。 前田樹海、江藤裕之、田中建彦、『APA 論文作成マニュアル 第 2 版 アメリカ心理学会』医学書院。</p> <p>【参考文献】 鈴木 淳子、『質問紙デザインの技法』ナカニシヤ出版。 黒木 登志夫、『知的文章とプレゼンテーション—日本語の場合、英語の場合』中公新書。 Henry E, Brady and David C, eds. Rethinking Socail Inquiry. 泉川泰博・宮下明聡、『社会科学の方法論争：多様な分析道具と共通の基準』勁草書房。 内田治『すぐわかる SPSS によるアンケートの調査・集計・解析』東京図書。 Stephen Senn 松浦俊輔訳、『確率と統計のパラドックス』青土社。 平山尚等『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房。 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書。 土田昭司『社会調査のためのデータ分析入門』有斐閣。 古谷野亘『多変量解析ガイド』川島書店。 室淳子・石村正夫『SPSS でやさしく学ぶ統計解析』東京図書。</p>			
11. 成績評価の方法	発表・レポート提出等 (100%)			
12. 受講生への メッセージ	現在、社会福祉等専門書及び学会雑誌等では、量的調査(多変量解析分析)と質的調査を用いて分析した論文が増加している。本講座を受講することにより、量的調査を用いて記述した専門書や論文を読み理解力を深めることが可能となる。また、本講座では、社会事象の因果関係を予測するために仮説の作成、仮説を証明するために質問項目を作成し、面接調査を行い、有効回収データを SPSS 等で入力し、多変量解析分析を行い、仮説を検証し、レポートを作成する。それらの一連の過程を通して、社会調査が必要な理由、社会事象について因果関係を解明することが可能であるため、修士論文を作成する際に非常に有効である。			
13. オフィスアワー	水曜日 12:00~14:00 木曜日 12:00~13:00			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1~2. テーマ	社会調査とは何か			
【学習の目標】	社会調査とは何かについて学習する。			
【学習の内容】	(1) 社会調査の目的とは何か。 (2) 社会調査の効果とは何か。 (3) 社会調査の限界とは何か。 (4) 社会調査のアプローチの方法について考える。 (5) 調査対象者のプライバシーの保護とは何か。			
【キーワード】	社会調査、社会調査の目的、社会調査の効用と限界、社会調査のアプローチ、プライバシー保護			
【学習の課題】	(1) 教科書を読み、社会調査の目的、効果、限界、調査対象者のプライバシー保護についてノートを整理する。 (2) 社会調査を実施する理由について考える。			
【参考文献】	教科書と参考文献を参照。以下同様。			
3~5. テーマ	標本抽出と調査の実際			
【学習の目標】	標本調査とは何かについて学習する。 標本誤差とは何かについて学習する。 調査の実施に当たって、調査手法別に準備するリストについて学習する。			

	<p>集計作業とは何かについて学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 標本調査の抽出方法の種類について学習する。</li> <li>(2) 標本誤差と非標本誤差とは何かについて学習する。</li> <li>(3) 有効回収率を高めるための方法について学習する。</li> <li>(4) 集計作業とは何かについて理解する。</li> <li>(5) 研究仮説を検証するための質問項目が網羅されているかを検討する。</li> <li>(6) 欠損値の処理について学習する。</li> <li>(7) 単純集計とクロス集計について学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 標本調査、標本調査の種類、標本誤差、単純集計、クロス集計、欠損値</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教科書を読み、標本調査の定義と抽出方法、標本誤差と非標本誤差の定義、有効回収率の定義について整理する。</li> <li>(2) 仮説を検証するための質問項目を作成する際注意すべき点、単純集計とクロス集計分析をする理由について整理し、それらの概念を理解する。</li> <li>(3) 受講生が実施する予定の調査方法に基づいて準備すべきリストを作成する。</li> <li>(4) 有効回収率を高めるために準備すべきリストを作成する。</li> </ol>
6 . テーマ	調査票の設計
	<p>【学習の目標】 調査票の作成にあたって、留意事項について学習する。 質問内容・選択肢の設計にあたって、留意事項について学習する。 調査における測定の方法について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 調査項目の作成の時、配慮すべき内容について吟味する。</li> <li>(2) 調査方法別に留意点について学習する。</li> <li>(3) 調査項目のワーディング（言葉遣い）について吟味する。</li> <li>(4) 調査の測定方法における尺度の種類と概念について学習する。</li> <li>(5) 回答形式について学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 調査票の作成、留意事項、ワーディング、尺度の種類、回答形式</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 調査の測定方法として尺度の定義と種類について把握し、ノートに整理する。</li> <li>(2) 調査方法の種類について、それぞれ長所と短所をノートに記述し、理解を深める。</li> <li>(3) 調査項目の作成に当たり、避けるべき悪い質問項目とは何かについて理解を深める。</li> </ol>
7～10. テーマ	仮説の作成、調査票の作成と調査票の点検
	<p>【学習の目標】 受講生が社会調査を実施するために、高齢者に関連する領域についてテーマを設定し、それに基づいて仮説の作成と、調査票を作成する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会で証明されていない経験的事実を発見し、仮説を設定する。</li> <li>(2) 仮説に基づいて調査票を作成する。</li> <li>(3) 調査票を完成する。</li> <li>(4) 調査対象者と調査地域を選定する。</li> </ol> <p>【キーワード】 仮説の設定、調査票、調査対象者、調査地域</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者や要介護高齢者の置かれている状況の中で関心がある事象を発見し、仮説を設定する。</li> <li>(2) 仮説に基づいて調査項目を作成する。</li> <li>(3) 悪い質問や選択肢がないか調査票を点検する。</li> </ol>
11～12. テーマ	調査対象地域の学習と調査実施
	<p>【学習の目標】 調査対象地域の状況について現地調査をする。 調査対象者に対して面接調査を実施する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 調査対象地域について学習する。</li> <li>(2) 面接調査とは何かについて学習する。</li> <li>(3) 調査対象者に対して面接調査を実施する。</li> </ol> <p>【キーワード】 人口分布、地域の特徴、面接調査</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 調査地域の人口分布がどのようになっているか調べる。</li> <li>(2) 調査地域には、どのような長所があるか調べる</li> <li>(3) 調査対象者について面接調査を実施する。</li> </ol>
13～14. テーマ	調査票のチェック及びデータの入力（情報室）
	<p>【学習の目標】 回収された調査票を点検する。 有効回収データをコンピュータに入力する方法について学習する。 変数の名前とカテゴリ変数に値ラベルをつける方法について学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 回収された調査票について、記入漏れなどを点検する。</li> <li>(2) 統計解析ソフト SPSS を立ち上げ、終了する方法について学習する。</li> <li>(3) データ値をハードディスクとフロッピディスクに保存する方法について学習する。</li> <li>(4) 統計解析ソフト SPSS を使ってデータを入力する。</li> <li>(5) 変数に名前をつける。</li> <li>(6) カテゴリ変数に値ラベルをつける。</li> </ol> <p>【キーワード】 調査票のチェック、有効回収データ、SPSS、データの入力、データの保存、カテゴリ変数</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 無回答と非該当の入力をどのようにするか決める</li> <li>(2) 回収された有効データの入力を完成する。</li> </ol>
15～16. テーマ	統計分析の目的、統計分析の基礎（情報室）
	<p>【学習の目標】 統計分析の目的とは何かについて理解する。 統計解析ソフト SPSS を使って基礎統計量を分析する。</p>

【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】	(1) 統計分析の目的とは何かについて学習する。 (2) 度数分布表について学習する。 (3) 量的変数の記述的統計量について学習する。 (4) 正規分布について学習する。 統計分析、度数分布、量的変数、正規分布 (1) 度数分布（度数分布、クロス集計、平均値）表を作成する。 (2) 正規分布を作成する。
17～18. テーマ	クロス集計、独立性の検定（情報室）
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】	離散変数（カテゴリ駆る変数、質的変数）の関連性の有無をクロス集計によって分析する。 2変数の関連について独立性の検定を行う。 (1) クロス集計の目的について理解し、データを分析する。 (2) カイ2乗検定とは何か、カイ2乗検定が可能なデータについて学習し、カイ2乗検定を行う。 (3) エラボレーション（elaboration）を行う。 クロス集計、観測変数・周辺変数、カイ2乗検定、エラボレーション、多重クロス表、疑似関係、媒介効果 (1) 仮説に基づき、クロス分析を行い、エクセルでクロス集計表を作成する。 (2) カイ2乗検定を行い、帰無仮説と対立仮説のどちらの仮説が採択されたかについて吟味し、その理由について記述する。 (3) 受講生の課題にもとづき、レポートを作成する。
19～20. テーマ	平均値差の検定と分散分析（情報室）
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】	分散分析について学習する (1) 分散分析が必要な理由について理解する (2) 従属変数と独立変数の平均値の差の検定を行う (3) 仮説に基づき、一元配置の分散分析を行う (4) 仮説に基づき、二次元配置の分散分析を行う 分散分析、一元配置の分散分析、二元配置の分散分析、平均値 データを用いて、以上の（1）～（4）について分析を行い、エクセルで表を整理する。
21～22. テーマ	相関と偏相関（情報室）
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】	相関と偏相関とは何かについて学習する (1) 相関と偏相関分析が必要な理由について理解する。 (2) 相関関係と偏相関関係の分析を行う。 散布図、相関係数、有意性、偏相関係数、順位相関係数 仮説について、相関と偏相関関係の分析を実施し、表を整理する。
23～24. テーマ	重回帰分析（情報室）
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】	(1) 重回帰分析とは何かについて学習する。 (2) 分析時の注意点について学習する。 (3) 重回帰モデルが適切であるか、回帰診断の方法について学習する。 (1) 独立変数と従属変数を決める。 (2) 重回帰分析を行う。 (3) 重回帰分析の際、除外しなければならない変数を決める。 (4) ダミー変数を作成する (5) 交互作用変数を作成する。 (6) 回帰診断を行う。 重回帰分析、説明変数、説明変数間の相関、決定係数、ダミー変数、交互作用、回帰診断 (1) 仮説について、重回帰分析を実施する。 (2) ダミー変数を作成し、用いて分析する。 (3) 独立変数と従属変数との間には交互作用がないか、相関関係分析等を用いながら確認する。
25～26. テーマ	マルチレベル分析；線形混合モデル（or 外部講師）
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】	(1) マルチレベル分析とは何かについて学習する。 (2) マルチレベル分析方法について学習する。 (1) マルチレベル分析とは何かについて理解する。 (2) マルチレベル分析が必要な理由について理解する。 (3) マルチレベル分析方法を身につける。 マルチレベル、線形混合モデル、固定効果、ランダム効果 マルチレベル分析を行い、レポートを作成する。
27～28. テーマ	因子分析、論文の作成方法（情報室）
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】	(1) 因子分析とは何かについて学習する。 (2) 分析時の注意点について学習する。 (3) 論文の作成方法について学習する。 (1) 因子分析を行う。 (2) 因子負荷量、因子寄与、回転の意味を理解する。 (3) 抽出された因子ごとの信頼性分析を行う。 (4) 論文を作成する。 因子、観測変数、探索的因子分析、確証的因子分析、論文作成 (1) 因子分析を行い、抽出された因子に対して適切な名前を付ける。

	(2) 抽出された因子を独立変数として用いて、重回帰分析を行う (3) 報告書を作成する。
29～30. テーマ	分析結果の発表、レポート提出
【学習の目標】	受講生の課題について、レポートの発表とレポートを提出する。
【学習の内容】	(1) レポートには、度数分布、クロス集計、平均値の検定、分散分析、重回帰分析を用いて作成する。 (2) レポートを発表する。
【キーワード】	仮説の証明、度数分布、クロス集計、平均値、標準偏差、相関関係、重回帰分析、レポート作成
【学習の課題】	(1) レポートを完成し提出する。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉援助技術演習 (4 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5305
2. 授業担当教員	洪 金子、田代 幹康			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	初年度に履修した社会福祉援助技術特論を基礎として、この演習では、学習した事柄を更に深く掘りさげ、選別された課題の検証をすることを目的としている。通常、演習では講師と院生との面接による授業方式を基本型として、事例研究、及び討論方式をもって学習する方法が取られる。しかし、通信教育課程においては、このような方式を取ることは不可能であり、各々の院生の自己学習ということに依存しなければならない。したがって、演習では社会福祉実践理論・技術に関する諸々課題について、自分自身で学習し、検証することが期待されている。特に、エコ・システム論を概念の枠組みとして、個人、家族、グループを対象とした対人援助過程の検証を行うことが必要である。さらに、院生は自分の興味ある特定の実践方法及び研究領域・課題の発見をするともに、新しい実践理論・モデルの開発をする努力も期待されている。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例研究を通して理論と実践との連携を明確にする。</li> <li>2. 種々の実践理論・モデル(個人、家族、グループ)を理解する。</li> <li>3. 選択した二つの実践理論・モデル(例: Social constructivism, Psycho-social model 等)の理論構造、過程(インテーク、アセスメント、介入計画、介入、評価)の比較と批判をしながら学習をすすめる。</li> <li>4. 自分が選択した実践理論・モデルについてどのように実践の場で応用できるか考察する。</li> <li>5. 自分の選んだ研究課題と実践課題について論文を書き、講師の評価を受ける。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	初めの授業の時に提示する			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>基本的に自分で選んだ実践理論・モデルは自分で適当な出版物を探す必要がある。 下記のは参考文献の例である。</p> <p><b>【参考文献】</b>  秋山智久『社会福祉実践論—方法原理・専門職・価値観—』ミネルヴァ書房、2013年改訂版。  平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子『社会福祉実践の新潮流・エコロジカル・システム・アプローチ』ミネルヴァ書房、1998年。  平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2000年。  洪金子他『社会福祉援助論』ナヌム家、2011年。  洪金子他『社会福祉援助技術論』同仁出版社、2006年。  洪金子他『人間の行動と社会環境』高憲出版社、2000年。  小田兼三、宮川教君編『社会福祉援助技術論』第2版 勁草書房 2010  小田兼三 杉本敏夫編『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』第3版 勁草書房 2014  田代幹康、シシリア・ロボス訳・著『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』現代書館、2007年  田代幹康、C.ロボス 訳・著『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年  Sheafor, B.W, Horejsi, C.R. &amp; Horejsi, G.A. (2003). Techniques and Guidelines for Social Work Practice. New York: Allyn &amp; Bacon.  Roberts, Albert R. &amp; Greene, Gilbert. Eds. (2002) Social Workers' Desk Reference. Oxford: Oxford University Press  Roberts, Albert R. &amp; Yeager, Kenneth R.(Eds) Evidence-Based Practice Manual (2004) Oxford University Press  Nathan, Peter E. &amp; Gorman Jack M.(2002) A Guide to Treatment that Work, 2<sup>nd</sup>. Edition, Oxford University Press  Turner, Marlene E. (2001). Groups at Work: Theory and Research. Mahwah, N.J.:Lawrence Erlbaum Associates, Publishers  Corcoran, Jacqueline(2003)Clinical Applications of Evidence-Based Family Interventions, Oxford University Press</p>			
11. 成績評価の方法	授業の中の発表・積極的参加、小論文の構成、内容、質の評価などを行なう。			
12. 受講生への メッセージ	演習は、院生のイニシアチブ(initiative)が最大限に要求される。自分の学習日程を作成し、日程にそって学習を進める必要がある。最初に、社会福祉実践理論・モデルの概要を知る必要がある。そのために、実践理論・モデルに関する文献を広く熟読することをお勧めする。その後で、自分が深く探求したい実践領域の実践方法論を決める。例えば、個人を対象とした実践(介入)方法か、家族全体を対象としたものか、グループを対象としたものか選ぶとよい。その後で、選択した実践方法論を重点的に熟読し、理解を深める。この際、アサインメントとして要求されている事柄に留意し、文献調査を行うことをお勧めする。			
13. オフィスアワー	上記に関し質問がある場合は、電話で講師に連絡することを勧める。			

14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1～3 テーマ	<p>専門家としてのソーシャルワーカーの自己覚知と演習</p> <p>【学習の目標】 ソーシャルワーカー自身が人間として持っている偏見や先入観などに気付き、自分を知ることによって、クライアントを援助する時、パワーストリーミング関係でなく、専門的援助関係が構築できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 自己覚知の概念についてわかる。自己覚知がなぜ必要であるかを学習する、専門家としての自己覚知のアセスメントを活用して自分の偏見や先入観および影の部分について知る。自己覚知を通して分かった専門家としての自分の気づきについて話し合う。</p> <p>【キーワード】 自己覚知、自己覚知のアセスメント、力関係、専門家としての影の部分、気づき</p> <p>【学習の課題】 クライアントとの援助関係が力関係にならないように築くことを学習し、いつも気付くようになる。</p>
4～6 テーマ	<p>ソーシャルワークにおける価値・倫理と演習</p> <p>【学習の目標】 ソーシャルワークの基盤になる価値・倫理について理解して、確固たる専門家としての価値・倫理観を習得する。</p> <p>【学習の内容】 ソーシャルワークの基盤になる価値や倫理について理解する(人間尊重・公平性・マイノリティを対象とするエンパワーリング)、ソーシャルワーカーの倫理的ディレマを、事例を通して学び、自分の場合予想されるディレマについて話し合ってみる。価値ディレマの解決方法について考えてみる。ソーシャルワーカー倫理綱領の中、自分の苦手であった困難が予想される項目について話し合い、それに気付くようにする。</p> <p>【キーワード】 人間尊重・公平性・マイノリティを対象とするエンパワーリング、ソーシャルワーカーの倫理的ディレマ、ソーシャルワーカー倫理綱領</p> <p>【学習の課題】 専門家であるソーシャルワーカーとしての自分の価値や倫理的ディレマに気付き、それを克服・解決できるようにする。</p>
7～9 テーマ	<p>ソーシャルワークプロセスと演習</p> <p>【学習の目標】 インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価の過程を現場で、上手に使えるようになる。</p> <p>【学習の内容】 ソーシャルワークプロセス、各段階別にソーシャルワーカーが行うべきこと、インテークの目的、アセスメントの方法や情報源、プランニングにおける優先順位、多様な介入方法、評価の目的と方法</p> <p>【キーワード】 インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価</p> <p>【学習の課題】 インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価の過程を理解する。現場で実践する時には、必要であれば、このプロセスの途中、前の段階に戻って評価することの繰り返しであることを理解し、実践でうまく活用できるようにする。</p>
10～12 テーマ	<p>社会福祉実践における共通の援助技術と間接的実践の技法と演習</p> <p>【学習の目標】 社会福祉実践における共通の援助技術と間接的実践の技法について学習する。現場実践で活用できるようになる</p> <p>【学習の内容】 共通の援助技術最初の電話面接を通してアポを取る、初めての面談、依頼(Refer)する、問題チェックリストの使用、非自発的クライアントへの関与、間接的実践の技法とである①機関について学ぶ、②機関構造のアセスメント、③人間サービスニーズのアセスメント、④Focus-Group の地図、⑤地域社会の意思決定の分析、⑥社会政策分析(問題が規定される方式を明確に解明する、問題の原因と結果の決定、問題を取り囲んでいる社会的信念や理念の明確化、問題による損害と得をする利害者の明確化)、⑦社会政策とプログラムの分析(関連プログラムと政策の歴史を調査する。提案された政策やプログラムの革新的要素や運営特徴を明確化—提案された解決策で問題の原因も言及する)</p> <p>【キーワード】 電話面接、初めての面談、依頼(Refer)、問題チェックリスト、人間サービスニーズのアセスメント、地域社会の意思決定の分析</p> <p>【学習の課題】 学習した社会福祉実践における共通の援助技術と間接的実践の技法を現場実践で活用できるようになる。</p>
13～15 テーマ	<p>記録や評価の実践と演習</p> <p>【学習の目標】 記録と評価について学習し、現場実践で活用する。</p> <p>【学習の内容】 記録の概念、記録の目的、記録の重要性、記録の種類、記録の内容、記録の書き方などについて習得する。評価の概念、評価の目的、評価の重要性、評価の方法、社会福祉実践の評価方法について学び、関連技法を習得する。</p> <p>【キーワード】 対話式記録・要約記録・問題中心記録・逐語、シングルシステムデザインなど</p> <p>【学習の課題】 習得した記録や評価に関する知識や技法などを現場の実践で適用できるようになる。</p>
16～18 テーマ	<p>個人とのソーシャルワーク(Social Work Practice with individual):個人とのソーシャルワークの背景になる理論について学ぶ</p> <p>【学習の目標】 個人とのソーシャルワークの背景になる精神分析論、エコロジカル理論、行動理論、認知理論の理論・技術の構成(前提、主要概念等)などを習得する。</p> <p>【学習の内容】 精神分析論、エコロジカル理論、行動理論、認知理論、の主な概念・理論の前提・主な介入技法などについて習得する。精神分析論、エコロジカル理論、行動理論、認知理論を実際に活用する</p> <p>【キーワード】 人間の精神の構成、不安、防御規制、転移の分析、自我の構造、生活ストレス、環境、行動随伴性、シェイピング、モデリング、エリスのABC理論</p> <p>【学習の課題】 習得した精神分析論、エコロジカル理論、行動理論、認知理論の知識を、実際に個人に介入する時、あるいは現場の実践で活用できるようになる。</p>
19～21 テーマ	<p>グループや家族とのソーシャルワーク実践の背景となる理論や実践方法を学習する</p> <p>【学習の目標】 グループや家族対象のソーシャルワーク実践の背景になる多様な理論や知識を習得する。</p> <p>【学習の内容】 グループや家族とのソーシャルワーク実践、システム論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて学習する。エコロジー論(生態システム論)の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて学習する。</p> <p>【キーワード】 SST、社会生活力プログラム、システムの構造・機能・行動、境界、開放と閉鎖的システムなど</p> <p>人間・環境の適応、生活ストレス、ストレス、適応・対処能力、自己能力、自尊心、自発性など</p> <p>【学習の課題】 代表理論、そして、実践への適用における長所と短所が比較できる。アセスメントの技法として Genogram と Eco-Map が自由に活用できる</p>

22～24 テーマ	コミュニティを対象にしたソーシャルワーク実践の背景となる理論や実践手法を学ぶ。
	<p>【学習の目標】 コミュニティを対象とした多様な理論や知識を習得する。</p> <p>【学習の内容】 地域の住民・グループ・組織の特徴、コミュニティワークの主な介入技法などについて学習する。</p> <p>【キーワード】 エンパワメント、ストレングス、イネープリング、インターグループワーク、ソーシャルアクション</p> <p>【学習の課題】 コミュニティのアセスメント・介入方法について理解し、実践できる。</p>
25～27 テーマ	災害支援のソーシャルワークの考え方と方法について学ぶ
	<p>【学習の目標】 災害支援のソーシャルワークの現状と災害後の生活課題に対する支援方法について習得する。</p> <p>【学習の内容】 危機介入アプローチから始まり、ケースワーク、グループワーク、そしてコミュニティワーク等のソーシャルワークの技術・理論を駆使して災害支援、対人援助・生活支援について学習する。</p> <p>【キーワード】 危機介入アプローチ、災害時要援護者、Disaster Medical Assistance Team(DMAT)、ボランティアコーディネート、</p> <p>【学習の課題】 災害時とその後の生活支援に対するソーシャルワークの実践について理解し、実践をすることができる。</p>
28～30 テーマ	実際の事例への適用と総合的な振り返り
	<p>【学習の目標】 今まで学んだソーシャルワークに関する知識と介入技術などを総動員して、自分の事例に導入し、事例発表と自己評価をする。</p> <p>【学習の内容】 今まで学んだソーシャルワークに関する知識と介入技術などを実践現場で上手く活用できる、専門性の高いソーシャルワーカーになる。</p>

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習 (4 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5306
2. 授業担当教員	大山 勉			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修の条件はなく、専門が精神保健福祉領域以外の人も歓迎		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	精神保健福祉援助について、その理念・価値、方法などについて、関連する文献 (英語を含む) 購読も含めた演習形式で学ぶ。報告者を決めて各回のテーマについての概要と文献紹介を行ってから、全員で討論することにより理解を深める。			
8. 学習目標	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーの、支援理念・価値、方法などについて理解する。特に海外におけるエビデンスに基づく先駆的实践について、その理念と方法や実証研究などについて深く学び、優れた実践・研究者となるための一助とする。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	受講者は少なくとも 2 回のレポート作成と発表を行い、講義の終わりにはレポートを作成・報告すること。2 回のレポートは、決められたテーマについて A4 版 4～6 ページ程度のレジюмеと発表用パワーポイントを作成しプレゼンテーションを行う。最終レポートは 12,000 字程度の論文形式で作成し報告・提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】教科書は指定しない。受講生や教員の作成したレジюмеや文献を配布する。 【参考書】アメリカ連邦保健省薬物依存精神保健サービス部編著『科学的根拠に基づく実践プログラム (EBP: Evidence-Based Practices)』日本精神障害者リハビリテーション学会 参考文献については、授業の中でその都度お知らせする。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度等 30% レポート・プレゼンテーションⅠ 20% レポート・プレゼンテーションⅡ 20% 最終レポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	精神障害者支援のあり方について、基盤となる理念・価値、実践の方法などについて学び、質の高い支援とはどのようなものか一緒に考えていきたい。			
13. オフィスアワー	初回にお知らせする。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～2. テーマ	オリエンテーション、精神障害者の生活のしづらさと支援のあり方			
	【学習の目標】 精神障害者の生活のしづらさと支援の現状についてイメージし、問題意識を明確にする。 【学習の内容】 各受講者の考える精神障害者と支援のあり方について話し合い、前半のレジюме作成と、発表する役割分担を決める。 【キーワード】 体験としての精神障害 生活のしづらさ 地域生活支援 チーム支援 精神保健福祉士 【学習の課題】 自己紹介の中で、自分がこれまで学んできたこと、精神障害の捉え方などを報告し、問題意識を明確にする。前半の発表の分担もするので、現時点で自分の関心の高いものについて考えておく。 【学習する上での留意点】 受講者自身のもつ精神障害者のイメージ、よい支援とはどのようなものか事前にイメージしておく。			
3. テーマ	精神障害者を支援する際の理念・価値			
	【学習の目標】 精神障害者支援において、重要とされる理念や価値にはどのようなものがあるか、またその概要について知る。 【学習の内容】 はじめに受講者へのアンケートを行い、その内容に基づいて議論する。 【キーワード】 人権侵害 自己決定 生活の質 医学モデルと社会モデル リカバリー 【学習の課題】 支援の現場でこれらの理念に基づいた実践がされているかどうか、されていないものについてはその理由も考える。 【学習する上での留意点】 各自精神障害者支援において重要と考える理念や価値について、何故重要なのかも含め考えてくる。			
4～5. テーマ	ノーマライゼーション			
	【学習の目標】 ノーマライゼーション全般を理解した上で、ノーマライゼーションの観点から見た精神障害者の現状と課題を知る。 【学習の内容】 これまでの精神障害者の処遇の歴史や現状と課題を検討し、精神障害者にとってのノーマライゼーションを考える。 【キーワード】 社会的排除 偏見 精神科医療の特殊性 【学習の課題】 発表者はレジюмеを作成し 30 分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問したり討論に加わるのが求められる。			
6～7. テーマ	生活の質 (QOL)			
	【学習の目標】 生活の質を多面的に捉える。 【学習の内容】 はじめに概念全般、次に精神障害者にとって、最後に文献購読により理解を深める。 【キーワード】 生活満足度 幸福の指標 生命・生活・人生 【学習の課題】 発表者はレジюмеを作成し 30 分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問したり討論に加わるのが求められる。			
8～9. テーマ	医学モデルと社会モデル			
	【学習の目標】 精神障害者の支援を行う上で重要な観点として、この 2 つのモデルについて学ぶ。 【学習の内容】 概要を理解した上で、事例や文献を読み合わせすることにより理解を深める。 【キーワード】 ICIDH ICF 疾病と障害の併存 【学習の課題】 これら 2 つのモデルは対立的なものなのか、自分の考えをまとめておく。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わるのが求められる。			
10～11. テーマ	精神障害者のリカバリー			
	【学習の目標】 リカバリーとは何か？ 【学習の内容】 リカバリー概念について、その歴史と経過、リカバリー研究の現状、なぜこの考え方が重要なのかを考える。 【キーワード】 体験としての障害 生活の質 自尊心 自己効力感 【学習の課題】 発表者はレジюмеを作成し 30 分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。			

	【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。
12～13.テーマ	精神障害者の人権
	【学習の目標】 精神障害者の人権について、その歴史的経過、現状と課題について知る。 【学習の内容】 概略に加え、1～2本の文献紹介も行う。 【キーワード】 自己決定 強制入院 支援者のジレンマ 差別・偏見 社会的排除 【学習の課題】 発表者はレジュメを作成し30分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。
14～15.テーマ	支援者の自己覚知、前半のまとめ
	【学習の目標】 支援者の価値観や対人関係のあり方が、支援に反映されることについて学ぶ。 【学習の内容】 アメリカにある精神障害者支援機関「ピレッジ」で行なっているスタッフの倫理調査（質問紙）を各自実施して、その結果を踏まえて討論する。 【キーワード】 自己覚知 バウンダリー 利用者と支援者の関係 【学習の課題】 概要を学んだ上で、支援者の価値観などが支援に影響を与えた事例（文献でも体験例でも可）を検討し深める。 【学習する上での留意点】 前半の内容について、自分なりの総括をしておく。
16～17.テーマ	科学的根拠に基づく精神障害者支援プログラム
	【学習の目標】 精神障害者支援における科学的根拠に基づく実践についての基本的理解をする。 【学習の内容】 科学的根拠に基づく実践の必要性について学び、次回以降各論の準備をする。 【キーワード】 科学的根拠に基づく実践(Evidence-Based Practices : EBP) 【学習の課題】 EBPの概略を理解した上で、後半のレジュメ作成・報告の役割分担も行なう。 【学習する上での留意点】 参考図書に取り上げた「科学的根拠に基づく実践プログラム (EBP;Evidence-Based Practices)」に目を通してくる。
18～19.テーマ	包括的地域生活支援プログラム (ACT : Assertive Community Treatment)
	【学習の目標】 ACT(Assertive Community Treatment)について理解する。 【学習の内容】 ACTの生まれてきた背景と意義・方法・効果等について基礎的理解をした上で、1～2本の文献紹介を通じて深める 【キーワード】 アウトリーチ支援 チーム支援 24時間 365日 【学習の課題】 発表者はレジュメを作成し30分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。
20～21.テーマ	家族心理教育
	【学習の目標】 家族心理教育がどのような援助方法なのかを理解する。 【学習の内容】 家族心理教育の意義・方法・効果等について基礎的理解をした上で、1～2本の文献紹介を通じて深める。 【キーワード】 EE(Expressed Emotion : 感情表出) 【学習の課題】 発表者はレジュメを作成し30分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。
22～23.テーマ	IPS・援助付き雇用
	【学習の目標】 精神障害者の就労についての現状を理解した上で、援助付き雇用の考え方を理解する 【学習の内容】 IPS・援助付き雇用の意義・方法・効果等について基礎的理解をした上で、1～2本の文献紹介を通じて深める。 【キーワード】 Place-and-Train 一般就労 福祉的就労 IPS (Individual Placement and Support) ジョブコーチ 【学習の課題】 発表者はレジュメを作成し30分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。
24～25.テーマ	疾病管理とリカバリー
	【学習の目標】 疾病管理とリカバリーについて理解する。 【学習の内容】 疾病管理とリカバリーの意義・方法・効果等について基礎的理解をした上で、1～2本の文献紹介を通じて深める。 【キーワード】 IMR (Illness Management & Recovery)、 【学習の課題】 発表者はレジュメを作成し30分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。
26～27.テーマ	今後の精神障害者支援のあり方
	【学習の目標】 これまでの学習をふまえ、日本の現状はどうか、また今後の支援のあり方について考える。 【学習の内容】 準備した支援のあり方提言を順次報告し、議論を深める。 【キーワード】 精神科医療 地域生活支援 就労支援 アウトリーチ 【学習の課題】 事前にあり方提言レポートを作成し、発表しながら議論を深める。 【学習する上での留意点】 今後の精神障害者支援について提言し、どうしたらそれが実現できるかをまとめてくる。
28～29.テーマ	最終レポートの個人発表
	【学習の目標】 各自が興味を持った内容を報告するので、全員がそのテーマについて意見を出しあう。 【学習の内容】 個人発表の後にその都度ディスカッションを行う、または同じようなテーマをまとめて発表し議論する。 【学習の課題】 早めにテーマを選び、最終レポートの作成をしておく。 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。
30.テーマ	全体の振り返りとまとめ
	【学習の目標】 これまでの学習を振り返り、自分の中に位置づける。 【学習の内容】 フリーでディスカッションを行い、他の人の意見を聴きながら自分の中に学習したことを位置づける。 【学習の課題】 (今後の論文作成や将来の支援実践に役立つものであってほしい)

1. 科目名 (単位数)	海外福祉事情特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5318
2. 授業担当教員	洪 金子			
4. 授業形態	講義・討論・発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	国際化時代のなかで、ドイツの介護保険制度と家族問題、イギリスの社会福祉政策と家族問題、アメリカの高齢者福祉、医療費と家族問題、韓国社会福祉の変遷と家族問題といったトピックスをとりあげ、海外の福祉事情における問題点について国際的な視野から分析・考察する。 ドイツの社会保障制度、イギリスの社会福祉政策、アメリカの医療費支出やソーシャルワークの問題点、韓国の社会福祉の変遷などを比較分析・考察し、海外の福祉事情について研究する。			
8. 学習目標	① 福祉に関する国際的視点と同時にその視点の相対化、客観化を通して各国の状況に対する新たな事実や知見を発見する。 ② 社会や文化や時代を超えた共通の特性と固有の特性とを弁別しつつ両者を析出できる。 ③ 異なる国を比較しながら分析・研究するとき、妥当性・信頼性ある調査研究の方法論を探究する。 ④ 現代世界各国において世界的に共通の社会問題や家族問題を取り上げ、社会福祉的介入の仕方を分析・比較する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 高齢者対象の介護政策や制度の特徴と方法(世界 3 カ国以上)を比較・分析する。 2. 各国の社会保障制度や政策(世界 3 カ国以上)を比較・分析する。 ※1 と 2 番課題の比較・分析の枠組み: ①各国の社会的背景 ②課題の内容 ③3 カ国の共通点 ④3 カ国の相違点 ⑤比較・分析を通して学んだ点と本人の意見 3. DV 問題を取り上げ、(世界 3 カ国以上)比較・分析する。 4. いじめ問題を取り上げ(世界 3 カ国以上)比較・分析する。 ※3 と 4 番課題の比較・分析の枠組み: ①その問題の社会的背景と現況 ②国レベルの政策的なアプローチ ③具体的な処遇プログラム(社会福祉援助方法あるいは臨床的なことを中心とする) ④比較・分析を通して学んだ点と本人の意見 これら 4 つの課題の中、1 つの課題を選択し、提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。  【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子、『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③、イギリス④、日本⑦、アメリカ⑨』旬報社。 久塚純一・岡沢憲実『世界の福祉』早稲田大学出版部。 中島恒雄『21世紀の高齢者福祉』ミネルヴァ書房。 森田洋司『いじめの国際比較』金子書房。 Lyons, Karen(1999): International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt. : Ashgate Publishing Goodman, Roger(2000); White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model: Welfare orientation and the state, London and N. Y. : Routledge.			
11. 成績評価の方法	評価基準: 中間レポート 40% 期末レポート 40% 発表と積極的参加 20%  (評価点) A: 100~90、B+: 89~80、B: 79~70、C: 69~60、F: 59点以下			
12. 受講生へのメッセージ	○ 大学院学則を遵守すること。 ○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するため努力すること。 ○ 学際的・国際的感覚を涵養すること。 ○ レポートの期限を厳守すること。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	福祉における国際化の動向と海外福祉研究の意味			
	【学習の目標】 海外福祉研究の目的、意義、方法を理解する。 【学習の内容】 日本と海外国の固有の福祉と国際化が進むことによって共通的な福祉の現れや動きに着目する眼目を育つ。 【キーワード】 海外福祉、福祉の独特性と共通性、独自性と多元性 【学習の課題】 海外福祉研究の歴史的・理論的背景、比較の視点として福祉に関する国際的視点と相対的視点を持つ。 【参考文献】 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉 2002』旬報社。 Lyons, Karen(1999): International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt. : Ashgate Publishing 【学習する上での留意点】 世界国々の福祉政策や援助方法に対する独自性と多元性の両面を理解する。			
2. テーマ	社会福祉のサービス比較			
	【学習の目標】 社会福祉サービス比較の対象と方法をわかる。 【学習の内容】 サービス比較の対象、サービス比較の類型と方法、サービス比較の困難性、サービス比較の論点等について探究する。 【キーワード】 サービス比較、比較の困難性 【学習の課題】 サービス比較の論点の中、政策・制度・対人的援助の投入と算出を中心とする効果・効率性について考える。 【参考文献】 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。			

	<p>仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。          仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。          Lyons, Karen(1999) : International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt : Ashgate Publishing</p> <p>【学習する上での留意点】 効果・効率性が最優先される経済的尺度や生産性だけでは説明できない対人サービスの特性を理解する。</p>
3 . テーマ	ドイツと日本の社会福祉制度・政策の比較（特に、介護保険制度を中心に）
	<p>【学習の目標】 ドイツの介護保険制度を学習し、日本の介護保険制度との違いや共通点を比較・分析する。</p> <p>【学習の内容】 ドイツの介護保険制度の概要、日本の介護保険制度の概要そしてそれぞれの特徴と相違点</p> <p>【キーワード】 介護扶助、介護保険</p> <p>【学習の課題】 ・ドイツの介護扶助と日本の介護保険の特徴と相違点を分析する。          ・国際福祉制度製作及び援助技術などを比較・分析するときの枠組みを立てて見る</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。          阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣、2000年。          仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。          中央大学経済研究所編『社会保障と背かつ最低限—国際動向を踏まえて—』中央大学研究双書 30。</p> <p>【学習する上での留意点】 同じ目的で出来た制度・政策であっても、各国の社会的背景、文化、価値観などによって相違点が出るということを理解する。</p>
4 . テーマ	介護問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の海外の事情（特に、高齢者を対象とするケアマネジメントを中心に）
	<p>【学習の目標】 介護問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。ケアマネジメントシステムとケアプランのような介入方法を比較してみることによって比較・分析の枠組みが立てられる。</p> <p>【学習の内容】 介護が必要である痴呆高齢者と彼を介護する家族に対してドイツと日本の介入方法がどう違うが、具体的なケースをもって社会福祉援助技術ドイツのケアマネジメントシステム、日本のケアマネジメントシステム、ドイツとのケアプラン、日本のケアプランを比較・分析してみる。</p> <p>【キーワード】 ケアマネジメント、ケアプラン</p> <p>【学習の課題】 ・介護問題を持っている痴呆高齢者とその家族の中、対象者別に予想される一つの問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。          ・理想的なケアマネジメントシステムに対する構造を考える。</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。          阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣、2000年。          仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。</p> <p>【学習する上での留意点】 日常生活や常識から脱却して、新鮮で奇抜な考えを試みる。          方法としてブレインストーミングを利用することも役立つと思う。</p>
5 . テーマ	イギリスと日本の社会福祉制度・政策の比較（特に、医療政策を中心に）
	<p>【学習の目標】 イギリスにおけるコミュニティケアと国民保健サービス(National Health Service, 以下 NHS)システムを解る。</p> <p>【学習の内容】 高齢社会に対応するコミュニティケアと保健医療改革、イギリスの NHS 改革、病院トラスト、患者憲章</p> <p>【キーワード】 コミュニティケア、保険医療改革、国民保健サービス</p> <p>【学習の課題】 高齢社会に対応するための地域・地方自治体の責任・機能の変化、サービスレベルの変化、供給の多元化、利用者の権利擁護などの世界的動きや変化過程を探求する。</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。          仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉イギリス④』旬報社。</p> <p>【学習する上での留意点】 今のイギリスの NHS も日本の医療保健政策も短時間で急に出来上がったものでなく、長い時間と多くの努力をかけての進歩であるが、また時代の要求に応じて改革を重ねていかなければならないということを理解する。また、医療サービスを市民の確実な権利として定着させるに、有効なアドボカシ理論に対する知識を深める。</p>
6 . テーマ	医療問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の海外の事情
	<p>【学習の目標】 ・医療問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。          ・病院のインテークと介入方法を統合的に考え、自分なりの介入を考えてみる。</p> <p>【学習の内容】 入院患者、退院患者、患者家族の三つの対象を中心に、予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を3つのグループに分けてディスカッションし、それぞれの内容を発表する。</p> <p>【キーワード】 競争原理の導入、第一線の重視、医療行為の制約</p> <p>【学習の課題】 医療問題を持っている入院患者、退院患者、患者家族の中、対象者別に予想される一つの問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。          仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉イギリス④』旬報社。</p> <p>【学習する上での留意点】 慢性疾患を持っている患者や家族を援助するには地域社会のもつ資源の発掘、新しい資源の開発と情報の提供、ボランティアの活用などが必要であるため、コミュニティ理論に関する知識を深める。</p>
7 . テーマ	アメリカと日本の社会福祉制度・政策の比較（特に、精神保健制度を中心に）
	<p>【学習の目標】 アメリカと日本の地域社会を基盤とする精神保健制度・政策を比較・分析する。</p> <p>【学習の内容】 アメリカと日本における医療支出の改善・抑制対策、地域を中心とするメンタルヘルスサービス(CBR)の内容</p> <p>【キーワード】 Mental Health, CBR</p> <p>【学習の課題】 アメリカと日本の国や地方自治団体レベルの精神保健制度・政策のシステムとその内容において相違点と共通点を</p>

	<p>探求する。</p> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 中島恒雄『21世紀の高齢者福祉』ミネルヴァ書房、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アメリカ⑨』旬報社。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> アメリカの精神保健制度、特に統合失調症とホモセックス政策が成功できた根本的な理由は何かを探求し、それを日本ではどのようなアプローチをしたら可能であるかを発展的に考える。</p>
8 . テーマ	<p>精神保健の問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の海外の事情（特に、依存(中毒)症者に対する援助を中心に）</p> <p><b>【学習の目標】</b> 精神保健問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 精神的疾患を持つ入院患者、退院患者、患者家族の予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に3つのグループに分けディスカッションし、それぞれの内容を発表する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 精神疾患、依存症、共依存(Co-Dependency)</p> <p><b>【学習の課題】</b> 精神的疾患を持つ入院患者、退院患者、患者家族の中、対象者別に予想される一つの問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 中島恒雄『21世紀の高齢者福祉』ミネルヴァ書房、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アメリカ⑨』旬報社。 斎藤学『嗜癖する社会』誠心書房。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 精神疾患を持っている患者や家族を援助するには地域社会のもつ資源の発掘、新しい資源の開発と情報の提供、ボランティアの活用以外に、地域住民の理解と協力がとても重要であるため、生態システム理論やネットワーキングなどに関する知識を深める。</p>
9 . テーマ	<p>韓国と日本の社会福祉制度・政策の比較（特に、国民基礎生活保障制度を中心に）</p> <p><b>【学習の目標】</b> 韓国と日本の国民基礎生活保障制度を比較・分析する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 国民基礎生活保障制度の需給資格と給与内容、死角地帯にいる貧困者のための安全網の確保、自活支援事業</p> <p><b>【キーワード】</b> 国民基礎生活保障制度、安全網、自活支援</p> <p><b>【学習の課題】</b> 韓国の国民基礎生活保障法と日本の生活保護法の内容を比較・分析する作業を通して、生活保障政策における両国の特徴をわかる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③』旬報社。 洪金子『韓国の社会福祉発達史』蜚雪出版社。 Goodman, Roger(2000) ; White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model : Welfare orientation and the state, London and NY : Routledge.</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 豊かな国であっても、ホームレスが存在する根本的な原因が何かを探求する。</p>
10 . テーマ	<p>生計を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の海外の事情（特に、ホームレスに対する援助を中心に）</p> <p><b>【学習の目標】</b> 生計問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 不況でリストラされた親とその家族の予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に2つのグループに分けディスカッションし、それぞれの内容を発表する。</p> <p><b>【キーワード】</b> ホームレス、コットンネ、相互援助、自立</p> <p><b>【学習の課題】</b> ホームレスの予想される問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③』旬報社。 洪金子『韓国の社会福祉発達史』蜚雪出版社。 Goodman, Roger(2000) ; White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model : Welfare orientation and the state, London and NY : Routledge.</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> ホームレスと生計問題を持っている家族を援助するのに有効な貧困理論に関する知識を深める。</p>
11 . テーマ	<p>中国と日本の社会福祉制度・政策の比較（特に、一人っ子政策と保育政策を中心に）</p> <p><b>【学習の目標】</b> 中国と日本の一人っ子政策と保育政策を比較・分析する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 一人っ子の問題、一人っ子の保育サービスで重点を置くべき点、いじめという問題行動、いじめの性格、社会と人間関係への影響、各国の教育制度との関係、いじめ問題と対策としてのスクールソーシャルワークをわかる。</p> <p><b>【キーワード】</b> 一人っ子、保育サービス、いじめ、加害者と被害者、スクールソーシャルワーク</p> <p><b>【学習の課題】</b> 中国の一人っ子政策に比べ、日本の少子化の根本的な原因を探求し、自分が少子化を止める政策を作るとすれば、どんなことが出来るであろうかを具体的に考えてみる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③』旬報社。 Goodman, Roger(2000) ; White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model : Welfare orientation and the state, London and NY : Routledge.</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 中国の一人っ子政策の背景を理解すると同時に、どんなにいい目的と目標を持って立てた政策であってもその利点があるかとするれば、ディアドバンテージもあるということをあらかじめ予想しながら政策を造らなければならないことに留意する。</p>
12 . テーマ	<p>いじめの問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の海外の事情（特に、いじめに対する援助を中心に）</p> <p><b>【学習の目標】</b> いじめ問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> いじめの加害者や被害者、その家族と社会の予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に4つのグループに分けディスカッションし、それぞれの内容を発表する。</p>

	<p>【キーワード】 いじめ、加害者のシステム、被害者のシステム、スクールソーシャルワーク</p> <p>【学習の課題】 いじめ問題を持っている加害者と加害者の家族、被害者と被害者の家族の中、対象者別に予想される一つの問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③』旬報社。 森田洋司『いじめの国際比較』金子書房。 洪金子『生徒間暴力に対するスクールソーシャルワークの機能と介入方法—正対し捨て身アプローチを中心に』日本女子大学社会福祉学科学会誌、2003年。 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣、2000年。 Goodman, Roger(2000) ; White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model : Welfare orientation and the state, London and NY. : Routledge.</p> <p>【学習する上での留意点】 いじめ問題を持っている生徒や家族を援助するのに有効な社会福祉援助技術のスクールソーシャルワーク理論に関する知識を深める。</p>
13. テーマ	児童虐待問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の海外の事情
	<p>【学習の目標】 児童虐待問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p>【学習の内容】 虐待の概念、原因、その影響、虐待理論、愛着障害、トラウマ、対象方法などを学習・研究する。</p> <p>【キーワード】 虐待、ネグレクト、サバイバー、愛着障害、トラウマ</p> <p>【学習の課題】 児童虐待問題を持っている人とサバイバー、加害者としての親の中、対象者別に予想される一つの問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。 Lyons, Karen(1999) : International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt : Ashgate Publishing</p> <p>【学習する上での留意点】 虐待問題を理解し、その問題を持っている人とサバイバーそして家族を援助するのに有効な、愛着理論やトラウマに関する知識を深める。</p>
14. テーマ	DV問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の海外の事情
	<p>【学習の目標】 DV問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。</p> <p>【学習の内容】 DV概念・原因・本人と子どもへの影響・DV被害者、DV加害者、DV法律と司法システム、DV予防・防止のためのプロトコルなどに対する知識と処遇方法</p> <p>【キーワード】 DV (Domestic Violence)、DV被害者、DV加害者、DV法律、DV予防・防止のためのプロトコル</p> <p>【学習の課題】 DV問題を持っている加害者と被害者そして彼らの子どもの中、対象者別に予想される一つの問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。 鈴木研一『世界の女性と暴力』明石書店。 洪金子、関口恵美、大橋利雄『DVに対する警察の対処に関する研究』司法福祉学会資料集、2002年。 Lyons, Karen(1999) : International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt : Ashgate Publishing</p> <p>【学習する上での留意点】 DV問題を理解し、DVの被害者と加害者そして彼らの子どもを援助するのに有効な家族療法に関する知識を深める。</p>
15. テーマ	科目のまとめ
	<p>【学習の目標】 科目のまとめ</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉2002』旬報社。 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。 Lyons, Karen(1999) : International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt : Ashgate Publishing</p> <p>【レポート課題】 14回にわたって学習と研究してきたテーマの中、一つ(レポートとして提出するテーマを除く)を選び、日本のそれと比較・分析(比較する国がわからない場合、比較する国を自分で決めてやる)する。 比較・分析の枠組みとしては、 政策の場合、①各国の社会的背景 ②課題の内容 ③その国との共通点 ④その国との相違点 ⑤比較・分析を通して学んだ点と本人の意見を記述する。 臨床問題の場合、①その問題の社会的背景と現況 ②国レベルの政策的なアプローチ ③具体的な処遇プログラム(社会福祉援助方法あるいは臨床的なことを中心とする) ④比較・分析を通して学んだ点と本人の意見を記述する。</p> <p>【学習する上での留意点】 今まで学習と研究してきた世界各国の社会福祉政策・制度、海外保健福祉事情に関する知識そしてもろもろの問題に対する介入方法などを社会福祉実践現場で十分生かせるために学術的・実践的努力を続ける。</p>

1. 科目名 (単位数)	公的扶助特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5312
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄			
4. 授業形態	ゼミ方式で行う		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「社会保障特論」を履修することが望ましい。		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	公的扶助制度の確立とその後の展開、生活保護制度の基本原則を踏まえながら、生活保護制度をめぐる近年の動向、生活保護行政の課題、低所得者対策等について幅広い観点から検討する。さらに、生活保護制度を中心とした今後の低所得者政策について分析・考察する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の公的扶助制度である、生活保護制度について理解し、問題点を把握すること。</li> <li>・近年の政策動向を踏まえ、生活保護制度の今後の課題について議論するための知識を得ること。</li> </ul>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での報告を基に授業を進めるので、その準備が求められる。</li> <li>・加えて授業を踏まえたレポートを提出してもらい、授業内でそれを基に議論を行いたい。</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>埋橋孝文編 (2013) 『福祉+α 生活保護』ミネルヴァ書房 池田和彦・砂脇恵 (2009) 『公的扶助の基礎理論』ミネルヴァ書房 通学課程では、受講者に応じてこれらのものを含めて取り扱う文献を決定する。</p> <p>【参考書】</p> <p>岩田正美・西沢晃彦(2005) 『貧困と社会的排除』ミネルヴァ書房 岩田正美 (2007) 『現代の貧困』ちくま新書 布川日佐史 (2009) 『生活保護の論点』山吹書店 『生活保護手帳』最新版</p>			
11. 成績評価の方法	授業内での報告 50%、レポート 50%			
12. 受講生へのメッセージ	大学院では自ら問題を設定し、それについて考える姿勢が求められる。公的扶助についても問題関心を持ったうえで、受講をしてもらいたい。			
13. オフィスアワー	授業内で通知することになる。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	「貧困」とは何か。			
【学習の目標】	貧困についての様々な考え方を理解すること。			
【学習の内容】	貧困とは何かを、多様な定義から学習する。			
【キーワード】	「マーケットバスケット」「相対的貧困」「社会的排除」			
2. テーマ	公的扶助とは何か。			
【学習の目標】	公的扶助の目的、成り立ちについて理解すること。			
【学習の内容】	社会保障の中での位置づけ、救貧法からの歴史について学習する。			
【キーワード】	「救貧」「救貧法」「生存権」			
3. テーマ	生活保護制度①歴史			
【学習の目標】	公的扶助制度がどのように変化してきたかを理解すること。			
【学習の内容】	日本の公的扶助制度がどのような変遷をたどってきたかを学習する。			
【キーワード】	「救護法」「旧生活保護法」「生活保護法」			
4. テーマ	生活保護制度②制度			
【学習の目標】	生活保護制度の現状と、問題点を理解すること。			
【学習の内容】	生活保護制度がどのような目的を持ち、どのような給付を行っているかを学習する。			
【キーワード】	「最低生活の保障」「自立の助長」「充足性の原理」			
5. テーマ	生活保護制度③動向			
【学習の目標】	生活保護受給者 (世帯) 数はどんな要因で変化するかを理解すること。			
【学習の内容】	生活保護受給者 (世帯) 数の変遷をたどり、その背景を学習する。			
【キーワード】	「123 号通知」「高齢化」「リーマンショック」			
6. テーマ	生活保護制度④近年の改革			
【学習の目標】	現行の生活保護法のどこが問題化を理解すること。			
【学習の内容】	生活保護制度の改革と、その背景、改革の問題点について学習する。			
【キーワード】	「自立支援プログラム」「生活保護法改正」「生活困窮者自立支援法」			
7. テーマ	公的扶助と自立支援			
【学習の目標】	生活保護受給者にどのような支援が求められているかを理解すること。			
【学習の内容】	生活保護受給者への自立支援とその課題について学習する。			
【キーワード】	「生活保護の在り方に関する専門委員会報告書」「中間的就労」			
8. テーマ	最低生活保障のための手段			
【学習の目標】	最低生活保障の制度として、現行の制度のほかに、どのようなものが考えられるかを考えること。			
【学習の内容】	最低生活保障を行っていくために、どのような制度設計が求められるかを学習する。			

【キーワード】	「一般扶助」「給付付き税額控除」「ベーシックインカム」
9 . テ ー マ	低所得者支援の制度
【学習の目標】	社会保障制度の中で、低所得者に対するどのような制度や支援、補助があるかを理解する。
【学習の内容】	低所得者に対する様々な制度について、学習する。
【キーワード】	「低所得者」「住宅手当」
10 . テ ー マ	公的扶助制度の国際比較①イギリス・アメリカ
【学習の目標】	イギリス・アメリカの公的扶助制度について理解し、日本への示唆を得る。
【学習の内容】	イギリス・アメリカの公的扶助制度とその特徴について、学習する。
【キーワード】	「所得補助」「TANF」「EITC」
11 . テ ー マ	公的扶助制度の国際比較②ドイツ・フランス
【学習の目標】	ドイツ・フランスの公的扶助制度について理解し、日本への示唆を得る。
【学習の内容】	ドイツ・フランスの公的扶助制度とその特徴について、学習する。
【キーワード】	「社会扶助」「ハルツIV法」「RSA」
12 . テ ー マ	生活保護とソーシャルワーク
【学習の目標】	生活保護制度におけるソーシャルワークの位置づけと課題について理解する。
【学習の内容】	生活保護制度において、ソーシャルワークがどのように位置づけられ、機能しているかを学習する。
【キーワード】	「ケースワーカー」「指導指示」「相談助言」
13 . テ ー マ	公的扶助と雇用との関連
【学習の目標】	就労可能層への生活保障の在り方について、考える。
【学習の内容】	失業者を支える各制度とその関係について学習する。
【キーワード】	「最低賃金」「雇用保険」「求職者支援制度」
14 . テ ー マ	公的扶助と社会手当
【学習の目標】	公的扶助と社会手当はどのように異なるかを、考える。
【学習の内容】	公的扶助と社会手当の現状と、相違点について学習する。
【キーワード】	「資力調査」「児童手当」
15 . テ ー マ	まとめ：最低生活保障の制度の在り方について考える
【学習の目標】	公的扶助制度の問題点を理解し、代替案について考える。
【学習の内容】	公的扶助制度の在り方について、議論する。
【学習の課題】	これまでの学習を踏まえて、あるべき公的扶助制度の姿について、まとめる。

1. 科目名 (単位数)	高齢者保健福祉特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5321
2. 授業担当教員	金 貞任			
4. 授業形態	発表、レポート提出等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>高齢者の保健福祉制度・政策について、現状と問題点を明らかにし分析する能力を磨く。そのためには、比較分析の視点が重要であり、隣国である東アジア諸国、ヨーロッパの高齢者の保健福祉制度・施策と比較しながら日本の特徴と課題を導き出すことができるような力を身につける。</p> <p>また、高齢者に関連する諸制度を論文としてまとめる場合は、どのようにすれば可能であるか、学術論文とは何かについて考える力を身につける。</p> <p>先行研究について、批判的に分析する力を身につける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の高齢者の現状と特性について、韓国・先進諸国と比較しながら現状と問題点を把握する。</li> <li>2. 高齢者に関連する制度・政策について吟味する。</li> <li>3. 韓国の介護保険制度の現状と問題点について把握する。</li> <li>4. 要介護高齢者が住み慣れた居宅で終焉するために、実際に必要な介護や看護、生活支援をどのようにする必要があるかについて学習する。</li> <li>5. 高齢者に関連する先行研究について、ディスカッション等を通して批判的に分析する力を身につける。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p><b>【教科書】</b>          増田雅暢編『世界の介護保障』法律文化社          野々山久也『現代家族のパラダイム革新』東京大学出版会          金貞任『高齢社会と家族介護の変容—韓国・日本の比較研究』法政大学出版局          *適宜授業中にプリントなどを配布する(高齢者、要介護高齢者と家族に関連する学会雑誌の論文)</p> <p><b>【参考文献】</b>          日本老年社会学会『老年社会科学』2000～2014 年度(学会雑誌)          辻 由希『家族主義福祉レジームの再編とジェンダー政治』ミネルヴァ書房          佐藤・尾嶋編『現代の社会階層 格差と多様性』1、東京大学出版会          社会福祉学会『社会福祉学』2000～2011(学会雑誌)          前田樹海 江藤裕之 田中建彦『APA 論文作成マニュアル 第2版 アメリカ心理学会』医学書院          鈴木 淳子『質問紙デザインの技法』ナカニシヤ出版          黒木 登志夫『知的文章とプレゼンテーション—日本語の場合、英語の場合』中公新書          平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』ミネルヴァ書房          大沢真理編 竹中恵美子監修『福祉国家とジェンダー』明石書店          森川美絵『介護はいかにして労働となったのか』ミネルヴァ書房          Daly, M. Care Work: The Quest for Security. International Labor Office          Bond, J. and Coleman, P. AGEING IN SOCIETY. SAGE.          Noelker, L.S. and Harel, Z. Linking Quality of Long-Term Care and Quality of Life. Springer Publishing Company.</p>			
11. 成績評価の方法	評価基準: レポート・発表 80% 学期末レポート 20%			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常に高齢者が問題になっている理由と解決策とは何かについて考える。</li> <li>2. 学術雑誌を読んで批判する力を身につける。</li> <li>3. 福祉政策と高齢者に関するリサーチは相伴うものであり、両者のバランスが取れるようにすることが重要である。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	水曜日: 12～14 時 木曜日: 12～13 時			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1-2. テーマ	シラバス説明、ドイツの介護保障			
<b>【学習の目標】</b>	ドイツの介護保障システムの歴史と現状について学習する。			
<b>【学習の内容】</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者介護政策の歴史について学習する。</li> <li>2. 高齢者介護保障システムの構造について把握する。</li> <li>3. 高齢者システムの課題と今後の方向性について学習する</li> </ol>			
<b>【キーワード】</b>	ドイツ 介護政策 介護保障システム			
<b>【学習の課題】</b>	学習の内容の1～3について、本章のオリジナリティと問題点を発見する。			
<b>【参考文献】</b>	教科書と参考文献			
<b>【学習する上での留意点】</b>	ドイツと日本の介護保険制度の共通点と差異に注目しながら整理することが重要である。			
3. テーマ	台湾・シンガポール・中国の介護保障			
<b>【学習の目標】</b>	台湾・シンガポール・中国の介護保障システムの歴史と現状について学習する。			
<b>【学習の内容】</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者介護政策の歴史について学習する。</li> <li>2. 高齢者介護保障システムの構造について把握する。</li> <li>3. 高齢者システムの課題と今後の方向性について学習する</li> </ol>			
<b>【キーワード】</b>	台湾 シンガポール 中国 介護政策 介護保障システム			
<b>【学習の課題】</b>	学習の内容の1～3について、本章のオリジナリティと問題点を発見する。			

【参考文献】	教科書と参考文献
【学習する上での留意点】	ドイツと日本の介護保険制度の共通点と差異に注目しながら整理することが重要である。
4 . テーマ	韓国・イギリスの介護保障
【学習の目標】	韓国の介護保障システムの歴史と現状について学習する。
【学習の内容】	1. 高齢者介護政策の歴史について学習する。 2. 高齢者介護保障システムの構造について把握する。 3. 高齢者システムの課題と今後の方向性について学習する。
【キーワード】	韓国 イギリス 介護政策 介護保障システム
【学習の課題】	学習の内容の1～3について、本章のオリジナリティと問題点を発見する。
【参考文献】	教科書と参考文献
【学習する上での留意点】	韓国と日本の介護保険制度の共通点と差異に注目しながら整理することが重要である。
5 . テーマ	日本の介護保障 (or 外部講師による授業；生活の質)
【学習の目標】	日本の介護保障システムの歴史と現状について学習する。
【学習の内容】	1. 高齢者介護政策の歴史について学習する。 2. 高齢者介護保障システムの構造について把握する。 3. 高齢者システムの課題と今後の方向性について学習する
【キーワード】	日本 介護政策 介護保障システム
【学習の課題】	学習の内容の1～3について、本章のオリジナリティと問題点を発見する。
【参考文献】	教科書と参考文献
【学習する上での留意点】	ドイツ・日本・日本の介護保険制度の共通点と差異に注目しながら整理することが重要である。
6 . テーマ	高齢社会と家族介護 (or 受講生による研究発表)
【学習の目標】	高齢社会と家族介護の状況について理解し、各自の研究テーマを吟味する。
【学習の内容】	1. 研究の社会的背景と目的について、各自の研究テーマと比較しながら理解する。 2. 調査研究の方法について理解し、自分はどのような方法で修士論文を作成したいか考える。 3. 分析の枠組と仮説の設定について理解し、自分はどのような仮説を作成したいか考える。
【キーワード】	研究の社会的背景 研究の目的 調査の方法 分析の枠組 仮説 ジェンダー
【学習の課題】	学習内容の1～3について、各自の修士論文のテーマに基づき作成する。
【参考文献】	教科書と参考文献
【学習する上での留意点】	各自の修士論文の問題意識と目的について構想してみる。
7 . テーマ	家族介護をめぐる理論的検討、受講生による研究発表
【学習の目標】	家族介護をめぐる理論、負担感と対処行動について吟味する。
【学習の内容】	1. 家族ストレス理論とは何かについて理解し、自分はどのような理論に基づいて修士論文を作成したいか探索する。 2. 家族介護者の負担感の概念、先行研究について吟味する。 3. 家族介護者の対処行動の概念と先行研究について理解する。
【キーワード】	ストレス理論 負担感と対処の概念 先行研究
【学習の課題】	学習内容に示してある1～3について、各自の研究テーマに関連する先行研究を探し、先行研究を整理する。
【参考文献】	教科書と参考文献
【学習する上での留意点】	各自の先行研究では、どのような理論を用いることが可能であるか検討する。
8 . テーマ	家族介護者の負担感、受講生による研究発表
【学習の目標】	家族介護者の負担感の規定要因とは何かについて吟味する。
【学習の内容】	1. 研究の目的について理解する。 2. 分析で用いるデータと変数について理解する。 3. 家族介護者の介護負担感の分析結果がどのようになっているかについて理解する。 4. 家族介護者の負担感の規定要因について、まとめの記述について吟味する。
【キーワード】	介護負担感 要介護高齢者 家族介護者 IADL
【学習の課題】	学習内容の1～4について、各自の修士論文のテーマに適用させながら要約する。
【参考文献】	教科書と参考文献
【学習する上での留意点】	各自の修士論文のテーマの目的や研究方法等と比較しながら学習することが重要である。
9 . テーマ	家族介護者の対処の規定要因、受講生の研究発表
【学習の目標】	家族介護者の対処の規定要因について学習する。
【学習の内容】	1. 目的が何かについて理解する。 2. 分析で用いる変数と分析方法について吟味する。 3. 家族介護者の対処の規定要因の分析結果について理解する。 4. 家族介護者の対処の規定要因のまとめについて学習する。
【キーワード】	家族介護者 要介護高齢者 対処 ADL
【学習の課題】	学習内容の1～4について、問題点を発見し、ノートを整理する。
【参考文献】	教科書と参考文献
【学習する上での留意点】	各自の修士論文のテーマ、研究の方法等と比較しながら理解することが重要である。
10 . テーマ	直系制家族と親族組織の類型化
【学習の目標】	直系制家族と親族組織の類型化について学習する。
【学習の内容】	1. 目的が何かについて理解する。 2. 分析で用いる変数と分析方法について吟味する。 3. 各類型化における特徴について理解する。

	<p>4. 権力及び権威の所在がどのように変遷したかについて学習する。</p> <p>5. 親族組織の構造化とその解体化が高齢者とどのようにかかわっているかを吟味する。</p> <p>【キーワード】 直系家族 親族組織 権力・権威</p> <p>【学習の課題】 学習内容の1～4について、問題点を発見し、ノートを整理する。</p> <p>【参考文献】 教科書と参考文献</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の修士論文のテーマ、研究の方法等と比較しながら理解することが重要である。</p>
1 1 . テー マ	核家族の自立化と親族組織の変容
	<p>【学習の目標】 核家族の自立化と親族組織の変容について学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的が何かについて理解する。</li> <li>2. 分析で用いる変数と分析方法について吟味する。</li> <li>3. 核家族の自立化と構造的対照について理解する。</li> <li>4. 工業化と自律的家族、同族組織における価値体系について学習する。</li> <li>5. 家族と親族関係がどのように構造化されているかを吟味する。</li> </ol> <p>【キーワード】 核家族 工業化 自立化 親族関係</p> <p>【学習の課題】 学習内容の1～5について、問題点を発見し、ノートを整理する。</p> <p>【参考文献】 教科書と参考文献</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の修士論文のテーマ、研究の方法等と比較しながら理解することが重要である。</p>
1 2 . テー マ	家制度の崩壊と家族の自己組織化
	<p>【学習の目標】 家制度の崩壊と家族の自己組織化について学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的が何かについて理解する。</li> <li>2. 夫婦制家族の時代とその後がどのようになっているかについて理解する。</li> <li>3. 高度工業化と夫婦制家族について理解を深める。</li> <li>4. 後期工業化と家族ライフスタイルの多様化について批判的に検討する。</li> <li>5. 家族からはじまる小さなデモクラシーについて把握する。</li> </ol> <p>【キーワード】 家制度 高度工業化 家族ライフスタイル デモクラシー</p> <p>【学習の課題】 学習内容の1～5について、問題点を発見し、ノートを整理する。</p> <p>【参考文献】 教科書と参考文献</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の修士論文のテーマ、研究の方法等と比較しながら理解することが重要である。</p>
1 3 . テー マ	家族ライフスタイルの展開とそのアプローチ
	<p>【学習の目標】 家族ライフスタイルの展開とそのアプローチについて学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的が何かについて理解する。</li> <li>2. 家族ライフスタイル論の概念と理論的背景について理解する。</li> <li>3. 家族ライフスタイル化と合意制家族の生成について理解を深める。</li> <li>4. 家族ライフスタイルの合意形成の過程について批判的に検討する。</li> <li>5. ライフスタイル論的アプローチの事例について学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 家制度 高度工業化 家族ライフスタイル デモクラシー</p> <p>【学習の課題】 学習内容の1～5について、問題点を発見し、ノートを整理する。</p> <p>【参考文献】 教科書と参考文献</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の修士論文のテーマ、研究の方法等と比較しながら理解することが重要である。</p>
1 4 . テー マ	家族変動と家族福祉の視点
	<p>【学習の目標】 家族変動と家族福祉の視点について学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本型福祉社会論における家族福祉について理解する。</li> <li>2. 家族ライフスタイル時代の家族福祉の視点とは何かについて理解する。</li> <li>3. 家族機能と個人のライフステージ重視が高齢者に与える影響について考える。</li> <li>4. 家族福祉の実践活動について検討する。</li> <li>5. 家族変動と高齢者の介護との関連について理解を深める。</li> </ol> <p>【キーワード】 日本型福祉社会 家族福祉 家族機能 家族変動</p> <p>【学習の課題】 学習内容の1～5について、問題点を発見し、ノートを整理する。</p> <p>【参考文献】 教科書と参考文献</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の修士論文のテーマ、研究の方法等と比較しながら理解することが重要である。</p>
1 5 . テー マ	レポート提出、研究発表
	<p>【学習の目標】 研究とは何かについて学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文の仕組みについて理解する。</li> <li>2. 先行研究とは何かについて理解する。</li> <li>3. 仮説とは何かについて理解する。</li> <li>4. 研究のオリジナルティとは何かについて学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 論文の仕組み 先行研究 仮説 オリジナリティ</p> <p>【学習の課題】 学習内容の1～4について、問題点を発見し、レポートを作成し、発表する。</p> <p>【参考文献】 教科書と参考文献</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の修士論文のテーマ、研究の方法等と比較しながら理解することが重要である。</p>

1. 科目名 (単位数)	社会福祉法特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5313
2. 授業担当教員	喜多村 悦史			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	社会保障や社会福祉の制度構造に関する科目		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>国民生活に欠かせない重要な役割を担う社会福祉 (= 社会保障) であるが、今は大きな転換期にあるとされる。社会の構造変化、人口的には少子高齢化の進展、さらに国際的な経済競争の激化などにより、社会保障の財政見通しは厳しく、社会保障の崩壊を説く声も聞かれる。</p> <p>しかし、国民生活のセーフティネットである以上、未来永劫に持続させていかなければならないし、それによってはじめて国民は安心して日常生活を営める。</p> <p>職業の世襲制はなく、大家族の中での扶養も不可能であり、終身雇用も崩れている今日では、生涯を通して加入し、生涯を通して給付してくれる恒久的な社会保障制度が求められている。そうした観点に立てば、一つの回答は社会保障 (社会保険) 制度の統合一元化であろう。その実現可能性を法制度も含めたさまざまな角度から専門的に分析、検討する。</p> <p>近い将来において、わが国が少子高齢化では世界のトップランナーになることは必須であり、世界の範となる社会保障制度を考察する意味もある。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度は多数の仕組みから成り立っており、それらが独自の制度改正を行ってきた結果、国民にとってわかりづらく、利用しにくいものになってしまっている。</li> <li>2. このため学習するにもたいへんな労力を必要とする状態である。</li> <li>3. 社会保障を貫く統一理念はなにか、またそれを実現するならば、どのような制度体系が望ましいのかといったことについて、学生諸君とともに考えていきたい。</li> <li>4. 上記を通して、社会保障の基本思想を理解し、応用の利く基礎知識を確実に獲得する。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 喜多村悦史『社会保障改革への処方箋』医薬経済社 西村健一郎『社会保障法入門 (第 2 版)』有斐閣</p> <p>【参考文献】</p>			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 50%、レポート 50%			
12. 受講生への メッセージ	<p>社会保障の中核である社会保険制度には、将来の財源不安のほか制度への国民の無関心や不信感が高まっている。このままでは由々しき状況になる。社会保険制度の恒久的に運営可能な仕組みに改めるには、どのような視点からの改革が必要なのか。この問題を法律的側面から分析し、方向性を探る。既存の制度概念にとらわれず、将来世代へのメッセージを込めた制度提案を学生諸君と共同でやってみたい。本気度のある学生と徹底討議したいと考えている。</p>			
13. オフィスアワー	木曜日 9時から 12時			
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1 . テ ー マ	現在の社会福祉 (= 社会保障) の諸制度の基礎的整理			
【学習の目標】	現在の社会保障制度相互の法的な関係を整理し、共通事項を探る。			
【学習の内容】	医療、介護、年金、雇用、労災の 5 つの社会保障制度があり、さらにそれらの中でも、被用者対象と地域単位のように、分立している。なぜそうなっているのかの歴史的な考察を深める。			
【キーワード】	「制度分立」「社会保険」			
【学習の課題】	制度分立によってどのような不都合が制度上想定されるかを明らかにせよ。			
【参考文献】	参考文献ほかによって、5 つの社会保険制度の基本構造を事前に理解しておく。			
【学習する上での留意点】	少子高齢化とそれに伴う財政上の制約は今後一層大きくなることを忘れてはならない。			
2 . テ ー マ	社会保険の統合			
【学習の目標】	現在の社会保障制度相互の法的な関係を整理し、統合の可否を探る。			
【学習の内容】	社会保障各制度はいずれも深刻な財政問題を抱えていて、年金のように保険料の引き上げを宣言するものもあれば、雇用保険のように引き下げを検討しているところもある。しかし負担する側の財布は一つである。ならば制度を統合一元化し、費用を必要部分に重点投下することが合理的であろう。			
【キーワード】	「一元化」「社会保険統合」			
【学習の課題】	制度統合の構想する場合の論点を明確にする必要がある。			
【参考文献】	教科書論文編第 1 章「社会保険統合の必要性」のほか、参考文献の関連部分。			
【学習する上での留意点】	各制度を保険という共通の尺度で分解し、統一の姿を探る。			
3 . テ ー マ	社会保障の費用負担者			
【学習の目標】	わが国の社会保障の中核は社会保険であるが、そこでは財源の大部分は加入者が納付する保険料である。では、その保険料を納付する者とはどのように整理できるだろうか。			
【学習の内容】	国民すべてが強制加入になるのが「国民皆保険」である。しからば、保険料を納付するのを生涯のうちの現役時期に集中することは、保険理論に照らした場合、どのような評価になるだろうか。			
【キーワード】	「国民皆保険」「強制加入」			
【学習の課題】	保険料の納付を一定の年齢層に限ることの意味を記せ。			
【参考文献】	教科書論文編第 3 章 3 「保険料賦課」(1) (3) のほか、参考文献の関連部分。			
【学習する上での留意点】	社会保険の基本概念である、「能力に応じて保険料を負担し、必要に応じて給付を受ける」をライフサイクルで考えればどうということになるだろうか。			
4 . テ ー マ	保険料の算定方法			
【学習の目標】	社会保険料を加入者の何に賦課するのかが、整理されているようで、実はそうでもない。厚生年金などは給料比例だが、国民年金では定額であり、雇用保険などは事業主の支払い賃金総額である。なぜ、そうなっているのか、そ			

<p><b>【学習の内容】</b> 社会保険料には、高所得者が多額を負担することによって低所得者の保険料を安くできるという所得再配分効果があるが、それに過度に依存した場合、高額所得者の制度への忌避を招くことが危惧される。この両面に配慮した国民統一的な保険料算定方法を探る。</p> <p><b>【キーワード】</b> 「標準報酬制」「定額負担」「応能負担」「応益負担」</p> <p><b>【学習の課題】</b> 全員に共通の尺度で課される保険料とはどのようなものになるだろうか。その姿を整理せよ。</p> <p><b>【参考文献】</b> 教科書論文編第3章3「保険料賦課」(2)(4)(5)のほか、参考文献の関連部分。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> サラリーマンの妻などを、収入がない者として保険料負担を減免することは、家庭経済の実態に照らした場合に果たして合理性があるのだろうか。</p>	<p>れには必然性があるのかを分析し、共通した保険料の算定方法を検討する。</p>
<p><b>5 . テーマ</b> 社会保障の給付のあり方</p> <p><b>【学習の目標】</b> 社会保障制度の目的は、通常の人にとって個人的には対応しきれない日常生活上のリスクが生じたときの給付である。そうであるならば、社会の進化に伴い、必要とされる給付の種類・内容も変化するはずである。そうした観点から見た場合、現在の各制度の給付に改めるべき部分はないだろうか。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 給付の必要性の分析と同時に、受給者が保険料を納付していなかったような場合には、無制約に給付をすることは許されない。まじめに納付した者の信頼を損ねることになるからである。そうしたことを考えれば、保険料滞納歴がある者への給付はいかにあるべきだろうか。</p> <p><b>【キーワード】</b> 「給付制限」「第三者行為」「保険給付の保護」</p> <p><b>【学習の課題】</b> 現在の給付のうち不要不急なものを挙げよ。今後必要になると考えられる給付を挙げよ。</p> <p><b>【参考文献】</b> 教科書論文編第3章4「給付通則」のほか、参考文献の関連部分。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 保険者としては約束の社会保障給付をしなければならないが、同時に制度の財政安定も使命であるから、その給付原因を起こした者がいるときは、求償しなければならない。</p>	<p>社会保障の給付のあり方</p>
<p><b>6 . テーマ</b> 医療給付</p> <p><b>【学習の目標】</b> 現在の医療給付には3割の一部負担があるが、高額療養費があることで負担額に上限があるなど、きわめて複雑になっている。こうした医療給付を簡素、明快な仕組みに改めるにはどうしたらいいかを検討する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 医療保険の給付は本来十割給付であり、受診抑制の観点から一部負担を徴収する必要があるならば、それは医療機関ではなく、保険者自ら徴収すべきではないか。それを実現するための制度的な研究を行う。</p> <p><b>【キーワード】</b> 「現物給付」「一部負担」「窓口負担」「高額療養費」「保険医療機関」</p> <p><b>【学習の課題】</b> 医療保険における保険者の機能には、加入者である国民が医療を受ける際の事務的負担を軽減することも含まれるはずである。現在の保険医療機関と保険者と患者の関係についても整理する。</p> <p><b>【参考文献】</b> 教科書論文編第3章5「医療給付」のほか、参考文献の関連部分。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 保険者がその機能を十分に発揮すれば、生活習慣病や介護の予防は格段に進むはずである。それを妨げている制度的制約についても検討する</p>	<p>医療給付</p>
<p><b>7 . テーマ</b> 介護給付</p> <p><b>【学習の目標】</b> 医療保険、年金保険と別立てになっているため、介護を受ける老人が死亡した後に使わないままの年金が多額に残されていたなど、笑えない問題が生じている。そうした悲喜劇を防ぐにはどのような制度体系が考えられるのかを検討する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 介護保険は導入から日が浅く、制度として確立していない。受給者の一部負担は1割であるが、医療保険では3割である。また、家族が介護した場合には保険給付がなされない。こうした制度上の問題を解明しつつ、医療や年金との制度的な接点を探る。</p> <p><b>【キーワード】</b> 「現物給付」「金銭給付」「施設介護」「在宅介護」</p> <p><b>【学習の課題】</b> 要介護者の急増から介護保険の将来の財政は非常に厳しいと予測されるが、保険料徴収を医療保険に依存しているなど、保険制度として自立しているとはいえない。単に給付内容に注目するのではなく、長期的に安定した運営をするための要点をしっかり把握する。</p> <p><b>【参考文献】</b> 教科書論文編第3章6「介護給付」のほか、参考文献の関連部分。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 要介護状態になることによって日常生活上増える経費もあれば、減る部分もある。年金など所得保障との関係も把握すること。</p>	<p>介護給付</p>
<p><b>8 . テーマ</b> 年金給付</p> <p><b>【学習の目標】</b> 老齢年金、障害年金、遺族年金からなるが、それぞれの給付の性格を分析したうえで、国民皆年金としてふさわしい給付のあり方を考究する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 長寿、高齢化が進んでおり、老齢年金の支給は何歳からが妥当なのか。また、それとの接点で障害年金の支給要件は現在のままでいいのか。二階部分の報酬比例年金は自営業者には必要ないのか。妻には遺族年金が本当に必要なのか。といった、年金給付の根幹にかかわる部分について、現代およびこれからの社会経済のあり方との関係で、あるべき姿を考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 「老齢年金」「障害年金」「遺族年金」「二階建て年金」「基礎年金」「報酬比例年金」「世代間の公平」</p> <p><b>【学習の課題】</b> これからの年金支給開始年齢のあり方について考えよ。かつて55歳であった年金の支給が、今では65歳からになるとうとしている。しかしこれを世代間の不公平という者はあまりいないのではないか。社会経済の姿と年金給付との関係は密接に関係していることを忘れてはならない。</p> <p><b>【参考文献】</b> 教科書第1編第6章「基礎年金の支給開始年齢」のほか、参考文献の関連部分。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 高齢化になれば年金給付が増えるというのは常識だが、社会状況が変わることにより、その増え方にも変化が生じる。不要不急の部分を大胆に見直せば、給付費の将来の姿も変わってくる。</p>	<p>年金給付</p>
<p><b>9 . テーマ</b> 定期金給付</p> <p><b>【学習の目標】</b> 社会保険制度から毎月支給されるものとして、健康保険の傷病手当、出産手当、雇用保険の失業給付、育児休業給付・介護休業給付などがある。いずれも一時的な収入現象を補填するもので、目的は同じである。こうした給付について統一的な処理体系を考える。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 医療保険、雇用保険等における定期に支給される金銭給付を比較分析することで、不足している部分、過剰重複となっている部分を分析する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 「傷病手当」「出産手当」「求職者給付」「育児休業給付」「介護休業給付」</p>	<p>定期金給付</p>

	<p>【学習の課題】 自営業者にはこれらの給付は基本的に支給されないが、国民皆保険の思想に照らした場合どうなのか。国民の間での公平性の観点から、あるべき姿をさぐる。</p> <p>【参考文献】 教科書論文編第 3 章 8「定期金給付」のほか、参考文献の関連部分。</p> <p>【学習する上での留意点】 制度が違うから、支給内容に違いがあり、支給額の計算方式が異なってもかまわないといったことではなく、国民にとっての給付なのだという観点から考える。</p>
10. テーマ	出産・児童養育手当
	<p>【学習の目標】 特に児童手当に着目する。支給年齢の拡大が課題になっているが、財政上の制約から所得制限が課せられる問題が残っている。一般財源（公費）に頼っているところに根本原因がある。給付の普遍化を目指すのであれば、それにふさわしい制度を考えなければならない。</p> <p>【学習の内容】 児童手当の歴史的考察を十分に行い、社会保険システムでの運用の可能性に及ぶ。</p> <p>【キーワード】 「児童手当」「児童扶養手当」「特別児童扶養手当」</p> <p>【学習の課題】 児童手当は本来だれに支給されるべきなのか。子どもも社会の一員であるのだから、子ども自身が受給者になるという構成にすることはできないのか。その場合、遺族年金などとの整合性も取れるのではないかとといったことを考究せよ。</p> <p>【参考文献】 教科書第 1 編第 5 章「児童扶養手当に代わる「育成年金（仮称）の提案」のほか、参考文献の関連部分</p> <p>【学習する上での留意点】 保育所にかかる費用をバウチャー制度として金銭給付にしてはという議論がある。児童手当の金額を子どもの年齢に応じて変動させることによって、それへの対応は可能になるはずだが、そうした点についても検討する。</p>
11. テーマ	福祉事業
	<p>【学習の目標】 社会保険の特色のひとつに、一般財政からの運営独立がある。長期的な事業運営の安定のため、積立金を保有するが、その規模は現在でも 200 兆円であるなど半端ではない。この資金を有効活用する方法を考察する。</p> <p>【学習の内容】 長期的な視点から見た場合、介護施設など社会的投資を必要とする福祉分野事業は多い。しかし、福祉事業は低収益であるから、有利子の資金の導入は政策的に望ましくない。社会保険において生ずる積立金の活用方法として考えられる方策を探る。</p> <p>【キーワード】 「積立金」「保険料平準化方式」</p> <p>【学習の課題】 積立金運用で批判されてきたこと、社会保険事業に期待されていることを踏まえ、今後、積立金を活用した斬新な事業展開を構想せよ。</p> <p>【参考文献】 教科書第 2 編【項目 65】【項目 68】のほか、参考文献の関連部分。</p> <p>【学習する上での留意点】 単年度内の収支バランスだけではなく、長期的な視点からの財政均衡を考えていく必要がある。</p>
12. テーマ	財政と国庫負担
	<p>【学習の目標】 財源としては、保険料のほかにいわゆる国庫負担がある。その意味することについて正確な分析をしたうえで、今後のあるべき国庫負担の姿を探る。</p> <p>【学習の内容】 国が国庫負担をする意味はどういうことなのか。これについて確たる理論整理は十分ではない。そのため低所得の加入者に対する個人宛補助金といった議論まで見られる。歴史的考察を十分に行い、その政策的な意味を把握する。</p> <p>【キーワード】 「国庫負担」「公費負担」</p> <p>【学習の課題】 消費税の増税論議や一般財政の破綻状況から、国庫負担についての考えを再整理せよ。</p> <p>【参考文献】 教科書論文編第 3 章 3「保険料賦課」（6）のほか、参考文献の関連部分。参考文献ほか。</p> <p>【学習する上での留意点】 社会保険が一般財政から独立して運営されていることの意味を十分認識する必要がある。</p>
13. テーマ	保険料徴収
	<p>【学習の目標】 社会保険の主財源は加入者の保険料であるが、その計算方法は制度ごと、さらに労働者か自営業者化などによって大きく異なる。そうした違いの合理性の有無について検討し、全国民に共通の保険料について考究する。</p> <p>【学習の内容】 保険料を負担する年代、保険料を賦課する対象、高額収入者、定額収入者に対する扱いなどを正確に分析する。</p> <p>【キーワード】 「被保険者」「保険料滞納」「免除」「強制執行」</p> <p>【学習の課題】 学生、主婦、失業者、生活保護受給者などが無理なく保険料納付できる仕組みを構想せよ。</p> <p>【参考文献】 教科書第 2 編【項 46】【項目 55】のほか、参考文献の関連部分</p> <p>【学習する上での留意点】 保険である以上、給付と負担との関係を完全に無視するわけにはいかない。</p>
14. テーマ	運営等
	<p>【学習の目標】 だれが保険者業務を行うべきなのか、適用、保険料、給付に関して生じるもめごとの迅速な処理はいかにして担保されるか、加入者の意向を制度運営に取り込む仕組みなどはあまり論じられないが、実は適正な制度運営においては重要事項である。これらに関して現行制度の比較検討を行い、共通的かつ効率的な仕組みを考える。</p> <p>【学習の内容】 審査請求、保険者の性格・権能については、制度ごとの違いが大きく、また加入者の参画についてはほとんどないがしるにされている。しかしこうした事項こそ、制度運営の要である。</p> <p>【キーワード】 「審査請求」「保険者機能」「加入者自治」</p> <p>【学習の課題】 利用しやすい権利救済の仕組みを構築せよ。</p> <p>加入者の意識に沿った制度運営を担保できる事務運営組織を考えよ。</p> <p>【参考文献】 教科書論文編第 3 章 10「制度の運営」のほか、参考文献の関連部分。</p> <p>【学習する上での留意点】 各制度を横断的に分析する。法律では最後部分に「雑則」として扱われることが多いが、内容的には重要なのである。</p>
15. テーマ	法体系の構築
	<p>【学習の目標】 これまでの学習の成果を生かし、あるべき社会保障の制度像をイメージする。</p> <p>【学習の内容】 既存の法体系にとらわれず、国民皆保険の思想に即し、生涯を通じて生活上のリスクに対応する社会保障とはどのようなものか。</p> <p>【キーワード】 「国民皆保険」</p> <p>【学習の課題】 国民皆保険の趣旨にふさわしい新たな社会保障の法体系を構想せよ。</p> <p>【参考文献】 教科書第 2 編【項目 3】および論文編第 3 章 1「統合の原則」2「被保険者」のほか、参考文献の関連部分</p> <p>【学習する上での留意点】 既存概念にとらわれすぎないよう、また、国民間の真の公平を常に念頭に置くこと。</p>

1. 科目名 (単位数)	社会保障特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5311
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄			
4. 授業形態	ゼミ方式で行う		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	公的扶助特論を履修することが望ましい。		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	社会保障制度の現在だけではなく、その成り立ちや問題点、今後の在り方について受講者と考える場としたい。社会保障の定義は多様であり、研究アプローチや価値判断も様々であるから、様々な文献に触れながら議論していきたい。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度についての知識を持ち、その概略について説明できるようにすること。</li> <li>・社会保障制度の課題について理解し、今後の在り方について自らの考えを述べられるようにすること。</li> </ul>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での報告を基に授業を進めるので、その準備が求められる。</li> <li>・加えてレポートを提出してもらい、授業内でそれを基に議論を行いたい。</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<p><b>【教科書】</b>          棕野美智子・田中耕太郎 (2015) 『はじめての社会保障 第 12 版』有斐閣          北場勉 (2010) 『入門社会保障 改定版』ミネルヴァ書房          なおここに挙げた本は、制度についての基礎的な理解をつけるものであり、授業内で輪読を行うものではない。各自で読み、理解をしておいていただきたい。</p> <p><b>【参考書】</b>          横山和彦・田多英範編 (1991) 『日本社会保障の歴史』学文社          大沢真理 (2013) 『生活保障のガバナンス』有斐閣          宮本太郎編 (2013) 『生活保障の戦略』岩波書店</p>			
11. 成績評価の方法	授業内での報告 50%、レポート 50%			
12. 受講生へのメッセージ	現在の日本において社会保障制度は年間 110 兆円を超える規模をもち、全ての住民の生活の中で、何らかの形で関わる制度となっている。ソーシャルワーカーの支援においても、何らかの形で関わってくると思うので、問題意識を持ちながら積極的に参加してほしい。			
13. オフィスアワー	授業内で通知することになる。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	社会保障制度とは何か			
	<p><b>【学習の目標】</b> 社会保障制度とは何かを理解する。  <b>【学習の内容】</b> 社会保障制度について、目的や仕組み、対象範囲などから学習する。  <b>【キーワード】</b> 「社会保険」「公的扶助」「最低生活保障」「最適保障」</p>			
2. テーマ	社会保障制度の歴史①世界			
	<p><b>【学習の目標】</b> 社会保障制度が何を契機に成立し、どのように発展してきたかを理解する。  <b>【学習の内容】</b> 各国の社会保障制度の歴史とその背景について、学習する。  <b>【キーワード】</b> 「救貧法」「ナショナルミニマム」「大恐慌」「福祉国家」</p>			
3. テーマ	社会保障制度の歴史②日本			
	<p><b>【学習の目標】</b> 日本の社会保障制度が、どのように作られてきたかを理解する。  <b>【学習の内容】</b> 社会保障制度が、様々な社会経済的背景を基に作られていることを、制度の変遷をたどりながら学習する。  <b>【キーワード】</b> 「日本国憲法」「国民皆保険」「高齢化」</p>			
4. テーマ	社会保障制度とそれをとりまく環境			
	<p><b>【学習の目標】</b> 社会保障制度がどのような課題を抱え、それはどのような理由によるものかを理解する。  <b>【学習の内容】</b> 社会保障と経済、人口変動、家族、雇用などとの関連について学習する。  <b>【キーワード】</b> 「高齢化」「少子化」「単独世帯化」「非正規化」</p>			
5. テーマ	社会保障制度を構成する制度①年金保険			
	<p><b>【学習の目標】</b> 年金保険の現状と課題について理解する。  <b>【学習の内容】</b> 現在の制度と近年の改革、今後の課題について学習する。  <b>【キーワード】</b> 「賦課方式」「マクロ経済スライド」「年金一元化」</p>			
6. テーマ	社会保障制度を構成する制度②医療保険			
	<p><b>【学習の目標】</b> 医療保険の現状と課題について理解する。  <b>【学習の内容】</b> 現在の制度と近年の改革、今後の課題について学習する。  <b>【キーワード】</b> 「後期高齢者医療制度」「保険者」「生活習慣病」</p>			
7. テーマ	社会保障制度を構成する制度③介護保険			
	<p><b>【学習の目標】</b> 介護保険の現状と課題について理解する。  <b>【学習の内容】</b> 現在の制度と近年の改革、今後の課題について学習する。  <b>【キーワード】</b> 「高齢者介護」「地域包括ケア」「ケアマネジメント」</p>			
8. テーマ	社会保障制度を構成する制度④失業分野			
	<b>【学習の目標】</b> 雇用保険の現状と課題について理解する。			

【学習の内容】	現在の制度と近年の改革、今後の課題について学習する。
【キーワード】	「雇用保険」「求職者支援制度」「長期失業者」
9 . テ ー マ	社会保障制度を構成する制度⑤労災保険
【学習の目標】	労災保険の現状と課題について理解する。
【学習の内容】	現在の制度と近年の改革、今後の課題について学習する。
【キーワード】	「メリット制」「無過失責任」「精神疾患」
1 0 . テ ー マ	社会保障制度を構成する制度⑥家族分野
【学習の目標】	出産、子育てに関する制度の現状と課題について理解する。
【学習の内容】	現在の制度と近年の改革、今後の課題について学習する。
【キーワード】	「児童手当」「児童扶養手当」「出産・育児」
1 1 . テ ー マ	社会保障制度を構成する制度⑦最低生活保障
【学習の目標】	公的扶助制度について、特に他制度との関連で理解する。
【学習の内容】	現在の制度と近年の改革、今後の課題について学習する。
【キーワード】	「生活保護」「補足性の原理」「ワーキングプア」
1 2 . テ ー マ	社会保障の関連制度について
【学習の目標】	社会保障制度と関連する制度の現状と課題について理解する。
【学習の内容】	税制、労働法制、企業福祉の現状と課題について学習する。
【キーワード】	「消費税」「最低賃金」「企業福祉」
1 3 . テ ー マ	社会保障制度の国際比較
【学習の目標】	日本の社会保障制度の特徴や今後の在り方について、国際比較を踏まえて考える。
【学習の内容】	他国との比較を通じて、日本の社会保障制度の特徴について学習する。
【キーワード】	「保険と税」「賦課方式と積立方式」「家庭医」
1 4 . テ ー マ	今後の社会保障制度について①社会保障制度の課題
【学習の目標】	社会保障の課題をどうとらえるかを考える。
【学習の内容】	課題とそれに対してどのような提案がされているかについて、検討する。
【キーワード】	「社会的排除」「ベーシックインカム」「アクティベーション」
1 5 . テ ー マ	今後の社会保障制度について②日本の政策動向
【学習の目標】	日本の社会保障制度の課題について多角的にとらえ、改革の方向を考える。
【学習の内容】	これまでの授業をふまえ、社会保障・税一体改革の目的と課題について批判的に検討する。
【キーワード】	「所得再分配」「全世代型社会保障」「応能負担」

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉特論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5316
2. 授業担当教員	立松 英子			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R(S)
7. 講義概要	社会福祉の理念や制度は、国際的な条約やその時々の政情を反映して変化してきた。なかでも障害者福祉は、2014 年に批准された「障害者の権利に関する条約」の理念を基盤に大きく変わりつつあり、援助実践の専門性向上を志す院生においては、その歴史、制度の変化の背景、現場の課題を学びつつ、常に利用者の利益を念頭に研究を遂行していく姿勢が必要になる。本講義では、国内外の障害福祉の理念や制度を学ぶとともに、現場のマネジメント及び支援の実際について、視察も含んで学習していく。			
8. 学習目標	上記を踏まえて幅広い知識を身につけ、障害のある人の QOL (生活の質: Quality of Life) とは何か、本人や親の立場に立って分析、考察する力量を身につけることを目指す。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	(レポート課題) 次の 3 課題のうち 1 題を選んで提出してください。 1. 国際生活機能分類 (ICF) の特徴や意義について述べ、知的障害により社会適応に困難のある人にとっての支援ニーズについて、具体的な例を挙げて解説しなさい。 2. 当事者支援に向けた専門職同士の連携は不可欠である。連携・協働に必要な基本姿勢やそのあり方について、実体験を交えながら述べなさい。 3. 障害のある人のリハビリテーションに携わるケースワーカーに必要とされる資質や条件 (専門性、共生・共感の意識など) について、自身の経験や感性に基づいて述べなさい。 *その他、授業の中で、予習課題を提示します。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】社会福祉法人全国社会福祉協議会「社会福祉学習双書」編集委員会編「社会福祉学習双書 2014 障害者福祉論」社会福祉法人全国社会福祉協議会 【参考書】 内閣府「障害者白書」 内閣府「子ども・若者白書」 日本発達障害連盟 「発達障害白書 2017」明石書店 小林保子・立松英子「保育者のための障害児療育」学術出版会 保育所保育指針解説書 日本発達障害福祉連盟訳「知的障害 定義、分類および支援体系」第 11 版 AAIDD 米国知的・発達障害協会 日本知的障害者福祉協会「知的障害者のためのアセスメントと個別支援計画の手引き—一人ひとりの支援ニーズと支援サービス」 竹田一則「肢体不自由児・病虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学」ジアース教育新社 上田敏「目でみるリハビリテーション医学 (第 2 版)」東京大学出版会 その他、授業で配布する。			
11. 成績評価の方法	興味関心や課題意識 30%、 予習課題への取組み 50% レポート 20%			
12. 受講生への メッセージ	障害理解のためには、福祉のみならず、医学、教育の側面からも知識を得ておくことが重要である。「総合リハビリテーション」(医学書院)、「リハビリテーション医学」(社)日本リハビリテーション協会)などリハビリテーションに関する学会誌や、保育や教育との接続に関して特別支援教育関連の文献にも目を通しておくことをお勧めします。			
13. オフィスアワー	授業でお知らせします。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	障害者福祉の基本理念			
【学習の目標】	国際的に共有されている人権及び障害者福祉の理念について理解する			
【学習の内容】	障害者の権利に関する条約の概要、ノーマライゼーションの起源と理念、障害者における「自立」の概念について			
【キーワード】	障害者の権利に関する条約・人権・ノーマライゼーション・リハビリテーション・自立と社会参加・共生社会			
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。			
【参考文献】	障害者の権利に関する条約 外務省訳			
【学習する上での留意点】	生活の全てで介助が必要な障害者を念頭に、「自立」の意味を考察すること。			
2. テーマ	障害の概念			
【学習の目標】	国際生活機能分類 (ICF) における障害概念と障害モデルについて理解する。 先進国の障害者関連法律や制度、障害者認定の目的について理解する。			
【学習の内容】	ICF の成り立ちとその理念、構成要素、ICIDH との相違点			
【キーワード】	国際生活機能分類 (ICF)、国際障害分類 (ICIDH)、障害モデル			
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。			
【参考文献】	国際生活機能分類 (ICF) 外務省訳			
【学習する上での留意点】	これまでの人生で培われてきた自らの障害者観と国際的に共有されている障害者観や福祉の理念を言語化し、その共通点や相違点を明らかにすること。			

3 . テ ー マ	障害児・者の生活実態
【学習の目標】	我が国における障害者の生活実態を理解する。
【学習の内容】	手帳制度の分類による障害種別と各々の実態、実例。
【キーワード】	身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害者
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を身につけて授業に臨むこと。
【参考文献】	保育者のための障害児療育
【学習する上での留意点】	障害の認定を求め、手帳を申請することの意義について考察すること。
4 . テ ー マ	障害者福祉制度の発展過程
【学習の目標】	障害者福祉政策の歴史を学び、現在の課題について考える。
【学習の内容】	戦後初期の障害者福祉施策、経済成長期の障害者福祉施策、近年の障害者福祉施策（自立支援へ）
【キーワード】	難病対策、【学習の課題】 障害観の変遷（ネガティブな捉えからポジティブへ）について概観しておくこと
【参考文献】	授業で文献を配布する。
【学習する上での留意点】	自らの学齢期における障害者関連の経験を振り返っておく。
5 . テ ー マ	障害者をめぐる基本的な法律の概要（1）障害者基本法
【学習の目標】	障害者基本法の成り立ちや改定の過程を学びながら、その主旨と背景を理解する。
【学習の内容】	障害者基本法の成り立ち、その理念と具体化、関係法令への流れ、
【キーワード】	障害者基本法、新障害者プラン
【学習の課題】	障害者関連の法律に関連する新聞記事などを検索し、ディスカッションの話題とする。
【参考文献】	障害者をめぐる法律改正に関する社説など
【学習する上での留意点】	過去に新聞やテレビで報道された内容と関連付けながら参加してください。
6 . テ ー マ	障害者をめぐる基本的な法律の概要（2）身体障害者福祉法の概要
【学習の目標】	「身体障害」の概要とニーズを理解する。
【学習の内容】	「身体障害」に含まれる障害、合併症、二次障害、介護の実態、医療との関連
【キーワード】	身体障害者福祉法 内部障害、免疫機能障害
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。
【参考文献】	竹田一則「肢体不自由児・病虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学」ジアース教育新社
【学習する上での留意点】	誰にでも起こりうる身近な問題として捉えること
7 . テ ー マ	障害者をめぐる基本的な法律の概要（3）知的障害者福祉法の概要
【学習の目標】	「知的障害」の定義、概要及びニーズを理解する。
【学習の内容】	知的障害の概要、起こりやすい状態、合併症、二次障害、社会的ニーズ、医療との関連等。
【キーワード】	知的障害者福祉法 療育手帳 発達障害
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。
【参考文献】	日本発達障害福祉連盟訳「知的障害 定義、分類および支援体系」第 11 版 AAIDD 米国知的・発達障害協会
【学習する上での留意点】	誰にでも起こりうる身近な問題として捉えること
8 . テ ー マ	障害者をめぐる基本的な法律の概要（4）精神保健及び精神障害者福祉に関する法律・発達障害者支援法の概要
【学習の目標】	「精神障害」「発達障害」の定義、概要及びニーズを理解する。
【学習の内容】	精神障害、発達障害の定義、知的障害や認知賞との関連、起こりやすい状態、合併症など、
【キーワード】	精神障害、発達障害、発達障害者支援法、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。
【参考文献】	日本発達障害福祉連盟「発達障害白書 2017 年度版」明石書店、その他授業で配布する。
【学習する上での留意点】	誰にでも起こりうる身近な問題として捉えること。
9 . テ ー マ	障害者総合支援法の概要
【学習の目標】	障害者総合支援法成立までの歴史とその概要、実際について理解する。
【学習の内容】	障害者総合支援法成立までの歴史、その目的や理念と実際
【キーワード】	障害者自立支援法、障害者総合支援法、障害者総合福祉法、応能負担、応益負担、自立支援
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。
【参考文献】	小林他「保育者のための障害児療育」学術出版会、その他授業で配布する。
【学習する上での留意点】	障害者についての捕らえ方の変遷によって制度も変わっていったことに留意する。
10 . テ ー マ	その他の障害者関連法令
【学習の目標】	障害者雇用促進法や障害者虐待防止法、障害者差別解消法等の概要を理解する。
【学習の内容】	障害者雇用促進法や障害者虐待防止法、障害者差別解消法等を障害者基本法とのつながりにおいて学習する。
【キーワード】	障害者雇用促進法や障害者虐待防止法、障害者差別解消法等
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。
【参考文献】	授業で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	保護者や利用者の目線で生活を想像しながら授業に参加してください。
11 . テ ー マ	障害者総合支援法に基づく支援サービスの実践
【学習の目標】	障害者総合支援法の概要を理解する。
【学習の内容】	障害者総合支援法に基づく支援サービス体系とその実際
【キーワード】	障害者総合支援法、支援サービス体系、放課後等デイサービス、日中介護、行動援護
【学習の課題】	上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。
【参考文献】	授業で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	保護者や利用者の目線で生活を想像しながら授業に参加してください。

1 2 . テ ー マ	医学・福祉の連携 ―誕生・発見から療育への接続―
	<p>【学習の目標】 誕生、障害の発見から治療、療育、地域の保育所への入園、受け入れまでの経過についてイメージをもつ。</p> <p>【学習の内容】 重症心身障害、知的障害、肢体不自由、知的障害のない発達障害など、それぞれに異なる発見の時期や気づきの経過、診断・告知から入園までの経過について</p> <p>【キーワード】 診断、告知、療育、リハビリテーション、理学療法、作業療法、言語療法、並行通園</p> <p>【学習の課題】 上記キーワードについて、教科書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。</p> <p>【参考文献】 小林他「保育者のための障害児療育」学術出版会、その他授業で配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 保護者や利用者の目線で生活を想像しながら授業に参加してください。</p>
1 3 . テ ー マ	福祉・教育の連携 ―特別支援教育・放課後等デイサービス―
	<p>【学習の目標】 特別支援教育の制度の概要を理解する。障害のある学童の放課後の生活についてイメージをもつ。</p> <p>【学習の内容】 特別支援教育の制度、特別支援教育コーディネーターの役割、放課後等デイサービスの実態、</p> <p>【キーワード】 特別支援教育、特別支援教育制度、特別支援教育コーディネーター、放課後等デイサービス</p> <p>【学習の課題】 上記キーワードについて、インターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。</p> <p>【参考文献】 小林他「保育者のための障害児療育」学術出版会、その他授業で配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】</p>
1 4 . テ ー マ	教育・福祉・労働の連携 ―就労支援と雇用・企業内教育―
	<p>【学習の目標】 障害のある人の学校卒業後の生活及び就労についてのイメージを持つ。</p> <p>【学習の内容】 教育から福祉・就労への移行における様々な支援活動について</p> <p>【キーワード】 個別的就労支援計画、個別の移行支援計画、ハローワーク、日中介護支援、特例子会社</p> <p>【学習の課題】 上記キーワードについて、インターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。</p> <p>【参考文献】 日本発達障害福祉連盟「発達障害白書 2017 年度版」明石書店、その他授業で配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 保護者や利用者の目線で生活を想像しながら授業に参加してください。</p>
1 5 . テ ー マ	強度行動障害に関連する福祉の実際
	<p>【学習の目標】 強度行動障害の実態や要因、地域生活や処遇について理解する。</p> <p>【学習の内容】 強度行動障害をめぐる施策、家族の状態、成人期の生活</p> <p>【キーワード】 強度行動障害、行動援護</p> <p>【学習の課題】 上記キーワードについて、インターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。</p> <p>【参考文献】 授業で配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 保護者や利用者の目線で生活を想像しながら授業に参加してください。</p>

1. 科目名 (単位数)	情報処理特論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5346
2. 授業担当教員	保原 伸弘			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	実証の観点にたつて修士論文として自らの見識をまとめるには、相応の統計学素養およびデータを扱う実力が必要となるが、本講義では、SPSS にそつて統計学の基礎を確認していくテキストを利用して、①統計学の理解を深めると同時に、②統計処理として有効なソフトである SPSS を使いこなせるようになること、③およびデータの適切な扱い方を習得しようとするものである。			
8. 学習目標	修士論文執筆に相応するデータ・マインドを備えるため、統計学の基礎と SPSS のソフトの使用技術を習得する。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート課題：講義中で学んだ統計的手法を使って、実際の社会現象、経済現象、社会福祉に関する問題を統計的に分析しなさい。アサシメントは毎回課す。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 石村貞夫・石村光資郎著『SPSS による統計処理の手順 (第 7 版)』東京図書出版 【参考書】 米川和雄・山崎貞政著『超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル-統計の基礎から多変量解析まで』北大路書房 刈屋武昭・勝浦正樹著『統計学 (第 2 版)』プログレッシブ経済学シリーズ 東洋経済新報社			
11. 成績評価の方法	評価方法はレポート、毎回の宿題による。 レポート 50%、宿題 50%			
12. 受講生への メッセージ	統計学の基礎はひとつずつ学べば必ず身につきます。粘り強く頑張りましょう。			
13. オフィスアワー	講義の初めに告知する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	データの型と適切な統計処理			
	【学習の目標】 データの型と SPSS へのデータ入力法の確認 【学習の内容】 データ入力が行えるようになること、データの分類を通じてデータ・マインドの土台を備えること。 【キーワード】 データ入力、データの分類 【学習の課題】 まずは SPSS にデータ入力が行えるようにする。 【参考文献】 テキスト第 1 章 【学習する上での留意点】 最初が肝心です。まずは入力法をしっかり学びます。			
2. テーマ	基礎統計量			
	【学習の目標】 基本的な記述統計量を学ぶと同時に、SPSS による導出の仕方を学習する。 【学習の内容】 基本的な統計量、SPSS によるその導出の仕方を学習する。 【キーワード】 平均、分散、標準偏差、標準化変量 【学習の課題】 基本的な記述統計量を有機的に理解する。SPSS を使ってそれらがスムーズに計算できるようにする。 【参考文献】 テキスト第 2 章、 【学習する上での留意点】 簡単な計算からはじまります。ひとつづ確実に理解してください。			
3. テーマ	正規分布と t 分布			
	【学習の目標】 統計学の重要な分布である正規分布と t 分布について学習する。 【学習の内容】 正規分布と t 分布の重要な性質について学習する。標準正規分布表、t 分布表といった統計表の扱い方を勉強する。 【キーワード】 正規分布、標準化、標準正規分布、t 分布、 【学習の課題】 正規分布と t 分布の重要な性質について学習する。標準正規分布表、t 分布表を確実に引けるようにする。 【参考文献】 刈屋武昭・勝浦正樹著 『統計学 (第 2 版)』第 9 章、第 11 章 【学習する上での留意点】 統計表を引く作業は原初的な作業ですが、統計学の基本です。しっかりおさえていきましょう。			
4. テーマ	標本抽出と区間推定			
	【学習の目標】 推測統計の入り口である標本抽出と区間推定について学習する。 【学習の内容】 標本抽出と区間推定について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも区間推定の計算ができるようにする。 【キーワード】 無作為標本抽出、点推定、区間推定、不偏性、有効性 【学習の課題】 標本抽出と区間推定についておよびその導出について理解する。 【参考文献】 テキスト第 2 章 【学習する上での留意点】 推測統計の入り口である標本抽出と区間推定についてしっかり理解する。			
5. テーマ	母平均、母比率、母分散の検定			
	【学習の目標】 推測統計の一つのヤマである種々の検定について学習する。 【学習の内容】 種々の検定について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定ができるようにする。 【キーワード】 統計的検定、母平均の検定、母比率の検定、母分散の検定			

	<p>【学習の課題】 種々の検定についての計算ができるようにする。</p> <p>【参考文献】 刈屋武昭・勝浦正樹著 『統計学（第2版）』第12章</p> <p>【学習する上での留意点】 推測統計の一つのヤマである標本抽出と区間推定についてしっかり理解する。</p>
6 . テーマ	二つの平均の差の検定、二つの母比率の差の検定
	<p>【学習の目標】 実際の計量の場合で重要になる、二つの平均の差の検定と二つの母比率の差の検定について学習する。</p> <p>【学習の内容】 二つの平均の差の検定と二つの母比率の差の検定について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。</p> <p>【キーワード】 二つの平均の差の検定、二つの母比率の差の検定、正規分布、t分布</p> <p>【学習の課題】 二つの平均の差の検定と二つの母比率の差の検定についておよびその検定法について学習する。</p> <p>【参考文献】 テキスト第2章、第17章</p> <p>【学習する上での留意点】 二つの平均の差の検定と二つの母比率の差の検定についてしっかり理解する。</p>
7 . テーマ	クロス集計表とカイ二乗検定
	<p>【学習の目標】 実際の計量の場合で重要になる、クロス集計表の作成とカイ二乗検定について学習する。</p> <p>【学習の内容】 実際の計量の場合で重要になる、クロス集計表の作成とカイ二乗検定について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。</p> <p>【キーワード】 クロス集計表、連関係数、カイ二乗値、カイ二乗分布表</p> <p>【学習の課題】 クロス集計表の作成とカイ二乗検定についておよびその検定法について学習する。</p> <p>【参考文献】 超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル第2章</p> <p>【学習する上での留意点】 クロス集計表の作成とカイ二乗検定についてしっかり理解する。</p>
8 . テーマ	適合度検定
	<p>【学習の目標】 実際の計量の場合で重要になる、適合度検定について学習する。</p> <p>【学習の内容】 実際の計量の場合で重要になる、適合度検定について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。</p> <p>【キーワード】 適合度検定、カイ二乗分布表</p> <p>【学習の課題】 適合度検定についてしっかり理解する。</p> <p>【参考文献】 テキスト第19章</p> <p>【学習する上での留意点】 適合度検定についてしっかり理解する。</p>
9 . .テーマ	一元配置の分散分析
	<p>【学習の目標】 実際の計量の場合で重要になる、一元配置の分散分析について学習する。</p> <p>【学習の内容】 実際の計量の場合で重要になる、一元配置の分散分析について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。</p> <p>【キーワード】 分散分析、F分布、F分布表</p> <p>【学習の課題】 分散分析についてしっかり理解する。</p> <p>【参考文献】 テキスト第6章</p> <p>【学習する上での留意点】 分散分析についてしっかり理解する。</p>
10 . テーマ	単回帰分析
	<p>【学習の目標】 実際の計量の場合で重要になる、単回帰分析について学習する。</p> <p>【学習の内容】 実際の計量の場合で重要になる、単回帰分析について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。</p> <p>【キーワード】 相関係数、最小二乗法、決定係数、t値</p> <p>【学習の課題】 回帰分析についてしっかり理解する。</p> <p>【参考文献】 テキスト第12章</p> <p>【学習する上での留意点】 回帰分析についてしっかり理解する。</p>
11 . テーマ	重回帰分析
	<p>【学習の目標】 実際の計量の場合で重要になる、重回帰分析について学習する。</p> <p>【学習の内容】 実際の計量の場合で重要になる、重回帰分析について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。</p> <p>【キーワード】 重回帰分析、F検定、自由度調整済み決定係数</p> <p>【学習の課題】 重回帰分析についてしっかり理解する。</p> <p>【参考文献】 テキスト第13章</p> <p>【学習する上での留意点】 重回帰分析についてしっかり理解する。</p>
12 . テーマ	因子分析
	<p>【学習の目標】 実際の計量の場合で重要になる、因子分析について学習する。</p> <p>【学習の内容】 実際の計量の場合で重要になる、因子分析について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。</p> <p>【キーワード】 因子分析、因果関係</p> <p>【学習の課題】 因子分析についてしっかり理解する。</p> <p>【参考文献】 テキスト第14章、第15章、超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル第6章</p> <p>【学習する上での留意点】 因子分析についてしっかり理解する。</p>
13 . テーマ	主成分分析と判別分析
	<p>【学習の目標】 実際の計量の場合で重要になる、主成分分析と判別分析について学習する。</p> <p>【学習の内容】 実際の計量の場合で重要になる、主成分分析と判別分析について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。</p>

【キーワード】	主成分分析、判別分析
【学習の課題】	主成分分析と判別分析についてしっかり理解する。
【参考文献】	テキスト第 14 章、第 15 章
【学習する上での留意点】	主成分分析と判別分析についてしっかり理解する。
14. テーマ	ウィルコクソンの順位和検定と符号付順位和検定
【学習の目標】	実際の計量の場合で重要になる、順位和検定と符号付順位和検定について学習する。
【学習の内容】	実際の計量の場合で重要になる、順位和検定と符号付順位和検定について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。
【キーワード】	順位和検定、符号付順位和検定
【学習の課題】	順位和検定と符号付順位和検定についてしっかり学習する。
【参考文献】	テキスト第 3 章、第 5 章
【学習する上での留意点】	順位和検定と符号付順位和検定についてしっかり学習する。
15. テーマ	二元配置分散分析
【学習の目標】	実際の計量の場合で重要になる、二元配置分散分析について学習する。
【学習の内容】	実際の計量の場合で重要になる、二元配置分散分析について学習する。統計ソフトを使わない手計算でも統計ソフトを使った計算でも、どちらでも検定の計算ができるようにする。
【キーワード】	二元配置分散分析
【学習の課題】	二元配置分散分析についてしっかり理解する。
【参考文献】	テキスト第 10 章、第 11 章
【学習する上での留意点】	二元配置分散分析についてしっかり理解する。

1. 科目名 (単位数)	スーパービジョン特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5319
2. 授業担当教員	洪 金子			
4. 授業形態	セミナー、ワークショップ、発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	<p>スーパービジョンは、社会福祉及び社会福祉援助技術を実践するとき、核心的な役割を担う。 スーパービジョン特論では、 第一、社会福祉士が急変する現代社会の中で専門職としてのアイデンティティを確保するため、 第二、クライアントの多様化するニーズを充足させる専門職者に期待されている効果性と効率性を持続的に維持するために求められるスーパービジョンの知識・技術・方法について講義する。 第三、理論的に学んだ社会福祉知識を実践現場で適用し、それから得た結果やフィードバックを受け入れ、新たな援助技術を開発して行く方法を探求する。</p>			
8. 学習目標	<p>社会福祉及び社会福祉援助技術におけるスーパービジョンの必要性について探求する。 社会福祉機関内でのスーパービジョンの位置、機能、過程について探求する。 スーパービジョンの社会福祉及び社会福祉援助技術への適用方法を探求する。 スーパービジョンに関する知識と技術を学び、習得し、スーパービジョン能力を発達させる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 2006 【参考文献】 NASW, Reference for Candidates for Admission to the Academy of Certified Social Workers, Washington, D. C: Academy of Certified Social Workers, National Association of Social Workers, Margaret Gibelman, Navigating Human Service Organizations, Lyceum Books, Inc, 2003</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への発表・ディスカッション・ロールプレイなど積極的な参加 40% 課題とレポート 40% スーパービジョンの適用能力、その他 20%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学院学則を遵守すること。</li> <li>○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するため努力すること。</li> <li>○ 学際的・国際的感覚を涵養すること。</li> <li>○ レポートの期限を厳守すること。</li> </ul>			
13. オフィスアワー	木曜：9：00～13：00			
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1 . テ ー マ	社会福祉及び社会福祉援助技術におけるスーパービジョンの本質と必要性			
	<p>【学習の目標】 社会福祉及び社会福祉援助技術でなぜスーパービジョンが必要であるかを論議する。 【学習の内容】 (1) スーパービジョンの必要性：スーパービジョンは専門的社会福祉士を養成するための必須的な過程であり、専門的社会福祉教育の統合的領域である。(社会福祉士の専門職としてのアイデンティティの確保、専門職者に期待されている効果性と効率性の持続的な維持、新たな援助技術を開発するため) (2) Case Work とスーパービジョン (3) Group Work とスーパービジョン (4) Community Work とスーパービジョン (5) スーパービジョンに関する文献 【キーワード】 社会福祉援助技術、スーパービジョン、効果性と効率性 【学習の課題】 社会福祉士の専門職としてのアイデンティティ 専門職者に期待される効果性と効率性 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 【学習する上での留意点】 スーパービジョンは間接サービスであり、スーパーバイザーとスーパーバイジーの間の相互作用の過程であることをはっきり認識すること。</p>			
2 . テ ー マ	スーパービジョンの発達と歴史			
	<p>【学習の目標】 スーパービジョンの発展してきた歴史についてわかる。 【学習の内容】 スーパーバイザーの前身と言われている COS の Paid agents 1911 年 Russell Sage Foundation Kadushin から現在に至るまでのスーパービジョンの発展に学問的に貢献してきた学者 【キーワード】 Paid agents、Russell Sage Foundation、Kadushin 【学習の課題】 スーパービジョンに関する学問的背景 【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992 【学習する上での留意点】 スーパービジョンの学問的・実践的蓄積について分り、自分も貢献できるように努力する。</p>			
3 . テ ー マ	スーパービジョンの概念			
	<p>【学習の目標】 スーパービジョンの概念についてわかる。 【学習の内容】 スーパービジョンの概念の構成要素(目標・機能・構造) スーパーバイザーとスーパーバイジーとの関係 【キーワード】 スーパービジョンの概念・目標・構造、スーパーバイザー・スーパーバイジー</p>			

	<p>【学習の課題】 スーパービジョンの概念</p> <p>【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992</p> <p>【学習する上での留意点】 スーパービジョンの行政的・教育的・支持的機能の統合性について理解すること。</p>
4 . テ ー マ	行政的スーパービジョンの概念と業務
	<p>【学習の目標】 行政的スーパービジョンができる。</p> <p>【学習の内容】 組織の特性とスーパービジョン 行政的スーパービジョンの業務(業務計画・割り当て・委任・調整・評価・コミュニケーション)</p> <p>【キーワード】 行政的スーパービジョン</p> <p>【学習の課題】 行政的スーパービジョンの概念 行政的スーパービジョンの業務</p> <p>【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992</p> <p>【学習する上での留意点】 業務の効率化のためのスーパービジョンの機能も大事であるが、人間サービスとして社会福祉の特性を忘れてはならないスーパービジョンであること。</p>
5 . テ ー マ	行政的スーパービジョンの事例への適用
	<p>【学習の目標】 行政的スーパービジョンを実践に適用できる。</p> <p>【学習の内容】 代理的責任の問題、権威と権力の問題、不服従と懲戒など行政的スーパービジョンの問題と関わる事例を通してスーパービジョンのあり方について理解する。 行政的スーパービジョンは組織官僚主義の必要に応じて行われると同時に、業務環境を構造化し、ワーカーが自分の業務を効果的に遂行できるよう資源を提供する。このとき求められるスーパーバイザーの管理的技術を探求する。</p> <p>【学習する上での留意点】 組織と機関と地域社会の意志を代弁できるスーパービジョンをすることによって、スーパーバイザーとしての権威を保つこと。</p>
6 . テ ー マ	教育的スーパービジョン
	<p>【学習の目標】 教育的スーパービジョンの概念、内容、過程と業務、教授—学習の原則と技法について探求する。</p> <p>【学習の内容】 教授—学習の原則(学習に関する動機付けの原則、最大限のエネルギー投入の原則、肯定的満足感提供の原則、学習過程参加の原則、学習内容の構成の原則、スーパーバイザーの独特性の考慮の原則) 教育的スーパービジョンの内容(自己覚知、自己学習)、 教育的スーパービジョンの過程(初期段階、中間段階、終結段階)、 教育的スーパービジョンの類型(経験的—実存的、課題中心的)、 Feedback の活用</p> <p>【キーワード】 教育的スーパービジョン</p> <p>【学習の課題】 教育的スーパービジョンの重要性、自己覚知</p> <p>【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992</p> <p>【学習する上での留意点】 教育的スーパービジョンは、ワーカーを教育することに焦点を置くため、スーパーバイザーとしての学生の参加が重要である。</p>
7 . テ ー マ	教育的スーパービジョンと事例への適用
	<p>【学習の目標】 教育的スーパービジョンを実践に適用できる。</p> <p>【学習の内容】 事例を通して教育的アセスメント、事例に関する経験を中心にディスカッション、学習内容と学習する必要があることに対する Feedback、最初のアセスメント内容の修正など、これらの過程を繰り返す。</p> <p>【キーワード】 スーパーバイザーとスーパーバイザーの関係、発達のスーパービジョン、臨床的社会福祉知識・技術・直接的な経験</p> <p>【学習する上での留意点】 事例に関する経験を中心にディスカッションに積極的に参加すること。</p>
8 . テ ー マ	支持的スーパービジョン
	<p>【学習の目標】 支持的スーパービジョンの理論的背景をわかり、支持的スーパービジョンが求められる状況について理解する。</p> <p>【学習の内容】 支持的スーパービジョン、職務ストレスとスーパービジョン自体からのストレス・職務満足、バーンアウト、ストレスの予防、スーパーバイザーの支持的資源(クライアント・同僚集団、社会的支持ネットワーク、スーパーバイザーの適応能力)</p> <p>【キーワード】 職務ストレス、スーパービジョンストレス、職務満足、バーンアウト、スーパーバイザーの支持的資源</p> <p>【学習の課題】 支持的スーパービジョンが求められる状況に関するディスカッション</p> <p>【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992</p> <p>【学習する上での留意点】 自己覚知の過程を通して効果的スーパービジョンを妨げるスーパーバイザーのゲームに気づく。</p>
9 . テ ー マ	支持的スーパービジョンの事例への適用
	<p>【学習の目標】 支持的スーパービジョンを実践に適用できる。</p> <p>【学習の内容】 バーンアウトの状況と乗り越える方法、ストレスの要因と解決方法</p> <p>【キーワード】 バーンアウト、ストレス、職務満足</p> <p>【学習の課題】 自己覚知</p> <p>【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992</p> <p>【学習する上での留意点】 ワーカーのバーンアウトはクライアントに対する非人間化の結果として表れるということを自覚する。</p>
10 . テ ー マ	スーパービジョンの評価
	<p>【学習の目標】 スーパービジョンにおける評価の必要性、評価方法についてわかる。</p> <p>【学習の内容】 行政的目標(ワーカーの過去の業務遂行の実績に関する評価)の評価と教授—学習過程としての評価(ワーカーの専門的成長と発達に焦点を置く)、評価の目標、評価の問題、評価の過程、評価の問題と望ましい評価方法</p> <p>【キーワード】 評価の価値、評価会議</p> <p>【学習の課題】 評価と適切な批判を通してスーパーバイザーの成長と変化が可能であることに気づく。</p>

<p>【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992</p> <p>【学習する上での留意点】スーパーバイザーの任務と課題は、機関・クライアント・スーパーバイザーなど誰にも均等に助けになることであって、いつも誰からも人気を維持することにあるのでない。そのためつねに責任性が問われるということがわかる。</p>	
11. テーマ	スーパービジョンの評価の実際
<p>【学習の目標】 実際、スーパービジョンの評価で求められることが何かについて論議する。</p> <p>【学習の内容】 評価の概要と指針、評価内容と領域、スーパーバイザーに対する評価、スーパーバイザーに対する評価</p> <p>【キーワード】 評価内容</p> <p>【学習の課題】 クライアントに対するワーカの態度に関して評価するときスーパービジョンの項目を作成する。</p> <p>【参考文献】 Alfred Kadushin, Supervision in Social Work, Columbia University Press, 1992</p> <p>【学習する上での留意点】 評価領域を多様に拡大し、適用してみる。</p>	
12. テーマ	スーパービジョンの実際－事例を通して
<p>【学習の目標】 対象者別事例を通してスーパービジョンの知識・技術・方法などを探求する。</p>	
13. テーマ	スーパービジョンの実際－事例を通して
<p>【学習の目標】 領域別事例を通してスーパービジョンの知識・技術・方法などを探求する。</p>	
14. テーマ	スーパービジョンの実際－ロールプレイを通して
<p>【学習の目標】 対象者別事例をもってロールプレイをしながらスーパービジョンの知識・技術・方法などを身につける。</p>	
15. テーマ	スーパービジョンの実際－ロールプレイを通して
<p>【学習の目標】 領域別事例をもってロールプレイをしながらスーパービジョンの知識・技術・方法などを身につける。</p>	

1. 科目名 (単位数)	精神科リハビリテーション特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5335
2. 授業担当教員	先崎 章			
4. 授業形態	講義、討論 (ゼミ形式)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	主に統合失調症を対象とする精神科リハビリテーションのあり方、エビデンスについて学び、日本における課題を検討していきます。リハビリテーションそのものに興味を持てるよう、様々な視点から毎回ごとに話題を変えて (切り口を変えて) 講義していきます。難しい局面を乗り越えるための、医療・福祉資源の利用方法、リハビリテーションのチームケアの取り組みについても検討していきます。また、他の障害 (身体障害、高齢認知症、若年認知症、高次脳機能障害) 者に対するリハビリテーションも紹介し、それらとの異同を学習することによって、精神科リハビリテーションの理解をさらに深めるようにしたいと思います。精神科リハビリテーションの内容は大きく、医学的なエビデンスに基づく分野と、施策・制度的な動向に左右される分野がありますが、そのどちらの分野も理解できるよう、講義、あるいはゼミを展開していきたいと思っております。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科リハビリテーション学の基本的な教科書の内容を十分に把握している。</li> <li>2. 精神科リハビリテーションの今の日本における動向、世界における動向を理解している。</li> <li>3. エビデンスに基づく視点や意見を持てるようになる。</li> <li>4. 自分の活動や思考が、精神科リハビリテーションのどの部分と関連するのか、自分の立ち振る舞いが利用者にどのような影響を与えるのかについて考察することができる。</li> </ol> (1. での基本的な教科書とは、学部生レベルのもの、すなわち、精神保健福祉士養成講座；中央法規、あるいは精神保健福祉士養成セミナー；へるす出版、レベルの書籍を想定しています。)			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> 特に指定をしない。毎回、参考資料を配布する。 <b>【参考文献】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉白書 2015 年版 精神保健福祉白書編集委員会編 (中央法規出版)</li> <li>2. 精神保健福祉白書 2014 年版 歩み始めた地域総合支援</li> <li>3. 精神保健福祉白書 2013 年版 障害者総合支援法の施行と障害者施策の行方</li> <li>4. 精神保健福祉白書 2012 年版 東日本大震災と新しい地域づくり</li> <li>5. 精神保健福祉白書 2011 年版 岐路に立つ精神保健医療—新たな構築をめざして</li> <li>6. 精神保健福祉白書 2010 年版 流動化する障害福祉施策</li> <li>7. 野中猛 著：こころの病 回復への道 岩波書籍 2012 年</li> </ol> 『新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療 第 2 版』中央法規			
11. 成績評価の方法	論文 1. 30% 論文 2. 30% 論文 3. 40%			
12. 受講生への メッセージ	<p>大学院生のみなさんは、社会人としての立場があると思います。職場では利用者の抱える問題に日々直面し、時間に追われ処理をしていかなければなりません。その中で、自身や自身の活動を客観的にあるいは大局的に振り返ることが難しくなり、自身の仕事内容に意義を見い出せなくなると、燃え尽きてしまいます。逆に、正しい知識と大局的な展望、そして志を育て合う仲間がいると、困難を乗り越えることができます。</p> <p>わたしは精神障害、知的障害、身体障害の三分野についての臨床医学を、公立病院で福祉分野との連携にこころを砕きながら修めてまいりました。精神障害については、精神科スーパー救急、有床総合病院精神科、精神科病院 (社会復帰部門、デイケア担当)、無床総合病院精神科、大学病院精神科、精神科クリニックと、あらゆる場面での関わり合いを経験してまいりました。また障害者の家族として、社会福祉のあり方や運用、社会復帰施設 (小規模作業所、グループホーム、支援センター) について、利用者の側から見つめてまいりました。</p> <p>現場で働きながら、論文を書いたり、勉強を続ける苦勞も知っているつもりです。教員としてはまだ駆け出しですが、精神障害者のリハビリテーションについて一緒に学んでいきましょう。</p> <p>どの分野でも肝要なことは、自分でエネルギーを注入するに値するテーマを見つけて、それについて資料を集めて考え、自分なりの切り口から現象をみつめ直し、論文を書くことです。論文を書かないと思考を他人に伝達できず、自己満足あるいは閉塞的な不満に終わってしまいます。今は忙しくて書けないということは、将来も忙しくて書けないということです。論文にしていこうということについても意欲を高めるような授業を心がけたいと思います。</p>			
13. オフィスアワー	伊勢崎キャンパス 木曜日 池袋キャンパス 当該授業の前後			
14	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	精神保健福祉白書から見えてくるもの この 5 年間どのような課題がとりあげられたか			
【学習の目標】	最近 5 年間の日本の精神保健福祉の流れを把握し、今後のリハビリテーションのあり方を探る			
【学習の内容】	社会福祉基本構造改革はどのように展開されていったか。障害者自立支援法から障害者総合支援法へ。現場でどのようなことが起きているか。5 疾病 5 事業の一つとしての精神疾患を加えた新たな「医療計画」も含めて、今後の展望はどのようなものか。			

	<p><b>【キーワード】</b> 障害者権利条約、アンチ・スティグマ活動、社会福祉基本構造改革、障害者総合支援法、社会保障議会障害者部会、障害程度区分、5 疾病 5 事業、総合病院精神科、自殺対策、医療観察法地域処遇</p> <p><b>【学習の課題】</b> 最近の精神保健福祉の流れはどのようになっているのか？今後どうなっていくのか？</p> <p><b>【参考文献】</b> 精神保健福祉白書 2015 年版 精神保健福祉白書編集委員会編（中央法規出版）                  精神保健福祉白書 2014 年版 歩み始めた地域総合支援                  精神保健福祉白書 2013 年版 障害者総合支援法の施行と障害者施策の行方                  精神保健福祉白書 2012 年版 東日本大震災と新しい地域づくり                  精神保健福祉白書 2011 年版 岐路に立つ精神保健医療—新たな構築をめざして                  精神保健福祉白書 2010 年版 流動化する障害福祉施策                  『新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療 第 2 版』中央法規</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 2013 年度より障害者自立支援法が、障害者総合支援法へ改められました。この 10 年、福祉や医療に誤った形での競争原理が持ち込まれた結果、スローガンや理念が飛び交う中で現場は疲弊し、当事者や家族の QOL はあまり良くなりならず、社会福祉基本構造改革の悪い面だけが目立つようになりました。そんな中で、障害者が市民の一員として、制約がある中でも幸せに生活していくために、これから関係者はどうすべきで、そのためには明日何を行うか、ということを考える素材を押さえておくことが必要です。本テーマの話題については、イデオロギーや立場の違いにより大きく意見が相違します。また、人間の幸せとはいったい何かという、個人の価値観に結びつく問題を抱えています。したがって、できるだけ客観的に、学問的に、データや科学的知見を交えて真の事実を学習していきたい分野です。</p>
<p>2 . テ ー マ</p>	<p>リハビリテーションの基本概念とその具体化</p> <p><b>【学習の目標】</b> リハビリテーションに共通する基本概念とその具体化について、精神科リハビリテーション、身体科リハビリテーションの概念や理念を学習することを通して考えてみる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 精神科リハビリテーション、身体科（肢体不自由者）リハビリテーションとで共通するもの、相違するものを抽出することによって、精神科リハビリテーションの理解を深める。</p> <p><b>【キーワード】</b> 復権、自立、自己決定、障害受容、価値の転換、している ADL、できる ADL、所得保障、障害と障がい、更生、療養</p> <p><b>【学習の課題】</b> 精神科リハビリテーションと身体科（肢体不自由者）リハビリテーションとで共通するものはなにか？</p> <p><b>【参考文献】</b> 上田敏「リハビリテーションを考える 障害者の全人間的復権」障害者問題双書(1983)</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 疾病や障害をもつ者のリハビリテーションの考えや方法は、精神障害、身体障害、知的障害とでは当然ながら相違点があります。その一方で共通した理念があります。それらの理解は、精神科リハビリテーション以外の領域の専門職種の思考や行動を理解することにもつながります。</p>
<p>3 . テ ー マ</p>	<p>精神科リハビリテーション学や臨床心理学の考え方や技法を、身体科リハビリテーションや各人の日常生活に応用してみる</p> <p><b>【学習の目標】</b> 精神科リハビリテーション学の原則や臨床心理学の人間の捉え方を、広く他の分野に応用してみる</p> <p><b>【学習の内容】</b> アンソニーの基本原則、包括的リハビリテーション、様々な心理学的事象（下記キーワード参照）の背景と現象を復習した上で、精神科領域以外の分野や自身の生活への応用を考えてみる。</p> <p><b>【キーワード】</b> 包括的リハビリテーション、アドヒアランス、EBM、コーチング、障害適応、社会受容、転移、逆転移、操作、拒絶、人格障害、転換性障害、解離性障害、自殺未遂、うつ、コーピング、SST</p> <p><b>【学習の課題】</b> リハビリテーションの理念や原則、手法に、人間のどのような弱さや強さをみてとることができるでしょうか？</p> <p><b>【参考文献】</b> 先崎章：「精神医学・心理学的対応リハビリテーション」医歯薬出版、2011                  「連載 リハビリテーション心理学・社会学 update」臨床リハビリテーション                  (Journal of Clinical Rehabilitation) 2009 年 5 月号～2010 年 4 月号</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 将来、精神科リハビリテーションとは無関係な分野に進むとしても、リハビリテーションを学ぶことは決して無駄にはなりません。精神科リハビリテーションや心理学の考え方や手法を、自身の日常生活や他の分野にどのように応用できるか一緒に考えてみましょう。</p>
<p>4 . テ ー マ</p>	<p>スレッシュホールズ・プログラムから学ぶもの（その 1 理念と原則）</p> <p><b>【学習の目標】</b> 精神障害リハビリテーションの基本原則、精神障害の生物学的根拠、リハビリテーション関係について理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> シカゴにおける精神障害者に対するリハビリテーション活動（スレッシュホールズ・プログラム）を一つの素材として、精神科リハビリテーションの原則、スタッフの役割、プログラム等について学習する。日本における精神科リハビリテーションの課題について比較検討する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 包括、希望、自尊心、所属感、コントロール感覚、実用主義、成功体験、依存、服薬遵守、共感、信頼、愛着</p> <p><b>【学習の課題】</b> スレッシュホールズ・プログラムにおける、精神障害リハビリテーションの 3 つの構成要素とは？</p> <p><b>【参考文献】</b> 日本精神保健福祉士協会（監修）、ジェリー・ディンシン（編集）、木村真理子（監訳）                  :「スレッシュホールズ・プログラム—精神障害リハビリテーションをどう展開するか」へるす出版、2002.11</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> スレッシュホールズ (Thresholds) とは、出発点、その点を越えると何かが生じる境界点を意味します。活動をまとめた訳本は出版され 8 年を経っていますが、未だにこれ以上の簡潔で明確な実践書を見つかることができません。その心理社会的リハビリテーションの理念やプログラムを学ぶことは、みなさんの実践に役立つはずで</p>
<p>5 . テ ー マ</p>	<p>スレッシュホールズ・プログラムから学ぶもの（その 2 具体的なプログラム）</p> <p><b>【学習の目標】</b> スレッシュホールズ・プログラムにおける中心的プログラム、特殊なグループのための専門プログラム、プログラム評価と調査、現在の課題について理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> プログラム等についてさらに学習し、日本における精神科リハビリテーションでの実践について考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 入院予防、服薬遵守、金銭管理、危機対応、就労準備プログラム、職業紹介、保護された作業所、グループホーム、サポート付き住居、地域の反対、クラブハウス、社会化活動、マザープロジェクト、ヤングアダルト、難聴、ホームレス、薬物乱用、高齢者</p>

<p><b>【学習の課題】</b> スレッシュホールズの6つの目標とは？特殊なグループとは？</p> <p><b>【参考文献】</b> 日本精神保健福祉士協会（監修）、ジェリー・ディンシン（編集）、木村真理子（監訳） ：「スレッシュホールズ・プログラムー精神障害リハビリテーションをどう展開するか」へるす出版、2002.11</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> スレッシュホールズ・プログラムは理念と活動だけで成り立ってきたのではなく、目標の達成度について長年にわたり評価と調査が実施されて、常にプログラムの検証がなされてきました。なにごと、活動にはふりかえりと修正が必要なことを学んでほしいと思います。</p>	
6 . テ ー マ	自殺とリハビリテーション
<p><b>【学習の目標】</b> 精神科リハビリテーションにおける自殺の問題について理解する。あわせて自殺未遂によりさらなる障害（多発骨折による身体障害、脳挫傷による高次脳機能障害など）を受けた統合失調症者への対応のあり方について考える。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 統合失調症者のリハビリテーション過程における自殺の様相について文献や症例を通して学習する。さらに自殺未遂後の対応やリハビリテーションについて考えてみる。</p> <p><b>【キーワード】</b> ストレス、リハビリテーション過程、回復、リカバリー、抑うつ、孤独、無価値感、怒り、心理的視野狭窄</p> <p><b>【学習の課題】</b> 統合失調症者の自殺を予防するためには、リハビリテーション関係者としてはどんなことに注意すべきか？</p> <p><b>【参考文献】</b> 野中猛：統合失調症のリハビリテーション・プロセスと自殺。精神障害とリハビリテーション 13(2):131-136,2009 山口大樹、他：統合失調症における自殺行動とその予防に関する臨床的研究。社会精神医学 18(1):34-51,2009 先崎章：「精神医学・心理学的対応リハビリテーション」医歯薬出版、2011</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 自殺の予防、あるいは自殺未遂者への対応は、医療保健福祉従事者やリハビリテーション関係者にとって避けて通ることのできない課題です。</p>	
7 . テ ー マ	精神評価尺度、心理評価について
<p><b>【学習の目標】</b> 精神障害や心理的困難を抱える人、あるいは身体障害者のリハビリテーションにおける心理的評価の実際について学ぶ。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 精神科リハビリテーション、身体科リハビリテーションにおける精神面、心理面の評価に、どの尺度を用いてどのようなことを見てとるべきなのか。また、その限界について理解する。（限界を考えるために、あえて社会生活評価尺度；REHAB、LASMI や、職業能力評価尺度；幕張式ワークサンプル法、厚生労働省編一般職業適性検査、は今回の講義の中心にはしない）</p> <p><b>【キーワード】</b> GAF、BPRS、PANSS、Beck depression inventory、Zung SDS、Geriatric depression scale、STAI、POMS、SCI、コーピング、障害適応、うつ、不安、精神症状評価、自我態度、陽性症状、陰性症状</p> <p><b>【学習の課題】</b> 精神評価尺度、心理評価によってみえてくるものは何か？逆に、みえなくなってしまうものはなにか？</p> <p><b>【参考文献】</b> 心理臨床大辞典改訂版 培風館</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 介入を行う際、あるいはケースマネジメントをする際には、その前後の評価が不可欠です。その評価についての尺度と考え方を学びます。評価は、よりよい介入を行うための、当事者を理解するための道具としてあることを忘れないように。</p>	
8 . テ ー マ	高齢者の精神機能と特性 精神科・身体科リハビリテーションにあたっての高齢者の精神機能の特性をつかむ
<p><b>【学習の目標】</b> リハビリテーション分野で比率が増えている高齢者の精神機能の特性について理解し、より良い対応について考える。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 健康高齢者の精神機能の特徴、認知症の類型と対応（最近の医学的知見も交えて）、高齢者にみられる精神疾患、統合失調症者が高齢になるとどうなるかについて学びます。</p> <p><b>【キーワード】</b> 生活記憶、展望記憶、記憶力障害、軽度認知障害、アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前側頭型認知症、脳血管障害、せん妄、喪失体験、うつ病、老年期精神障害、回想法</p> <p><b>【学習の課題】</b> 健康老人と認知症老人の違いは何か？</p> <p><b>【参考文献】</b> 専門医をめざす人の精神医学 第2版 医学書院 米国精神医学会治療ガイドライン コンパニオン 医学書院(2006) 先崎章：高齢者のうつと認知症。臨床リハビリテーション 18:229-238,2009</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 高齢者の福祉政策は大きな転換的を迎えています。また、精神科リハビリテーション、身体科リハビリテーションともに高齢者の割合が増えています。精神科リハビリテーションにて認知症合併者を取り扱うことも増えています。高齢者の精神機能や認知症についての、正しい理解や考えが求められています。</p>	
9 . テ ー マ	ICF と精神症状 低酸素脳症、統合失調症を例に
<p><b>【学習の目標】</b> ICF の理念、目的、使用方法について学習する。精神科リハビリテーション場面での活用について考える。評価尺度としてではなく、個人的要因と環境的要因との相互作用を効果的に活用することに ICF の意義があることを理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> ICF を、ICIDH と対比しながら、構造と意義について学習する。実際の症例を ICF で評価してみる。</p> <p><b>【キーワード】</b> 国際障害分類（ICIDH）、機能障害、能力障害、社会的不利、心身機能・身体構造（障害）、活動（制限）、参加（制約）、肯定的（否定的）側面、背景因子（環境因子、個人因子）、全般的精神機能、共通言語、チェックリスト、ICF 関連図、ICF コアセット</p> <p><b>【学習の課題】</b> ICF を実際の現場で使用するためには、どのような工夫や作業が必要でしょうか？</p> <p><b>【参考文献】</b> 日本理学療法士協会 HP ICF イラストライブラリ (<a href="http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/05-data/icf_jpn/index.html">http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/05-data/icf_jpn/index.html</a>) 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 世界保健機関（WHO）編著 「ICF 活用の試み 障害のある子どもの支援を中心に」 ジアース教育新社(2005) 先崎章：ICF とリハビリテーション ー臨床医の立場から。臨床リハ 21: 972-976, 2012 先崎章：ICF を臨床に活用する 目にみえない障害、脳外傷と低酸素脳症。臨床リハ 21: 1118-1126, 2012 先崎章：脳外傷コアセット（簡易版）活用による家族理解と支援の試み。臨床リハ 22: 86-91, 2013</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 教科書や授業では ICF が随所で登場しますが、実際の医療の現場で ICF を使用していることはまだ少ないです。これは ICF が、障害ではなく、健康についての概念的枠組みから成り立っているからという事情があります。しかし、健康と健康関連状況を記述するための統一的、標準的な共通語としての役割</p>	

	が、あらゆる分野で期待されています。今後、医療やリハビリテーションの現場でも、ICF の考え方を取り入れる流れになっていくことでしょう。
10. テーマ	各国の精神科医療福祉について
【学習の目標】	最近の各国の精神科医療福祉について学び、あらためて日本の現状をみとめる。
【学習の内容】	精神障害とリハビリテーション第 13 巻 1 号の特集「精神障害リハビリテーションの国際動向と課題：わが国の実践基準と指針のために」の 8 論文をもとに諸外国（米国、英国、カナダ、イタリア、オーストラリア、韓国、スウェーデン、ニュージーランド）の現在のリハビリテーションの動向を学ぶ。
【キーワード】	ACT、EBP ツールキット、援助つき教育、ピアスペシャリスト、プライマリーケアトラスト、CPA(ケアプログラムアプローチ)、早期介入、ゲートキーパー、C/SDI (当事者主導事業)、脱施設化、リカバリー、患者から市民へ
【学習の課題】	日本で行える（行っている）活動が諸外国でどのように展開されているのか？
【参考文献】	精神障害とリハビリテーション第 13 巻 1 号（2009 年 6 月発行 通巻第 25 号）
【学習する上での留意点】	諸外国から輸入される新しい用語を使用するときには、その背景や理念を知っておく必要があります。
11. テーマ	わが国の状況に則したリハビリテーション技術の修正
【学習の目標】	脱施設化をすすめた先進諸国からのリハビリテーションの思想や技術を、どのように修正して日本の社会で現実的に展開してきたか、展開していくか学ぶ
【学習の内容】	精神障害とリハビリテーション第 12 巻 2 号の特集「わが国の状況に応じた精神障害リハビリテーション技術の修正」7 論文をもとに、SST、就労支援、デイケア、ケアマネジメント、ソーシャルサポートネットワークが、日本の事情に合わせて、どのように修正されて行われているか学ぶ。日本での限界や可能性についても考える。
【キーワード】	包括的リハビリテーション、ACT、特別支援教育、就労と雇用、権利回復、ライフキャリア、アウトリーチ、リカバリー、エンパワメント、ストレングスモデル、セルフヘルプ支援センター、ネットワーキング
【学習の課題】	精神科リハビリテーションを行っていく上で意識せざるをえない、日本の文化や社会規範、価値観や思想はどのようなものか？
【参考文献】	精神障害とリハビリテーション第 12 巻 2 号（2008 年 11 月発行 通巻第 24 号）
【学習する上での留意点】	リハビリテーションは生活や人生を主題とします。したがって、意識することなくすでに社会文化的な事柄の上に成り立っています。日本への取り入れのために技術を修正することは、日本人の文化や社会、価値観や思想を意識することなしには行えません。
12. テーマ	米国精神医学会治療ガイドライン・コンペンディウムにみる精神科リハビリテーションのエビデンス
【学習の目標】	米国における統合失調症の治療・介入の標準とその根拠を理解する。
【学習の内容】	米国精神医学会治療ガイドライン・統合失調症（第 2 版）の中から、社会精神医学関連の項目（下記、キーワード）を抽出し学習する。
【キーワード】	心理社会的療法、家族療法、援助付き雇用、包括的地域生活支援プログラム（PACT）、技能訓練、認知行動療法、服薬アドヒアランス、ピアサポート、自助グループ、ホームレス、長期入院、危機介入同居プログラム、デイホスピタル、患者教育、ケースマネジメント
【学習の課題】	精神科リハビリテーションで使用されている手法や治療の効果を実証するために、どのような方法を用いてエビデンスの土俵にのせているのか？
【参考文献】	米国精神医学会治療ガイドライン・コンペンディウム 医学書(2006)
【学習する上での留意点】	治療ガイドラインは客観性と再現性を持つものでなければなりません。したがって、それぞれの治療指針一つ一つに膨大な論文による裏づけがなされています。例えば、統合失調症のガイドラインは 1391 本の論文に支えられています。2006 年に翻訳出版ということで最新の内容は含まれていませんが、過去の基本的な論文はすべて網羅されています。今回はその論文一つ一つにあたることはできませんが、治療指針というものが、どのような作業によって作成されているものなのか、についても学んでほしいと思います。
13. テーマ	精神科リハビリテーション領域の研究手法について
【学習の目標】	精神科リハビリテーションの研究にはどのような手法があるのか理解し、自分や仲間のテーマを追求するためにはどの方法が適しているのか考える。
【学習の内容】	精神障害とリハビリテーション第 10 巻 1 号の特集「精神障害リハビリテーションにかかわる私の研究方法論」8 職種 15 論文をもとに、各職種（医師、PSW、作業療法士、保健学、看護、保健師、心理士、職リハ）別に、研究の発想と研究方法、そしてその姿勢を学ぶ。
【キーワード】	エビデンス志向、無作為対照実験、実証研究、事例研究、社会科学研究、ソーシャルワーク実践、役割研究、リカバリー、ステイグマ、追跡調査、治療効果研究、チェックリスト、量的研究、質的研究、参加観察、聞き取り、インタビュー、ナラティブ・アプローチ、ストレングス・モデル
【学習の課題】	精神科リハビリテーションの研究にはどのような手法があるのか？自分の視点はどの研究と親和性があるのか？
【参考文献】	精神障害とリハビリテーション第 10 巻 1 号（2006 年 6 月発行 通巻第 19 号）
【学習する上での留意点】	精神科リハビリテーションは実学であり応用科学であり、学際的な分野です。目下の事例を通じた実践を理論化する研究から、純然たる無作為比較試験を用いた研究まで様々です。自分が所属している職種からみた精神科リハビリテーションは、その職種による限界や制約、逆に、強みや独自性があることを知ることでしょう。自分の立ち位置を確認する作業にもなります。
14. テーマ	認知リハビリテーションと統合失調症
【学習の目標】	昨今、統合失調症者やそのリスクを持つ若者への早期介入と包括的支援がトピックになっている。支援の一つとして、グループで適切な認知機能訓練を行うことが、本人のストレス耐性やエンパワメントを高めることにつながるということがわかってきた。また行政上は精神障害区分とされる高次脳機能障害について、統合失調症者に対する精神科リハビリテーションの手法や考えを応用できる。脳器質疾患による高次脳機能障害者に対するリハビリテーションの手法の共通点・相違点を明らかにすることによって、精神科リハビリテーションや認知機能障害の理解を深める。

	<p>統合失調症者への認知リハビリテーションの適応についても考えてみる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 高次脳機能障害とは何か、脳損傷による高次脳機能障害のリハビリテーション、統合失調症の認知機能障害（高次脳機能障害）、認知リハビリテーションが高めるもの、について学習する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 脳外傷、低酸素脳症、脳卒中、高次脳機能障害、注意障害、実行機能障害、記憶障害、集団療法、治療的環境</p> <p><b>【学習の課題】</b> 認知リハビリテーションは、単なる認知訓練とどのようなところが違うのでしょうか？統合失調症と、脳器質疾患による高次脳機能障害とではどのような対応の違いがあるのでしょうか？</p> <p><b>【参考文献】</b> 先崎章「高次脳機能障害 精神医学・心理学的対応ポケットマニュアル」医歯薬出版(2009)</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 統合失調症者にも「物についての障害」として、認知機能障害があることが知られています。また、保健福祉制度上は、高次脳機能障害も精神障害の範疇に分類されています。</p>
15. テーマ	<p>病院における精神科リハビリテーションのあり方 ー精神科病院での精神科リハビリテーションの取り組みの歴史をたどる</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> ある一つの精神科病院を拠点とする、地域に根ざした精神科リハビリテーションの歴史と思想について触れ、各人がフィールドで活躍する際に役立つ考え方を抽出する。精神衛生法から精神保健（福祉）法、さらには障害者自立支援法から障害者総合支援法へ変遷していくなかで、現場でどのようなことが起きてきたか、おきているのか。5 疾病 5 事業の一つとしての精神疾患を加えた新たな「医療計画」の中で、今後の精神科病院医療の展望はどのようなものか。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 精神保健法の制定にはじまり、障害者自立支援法の廃止をマニフェストに掲げた政党が第一党になるまで 22 年間。この間、精神科治療や精神科リハビリテーションに関連する福祉制度は大きく変化しました。その変遷や現場で起ったことを、一つの精神科病院の経営者が著した著作をもとに辿っていきます。そして自立支援法から</p> <p><b>【キーワード】</b> 世界精神保健連盟（WFMH）1993 年幕張大会、生活訓練施設、地域生活支援センター、Anthony、精神科救急、デイケア、デイ・ナイトケア、隔離・拘束、アンチ・スティグマ活動、アアウトリーチ、ACT、コミュニティ・ケア</p> <p><b>【学習の課題】</b> 教科書に書かれている精神科リハビリテーションの理念を、コスト意識が必要な私立精神科病院にて、どのようにして実現していったのか？あるいは実現しようと努力していたのか？</p> <p><b>【参考文献】</b> 浅井邦彦「脳と心の調和に向けて、新しい精神医療と福祉」哲学書房(2004) 浅井邦彦「スティグマと差別を超えて、脱施設化と地域ケア」哲学書房(2004)</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 精神科リハビリテーションの理念を、コスト意識が必要な私立精神科病院にて、どのようにして展開していったのか、あるいは展開しようと努力していたのか。このことについて知ることは、理想と現実のギャップに悩む現場に勇気を与えてくれるはずです。</p>

1. 科目名 (単位数)	精神保健学特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5331
2. 授業担当教員	先崎 章			
4. 授業形態	講義、討議 (ゼミ形式)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	精神保健対策におけるシステムと課題について、精神保健活動の実際と精神保健に関する調査研究をふまえて、分析・考察していく。精神保健活動を地域保健活動の一分野としてとらえ、精神保健福祉活動と現行の精神保健福祉施策について学んでいく。 さらに、ライフステージにおける精神保健の課題と対策について学ぶとともに、専門職としての知識、技術を身につける。			
8. 学習目標	1. ライフステージにおける精神保健の課題を理解する。 2. 現代の精神保健の現状と問題点を理解する。 3. 福祉職として必要な精神保健学の知識を身に付ける。 4. 心理学、精神医学、公衆衛生学、社会学の関連領域について理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマをいくつか提示するので、資料や文献、参考図書 (事前にプリント等を配布) を使い講義内で発表する。シラバス「15 学習の展開及び内容」の各テーマを参照のこと。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特に指定をしない。毎回、参考資料を配布する。 【参考文献】 1. 精神保健福祉白書 2015 年版 精神保健福祉白書編集委員会編 (中央法規出版) 2. 精神保健福祉白書 2014 年版 歩み始めた地域総合支援 3. 精神保健福祉白書 2013 年版 障害者総合支援法の施行と障害者施策の行方 4. 精神保健福祉白書 2012 年版 東日本大震災と新しい地域づくり 5. 精神保健福祉白書 2011 年版 岐路に立つ精神保健医療—新たな構築をめざして 6. 精神保健福祉白書 2010 年版 流動化する障害福祉施策 『新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療 第 2 版』中央法規 など。講義中に次回の参考資料・文献について提示する。			
11. 成績評価の方法	論文 1. 30% 論文 2. 30% 論文 3. 40%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 身近に体験するあらゆる事柄が精神保健学に結びつきます。 2. 人間の営みに対する新しい視点が、精神保健学を学習することで育ちます。 3. 授業を通して、精神保健に対する自分の考えや問題意識を持って欲しい。			
13. オフィスアワー	伊勢崎キャンパス 木曜日 池袋キャンパス 当該授業の前後			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	精神保健とは何か			
	【学習の目標】精神保健の基本概念を学ぶ。 【学習の内容】WHO の健康に対する定義を学習する。隣接領域との差異について検討する。 【キーワード】精神疾患、精神障害、保健、精神保健福祉対策、障害者総合支援法、5 疾病 5 事業の医療計画 【学習の課題】精神保健の意味を理解し、我が国の精神保健福祉施策について体系的に学ぶ。 【学習する上での留意点】自分なりの考え方や立ち位置を明確にする。			
2. テーマ	ライフサイクルにおける精神保健 その 1			
	【学習の目標】胎児期から学童期までの精神保健について学ぶ。 【学習の内容】胎児期および乳児期の精神保健について、母体の精神衛生も含めて学ぶ。 エリクソンの発達課題を通して、乳幼児期および学童期の精神保健について学ぶ。 【キーワード】胎児に関わる有害因子、産褥期の母体の精神衛生、エリクソンの発達課題、基本的信頼、自立性 【学習の課題】母体の精神保健について理解する。 また、エリクソンの発達課題における、乳児期、幼児期、学童期の課題について理解を深める。 【学習する上での留意点】自分のライフサイクルについても考えながら課題に取り組む			
3. テーマ	ライフサイクルにおける精神保健 その 2			
	【学習の目標】思春期・青年期から老年期までの精神保健について学ぶ。 【学習の内容】エリクソンの発達課題を通して、思春期・青年期、成人期、中年期、老年期それぞれの精神保健について学ぶ。 【キーワード】自我同一性の確立、親密さの経験、同一性の見直し、別離と孤独 【学習の課題】各発達時期における、精神的課題と危機について学ぶ 【学習する上での留意点】自分のライフサイクルについても考えながら課題に取り組む			
4. テーマ	日本における精神障害者対策の歴史			
	【学習の目標】日本における精神障害者対策の基本制度の変遷について学ぶ。 【学習の内容】精神病患者監護法から現在の精神保健福祉法への変遷について理解する。 【キーワード】座敷牢、精神衛生法、精神保健福祉法、障害者自立支援法、障害者総合支援法、5 疾病 5 事業の医療計画 【学習の課題】日本の精神障害者支援対策の変遷を学び、現在の精神保健福祉法の問題点を理解する。			

【学習する上での留意点】現在の精神障害者政策の現状を理解する	
5 . テ ー マ	認知症対策の現状
【学習の目標】日本における認知症対策について学ぶ。 【学習の内容】認知症の基本的理解と、日本における認知症対策の現状について学ぶ。 【キーワード】認知症の種類、MCI、行動・心理学的症状（BPSD）、介護保険制度、成年後見制度 【学習の課題】認知症の種類やその症状の基本について学ぶ。日本における認知症対策の現状について理解する。	
6 . テ ー マ	統合失調症対策の現状
【学習の目標】日本における統合失調症対策について学ぶ。 【学習の内容】統合失調症の基本的な症状と治療について学ぶ。 精神障害者が利用可能な社会制度やリハビリテーションについて理解する。 【キーワード】陽性症状、陰性症状、認知障害、精神科リハビリテーション、障害年金、障害者総合支援法 【学習の課題】統合失調症の理解と社会復帰のあり方について学ぶ。	
7 . テ ー マ	アルコール依存および薬物依存対策について
【学習の目標】物質依存について理解し、その対策について学ぶ。 【学習の内容】アルコール依存症、薬物依存症の症状および治療の基本について学ぶ。 アルコール依存症および薬物依存症の対策の基本を理解する。 【キーワード】否認、身体依存、精神依存、AA、ダルク 【学習の課題】アルコールや薬物の身体への影響を理解し、アルコール依存症および薬物依存症対策の現状について学ぶ。	
8 . テ ー マ	思春期の精神保健対策について
【学習の目標】思春期の精神保健対策について学ぶ。 【学習の内容】思春期の精神保健上の問題点、学校での対策、学校外での対策について学ぶ。 【キーワード】いじめ、不登校、スクールカウンセラー、メンタルフレンド制度、思春期外来 【学習の課題】日本における思春期の精神保健上の問題点について理解し、その対策について学ぶ。	
9 . テ ー マ	精神障害者対策の現状
【学習の目標】日本における現在の精神障害者対策について学ぶ。 【学習の内容】精神障害者対策としての精神保健医療福祉改革ビジョンの現状について学ぶ。医療観察法について理解する。 【キーワード】地域移行支援特別対策、医療観察法、障害者総合支援法、5 疾病 5 事業の医療計画 【学習の課題】日本の精神障害者対策の現状、医療政策の基本について理解する。 医療観察法（司法精神保健福祉対策）について学ぶ。	
10 . テ ー マ	発達障害者や高次脳機能障害者対策について
【学習の目標】日本における発達障害者や高次脳機能障害者への対策について学ぶ 【学習の内容】発達障害や高次脳機能障害の症状と対応について学ぶ。それらをふまえた上で、その対策の歴史と現状について学ぶ。 【キーワード】高機能自閉症、発達障害者支援法、高次脳機能障害、認知リハビリテーション、支援コーディネーター 【学習の課題】発達障害、高次脳機能障害の特徴、支援の在り方、現状の資源をどう利用するかについて学ぶ。	
11 . テ ー マ	自殺予防対策について
【学習の目標】日本の自殺の現状とその予防対策について学ぶ。 【学習の内容】日本の自殺の現状、うつ病・うつ状態について理解し、その対策の現状について学ぶ。 【キーワード】うつ病、自殺予防対策、いのちの電話、5 疾病 5 事業の医療計画 【学習の課題】日本の自殺の現状、自殺がもたらす影響、うつ病・うつ状態について理解し、自殺予防対策について学ぶ。	
12 . テ ー マ	職場における精神保健活動
【学習の目標】日本の企業における精神保健の現状について学ぶ。 【学習の内容】日本の企業における精神保健の現状と問題点、およびその対策について学ぶ。 【キーワード】労働安全衛生法、心の健康づくり計画、EAP 【学習の課題】日本の企業における精神保健の現状について、労働衛生法や政府の政策をふまえて学ぶ。	
13 . テ ー マ	ICFを精神保健分野で利用する
【学習の目標】ICFを精神保健分野、医学分野で使用する 【学習の内容】ICFやICFコアセット（脳外傷、精神疾患など）の考案過程、現状について学ぶ。 【キーワード】ICFコアセット、生活障害、活動と参加、環境因子、個人因子 【学習の課題】疾病がもたらす活動や参加の制限、あるいは促進について分析する。 個人因子や環境因子との結びつきについて理解する、	
14 . テ ー マ	諸外国における精神保健福祉
【学習の目標】諸外国における精神保健福祉について理解する。 【学習の内容】欧米を中心とした精神保健福祉の歴史と現状について学ぶ。 【キーワード】EAP、入院期間、地域ケア体制 【学習の課題】米国、イギリス、フランス、北欧などの先進諸国の精神保健福祉。 【学習する上での留意点】自分の意見を述べるよう心がける。	
15 . テ ー マ	精神保健政策の現状と課題
【学習の目標】日本の精神保健政策の現状と課題について、他の先進国との比較で学ぶ 【学習の内容】諸外国での精神保健政策の変遷について学び、日本と比較し、日本の精神保健政策の課題について学習する。 【キーワード】脱施設化、地域精神保健センター法、積極型地域援助プログラム 【学習の課題】欧米における精神保健政策の変遷について学び、日本の精神保健政策の現状と課題について理解を深める。	

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助技術総論特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5333
2. 授業担当教員	長谷川 行雄			
4. 授業形態	講義、討論、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	精神保健医療福祉をめぐる現状は、入院や入所生活から地域への移行支援を経て、地域生活を維持するための支援へと変化している。また、対象も精神疾患を患っている精神障害者から、社会的引きこもりや不登校などの社会的な課題をかかえる人たちまで多様化してきている。そのためにこの講義では『精神保健医療福祉』に関する現状や諸課題を幅広く学習する。			
8. 学習目標	我が国における精神保健医療福祉の現状と施策、課題について幅広く学ぶ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	通学課程学生は毎回授業前に教科書を読み、その内容をまとめてくること。 通信教育課程学生は講義のテーマにそってレポートを提出してほしい。 通信教育課程学生はレポート提出に際して、参考文献もよく読み、学部の学生が作成するレポートより内容の深いレポートの作成を心掛けてほしい。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 精神医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書 2016』中央法規出版、 【参考書】 ① 自殺対策白書 ② 四訂精神保健福祉法詳解 精神保健福祉研究会編 中央法規出版 2016 年 ③ よくわかる障害者総合支援法 坂本洋一著 中央法規出版 2013 年 ④ 我が国の精神保健福祉 24 年版 太陽美術出版			
11. 成績評価の方法	第1レポート1：25%、第2レポート：25%、第3レポート：25%、単位認定試験：25% (通学・通信共通)			
12. 受講生への メッセージ	授業では学生の主体的な参加が求められる。参考書や関連する文献を読み、広い知識を得てほしい。 なお、通学の場合には基礎学力によってシラバスを変更することがある。			
13. オフィスアワー	木曜日：12時から15時			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～2.テーマ	総括 p11～p14			
【学習の目標】	我が国における近年の精神保健医療福祉の変遷を学ぶ			
【学習の内容】	近年の精神保健医療福祉における審議会報告、法律の改定、政策の転換を把握する			
【キーワード】	病院から地域へ、医療保護入院、地域生活支援			
【学習の課題】	近年の精神障害者をめぐる審議会報告、制度、法律の変化が、我が国の精神保健医療政策の変化へどのように反映されているのかを考察する			
【参考文献】	教科書、参考書、教材、関連書物を参照			
【学習する上での留意点】	教科書をよく読み、不明点を調べること			
3～4.テーマ	メンタルヘルス —自殺対策—			
【学習の目標】	我が国における自殺の現状とその対策を学ぶ			
【学習の内容】	我が国の自殺者を減らすために打ち出された政策や、制度、法律を把握する			
【キーワード】	自殺者3万人、			
【学習の課題】	我が国の自殺者を減らすために打ち出された政策や、制度、法律を調べ、それらが及ぼした結果を考察する			
【参考文献】	教科書、参考書、教材、関連書物を参照			
【学習する上での留意点】	教科書をよく読み、不明点を調べること			
5～6.テーマ	メンタルヘルス —地域におけるメンタルヘルス—			
【学習の目標】	地域で生じているメンタルヘルスに関する課題を学ぶ			
【学習の内容】	さまざまなメンタルヘルス課題の現状と対策を把握する			
【キーワード】	家族、障害、依存症、災害、支援者、犯罪			
【学習の課題】	我が国におけるメンタルヘルスの諸問題の現状と施策、残されている課題を考察する			
【参考文献】	教科書、参考書、教材、関連書物を参照			
【学習する上での留意点】	教科書をよく読み、不明点を調べること			
7～8.テーマ	地域生活支援			
【学習の目標】	精神障害者が地域で利用できる支援制度や利用可能な施設、機関について学ぶ			
【学習の内容】	さまざまな制度、精神障害者が利用可能な施設の概要、機関の概要を把握する			
【キーワード】	生活の円滑化、施設、機関			
【学習の課題】	精神障害者が地域で生活するために必要な諸制度、施設概要、機関の概要を理解する			
【参考文献】	教科書、参考書、教材、関連書物を参照			
【学習する上での留意点】	教科書をよく読み、不明点を調べること			
9～10.テーマ	職業支援			
【学習の目標】	精神障害者を対象とした就労支援制度や実際を学ぶ。			
【学習の内容】	精神障害者への職業支援機関、制度、実践活動、職場でのメンタルヘルス対策等を把握する			

	<p>【キーワード】 制度、機関、リワーク、職場のメンタルヘルス</p> <p>【学習の課題】 精神障害者が就労するための困難さを理解し、困難さと支援に関する施策との関係を考察する</p> <p>【参考文献】 教科書、参考書、教材、関連書物を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書をよく読み、不明点を調べること</p>
11～12.テーマ	専門職と人材育成
	<p>【学習の目標】 精神障害に係る職種の概要やその育成について学習する</p> <p>【学習の内容】 精神障害者に係る多くの職種の概要と人材の育成について把握する</p> <p>【キーワード】 専門職、育成、養成機関</p> <p>【学習の課題】 精神障害者に係る専門職の専門性、養成課程と養成機関、業務内容等を考察する</p> <p>【参考文献】 教科書、参考書、教材、関連書物を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書をよく読み、不明点を調べること</p>
13～15.テーマ	精神科医療
	<p>【学習の目標】 我が国の精神科医療の現状について学習する</p> <p>【学習の内容】 我が国の精神疾患と医療機関の概要を把握する。治療システムと治療方法を把握する</p> <p>【キーワード】 関係する法律、入院形態、疾患、治療システム、</p> <p>【学習の課題】 我が国の精神障害者の実態を理解するとともに、医療機関で実施されている医療を把握し、我が国の精神科医療の課題を考察する</p> <p>【参考文献】 教科書、参考書、教材、関連書物を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書をよく読み、不明点を調べること</p>

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助技術各論特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5334
2. 授業担当教員	長谷川 行雄			
4. 授業形態	演習、討議		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	1. 社会福祉の実践で使われる諸のアプローチを系統だてて学ぶ。 2. 社会福祉の実践で使用されるアプローチに影響を与えた関係領域を学ぶ。			
8. 学習目標	社会福祉領域で使用されてきたアプローチを学ぶ。 ① 心理社会的アプローチ ② 問題解決アプローチ ③ 行動療法とソーシャルワーク ④ 生態学的 (エコロジカル) アプローチ ⑤ エンパワーメント・アプローチ			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	通学課程学生は毎回授業前に教科書を読み、その内容をまとめてくること。 通信教育課程学生は講義のテーマにそってレポートを提出してほしい。 通信教育課程学生はレポート提出に際して、参考文献もよく読み、学部の学生が作成するレポートより内容の深いレポートの作成を心掛けてほしい。 通学者は、受講学生の社会福祉に関する基礎学力によってシラバスを変更することもある。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 久保紘章・副田あけみ編著『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店、2005年。 【参考文献】 1. 加茂陽 編 『ソーシャルワーク理論を学ぶ人のために』世界思想社、2000年。 2. 山崎美貴子・北川清一 編著 『社会福祉援助活動』岩崎学術出版社、1998年。 3. ヘレンパウルマン 松本武子訳『ソーシャルケースワーク：問題解決の課程』全国社会福祉協議会、1958年。 4. 山上敏子『行動療法2』岩崎学術出版社、1997年。 5. 坂野雄二 『認知行動療法』日本評論社、1995年。 6. 平山尚 他『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、1998年。 7. 小田兼三・杉本敏夫・久田則夫 編著『エンパワメント：実践の理論と技法』中央法規出版、1999年。			
11. 成績評価の方法	第1レポート1：25%、第2レポート：25%、第3レポート：25%、単位認定試験：25% (通学・通信共通)			
12. 受講生への メッセージ	過去の社会福祉実践は、ソーシャルワーカーの経験と勘を頼りに進められてきた傾向がある。近年精神保健福祉の課題は多様化するとともに、科学的根拠に基づくソーシャルワーク実践が求められている。そこで各アプローチについて再度学ぶ。			
13. オフィスアワー	木曜日 12:00～15:00			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	心理社会的アプローチ			
	【学習の目標】心理社会的アプローチを学ぶ 【学習の内容】心理社会的アプローチの要約、および期限・影響を受けた理論・発展過程 【キーワード】診断主義、精神分析理論 【学習の課題】心理社会的アプローチの概略および影響を受けた学問との関係を理解する 【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照 【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる			
2. テーマ	心理社会的アプローチ			
	【学習の目標】心理社会的アプローチを学ぶ 【学習の内容】問題 (ニーズ) 理解の視点、介入原則・技法・過程 【キーワード】面接、アセスメント、処遇 【学習の課題】心理社会的アプローチの実践的な進め方を理解する 【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照 【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる			
3. テーマ	心理社会的アプローチ			
	【学習の目標】心理社会的アプローチを学ぶ 【学習の内容】ターゲット・グループ、残された課題、我が国における展開 【キーワード】、対象者、動機づけ、社会環境 【学習の課題】心理社会的アプローチの対象者、課題、我が国での展開の歴史を理解する 【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照 【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる			
4. テーマ	問題解決アプローチ			
	【学習の目標】問題解決アプローチを学ぶ 【学習の内容】問題解決アプローチの要約、問題解決アプローチの発展過程とアプローチ誕生を支えた理論的基盤 【キーワード】認知、自我心理学			

	<p>【学習の課題】問題解決アプローチの概略および影響を受けた学問との関係を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>
5 . テ ー マ	問題解決アプローチ
	<p>【学習の目標】問題解決アプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】ニーズおよび問題のとらえ方とその関連性、介入原則、過程、技法</p> <p>【キーワード】自我機能の回復、部分化</p> <p>【学習の課題】問題解決アプローチの実践的な進め方を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>
6 . テ ー マ	問題解決アプローチ
	<p>【学習の目標】問題解決アプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】ターゲット・グループおよびゴール、我が国における展開、残された課題</p> <p>【キーワード】環境上の諸困難と心理上の諸困難、文化的な特徴</p> <p>【学習の課題】問題解決アプローチの対象者、課題、我が国での展開の歴史を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>
7 . テ ー マ	行動療法とソーシャルワーク
	<p>【学習の目標】行動理論に基づいたアプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】行動理論に基づいたアプローチの要約、行動療法のソーシャルワークへの導入、行動療法の考え方と問題（ニーズ）理解の視点</p> <p>【キーワード】古典的条件付け、オペラント条件付け</p> <p>【学習の課題】古典的条件付け、オペラント条件付け、を通して学習行動の基礎を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>
8 . テ ー マ	行動療法とソーシャルワーク
	<p>【学習の目標】行動理論に基づいたアプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】理論的背景、行動療法アプローチの課程</p> <p>【キーワード】社会的学習理論、モデリング、認知行動療法</p> <p>【学習の課題】社会的学習理論、認知行動療法を理解するとともに、アプローチの課程を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>
9 . テ ー マ	行動療法とソーシャルワーク
	<p>【学習の目標】行動理論に基づいたアプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】ソーシャルワークに見る行動療法アプローチ、我が国における展開</p> <p>【キーワード】観察可能性、課題解決の段階的</p> <p>【学習の課題】対象者、残された課題、我が国での展開を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>
10 . テ ー マ	生態学的（エコロジカル）アプローチ
	<p>【学習の目標】生態学的（エコロジカル）アプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】生態学的（エコロジカル）アプローチの要約、生態学的視点の意義</p> <p>【キーワード】医学モデル、生活モデル、</p> <p>【学習の課題】生態学理論導入の背景、生態学的アプローチの意義を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>
11 . テ ー マ	生態学的（エコロジカル）アプローチ
	<p>【学習の目標】生態学的（エコロジカル）アプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】生態学的アプローチの特徴、</p> <p>【キーワード】人間（個人）、環境、関係性</p> <p>【学習の課題】問題に関する理解の仕方、基本的な概念枠組みとその特徴を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>
12 . テ ー マ	生態学的（エコロジカル）アプローチ
	<p>【学習の目標】生態学的（エコロジカル）アプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】生態学的アプローチの展開、今後の方向性と課題</p> <p>【キーワード】ミクロレベルとマクロレベル、エコマップ</p> <p>【学習の課題】介入すべき実践目標、アセスメントの強調、今後の課題を理解する</p> <p>【参考文献】教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>

13. テーマ	エンパワーメント・アプローチ
<p>【学習の目標】 エンパワーメント・アプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】 エンパワーメント・アプローチの要約、発展過程</p> <p>【キーワード】 抑圧、社会運動、社会変革</p> <p>【学習の課題】 エンパワーメント・アプローチの起源、社会運動とエンパワーメント・アプローチ、エンパワーメント・アプローチの起源を理解する</p> <p>【参考文献】 教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>	
14. テーマ	エンパワーメント・アプローチ
<p>【学習の目標】 エンパワーメント・アプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】 問題（ニーズ）理解の視点、介入原則・技法・過程</p> <p>【キーワード】 パワー、ソーシャルアクション、役割</p> <p>【学習の課題】 前提、エンパワーメント・アプローチからトランスフォーメーションへ、構成要素、過程、ワーカー・クライアント関係を理解する</p> <p>【参考文献】 教科書・参考書・教材欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>	
15. テーマ	エンパワーメント・アプローチ
<p>【学習の目標】 エンパワーメント・アプローチを学ぶ</p> <p>【学習の内容】 ターゲットとなる問題、残された課題、我が国における展開</p> <p>【キーワード】 社会的特徴、理論化、</p> <p>【学習の課題】 対象者とその飲んだ胃、今後の課題、我が国におけるエンパワーメント・アプローチの歴史を理解する</p> <p>【参考文献】 教科書・参考書・教材、欄を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に教科書を読み、不明点を調べる</p>	

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉特論 (4 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5320
2. 授業担当教員	花村 誠一			
4. 授業形態	講義およびディベート		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	2年次以上		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>社会福祉学または臨床心理学を学ぶ者に、精神保健福祉のプリンシパルともいべき知識を提供することをめざす。パート1では研究方法、パート2では測定技法、パート3では実践課題というように、全体を立体的に構成すべくつとめた。研究方法としては、量的研究よりも質的研究のほうを重視するが、これら両者が補完的關係にあることも実例に即して明らかにしていく。世界保健機関(WHO)によって作成された国際生活機能分類(ICF)に従って、精神障害のアセスメントを行う。また、インフォームド・コンセントの法理を理解し、クライアントの自己決定権を尊重すべく、判断能力の評価技法に習熟する。実践課題として選んだアイテムは、いずれも現在もっともホットな局面であり、われわれの研究意欲を刺激してやまない。急ピッチで変化する精神保健福祉情勢に柔軟に対応しうるリサーチ・マインドを身につけること、これが一番の狙いである。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.社会科学で重視される質的研究のノウハウを身につけ、精神保健福祉の諸問題にアプローチすることができる。</li> <li>2.ICF作成にあたってWHOが掲げた理念通り、精神障害を福祉的観点からポジティブに評価することができる。</li> <li>3.構造化面接のスキルを身につけ、評価尺度によって精神障害者の治療同意判断能力を測定することができる。</li> <li>4.質的研究と量的研究の収斂点として、精神障害者における生活の質 (quality of life: QOL) を測定することができる。</li> <li>5.国連原則に照らして日本の精神保健福祉法の問題点を抽出し、いくつかの改正の指針を思い描くことができる。</li> <li>6.日本の精神保健福祉領域で、介護支援専門員ならぬ精神障害者ケアマネジメント従事者として活動することができる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>シラバス「14学習の展開及び内容」の各テーマを参照。          課題論文1「WHOのICFを精神障害に適用するにあたり、他障害との質的差異に注目すると、どのような不都合(適用のしにくさ)が生じうるか、なんらかの具体例に即して論述しなさい。」          課題論文2「医療観察法と自立支援法(現在の総合支援法)は、日本の精神障害者福祉をどのように変化させつつあるか、今後さらに予想される問題点をあげて論述しなさい。」          ※内容にふさわしい題名(サブタイトルを付してもよい)をつけること。ワープロを使用し、フォント10.5、1ページ36行40字、総計4~5ページでまとめること。序論から始め、いくつかに章立てて、結論で終わるように構成すること。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p><b>【教科書】</b>          木下康仁著『ライブ講義M-GTA-実践的質的研究法』弘文堂、2007年          世界保健機関(WHO)刊『ICF; 国際生活機能分類-国際障害分類改定版』中央法規, 2002年</p> <p><b>【参考書】</b>          木下康仁著『分野別実践編グラウンデッド・セオリー・アプローチ』弘文堂, 東京, 2005年          高橋茂樹、成田すみれ監修『障害者総合支援法がわかる本』成美堂出版、2013年          太田順一郎、岡崎伸郎編『精神保健福祉法改正』メンタルヘルス・ライブラリー33, 批評社, 2014年          岡崎伸郎編『精神保健・医療・福祉の根本問題』メンタルヘルス・ライブラリー②, 批評社, 2009年          馬場靖雄著『ルーマンの社会理論』勁草書房, 2001年          飯田隆『ウイトゲンシュタイン-言語の限界(現代思想の冒険者たち07)』講談社, 2005年          井庭崇、福原良久著『複雑系入門』NTT出版, 1998年          市野川容孝著『身体/生命』(シリーズ・思考のフロンティア)岩波書店, 2000年          加賀野井秀一『20世紀言語学入門-現代思想の原点』(講談社現代新書1248)講談社, 1995年          谷徹『これが現象学だ』(講談社現代新書1635)講談社, 2002年          北村總子, 北村俊則著『精神科医療における患者の自己決定権と治療同意判断能力』学芸社, 2000年          中谷陽二著『刑事司法と精神医学-マクノートンから医療観察法へ』弘文堂2013年          中根允文監修『精神疾患とQOL』メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2002年          日本精神保健福祉士協会編『精神障害者のケアマネジメント』へるす出版, 2001年          岡田靖雄著『日本精神科医療史』医学書院, 2002年          精神障害とリハビリテーション誌, 第7巻1号, 特集「新障害者プランへの期待と課題」2003年          精神科臨床サービス誌, 11巻1号, 特集「アウトリーチで変わる精神科臨床サービス」2011年          関良徳著『フーコーの権力論と自由論-その政治哲学的構成』勁草書房, 2001年          八木剛平, 田辺英著『日本精神病治療史』金原出版, 2002年          山口節郎著『社会と意味-メタ社会学的アプローチ』勁草書房, 1982年(絶版)          山口節郎著『現代社会のゆらぎとリスク』新曜社, 2002年          柳内隆著『フーコーの思想』ナカニシヤ出版, 2001年          町野 朔編『精神医療と心身喪失者等医療観察法(資料編)』ジュリスト増刊、有斐閣、2004年          トマス・グリッツ, ポール・S・アップルボーム著(北村總子, 北村俊則訳)『治療に同意する能力を測定する-医療・看護・福祉のためのガイドライン』日本評論社, 2000年</p>			

	<p>ロレン R.モシャー,ロレンゾ・ブルチ著 (公衆衛生精神保健研究会訳)『コミュニティメンタルヘルス—新しい地域精神保健活動の理論と実践 [復刻版]』中央法規,2003 年                  G. バイトソン著 (佐藤良明訳)『精神の生態学』新思索社, 2000 年                  G. バイトソン, M. ミード著 (外山昇訳)『バリ島人の性格—写真による分析』国文社, 2001 年                  クリフォード・W・ビアーズ著 (江畑敬介訳)『わが魂にあうまで』星和書店, 1980 年 (絶版)                  トリシャ・グリーンハル, ブライアン・ハーウィッツ編 (齋藤清二ほか訳)『ナラティブ・ベイスト・メディスン—臨床における物語りと対話』金剛出版, 2001 年                  スティーヴ・J・ハイムズ著 (忠平美幸訳)『サイバネティクス学者たち—アメリカ戦後科学の出発』朝日新聞社, 2001 年                  D. オールネス, W. ケネードラー著 (亀島信也, 神澤創監訳)『PACT モデル—精神保健コミュニティケアプログラム』メディカ出版, 2001 年                  チャールズ・A.ラップ著 (江畑敬介監訳)『精神障害者のためのケースマネジメント』金剛出版、東京、1998 年                  A.ストラウス, J.コービン著 (南裕子監訳)『質的研究の基礎—グラウンデッド・セオリーの技法と手順』医学書院, 1999 年                  キャサリン・ポーブ, ニコラス・メイズ編 (大滝順司監訳)『質的研究実践ガイド—保健・医療サービス向上のために』医学書院, 2001 年                  A.J.フランケル, S.R.ゲルマン著 (野中 猛監訳)『ケースマネジメントの技術』金剛出版、2006 年                  Tremain,S.(ed.):Foucault and the Government of Disability. University of Michigan,2005                  Andreasen,N.C.:DSM and the death of phenomenology in America ; An example of unintended consequences. Schizophrenia Bulletin 33: 108-112, 2007</p>
<p>11. 成績評価の方法</p>	<p>課題論文 1 40%                  課題論文 2 40%                  実技ないし授業参加 20%</p>
<p>12. 受講生へのメッセージ</p>	<p>2006 年の国連総会において「障害者の権利に関する条約」が採択され、2008 年に発効した。日本政府も批准に向けて、障害当事者の意見を取り入れながら、障害関連法の点検と見直しを行っている。国内では、2012 年に「障害者総合福祉法」が、2013 年に「障害者差別禁止法」が制定される予定である。前者は現行の障害者自立支援法に代わる法律であり、いやでも関心が高まる。                  こういう情勢のさなか、本科目では、受講生諸君に精神障害の障害特性に改めて目を向けるように促す。質的研究は保健医療の分野では、メンタルヘルスにもっとも親和性の高い方法論である。ICF の使用、QOL の測定、判断能力評価は、日本ではまだはじまったばかりの新しい研究領域である。一人でも多くの受講生が本科目で学んだことを自らの課題研究に反映してくれるよう願う。                  担当教員は、精神病理・精神療法を専門とする現役の精神科医である。臨床では統合失調症を主要な守備範囲としながら、多くの関連学会へのコミットメントも欠かさない。大学院レベルの勉強は、つねに研究のフロントラインを意識しながら行われるべきである。通学生、通信生を問わず、スケジュールの都合がつく者は、ぜひ担当教員と一緒にメンタルヘルスの学会へ赴いてほしい。</p>
<p>13. オフィスアワー</p>	<p>春期：水曜日 9:00～12:00                  秋期：木曜日 9:00～12:00                  研究室 26 (1号館 4階)</p>
<p>14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】</p>	
<p>1～2. テーマ</p>	<p>理論とデザイン—質的研究とは何か</p>
<p>【学習の目標】                  質的研究の定義 (づけの困難さ)、歴史的推移、最近の傾向をつかむため、保健・医療・福祉領域に限らず、もっと広い文脈のなかでその理論的背景を眺めわたしてみる。</p> <p>【学習の内容】                  1) 質的研究は実証科学における量的研究とどのような関係にあるのか。                  2) 近年、質的研究に関心が集まるのは、どのような時代背景によると考えられるか。                  3) 質的研究の研究デザインをめぐって、現在どのようなジレンマが存在するか。</p> <p>【キーワード】                  質的アプローチ 量的アプローチ 文化 現象 構造的プロセス 歴史的変化 「真実」 プラグマティズム トライアングレーション ポストモダニズム ポスト構造主義 理論レベル デュルケムパーソンズ フーコー ミード ゴフマン ハーバマス ルーマン フェミニスト研究 客観性 妥当性 信頼性 厳密さ 省察 一般化可能性 主観性 標本抽出 (サンプリング) 倫理上の問題 プレインストーミング 文献レビュー</p> <p>【学習の課題】                  1) 特定の事象について、結果 (outcome) ではなくプロセスのほうに照準を合わせてみる。                  2) 質的アプローチと量的アプローチは、それぞれ「真実」をどこに見いだそうとしているのか。                  3) 精神障害 (自分を守るすべのない人々) や子どもに対して質的アプローチを試みる際、どのような倫理的問題が生じるか。</p> <p>【参考文献】                  キャロル・ガービッチ著 (上田礼子ほか訳)『保健医療職のための質的研究入門』医学書院、2003 年。</p> <p>【学習する上での留意点】                  社会科学における質的研究の前哨ともいえる「現象学的社会学」について、エスノメソドロジーを中心にガイダンスを行う。ポストモダニズムやポスト構造主義がとりあげられるのは、けっして流行思想としてではなく、質的研究とのインターフェースにおいてである。</p>	

2～4. テーマ	データ収集の技法—参与観察について
<p><b>【学習の目標】</b> データ収集の主要な技法である「面接」と「観察」について詳しく考察し、精神保健福祉領域では、とりわけ参与観察が重要な技法となるゆえんを理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 参与観察の利点、欠点を踏まえ、この技法がもっとも適していると思われるテーマを列挙する。</li> <li>2) H.S.サリヴァンの「関与しながらの観察」は、エスノグラフィにおける参与観察をどのように特殊化しているか。</li> <li>3) データ収集の技法を選択するときは、テーマに応じて臨機応変に行われなければならない。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 面接 面接者 インフォーマルな面接 誘導面接 構造化面接 1対1の面接 記述的質問 探索的質問 応答 避けるべき質問グループインタビューフォーカスグループ ノミナルグループ デルファイ法 参与観察 一次データ 二次データ 三次データ 公然のデータ収集 秘密裏のデータ収集 観察記録 写真とその他の視覚映像</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神保健福祉領域で標準化された評価尺度により、構造化面接のシミュレーション実習を行う。</li> <li>2) フォーカスグループ、ノミナルグループ、デルファイグループそれぞれの適応について考えてみる。</li> <li>3) 記述的質問、探索的質問に分けて、各自でいくつかの質問をデザインしてみる。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> ガービッチ前掲書</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> アメリカ社会学における「解釈的パラダイム」の解釈学的転回 (hermeneutic turn) に即して、「意味」がもつ社会的・歴史的次元と、「理解」がもつ存在論的次元について考えてみよう。データセットのなかに写真、ビデオ、映画を加える技法があり、ペイトソンと M.ミードによるエスノグラフィ『バリ島人の性格』はこの面での先駆的業績である。</p>	
5～6. テーマ	アプローチの方法—図書館、フィールド、行動
<p><b>【学習の目標】</b> メンタルヘルスへの応用を念頭に置きながら、保健医療分野の質的研究で頻繁に用いられるアプローチの方法について検討する。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 図書館に拠点を置いてデータやテキストを解釈するさまざまな方法論的アプローチがある。</li> <li>2) 研究者がフィールドに入っていく、特定の現象を面接法や観察法を用いて探究するアプローチがある。</li> <li>3) EBM 時代の症例報告を参照しながら、ケーススタディの現代的意義に改めて照明をあてる。</li> <li>4) グランドセオリーとグラウンデッド・セオリーの対照を際立たせる。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 私的記録資料 公的記録資料 歴史的研究法 ディスクール分析 エスノグラフィ 「見通しを立てる」 非構造化面接・自由面接 現象学的還元 グラウンデッド・セオリー パース デューイ ブルーマー アブダクション 帰納 コーディング 口述生活史 叙述録 ケーススタディ 評価 ニーズアセスメント アクションリサーチ</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健医療分野におけるディスクール分析の実際例について、いくつかの文献を集めてみよう。</li> <li>2) 質的研究のテクスチャーともなりうるパース、モリスの記号論、その現代的応用について学ぶ。</li> <li>3) アクションリサーチによって、エンパワメントの概念を単なるスローガン以上のものにすることができるだろうか。</li> <li>4) グラウンデッドセオリー・アプローチにおけるコーディングの手順について学ぶ。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> ガービッチ前掲書</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> ここでフェューチャーされるのが膨大な文献渉猟にもとづくフーコーの著作群であるが、他方、彼においては人生そのものが壮大なアクションリサーチと化してもいた。彼とは対照的に、素手でみずからの構想を立ち上げたのがウィトゲンシュタインであり、その「言語ゲーム」論は一種の「萌芽的社会学」を形づくっている。</p>	
7～8. テーマ	データの解釈、分析、発表—質的研究の質
<p><b>【学習の目標】</b> メンタルヘルスへの応用を目指し、質的研究におけるデータの解釈、分析、および発表をめぐる主要な問題点について探る。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 解釈は研究者の用いるフレーム、研究者の解釈の焦点、読者の姿勢によって大きく影響される。</li> <li>2) 構造主義的およびポスト構造主義的な記号分析の手順について、事例に即して検討する。</li> <li>3) 発表形式は伝達対象（誰にむけて発表するのか）、研究者の立場、研究目的にかなった表現様式によって決まる。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> フレーム (解釈枠組) 解釈の焦点 デリダ 脱構築 読者の姿勢 データの分析 列挙計数型 調査究明型 反復型 主観型 権力格差 編集 データの変形 発表形式 研究目的にかなった表現様式 エスノグラフィ的記述 言葉づかい 質的研究の評価 量的研究と同じ基準を使えるか 質に関するガイドライン</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問題の特定—用いた方法論—調査結果—調査結果が意味すること、という構成で (模擬的に)「要約」を書いてみる。</li> <li>2) 図表による表示、執筆形式、ビネット、逸話、情報の重ね合わせ、パステーション、面接データからの引用など、さまざまな表現様式について練習してみる。</li> <li>3) ボーラによる質的研究の質に関するガイドラインを参照しながら、項目ごとに吟味してみよう。</li> </ol>	

	<p><b>【参考文献】</b>                  ガービッチ前掲書                  キャサリン・ポーブほか著『質的研究実践ガイド—保険・医療サービスの向上のために』医学書院、2001年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b>                  ルーマンの「社会システム論」はきわめて斬新なものであるが、社会科学における実証研究とどのように結びつくのであろうか。知見が数字や統計的分布や表に還元できない場合、どのように執筆（発表）されるかが研究者の能力として問われることになる。</p>
<p>9～10. テーマ</p>	<p>複雑系の科学へと開く——カオス理論の応用</p>
	<p><b>【学習の目標】</b>                  複雑系という記述スタイルで登場したさまざまな分野での研究にふれ、科学や世界についての新しい見方のエッセンスをとらえるようにする。</p> <p><b>【学習の内容】</b>                  1) 複雑なシステムのふるまいを数値的シミュレーションで見通すための道具（コンピュータ）の進歩があった。                  2) シミュレーションは純粹に理論から組み立てられたモデルのふるまいを観察するもので、実験とは異なる。                  3) 構成的手法では、シミュレーションを通してそのモデルの妥当性を検討しモデルの修正をはかっている。</p> <p><b>【キーワード】</b>                  複雑系 「生きている」システム 創発 構成的手法 シミュレーション 実験 モデル アナロジー 大域的・局所的 線形・非線形 フラクタル マンデルブロ ローレンツ 上田皖亮 自己相似性 両対数グラフ 自己組織的臨界状態 カオス 初期値鋭敏性 バタフライ効果 ロジスティック写像 コントロール・パラメータ 力学系・相空間 アトラクタ パイコね変換 カオスの縁 複雑適応系 適応度地形</p> <p><b>【学習の課題】</b>                  1) カオスやフラクタルについて、数式を用いないという限界はあるが、直観的に理解してみよう。                  2) チョンピの「フラクタル感情論理」の概要を把握し、メンタルヘルスへの応用を考えてみよう。                  3) クローニンジャーたちはTCIにもとづく歴大なデータを「複雑適応系」として分析している。</p> <p><b>【参考文献】</b>                  井庭崇、福原良久著『複雑系入門』NTT出版、1998年。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b>                  複雑系の科学から我々が学びとるのは、コンピュータ・テクノロジーによる量的研究と質的研究との収斂であり、ここに21世紀の科学全般が向かう基本的動向をうかがうことができる。</p>
<p>11～12. テーマ</p>	<p>ICF と精神医学——障害構造論を超えて</p>
	<p><b>【学習の目標】</b>                  ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health)の成立の経緯を知り、その理念、目的、使用について学ぶ。</p> <p><b>【学習の内容】</b>                  1) その前身ICIDHとの対応、両者における基本用語、全体構成について理解する。                  2) ICIDHにもとづく精神障害の障害構造論にはどのような限界があったか。                  3) ICFが障害ではなく健康についての概念的枠組であることを正しく理解する。</p> <p><b>【キーワード】</b>                  国際疾病分類(ICD-10) 国際障害分類(ICIDH) 疾病・外傷 機能障害 能力障害 社会的不利 精神医学的能力障害評価面接基準 (WHO/DAS) 国際生活機能分類(ICF) 心身機能・身体構造 [障害] 活動 [制限] 参加 [制約] 肯定的 [否定的] 側面 背景因子 (環境因子 個人因子) アンカーポイント 評価点のコーディング 倫理ガイドライン 反構造化面接 ICD-10F 多軸記載方式 重症度尺度</p> <p><b>【学習の課題】</b>                  1) 国際疾病分類・精神と行動の障害(ICD-10F)との関連のもと、ICFの意義を把握する。                  2) ICFを導入したICD-10F多軸記載方式サンプルを使用し、いくつかの事例を評価してみよう。                  3) 精神障害の独自性が生かせるような新しいモデル構成の可能性についてディスカッションを行う。</p> <p><b>【参考文献】</b>                  障害者福祉研究会（編、訳）『国際生活機能分類(ICF)、国際障害分類改訂版』、中央法規出版、2002年。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b>                  ICFには個人的要因と環境的要因の相互作用を効果的に活用することで、機能障害の軽減がはかられるという発想がうかがわれる。</p>
<p>13～14. テーマ</p>	<p>ICF と精神症状——統合失調症を中心に</p>
	<p><b>【学習の目標】</b>                  ICFによる精神機能分類、活動と参加/活動制限と参加制約に即し、統合失調症における多種多様な慢性様態を評価してみる。</p> <p><b>【学習の内容】</b>                  1) ICFは「健康状況と健康関連状況を記述するための統一かつ標準的な言語と概念の枠組」を提供する。                  2) 心身機能は全般的な精神機能7種類とその他に分けられている。                  3) 活動との参加は9つの領域からなっており、すべての生活、人生の領域をカバーしている。</p> <p><b>【キーワード】</b>                  全般的な精神機能：意識機能 見当識機能 知的機能 全般的な心理社会的機能 気質と人格の機能 活力と欲動の機能 睡眠機能 その他の特定ないし詳細不明の全般的な精神機能/個別的精神機能：注意機能 記憶機能 精神運動機能 情動機能 知覚機能 思考機能、高次認知機能、言語に関する精神機能、計算機能、複雑な運動を順序だてて行う精神機能、その他の特定ないし詳細不明の個別的精神機能</p>

	<p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 伝統的な精神医学の症状用語に照らして、ICF の精神機能分類を再吟味してみる。</li> <li>2) 教員所有の自験例からいくつかの見本を抜き出し、ICF にもとづく評価を行う。</li> <li>3) アンカーポイントの設定、評価点のコーディングについて、実際の使いごちを体験してみる。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>ICF 前掲書</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>ICF の活用が「新障害者プラン」を打ち出した社会保障審議会などでも話題になっており、今後メンタルヘルス従事者の間でさらに受け入れられていくことが予測される。</p>
15～16.テーマ	精神疾患と QOL—どのように測定するか
	<p><b>【学習の目標】</b></p> <p>近年、医療でますます重視されるようになった QOL 概念について、メンタルヘルス分野への適用を考慮しつつ、さまざまな問題点にふれる。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) QOL 評価の主流は癌をはじめとする身体疾患であり、精神疾患の患者にあつては困難であるとされる。</li> <li>2) この困難は QOL 測定になんらかの質的研究を随伴させることによって克服できないか。</li> <li>3) 精神保健福祉領域における QOL 研究の現状を文献レビューによって概観する。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>安寧と生活満足度 役割機能 「生活水準」と環境因子 ステイグマ QOL 評価法 うつ病における QOL 不安障害における QOL 統合失調症における QOL QOL と児童精神疾患 高齢者における QOL と精神疾患 向精神薬投与と QOL 精神療法と QOL 精神疾患患者の近親者の QOL 精神保健スタッフの QOL 在宅認知症老人介護者の QOL</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) QOL の 3 要素、主観的安寧／満足度、機能的状態、関連因子について十分な概念的理解をもつ。</li> <li>2) 精神疾患のための QOL の理論モデル、とりわけ動的プロセスモデルについて検討してみる。</li> <li>3) WHO QOL 短縮版を用いて、各自みずからの「生活の質」を測定してみよう。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>中根允文監修『精神疾患と QOL』メディカル・サイエンス・インターナショナル、2002 年。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>地域社会で生活しているさまざまな遷延性精神疾患の患者の QOL を測定し、エンパワメントとの関連で質的研究を展開することができる。</p>
17～18.テーマ	インフォームド・コンセントの法理—判断能力の重要性
	<p><b>【学習の目標】</b></p> <p>精神保健福祉領域で働く専門職として、インフォームド・コンセントの法理に通じつつ、判断能力評価の重要性を認識する。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) クライエントの自己決定権の尊重には、判断能力を正しく評価できる技術が求められる。</li> <li>2) 判断能力評価にあたっては、その基本となる概念の理論上の理解を先行させなければならない。</li> <li>3) 精神保健福祉領域ではどのような場合に判断能力評価が必要になるか、可能な限り列挙してみよう。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>単純同意 治療上の特権 情報の開示 自発性 判断能力 心理的・法的 意義ある選択 法的判断能力の 5 つの格言 判断無能力意志決定能力 判断能力評価 選択の表明 理解 認識 論理的思考 判断能力判定 自律性と保護のバランス 代行意志決定（患者による事前の指示、家族、裁判所） 患者の最善の利益</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) クライエントに判断能力が欠けている場合、代行意思決定はどのようなかたちでなされるべきか。</li> <li>2) 心理教育との絡みで、統合失調症の病名告知率が増加しているが、なおどのような問題が残されているか。</li> <li>3) K-J 法によるブレインストーミングを介し、この問題に関する質的調査研究法をデザインしてみよう。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>トマス・グリッソ、ポール・S・アップルボーム著（北村總子、北村俊則訳）『治療に同意する能力を測定する—医療・看護・介護・福祉のためのガイドライン』日本評論社、2000 年。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>精神保健福祉法における「医療保護入院」や民法改正にもとづく「成年後見制度」において、判断能力評価はきわめて重要な問題になるはずである。</p>
19～20.テーマ	治療同意判断能力の評価—MacCAT-T を用いて
	<p><b>【学習の目標】</b></p> <p>MacCAT-T(MacArthur Competence Assessment Tool-Treatment)の概要を把握し、その準構造化面接とそれに付帯する採点法を学ぶ。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コメディカル・スタッフも患者の判断能力について問題を明らかにし、医師にその問題を提起する役割をもつ。</li> <li>2) 臨床面接で判断能力評価を行うには、患者が評価を受けるための準備に腐心しなければならない。</li> <li>3) 治療同意についての患者のパフォーマンスを最大限にひきだすには、どのようなテクニックが必要か。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b></p>

<p>誰が行うか 評価要請の理由の確認 患者が評価を受けるための準備 患者の反応を最大限にするテクニック（情報開示の質、精神力動上の問題の処理 薬理学的介入状況的助力の提供） MacCAT-T の概要 使用法と採点：疾患についての理解 疾患についての認識 治療者とその危険性・苦痛についての理解 治療についての認識、代替治療 論理的思考 選択の表明 採点得点の利用法</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) MacCAT-T のマニュアル（基本的指示、面接の準備と実行、記録のための記入用紙、採点するための指針）を読む。</li> <li>2) 実際のクライアント（ないし模擬患者）を対象に、MacCAT-T の準構造化面接を実施してみる。</li> <li>3) MacCAT-T の結果と他の臨床データを結びつけて、判断能力の有無についての最終評価に到達する。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>トマス・グリッソ、ポール・S・アップルボーム前掲書</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>ここは1つの実技を習得するという点で、受講生にとってはやや難関かもしれない。そのぶん、各自のリサーチに資するところも大きいはずで、ぜひMacCAT-Tを使いこなせるようになってほしい。</p>
--

21～22.テーマ	日本の精神保健福祉法—2013年改正後の諸問題
<p><b>【学習の目標】</b></p> <p>現行の「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」を国連の「精神病者の保護および精神保健ケア改善のための原則」に照らし、2013年改正以後の現下の問題点について可能な限りフォローしてみる。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本の精神科医療史を概観し、諸外国に比べて、どのような問題が露呈しているか話し合ってみよう。</li> <li>2) 精神障害者の入院医療と処遇、とりわけ、従来の「医療保護入院」にはらまれた問題について整理する。</li> <li>3) 精神障害者の「移送制度」には、どのような人権侵害のリスクがはらまれているか。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>精神病者監護法 精神病院法 精神衛生法 増床政策 精神保健法 精神保健福祉法 2013年の改正 精神医療審査会 精神保健指定医 任意入院 医療保護入院 応急入院 措置入院 緊急措置入院 行動制限 移送制度 「国連原則」 社会的入院 社会復帰施設 市町村の役割 精神保健福祉センター 保健所 精神障害者保健福祉手帳</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神保健福祉法の条文を検討し、国連原則から外れるすべての問題点をリストアップしてみる。</li> <li>2) 入院中の「行動制限」について、みんなでいくつかの質的アプローチをデザインしてみる。</li> <li>3) 2013年改正における「保護者制度の廃止」について、改めてその内実を点検してみよう。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>金子晃一、伊藤哲寛、平田豊明、川副泰成編『精神保健福祉法—その理念と実務』星和書店、2002年。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>精神保健福祉士はもとより、臨床心理士や社会福祉士にも、この法律についての理解が日常業務に従事するうえで不可欠の要件となっている。援助専門職にとって、「人権」について具体的局面に即して体得することはきわめて重要な課題である。</p>	

23～26.テーマ	精神保健福祉行政の現状Ⅰ、Ⅱ—障害者自立支援法から障害者総合支援法へ
<p><b>【学習の目標】</b></p> <p>「新障害者プラン」（重点施策5か年計画）および「障害者自立支援法」から「障害者総合支援法」へと、日本の精神保健福祉行政についてリアルに認識することをめざす。精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム（ACT）についてもとりあげる。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 旧プランで謳われ、新プランも継承する「ノーマライゼーション」の理念について、踏み込んで検討してみる。</li> <li>2) 新プランは「地域移行」という表現で、脱施設化を国の施策方針として明確に盛り込んでいる。</li> <li>3) 米国でACTが開発された背景について調べ、日本に導入することの意義について考えてみる。</li> <li>4) 障害者自立支援法から障害者総合支援法へと推移した経緯についてポイントを押さえておこう。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>障害者基本計画 重点施策実施5か年計画 「条件が整えば退院可能とされる約72000人の入院患者」（社会的入院） 精神科救急医療システム ACT(assertive community treatment),障害者自立支援法 自立支援給付：介護給付、訓練等給付、自立支援医療、地域生活支援事業、定率一割負担、日中活動の場、住まいの場</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 72000人の退院をどのようにすすめるか、具体的な問題点を可能な限り列挙してみよう。</li> <li>2) 新プランには「人権擁護」の視点が不足しており、偏見や差別の問題はどうなるのであろうか。</li> <li>3) ACTがどのようなものかは、標準モデルへの適合度評価尺度(Fidelity Scale)の内容をみればわかる。</li> <li>4) 精神障害者社会復帰施設の障害者自立支援法新体系への移行はどのように行なわれているか。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>高橋茂樹、成田すみれ監修『障害者総合支援法がわかる本』、成美堂出版、2013年 西尾雅明著『ACT入門—精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』金剛出版、2004年。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>新障害者プランは、社会的入院者72000人を退院させるという具体的な数値目標を掲げているが、その実現は難しいことが予想される。それはなぜかということをつきつめて考えてみれば、日本の精神医療の根底に横たわるいくつかの難題が浮上してくるだろう。</p>	

27～28.テーマ	精神障害と責任能力—医療観察法のはらむ諸問題
<p><b>【学習の目標】</b> 精神障害と責任能力という伝統的な問題に立ちかえり、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律案」について二、三の検討を加える。場合によっては、この問題に関連したディベート課題を設定することも考えたい。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神障害者の責任能力論について、ドイツさらに英米の学説をひとり見わたしてみる。</li> <li>2) 「ヒンクリー事件」を契機に、アメリカの責任能力概念はどのような変化をたどったか。</li> <li>3) 触法精神障害者における「責任無能力」と「保安的要請」をめぐる最近の問題状況を整理する。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 犯罪 責任 責任無能力 限定責任能力 心神喪失 心神耗弱 刑事未成年 「ヒンクリー事件」 メンズレアアプローチ 修正アプローチ 保安的要請 措置入院 (29 条) 「自傷他害のおそれ」 不起訴処分 無罪の判決の確定 地方裁判所 精神保健審査員 精神保健参与員 鑑定入院命令 措置入院医療機関 保護観察所 社会復帰調整官</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 法案は日本にも外国と同じような司法精神病棟を整備するよう求めたものと解釈できる。</li> <li>2) 刑事司法と精神医療の関係のあり方について、日本独自の方向を模索していくべきではないか。</li> <li>3) 医療観察法における処遇の流れを検討しながら、その問題点を洗い出してみよう。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> 中谷陽二著『刑事司法と精神医学—マクノートンから医療観察法へ』、弘文堂 2013 年 町野 朔編『精神医療と心神喪失者等医療観察法』Jurist 増刊、2004 年。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 参考文献としてあげた本は、精神鑑定について書かれたものも読みやすく、また内容のレベルも高いもので、ぜひ一読をおすすめする。精神障害者は社会にとって危険な存在である、世間に流布するこの臆断に対して、専門職らしいしっかりした対応が望まれる。</p>	
29～30.テーマ	成年後見制度について—権利擁護とは何か
<p><b>【学習の目標】</b> 新しい成年後見制度の概要を把握し、鑑定書および診断書の記載例を検討することによって、対象者の具体的なイメージを形成するようにつとめる。パート 2 で学習した判断能力評価の手技は、ここで具体的に応用されることになるだろう。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 100 年ぶりの「民法の改正」を促した諸要因について、わかりやすく説明することができるか。</li> <li>2) 旧制度と新制度との相違点をリストアップしながら、実質的なメリットを確定しよう。</li> <li>3) 権利擁護(advocacy)という大きな文脈のなかに置いて、現行の運用状況について見てみる。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 民法 判断能力の不十分な成年者 (認知症高齢者、知的障害、精神障害者等) 補助 (新設) 保佐 (準禁治産の改正) 後見 (禁治産の改正) 任意後見制度 事前の指示 持続的代理権 事理弁識能力 (不十分、著しく不十分、欠く常況) 審判の手続き 鑑定の手続き 診断の手続き 鑑定書作成 診断書作成 地域福祉権利擁護事業</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新しい成年後見制度における鑑定書作成の手引を参照し、いくつかの記載例を読んでみる。</li> <li>2) 新しい成年後見制度における診断書作成の手引を参照し、いくつかの記載例を読んでみる。</li> <li>3) この種の公的記録資料にもとづく質的アプローチの可能性についてはどのように考えるか。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> 全国自治体病院協議会編『精神保健指定医研修会テキスト』2003 年。(非売品) 佐々木静子著『成年後見制度 Q &amp; A』、ミネルヴァ書房、2001 年。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> ここでは、成年後見制度についての理解とともに、質的研究における公的記録資料の扱い方についても学んでほしい。本科目は終りに臨み、こういう地味なテーマを扱いながら、フーコー的な意味での「新しい権利」の形態を模索する方向を示す。</p>	

1. 科目名 (単位数)	地域福祉特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5317
2. 授業担当教員	尹 文九			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	1年次以上		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	現在、注目を集めている福祉サービスについて、コミュニティと社会福祉援助技術の両視点から、地域福祉の役割と意義を中心に分析・討議を行う。それを踏まえ、地域福祉の推進方法について現状を考察しつつ、問題点と問題解決のアプローチについて研究する。			
8. 学習目標	①社会福祉の変容と地域福祉の現状 ②コミュニティ形成の理論と地域福祉 ③地域福祉と住民参加 ④地域福祉計画と福祉計画 ⑤地域福祉計画の推進方法と担当機関 ⑥諸外国の地域福祉			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	自分が住んでいる地域福祉計画を熟読し、その計画の中で、特に重点を置いている計画の内容または計画全体の課題や問題点について4800字以内で小論文を提出する			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 村川浩一 井上千律子編『地域福祉論』第一法規。 【参考書】 青木佳之 宮原伸二 小田憲三編著『コミュニティケアマネジメント』医歯薬出版。 市川一宏 大橋謙策 牧里海治編 『地域福祉の理論と方法』ミネルヴァ書房。 武川正吾編 『地域福祉計画』有斐閣。 山本主税 川上富雄編 『社会福祉協議会』中央法規。 野口定久編 『新時代の地域福祉』みらい。			
11. 成績評価の方法	小論文：60% 課題や授業参加態度：40%			
12. 受講生へのメッセージ	職場での実践を生かしながら、授業、Eメール等により、研究分野を少しずつ理解しながら、専門分野の問題点を喚起して一步一步研究を進めることである。			
13. オフィスアワー	木曜日 1、2 限			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	社会福祉の変容と地域福祉の現状			
	【学習の目標】 地域福祉の目的とは何か、地域社会と地域福祉の歩み 【学習の内容】 ①地域福祉とは何か ②地域社会の現状 ③地域福祉の目的とは何か 【キーワード】 地域福祉 【学習の課題】 地域福祉の目的と課題について ②地域福祉の概念の特異性について 【参考文献】 配布プリント・参考書等を参照。以下同じ			
2. テーマ	地域福祉の展開と地域福祉に関する理論			
	【学習の目標】 地域福祉の歴史を特に社会福祉基礎構造改革を中心に理解する 【学習の内容】 ①欧米における地域福祉の源流 ②日本における地域福祉の源流 ③社会福祉基礎構造改革と地域福祉の関係 【キーワード】 社会福祉基礎構造改革 【学習の課題】 ①今後の地域福祉のあり方			
3. テーマ	コミュニティと地域福祉			
	【学習の目標】 コミュニティと地域社会の問題、生活圏域と福祉圏域、 【学習の内容】 ①地域とコミュニティ論 ②地域の問題 ③地域福祉における地域のとらえ方 【キーワード】 コミュニティ 【学習の課題】 ①グローバリゼーションと地域問題			
4. テーマ	地域福祉の主体			
	【学習の目標】 地域福祉の主体と組織 【学習の内容】 ①地域住民 ②地域住民の組織 ③当事者と当事者組織 【キーワード】 地域住民、住民参加、当事者組織 【学習の課題】 ①住民と市民の違い ②住民参加の意義 ③当事者組織の新しい展開			
5. テーマ	地域福祉と住民参加			
	【学習の目標】 地域福祉における住民参加の意義や方法、プロセスについて 【学習の内容】 ①なぜ住民参加が重要なのか ②住民参加の方法 ③風明参加のプロセス 【キーワード】 住民参加 【学習の課題】 住民参加の課題や問題点			

6. テーマ	地域政策としての社会福祉行政の計画
【学習の目標】	地域福祉と関連した様々な福祉計画について学習する。
【学習の内容】	①行政計画 ②市町村総合計画 ③市町村福祉計画
【キーワード】	福祉計画
【学習の課題】	①それぞれの福祉計画はどのような連携で懸隔が策定され、また施行されているのか、その時間問題点は何があるのか
7. テーマ	地域福祉計画づくりの視点と枠組
【学習の目標】	市町村や都道府県の地域福祉計画の内容や策定プロセスについて学習する
【学習の内容】	①地域福祉計画の内容 ②市町村地域福祉計画策定プロセス ③計画の課題や問題点
【キーワード】	地域福祉計画
【学習の課題】	①地域社会福祉計画の事例 ②地域福祉計画の策定の留意点について
8. テーマ	わが国の地域福祉
【学習の目標】	わが国の福祉のまちづくりの事例研究
【学習の内容】	①福祉のまちづくりの誕生 ②福祉のまちづくりの社会的背景について ③福祉のまちづくりにおける法制度と問題点
【キーワード】	高齢者や障害者のための環境づくり
【学習の課題】	①社会施設づくりから市民ふれあいづくり ②完全参加と平等の場づくり ③市民参加と条例による環境整備
9. テーマ	地域福祉の推進方法
【学習の目標】	地域福祉の推進する方法について具体的に学習する
【学習の内容】	①小地域福祉活動 ②ソーシャルサポートネットワーク ③サロン活動
【キーワード】	ソーシャルサポートネットワーク
【学習の課題】	自分が住んでいる地域の事例を検討する
10. テーマ	地域福祉推進と関連した行政機関
【学習の目標】	地域福祉推進と関連する行政機関（専門機関含む）にはどのような組織があり、どのような機能や役割であるかについて学習する
【学習の内容】	①福祉事務所 ②地域包括支援センター ③児童相談所 ④身体障害者更生相談所
【キーワード】	福祉専門機関
【学習の課題】	①諸機関の中で一つの機関を選び、それについての役割や機能について
11. テーマ	地域福祉推進と関連した民間組織
【学習の目標】	地域福祉推進と関連した民間組織にはどのような組織があり、どのような役割や機能であるかについて学習する
【学習の内容】	①社会福祉協議会 ②社会福祉法人 ③民生委員など
【キーワード】	社会福祉協議会
【学習の課題】	①自分が住んでいる社会福祉協議会の活動内容について
12. テーマ	ボランティア活動
【学習の目標】	活動の社会的関心の高まりとその対応。
【学習の内容】	①ボランティア活動の動向 ②ボランティアの最近の事例 ③ボランティア活動の振興策と今日的意義
【キーワード】	参加型の傾向が高い、異年齢によるボランティア活動の拡大と多様化
【学習の課題】	①ボランティア活動の内容と要件 ②ボランティア活動の意義と役割 ③ボランティア活動の事例
13. テーマ	NPO 活動
【学習の目標】	地域福祉の時代に対応できる公私の役割分担を踏まえ、NPO 活動を学習する
【学習の内容】	①NPO 法の内容 ②NPO 活動の現況 ③NPO 活動の課題や問題点
【キーワード】	NPO
【学習の課題】	活動推進の考え方と課題
14. テーマ	諸外国の地域福祉
【学習の目標】	諸外国の地域福祉の現状とその課題
【学習の内容】	①先進諸国にみられる地域福祉 ②発展途上国にみられる地域福祉
【キーワード】	諸外国の地域福祉の事例
【学習の課題】	①諸外国の地域福祉の変化と動向 ②諸外国における地域福祉の諸相
15. テーマ	むすび
【学習の目標】	分権一活法による社会福祉行政の詳細な改正内容や介護保険の事例研究。
【学習の内容】	①地域福祉の総合的説明 ②21 世紀における地域福祉の課題
【キーワード】	地域福祉のまとめ
【学習の課題】	①地方分権からみた地域福祉 ②今まで学んだ地域福祉の復習

1. 科目名 (単位数)	福祉マネジメント特論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5322
2. 授業担当教員	喜多村 悦史			
4. 授業形態	演習 (学生への質問、討議を中心とする)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	経営関係科目		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	社会福祉行政のマネジメント、また社会福祉機関・施設におけるマネジメントのあり方や方法を学び、そこにおける運営管理、財務管理、人事管理や労務管理などのマネジメント全体について把握することを目指す。その手法としては院生が属している組織を研究材料にするのが効率的、効果的である。院生がそれぞれ問題意識を掘り出し、討議材料として提供することにより、ケーススタディとして具体的、実践的に検討する。今年度は、特に人事・労務に焦点を充ててみたい。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉関係職員の活動の場である組織を理解する。</li> <li>2. 社会福祉関係職員が経験する組織内での葛藤を理解し、解決方法を学ぶ。</li> <li>3. 組織の特色は何かを理解する。</li> <li>4. 組織内での指揮命令関係の構造と役割を理解する。</li> <li>5. 組織の活力増強にはどのような手法があるか学習する。</li> <li>6. 社会福祉関係職員の勤務評定《業務評価》をどのように行うか学習する。</li> <li>7. 組織の外で起こる変化がどのように組織に影響するか学習する。</li> <li>8. 組織の内部で起こる変化にどのように対応するか理解する。</li> <li>9. 組織内で起こる変化に対応する方法を学ぶ。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。 院生が事前に準備した素材をもとに全員で討議する方式とするので、受講生 5 人以上を開講の前提とする。			
10. 教科書・参考書・教材	【参考文献】 人事・労務に関する解説書、実務書を多数読み込むこと そのほか新聞報道等から、人事・労務問題のホットな話題を探求すること また自己が属する組織における人事・労務問題を題材として提供すること			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 50%、レポート 50%			
12. 受講生へのメッセージ	受講生が所属する組織は別々であり、運営形態・方法も千差万別であろうが、そうした場所における各自の体験や悩みを出し合い、それを討議検討材料とすることで、社会福祉機関・施設における管理の実践手法を体得していきたい。受講生にとって今後の職務遂行の有益な情報を得ることになるので、主体的、積極的な参加姿勢を求める。他では見られないような特異的体験などの情報提供は、テーマのより深い分析のために有意義である。学生からの提供素材をもとに、いっしょに学習を深めていきたい。			
13. オフィスアワー	木曜日 9時から 12時			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	顔合わせとオリエンテーション			
【学習の内容】	学習計画の討議、学生の研究・発表分担の決定 (受講生は均等回数、分担する)			
【キーワード】	組織、マネジメント			
【学習の課題】	学期を通して何を習得したいかの確認			
【参考文献】	テーマに沿って選択する			
【学習する上での留意点】	各学生の関心事と経験・知識レベルの相互理解			
2. テーマ	労働者の採用について			
【学習の内容】	労働者の募集と採用			
【キーワード】	採用の自由、職業紹介、労働者名簿			
【学習の課題】	労働者募集の法規制			
【参考文献】	テーマに沿って選択する			
【学習する上での留意点】	自己が属する組織では要員をどのように確保しているか			
3. テーマ	労働契約の締結について			
【学習の内容】	労働契約の意義			
【キーワード】	契約概念、採用内定、試用期間、期間制限、定年制			
【学習の課題】	労働契約の自由と規制			
【参考文献】	テーマに沿って選択する			
【学習する上での留意点】	自己が属する組織では労働契約内容をだれが、どのような方針で定めているのか			
4. テーマ	賃金について			
【学習の内容】	賃金の概念・範囲、支払い方			
【キーワード】	賃金、割増、退職金、賞与、休業手当、社内預金			
【学習の課題】	賃金の法的性格とそこから発生する諸規制を理解する			
【参考文献】	テーマに沿って選択する			
【学習する上での留意点】	自己が属する組織では (広義の) 賃金制度を把握し、問題点を含めて説明する			
5. テーマ	労働時間について			
【学習の内容】	労働時間の意味と近年の規制弾力化の内容を理解する			
【キーワード】	法定労働時間、変形労働時間、みなし制、時間外労働、休憩、休日、年休、管理監督者			
【学習の課題】	労働時間規制の沿革を把握し、弾力化の意義について理解する			

	<p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織における労働時間の実態と組織の時間管理原則を理解する</p>
6 . テーマ	法定福利①
	<p>【学習の内容】 医療保険と関連制度</p> <p>【キーワード】 健康保険制度、介護保険制度、雇用保険制度</p> <p>【学習の課題】 職員の生活保障として医療保険等が存在するが、その保険料負担や事務負担について理解する。</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織における社会保険適用の実態を説明する</p>
7 . テーマ	法定福利②
	<p>【学習の内容】 年金保険と関連制度</p> <p>【キーワード】 厚生年金、基礎年金、企業年金、退職金基金制度、労災保険</p> <p>【学習の課題】 医療保険と並んで年金保険などがあるが、その保険料負担や事務負担について理解する</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織における社会保険適用上の問題点を整理する</p>
8 . テーマ	育児・介護負担への対応について
	<p>【学習の内容】 女性労働者の保護から育児・介護負担への制度対応</p> <p>【キーワード】 女性保護規定、育児休業、介護休業</p> <p>【学習の課題】 福祉事業では女性労働者比率が高く、労働者の満足と経営効率を両立させる仕組みが求められる</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織での対応について、その有効性、効率性を分析する</p>
9 . テーマ	就業規則について
	<p>【学習の内容】 労働者を律する職場規則である就業規則を理解する</p> <p>【キーワード】 就業規則、労働契約法、懲戒処分</p> <p>【学習の課題】 就業規則に関する法理論上の問題点</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織での修行規則はどうなっており、それは最善のものと判定できるか</p>
10 . テーマ	パートタイマーについて
	<p>【学習の内容】 パートタイム労働者を雇用する際に必要なことはなにか</p> <p>【キーワード】 パートタイム労働者、パートタイム労働法、雇止め</p> <p>【学習の課題】 パートタイム労働者に関する法規制の特色</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織における労働者の構成、パートタイム労働者と一般労働者の条件格差</p>
11 . テーマ	労働者派遣について
	<p>【学習の内容】 派遣の実態と法規制の変遷</p> <p>【キーワード】 派遣法、派遣元、派遣先、紹介予定派遣</p> <p>【学習の課題】 派遣制度の本質を踏まえたくえで制度に問題点を探る</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織での派遣労働や業務の外注などの実情を把握し、問題点を分析する</p>
12 . テーマ	労働災害の防止について
	<p>【学習の内容】 労働災害防止の意味と経営への影響</p> <p>【キーワード】 安全衛生法、安全配慮義務、健康診断、災害補償</p> <p>【学習の課題】 労災防止に関わる法規制と実態</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織での防止体制と労災発生状況を同種事業者との比較で理解する</p>
13 . テーマ	損害賠償について
	<p>【学習の内容】 労働関係にいて生じる損害賠償を幅広く理解する</p> <p>【キーワード】 無過失賠償、賠償予定、身元保証、使用者責任、解雇無効</p> <p>【学習の課題】 使用者と労働者間で生じうる民事賠償問題を幅広く理解する</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織および同種事業者において過去に生じた損害賠償案件を分析する</p>
14 . テーマ	労働契約の変更について
	<p>【学習の内容】 人事異動に関わる法的問題を理解する</p> <p>【キーワード】 配置転換、出向、転籍、降格</p> <p>【学習の課題】 人事権の範囲と制約を理解する</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織での人事管理について把握し、説明する</p>
15 . テーマ	労働契約の終了について
	<p>【学習の内容】 労働契約の終了の仕方と法規制</p> <p>【キーワード】 解雇、辞職、懲戒解雇、整理解雇</p> <p>【学習の課題】 解雇に伴う紛争が事業経営に及ぼす影響</p> <p>【参考文献】 テーマに沿って選択する</p> <p>【学習する上での留意点】 自己が属する組織での解雇に関する考え方を整理する</p>

1. 科目名 (単位数)	福祉マネジメント特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5322
2. 授業担当教員	城田 吉孝			
4. 授業形態	演習 (学生への質問、討議を中心とする)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	営利組織のマネジメントと非営利組織のマネジメントの概要について学ぶ。主な項目は組織マネジメントの運営管理、人事管理、経営理念、NPO 法人について検討する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織マネジメントの全体像を自分で説明できるようになることを目的とする。</li> <li>2. 組織マネジメントとしての科学的管理法について知り、説明できるようになることを目的とする。</li> <li>3. リーダーシップ特性や人のキャリア形成について学び、自分で発表することができるようになる。</li> <li>4. 経営資源の配分としての経営戦略の概要についてまとめ、発表することができるようになる。</li> <li>5. 経営組織の設計と経営理念について学び、レポートにまとめ発表することができるようになる。</li> <li>6. 組織の文化と風土について自分で説明できるようにする。</li> <li>7. NPO 法人 (特定非営利活動法人) のマネジメントについて説明できるようになる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財団と社団の違いについて調べてみよう。</li> <li>2. コムスン事件について調べ、その影響について考察してみよう。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版、2013 年 <b>【参考文献】</b> 河合・齋藤『NPO マネジメント』放送大学教育振興会、2011 年 P.F.ドラッカー『マネジメント』ダイヤモンド社、2012 年 朝倉・新宅『経営戦略入門』日本経済新聞、2011 年 社会福祉養成講座編集委員会『福祉サービスの組織と経営』中央法規出版、2013 年 近藤隆雄『サービスマーケティング』生産性出版、2013 年 大橋謙策『社会福祉入門』放送大学、2012 年 武井敏編『社会福祉施設経営管理論』社会福祉法人 全国社会福祉協議会、2013 年			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 50% レポート 50%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら学び研究するという意識をもってほしい。</li> <li>2. 観察力、問題解決能力を高める上からも、積極的な態度でいどむこと。</li> <li>3. 関心のある企業や身近な NPO 法人・施設の HP みて、その組織の経営理念や社会貢献を比較してみよう</li> <li>4. レポートの提出は期限を厳守。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義の際に指示する			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	組織マネジメントとは何か			
<b>【学習の目標】</b>	組織マネジメントの全体像を説明できるようになることを目的とする。			
<b>【学習の内容】</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織の定義</li> <li>2. 組織の目的・理念・戦略の策定</li> <li>3. トップのリーダーシップ</li> <li>4. 組織デザイン、モチベーション、経済環境</li> </ol>			
<b>【キーワード】</b>	組織マネジメント、理念、リーダーシップ			
<b>【学習の課題】</b>	組織マネジメントの全体モデルを理解する			
<b>【参考文献】</b>	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013 年			
<b>【学習する上での留意点】</b>	マネジメントは常に組織の中で論じられ・営まれ、組織はマネジメントに依拠して成り立っていることに注意する。			
2. テーマ	組織の状況適応理論の概説について			
<b>【学習の目標】</b>	リーダーシップの状況適応理論と組織構造の状況適応理論の概要を説明できるようになる。			
<b>【キーワード】</b>	仕事志向スタイル、人間関係志向スタイル、有機的組織、機械的組織			
<b>【学習の課題】</b>	状況適応理論は、唯一絶対ではなく、環境状況によって異なることを理解する			
<b>【参考文献】</b>	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013 年			
<b>【学習する上での留意点】</b>	状況適用理論をもとにローレンス・ローシュが「分化と統合」という概念を用いて、環境のもたらす不確実性と組織構造の特徴が密接に結びついていることに留意する。			
3. テーマ	組織マネジメント論について (1) : 伝統的経営管理論			
<b>【学習の目標】</b>	19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて展開されたティラーの科学的管理法とフェイヨルの管理過程論を説明できるようになる。			
<b>【学習の内容】</b>	リーダーシップスタイルの検討と京セラの稲盛和夫の経営観について理解する。			
<b>【キーワード】</b>	ティラー、科学的管理法、課業管理、差別出来高払い制度、職能別職長制度、フェイヨル、管理職能			
<b>【学習の課題】</b>	職能別職長制度は現実的に有効か否か、ラインアンドスタッフ組織の形態との関係について理解する			
<b>【参考文献】</b>	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013 年			
<b>【学習する上での留意点】</b>	20 世紀初頭に誕生した組織マネジメント論の黎明期の時代のとらえ方、仮説の構築について理解する。			

4 . テ ー マ	組織マネジメント論について (2) : 近代組織論の展開
【学習の目標】	1. 生産性向上をもたらす要因が人間関係にあることを、説明できるようになる。 2. 組織の中心概念はインフォーマルではなく、あくまでフォーマルな組織であることが説明できるようにする。
【学習の内容】	1. ホーソン工場での実験過程 2. 人間関係論の仮説と管理方法 3. モティベーション論の展開 4. リーダーシップ論の展開 5. 意思決定論から経営戦略へ
【キーワード】	ホーソン工場、モラル、インフォーマル集団、モティベーション、リーダーシップ、経営戦略
【学習の課題】	古典的組織マネジメントでは、労働者はどのように扱われていたかを理解する
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013年
【学習する上での留意点】	テイラーの科学的管理具の中で、今日の組織マネジメントにおいても通用すると思われる考え方に留意する。
5 . テ ー マ	リーダーシップについて (1)
【学習の目標】	リーダーシップ理論の展開と1930年代から1940年代のリーダーシップ特性理論について説明できるようになる。
【学習の内容】	1. リーダーシップ理論の展開 2. リーダーシップの特性理論
【キーワード】	影響パラダイム、EQ リーダーシップ理論、特性理論
【学習の課題】	集団や組織の目的達成にとって、リーダーシップの適否が重要なテーマであることを理解する。
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013年
【学習する上での留意点】	リーダーは直接のプレーヤーではない。フォロワーが自立的に喜んでリーダーについていける、信頼できる状態を作り出すことを意識するフォロワーシップの視点が必要であることを意識する。
6 . テ ー マ	リーダーシップについて (2)
【学習の目標】	リーダーシップの行動理論とリーダーシップの状況適応について説明できるようになる。
【学習の内容】	1. アイオワ研究 2. ミシガン研究 3. オハイオ研究 4. マネジリアル・グリッド理論 5. PM 理論 6. フィードラーのLPCモデル 7. ハーシー・ブランチャードのSL理論
【キーワード】	行動理論、ミシガン研究、オハイオ研究、マネジリアル・グリッド理論、PM理論、状況適応理論、LPCモデル、SL理論
【学習の課題】	リーダーシップ研究は特性理論からリーダーの具体的な行動やスタイルに焦点を当てた行動理論へと転換する背景について注意する。
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013年
【学習する上での留意点】	バーナードの組織の定義は「2人以上の人々の、意識的に調整された活動、または諸力の体系」であるが、「組織の本質」には人間それ自体の存在が含まれていないことに留意する。
7 . テ ー マ	リーダーシップについて (3)
【学習の目標】	1980年代前半以降の変革型リーダーシップ理論について説明できるようになることを目的とする。
【学習の内容】	1. コッターの変革型リーダーシップ理論 2. カンターの変革型リーダーシップ理論 3. 金井の変革型リーダーシップ 4. セルズニックの制度的リーダーシップ理論 5. グリーンリーフのサーバント・リーダーシップ理論 6. 組織文化の変革とシンボリック・マネジャー
【キーワード】	変革型リーダーシップ、ビジョナリー・リーダーシップ、制度的リーダーシップ理論、サーバント・リーダーシップ理論、シンボリックマネジャー、
【学習の課題】	1970年代後半から80年代にかけて、ミドルやトップを対象とした創造的な組織変革やイノベーションをもたらすことができるような変革型リーダーシップ理論の開発・提示に関心が集まるようになったことを理解する
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013年
【学習する上での留意点】	従来型のスタッフ主導型の他律的な分析論的戦略からベンチャー型の自律的な進化論的戦略が求められるようになってきた背景に注意する。
8 . テ ー マ	リーダーシップについて (4)
【学習の目標】	リーダーシップ・スタイルを決定する2つの主要因について説明できるようになる。
【学習の内容】	1. リーダーシップ・スタイルを決定する要因・課題(仕事)志向と人間関係志向 2. リーダーシップの4機能
【キーワード】	リーダーシップ・スタイル、課題志向、人間関係志向、情報収集・伝達、信頼性、信頼蓄積理論
【学習の課題】	リーダーシップ・スタイルを決定する要因(基準軸)として「課題志向」と「人間関係志向」の2軸が頑強(ロバスト)で不動であることを理解する。
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013年
【学習する上での留意点】	リーダーによる信頼の蓄積が、リーダーの変革行動に対するフォロワーの承認を促すだけでなく、リーダーによる変革をフォロワーの間に待望させることに留意する。

9 . テ ー マ	モチベーションとキャリア形成について
【学習の目標】	モチベーションとキャリア形成に関する主な理論を説明できるようになることを目的とする。
【学習の内容】	1. モチベーションに関する理論 2. キャリア形成に関する理論
【キーワード】	モチベーション、キャリア形成、責任の組織化、欲求階層説、XY 理論、期待理論モデル、
【学習の課題】	「仕事を通じて働く人たちを生かす」ための組織マネジメントについて理解する。
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013 年
【学習する上での留意点】	組織における「人」のマネジメントに係る「短期的」課題としてモチベーションを、「長期的」課題としてキャリア形成を各々捉えその主な理論を検討する。
10 . テ ー マ	経営戦略について (1)
【学習の目標】	企業を取り巻く外部環境を分析し、競争相手を見定め、自社の経営資源の配分を決定し、外部環境と経営資源を適合させるように中長期的な経営方針を策定することが重要であることをまとめ、発表することができるようになる。
【学習の内容】	1. 経営戦略とは何か 2. 事業領域の選択 3. 経営戦略の階層化 4. 戦略と組織の適合
【キーワード】	経営戦略、多角化、職能別組織、事業部制組織、組織は戦略に従う
【学習の課題】	企業戦略と事業戦略、機能別戦略の目的と階層構造について理解する。
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013 年
【学習する上での留意点】	チャンドラーとアンゾフは、それぞれ「組織は戦略に従う」「戦略は組織に従う」という命題を残している。それぞれの意味とこのような正反対の命題が今日まで通用しているかを考える。
11 . テ ー マ	経営戦略について (2)
【学習の目標】	企業は多くの事業を内包すると、経営資源や能力の多重活用によるシナジー（生産シナジー）が重視される。さらに、環境変化に対応して新製品を開発する。企業は市場へアクセスする可能性を生み出し、顧客の利益に貢献し、競合他社にとっては模倣することが困難であることを説明できるようになる。
【学習の内容】	1. 基本戦略の類型化 2. 競争の規定要因 3. 多角化の方向性 4. 多角化におけるコア・コンピタンスの活用 5. 製品ライフサイクル 6. 戦略形成プロセス
【キーワード】	ポーターの競争 5 要因モデル、規模の経済、経験曲線効果、アンゾフの成長ベクトル、コア・コンピタンス、製品ライフサイクル プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント
【学習の課題】	規模の経済性と経験曲線効果の違いがどのようなものかを理解する
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013 年 朝倉・新宅『経営戦略入門』日本経済新聞 2011 年
【学習する上での留意点】	多角化による資源の有効活用、シナジー効果などは経営成果に正の影響を及ぼしているが、近年事業の再構築を断行している。選択と集中の経営方針も見られることに注意すべきである（『経営戦略入門』朝倉新宅 336 頁）。
12 . テ ー マ	組織デザインについて
【学習の目標】	組織とは、分業とその調整による協働のシステムである。組織デザインのための基本的な考え方について説明できるようになることを目的とする。
【学習の内容】	1. 経営組織の設計 2. 組織デザインの有効性
【キーワード】	事業部制組織、職能別組織、カンパニー制、プロジェクト組織、社内ベンチャー7、官僚制組織、状況適応理論、情報プロセッシング、SECI モデル
【学習の課題】	組織デザインは、組織のパフォーマンスに大きな影響を持つ、組織デザインと組織を取り巻く環境に適応していなければ、組織メンバーのモチベーションがいかに高くとも、膨大なコミュニケーション数の発生が組織メンバーの仕事を非効率にしてしまうことを理解する。
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013 年
【学習する上での留意点】	組織デザインは組織メンバーの人格形成にも大きな影響を及ぼすことに留意する。
13 . テ ー マ	組織の文化と風土について
【学習の目標】	組織がその活動を続けていく際には、組織風土や組織文化の影響を強く受けることを説明できるようになることを目的とする。
【学習の内容】	1. 組織の風土とは何か 2. 組織の文化とは何か 3. 組織文化の浸透と業績 4. 事業変革と組織学習
【キーワード】	組織文化、組織風土、事業変革、仕事環境、浸透メカニズム、組織文化の逆機能、組織学習、学習する組織
【学習の課題】	組織風土と組織文化の相違点について理解する。
【参考文献】	柴田悟一編『組織マネジメントの基礎』東京経済情報出版 2013 年
【学習する上での留意点】	自分が所属する組織の組織風土と組織文化はどのようなものがあるか注意する。

14. テーマ	NPO マネジメントについて (1)
【学習の目標】	NPO 法人 (特定非営利活動法人) が経営を行うために必要な、定義、設立、事業評価のための情報公開などについて説明できるようになることを目的とする。
【学習の内容】	1. 非営利組織とは 2. 特定非営利活動法人の経営 3. 特定非営利活動法人の事業とその評価
【キーワード】	NPO 法人化、ボランティア、特定非営利活動促進法、NPO 法人の管理、CVP(cost-volume-profit analysis)
【学習の課題】	NPO 法人設立の流れについて理解し、NPO 法人の定款にはどのような内容が盛り込まれるかを考えてみる。
【参考文献】	河合・齋藤『NPO マネジメント』放送大学教育振興会 2011 年
【学習する上での留意点】	NPO 法 (特定非営利活動促進法) を確実に理解して、NPO 法人への寄付を促す認定 NPO 法人について留意する。
15. テーマ	NPO マネジメントについて (2)
【学習の目標】	非営利組織が社会に広く受け入れられるには、その目的 (活動理念) を明確にし、その活動の成果を開示する説明責任 (アカウンタビリティ) についてまとめ、発表することができるようになる。
【学習の内容】	1. 非営利組織のアカウンタビリティ 2. 非営利組織の経営改革 3. 非営利組織の課題
【キーワード】	アカウンタビリティ、情報公開、市民への説明、業績評価、PDCA サイクル、地域社会、コミュニティ
【学習の課題】	非営利組織のアカウンタビリティと業績評価について企業のそれとの相違点について考える。
【参考文献】	河合・齋藤『NPO マネジメント』放送大学教育振興会 2011 年
【学習する上での留意点】	非営利組織のアカウンタビリティを考えるために、企業のアカウンタビリティに注意する。

1. 科目名 (単位数)	医療経営特論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5342
2. 授業担当教員	保原 伸弘・富澤 勇貴			
4. 授業形態	講義、演習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	経済学や経営学の基本的知識があること、もしくは同知識の習得意欲があることが望ましい。		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	21 世紀に入って、日本の医療を取り巻く環境は著しく変化し、DPC の導入、新臨床研修制度の導入、国公立病院の法人化など重要な医療システム改革も執り行われている。一方で、医師の地域偏在、医療の需要と供給のミス・マッチ、医療事故報道の急増に伴う医療と社会のコンフリクトが問題になっている。このような複雑な環境の中、医療機関の運営を持続的に行い、安定して良質な医療システムを提供するためには、医療機関の運営に確固たる指針を与えるものが必要であろう。その確固たる指針を与えるものこそ医療経営学である。本講義では、医療経営学が取り上げる代表的なトピックから、前半では戦略論、組織論、財務会計論といった経営学の基本的な概要にそってなされているベーシックとなるものを取り上げる。後半では、日本の医療システムが実際に直面する現実の問題に関し、医療経営学がどのように解決の糸口を見出しているか議論する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療・福祉機関の存立を支える立場としての経営学や経済学的重要性を認識する。</li> <li>2. 現代の医療・福祉機関の運営に必要な公共性と利潤追求とのバランス感覚を養う。</li> <li>3. 一般の企業、公共機関と医療・福祉機関の運営の相違点と類似点を把握する。</li> <li>4. 現在、医療・福祉機関の運営を持続的にやっていく上で、問題となる点を認識する。</li> <li>5. 高齢化などの社会の変化の中で、医療・福祉機関がどのように行われるべきかの考えを持てるようにする。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	15回の講義の中で、数回、医療・福祉機関の経営にかかわる問題に関わるアサイメント (宿題) を課す。また、最終レポートを課す。 レポート課題：現在医療業界で問題となっている事柄の一つあげ、まずその内容と対策を述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 今村知明・康永秀生・井出博生共著『医療経営学(第2版) - 病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』医学書院。 <b>【参考文献】</b> 荻原正英著『病院経営のための財務会計・管理会計 経営改革に役立つ基礎知識』 真野俊樹『新版 医療マーケティング』日本評論社。 植草徹他・堤裕次郎・北沢真紀夫・塚原月子著 『BGC 流病院経営戦略-DPC 時代の医療機関運営』エルゼビア・ジャパン。 柳野順三著『ひと目でわかる病院業界一激変時代の医療・病院事情がわかる』 榊原清則著『経営学入門 上 下』日経文庫、日本経済新聞社。 その他			
11. 成績評価の方法	期末試験、レポート、アサインメント (宿題)、日常の授業態度 (質問等) で評価する。 期末試験 30% レポート・アサインメント 40% 日常の授業態度 (質問等) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理解が不十分な点については、そのまま放置せず、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。</li> <li>2. 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。</li> <li>3. 単に単位を取るための手段としてではなく、将来医療・福祉業務に携わる際に役立つ有効なセンスを磨いてやるという意気込みで講義に臨んでほしい。</li> </ol>			
13. オフィシアワー	別途、通知する。			
14. 学習の展開及び内容	<b>【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】</b>			
1. テーマ	日本の医療システムの現状			
<b>【学習の目標】</b>	日本の医療システムがどのような状況に置かれているか把握する。とりわけ 2003 年度から DPC が導入され、入院医療費の計算方法が病気の種類と診療内容によって分類されたことによる影響を探る。			
<b>【学習の内容】</b>	医師の地域偏在、医療の需要と供給のミス・マッチ、医療事故報道の急増に伴う医療と社会のコンフリクトなど日本の医療システムが直面する課題は多い。また、そのような直面する課題が多いからこそ、その解決や医療機関の運営の方針となる医療経営学の必要性も増したわけである。今回は本格的な医療経営学の学習を前にして、日本医療システムの、現状のデータを踏まえて確認する。とりわけ、DPC (診断群分類包括評価) の導入の影響には注意する。			
<b>【キーワード】</b>	医療システム 国民医療費 DPC (診断群分類包括評価) 医師の地域偏在 医療の需要と供給のミス・マッチ コンフリクト			
<b>【学習の課題】</b>	医療経営学の学習に先立って、日本の医療システムの現状を把握する。			
<b>【参考文献】</b>	教科書 I-2 I-3 参考書 BGC 流病院経営戦略			
<b>【学習する上での留意点】</b>	日本の医療システムの特色を外国の医療システムの特色と比較してしっかり把握すること。			
2. テーマ	医療サービス市場の特性			
<b>【学習の目標】</b>	医療サービス市場の特徴を整理する。			
<b>【学習の内容】</b>	医療サービスというのは一般企業が扱うサービスとは異なり、公共性の伴うものである。しかし、一方で利益の確保への努力を怠ると医療機関は持続的に社会に医療サービスを提供することはできない。公共性と利益獲得のバラ			

	<p>ンスをいかにうまくとって良質の医療サービスを提供していくかを考察することこそ、医療経営学のテーマであった。今回は医療経営学がまさにその研究対象とする医療サービス市場がどのような性質を持つか確認する。</p> <p>【キーワード】 医療サービス市場 医療規制 社会的共通資本</p> <p>【学習の課題】 医療経営学の研究対象となる医療サービス市場の特色をまとめる。</p> <p>【参考文献】 教科書 I-1 参考書 BGC 流病院経営戦略</p> <p>【学習する上での留意点】 医療サービス市場の特色を一般的な財・サービスの市場と比較してまとめる。</p>
3 . テーマ	病院経営の基本戦略と病院運営
	<p>【学習の目標】 病院経営における基本戦略、病院におけるオペレーションの意味を確認する。</p> <p>【学習の内容】 一般企業がとる戦略には、組織全体の変革をも含む全社戦略、個々の事業をいかに展開していくかを問う機能別戦略、およびその双方の戦略のもと組織をどう運営していくかの機能別戦略があるが、病院運営に関してもそういった一般企業がとる戦略の分類が当てはまることを確認する。その中で、日常の病院運営がどう行われるかを考察する。</p> <p>【キーワード】 戦略と戦術の区別 7:1 看護導入 オペレーション</p> <p>【学習の課題】 経営学における基本戦略の着眼が病院経営の基本戦略設定にも役立つことを理解する。病院におけるオペレーションの意味を確認する。</p> <p>【参考文献】 教科書 II-1 II-2 参考書 BGC 流病院経営戦略</p> <p>【学習する上での留意点】 経営学で学ぶ戦略と戦術の区別の意味をここでも意識して学習を進めること。</p>
4 . テーマ	医療機関の財務会計
	<p>【学習の目標】 医療機関の利益管理としての財務会計の有用性を学習する。</p> <p>【学習の内容】 医療機関が持続的に良い医療サービスを提供し続けるには、利益の獲得と両立する医療サービスの内容を吟味する必要がある。達成した利益は財務会計によって明らかになり、利益達成のために何を目的とし管理すればよいかは管理会計によって明らかになる。ここでは継続的な医療機関の運営のための財務会計と管理会計の有用な活用法を模索する。6回と7回に分けて、医療機関における会計の役割を考察する。6回は財務会計が中心となる。</p> <p>【キーワード】 病院経営と会計 病院経営と財務会計 病院会計準則</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営において財務会計がどのように有効かを認識する。</p> <p>【参考文献】 教科書 II-2 参考書 病院経営のための財務会計・管理会計</p> <p>【学習する上での留意点】 財務会計の基礎知識を再確認するとともに、医療機関の会計ではどう適用されるか確認すること。</p>
5 . テーマ	医療機関の管理会計、戦略的意思決定
	<p>【学習の目標】 医療機関の利益管理としての管理会計の有用性を学習する。</p> <p>【学習の内容】 6回に引き続き医療機関における会計の役割を考察する。7回は管理会計が中心となる。管理会計における戦略的意思決定の思考が病院建設そのもの意思決定（施設投資における意思決定）、新しい医療器具導入の意思決定（設備投資の意思決定）にどう活用されるかを考察する。</p> <p>【キーワード】 病院経営と管理会計 病院経営と戦略的意思決定（施設投資、設備投資）</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営において管理会計がどのように有効かを認識する。</p> <p>【参考文献】 教科書 II-2 参考書 病院経営のための財務会計・管理会計</p> <p>【学習する上での留意点】 管理会計の基礎知識を再確認するとともに、医療機関の会計ではどう適用されるか確認すること。</p>
6 . テーマ	医療とマーケティング
	<p>【学習の目標】 マーケティングの思考が公共的機関である医療機関にどう生かされるか考察する。</p> <p>【学習の内容】 近年経営学では、一方的に自社の商品売り込むのではなく、コミュニケーションを通じて消費者を納得させ潜在的な需要を発掘するコミュニケーション・ツールとしてのマーケティング思考の有効性が見直されている。患者の中に医療不信が根強い場合、医療不信を取り除き、安心して医療機関に通院させるという文脈で、マーケティング思考を公共的な医療機関に導入することは有効であろう。ここではコミュニケーション・ツールとしてのマーケティングと医療機関の経営の関係を考察する。</p> <p>【キーワード】 医療マーケティング サービス・マーケティング ソーシャル・マーケティング</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営においてマーケティングの思考がどのように有効かを認識する。</p> <p>【参考文献】 教科書 II-4 参考書 新版 医療マーケティング</p> <p>【学習する上での留意点】 戦略論やマーケティングの基礎知識を確認するとともに、医療機関ではその思考がどう適用されるか確認すること。</p>
7 . テーマ	医療機関の組織と人事
	<p>【学習の内容】 医療機関の過酷な労働条件下、全体的に見て、勤務医や看護師が長年同じ病院にとどまり続けるということは少なくなってきた。一方で安定した医療サービスの提供にあたっては、一定数の優秀な勤務医や看護師の確保が必要条件になる。また、一つの疾病や負傷に複数の医師や看護師が関わる場合、その治療にあたっては、医師相互間の連携や意思の疎通が重要な意味を占める。ここでは、組織論の観点から、優秀な勤務医や看護師の確保に必要なこと、および良質の医療サービスの提供に相応しい組織はいかなるものかを考察する。</p> <p>【キーワード】 人的資本 動機づけ 組織形態（ライン制、事業部制） セカンド・オピニオン</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営において、組織論の思考がどのように有効であることを認識する。</p> <p>【参考文献】 教科書 II-5</p> <p>【学習する上での留意点】 組織論の基礎知識を確認するとともに、医療機関ではその思考がどう適用されるか確認すること。</p>
8 . テーマ	医療安全管理と医療経営（医療安全管理）
	<p>【学習の目標】 医療事故を未然に防ぐために有効な医療安全管理を考察する。</p> <p>【学習の内容】 近年、医療事故の発生急増の問題がマスコミの報道を通じて広く知られることである。人の生死を扱う医療機関の現場というのは、確かに、事故と隣り合わせの場でもある。7回と8回に分けて、医療事故にかかわる問題を取</p>

	<p>り上げる。今回はあらかじめ医療事故を未然に防ぐための医療安全管理を未然に防ぐために有効な医療安全管理の問題を考察する。</p> <p>【キーワード】 医療リスク・マネジメント 医療リスク・コミュニケーション モラルハザード インシデント</p> <p>【学習の課題】 医療事故の防止のため、経営学の伝統的な思考であるマネジメントとリスクの共有が有効であることを理解すること。</p> <p>【参考文献】 教科書 III-1 日本医師会：医療安全管理指針のモデルについて</p> <p>【学習する上での留意点】 医療従事者を問わず人間の行動には失敗はつきものだが、失敗の頻度を下げる方法がすでに開発されていることに注目してほしい。</p>
<p>9 . テー マ</p>	<p>医療安全管理と医療経営（医療事故訴訟対策）</p>
	<p>【学習の目標】 医療事故訴訟の実態とその対策について考察する。</p> <p>【学習の内容】 近年、医療事故の発生はマスコミの報道も含めて急増している。確かに、医療事故を未然に防ぐことに越したことはないが、万が一の時に備えてあらかじめ、医療裁判の内容や医療事故にかかる経費を把握しておくことは、通常の医療業務を安定して遂行する上でも有効なことかもしれない。ここでは、近年の医療事故訴訟の実態やそれにかかる諸費用、およびそれに対する対策などを考察する。</p> <p>【キーワード】 民事上の医療事故訴訟 業務上過失致死罪 インフォームド・コンセント 防衛医療</p> <p>【学習の課題】 医療事故やその訴訟に備えて医療機関はどう対策をとるべきか考察する。</p> <p>【参考文献】 教科書 III-2 日本医師会：医療安全管理指針のモデルについて</p> <p>【学習する上での留意点】 医療事故の対策と医療事故訴訟の対策とは必ずしも一致しないことに留意すること。マスコミが医療事故の問題を大々的に取り上げることは医療サービスの提供にとっていいことであるかどうかを考えること。</p>
<p>10 . テー マ</p>	<p>医師と社会のコンフリクト</p>
	<p>【学習の目標】 医療機関と患者あるいは医療機関と社会との間のコンフリクトとその解消について考察する。</p> <p>【学習の内容】 一般に、医者に診断を受けようとする患者の中には医者や治療および医療機関に対し様々な期待や要求を持つ。それに対し、現実には医者や医療機関が行った医療サービスと患者があらかじめもっていた期待や要求に食い違いがある場合、クレームの対象となる。経営学では会社とそれをとりまく市場、顧客、取引先といった経営環境との間に発生する軋轢のことをコンフリクトという。ここで、コンフリクトの発生や認識は何も悪いことではなく、新たな経営のための指針になりうるという考え方もある。ここでは、現代、医療機関を取り巻く種々のコンフリクトとその発展的解消法について考察する。</p> <p>【キーワード】 医師と患者の関係 医療機関と社会のコンフリクト</p> <p>【学習の課題】 医師と患者の関係および医療機関と社会の関係で問題になる点を把握して、その発展的解消法を探る。</p> <p>【参考文献】 教科書 IV-1</p> <p>【学習する上での留意点】 コンフリクト（軋轢）は組織の運営にとって必ずしも悪いことではないことに注意すること。</p>
<p>11 . テー マ</p>	<p>医師不足と医師のキャリア・パス</p>
	<p>【学習の目標】 医師のキャリア・パスの現状と医師の地域偏在の現状およびそれらの対策を把握する。</p> <p>【学習の内容】 医師の専門性の獲得にとって、国家試験合格後にいかに順当なキャリア・パスを辿るかが重要になる。一方で、日本では出身大学を中心とした医局が独占的に国家試験合格後の就業先を割り振るといった慣行があった。その慣行は医師のキャリア・パスの形成にどのような影響があるか、その問題点を浮き彫りにする。また、医者の就業先として、日本では、例えば都会といったある一定の地域に集中する傾向があり、ある地域では医師の数が過剰で、ある地域では医師の数が不足するといった、医者の地域偏在に伴う問題が顕在化している。これがどのような影響を及ぼすかということと、その解決策についても探る。</p> <p>【キーワード】 新臨床研修制度 医者の地域偏在 医療の需要と供給のミス・マッチ 医局 医師のキャリア・パス</p> <p>【学習の課題】 医療の需要と供給のミス・マッチを解消するため理想となる医師のキャリア・パスは何か。また、医師の地域偏在を減らすためにどのような方策が考えられるか。</p> <p>【参考文献】 教科書 IV-2 吉田あつし『医師のキャリア形成と医師不足』日本労働研究雑誌</p> <p>【学習する上での留意点】 新臨床研修制度がどのような背景で制定され、実際にどう効果をもたらしているか把握すること。</p>
<p>12 . テー マ</p>	<p>手術件数と手術成績の関係</p>
	<p>【学習の目標】 年間手術件数と実際の治療成績の関係について考察する。</p> <p>【学習の内容】 病院の「実力」を測る一つの指標として年間手術件数というものがある。しかし、よくよく考えると、患者が受けるべきサービスは医療サービスの質であり、その病院がもつ手術をはじめとした治療の規模ではない。ここでは病院の「実力」を測る年間手術件数の意味と実際の治療の品質の関係について考察する。</p> <p>【キーワード】 年間手術件数 治療成績 在院死亡率</p> <p>【学習の課題】 年間手術件数は何をあらわすか、実際の治療成績の評価には何が他に必要か、考える。</p> <p>【参考文献】 教科書 IV-3</p> <p>【学習する上での留意点】 なぜ、医療機関が年間手術件数にこだわるか考察すること。</p>
<p>13 . テー マ</p>	<p>混合医療と病院経営</p>
	<p>【学習の目標】 医療サービスの規制緩和の問題として混合医療の問題を考える。</p> <p>【学習の内容】 現在、医療サービスに関わる規制緩和がとり正されているが、その代表的なものとして混合医療の問題を考える。混合医療が認められればどのようなメリットがもたらされるか、そのメリットがあるにもかかわらず、なぜ混合医療が認められないか、今後どう改善していけばよいかについて学習する。</p> <p>【キーワード】 混合医療 健康保険 自己負担 平等な医療サービス 自由診療 評価医療 選定医療</p> <p>【学習の課題】 混合医療とは何か、そのメリットと認めることの問題点、今後の改善点について確認する。</p> <p>【参考文献】 教科書 IV-4 日本医師会：混合医療って何？</p> <p>【学習する上での留意点】 平等な医療サービスの観点からも混合医療を評価すること。</p>

14. テーマ	医療機器の内外価格差、株式会社による病院運営
【学習の目標】	医療サービスの規制緩和の問題として医療機器の内外価格差と株式会社による病院運営の問題を考える。
【学習の内容】	医療サービスに関わる規制緩和に関わる問題として、医療機器の内外価格差の問題と株式会社による病院運営の問題を考える。まず、日本国内と外国とでは医療機器の価格に顕著な差があることを確認する。それを踏まえてその価格差解消の効果および方策を考える。次に、株式会社にいる病院運営については、その達成によるメリット・デメリットを確認する。
【キーワード】	内外価格差 営利性 医療自由化
【学習の課題】	医療機器の内外価格差の規模、その解消の効果、解消へ向けての方策を考える。株式会社による病院運営に関わるメリット、デメリットを考える。
【参考文献】	教科書 IV-4
【学習する上での留意点】	株式会社による病院運営と医療機関の株式会社化とは違うものであることに注意すること。
15. テーマ	最後のまとめ
【学習の目標】	今まで学習してきたことをまとめる。
【学習の内容】	医療サービスの公共性とその提供に伴う利益確保のバランスの必要性を再確認する。
【キーワード】	持続的な医療サービスの提供 医療サービスの公共性 病院運営と経営学
【学習の課題】	この科目で学んだことの振り返り
【参考文献】	教科書全体（特に I-1 I-2 I-3）
【学習する上での留意点】	これまでの学習で理解できたこと、未消化なことを明確に認識し、未消化な点についてはしっかり復習すること。

1. 科目名 (単位数)	医療経営特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5342
2. 授業担当教員	岡田 広司			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	経済学や経営学の基本的知識があること、社会福祉に関する興味があり、その上で医療経営に関心があることが望ましい。		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	超高齢化社会を迎えている 21 世紀に入って、日本の医療を取り巻く環境は著しく変化し、DPC の導入、新臨床研修制度の導入、国公立病院の法人化など重要な医療システム改革も執り行われている。一方で、医師の地域偏在、医療の需要と供給のミス・マッチ、医療事故報道の急増に伴う医療と社会のコンフリクトが問題になっている。このような複雑な環境の中、医療機関の運営を持続的にいき、安定して良質な医療システムを提供するためには、医療機関の運営に確固たる指針を与えるものが必要であろう。その確固たる指針を与えるものこそ医療経営学である。本講義では、医療経営学が取り上げる代表的なトピックから、前半では戦略論、組織論、財務会計論といった経営学の基本的な概要にそってなされているベーシックとなるものを取り上げる。後半では、日本の医療システムが実際に直面する現実の問題に関し、医療経営学がどのように解決の糸口を見出しているか議論する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療・福祉機関の存立を支える立場としての経営学や経済学的重要性を認識する。</li> <li>2. 現代の医療・福祉機関の運営に必要な公共性と利潤追求とのバランス感覚を養う。</li> <li>3. 一般の企業、公共機関と医療・福祉機関の運営の相違点と類似点を把握する。</li> <li>4. 現在、医療・福祉機関の運営を持続的にやっていく上で、問題となる点を認識する。</li> <li>5. 高齢化などの社会の変化の中で、医療・福祉機関がどのように行われるべきかの思考力を持つ。</li> </ol>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	15回の講義の中で、医療・福祉機関の経営・運営に関わるアサインメント (宿題) を課す。また、最終レポートを課す。 レポート課題：現在医療業界で問題となっている事柄の一つあげ、その内容と対策を述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 山内一信他編著『医療経営情報学』同友館。</li> <li>2. 講義内容にあわせ適宜プリントを配布する。</li> </ol> <b>【参考文献】</b> 今村知明・康永秀生・井出博生共著『医療経営学(第2版) -病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』医学書院 植草徹他・堤裕次郎・北沢真紀夫・塚原月子著 『BGC 流病院経営戦略—DPC 時代の医療機関運営』エルゼビア・ジャパン。 岡田広司著『現代マネジメント概論』あるむ。 荻原正英著『病院経営のための財務会計・管理会計 経営改革に役立つ基礎知識』 木村憲洋・的場匡亮・川上智子編著『1からの病院経営』碩学舎。 西田在賢著『ソーシャルビジネスとしての医療経営学』葉事日報社。 真野俊樹『新版 医療マーケティング』日本評論社。			
11. 成績評価の方法	期末試験、レポート、アサインメント (宿題)、日常の授業態度 (質問等) で評価する。 期末試験 40% レポート・アサインメント 30% 日常の授業態度 (質問等) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本講義は各自のもつ課題を進める上で参考にするという姿勢で学習に取り組みたい。</li> <li>2. 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。</li> <li>3. 単に単位を取るための手段としてではなく、将来医療・福祉業務に携わる際に役立つ有効なセンスを磨いてやるという意気込みで講義に臨んでほしい。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	授業中に伝える。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	日本の医療の現状と課題			
<b>【学習の目標】</b> 日本の医療システムがどのような状況に置かれているか把握する。とりわけ 2003 年度から DPC が導入され、入院医療費の計算方法が病気の種類と診療内容によって分類されたことによる影響を探る。				
<b>【学習の内容】</b> 医師の地域偏在、医療の需要と供給のミス・マッチ、医療事故報道の急増に伴う医療と社会のコンフリクトなど日本の医療システムが直面する課題は多い。また、そのような直面する課題が多いからこそ、その解決や医療機関の運営の方針となる医療経営学の必要性も増したわけである。今回は本格的な医療経営学の学習を前にして、日本医療システムの、現状のデータを踏まえて確認する。とりわけ、DPC (診断群分類包括評価) の導入の影響には注意する。				
<b>【キーワード】</b> 医療システム、国民医療費 DPC (診断群分類包括評価) 医師の地域偏在 医療の需要と供給のミス・マッチ				
<b>【学習の課題】</b> 医療経営学の学習に先立って、日本の医療システムの現状を把握する。				
<b>【参考文献】</b> 教科書：第 1 章、参考書：『医療経営学(第2版) -病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.15-39)、『1からの病院経営』(pp.4-14)。				
<b>【学習する上での留意点】</b>				

日本の医療システムの特色を外国の医療システムの特色と比較して学習したい。特に留学生にはその視座から取り組みたい。	
2 . テ ー マ	医療サービスの特性と医療経営
<p>【学習の目標】 医療サービス市場の特徴を整理する。</p> <p>【学習の内容】 医療サービスというのは一般企業が扱うサービスとは異なり、公共性の伴うものである。しかし、一方で利益の確保への努力を怠ると医療機関は持続的に社会に医療サービスを提供することはできない。公共性と利益獲得のバランスをいかにうまくとって良質の医療サービスを提供していくかを考察することこそ、医療経営学のテーマであった。今回は医療経営学がまさにその研究対象とする医療サービス市場がどのような性質を持つか確認する。</p> <p>【キーワード】 医療サービス市場 医療規制 社会的共通資本</p> <p>【学習の課題】 医療経営学の研究対象となる医療サービス市場の特色をまとめる。</p> <p>【参考文献】 教科書:第2章、参考書:『医療経営学(第2版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.2-14)、『1からの病院経営』(pp.84-97)。</p> <p>【学習する上での留意点】 医療サービス市場の特色を一般的な財・サービスの市場と比較してまとめる。</p>	
3 . テ ー マ	病院経営の基本戦略と病院運営
<p>【学習の目標】 病院経営における基本戦略、病院におけるオペレーションの意味を確認する。</p> <p>【学習の内容】 一般企業がとる戦略には、組織全体の変革をも含む全社戦略、個々の事業をいかに展開していくかを問う機能別戦略、およびその双方の戦略のもと組織をどう運営していくかの機能別戦略があるが、病院運営に関してもそういった一般企業がとる戦略の分類が当てはまることを確認する。その中で、日常の病院運営がどう行われるかを考察する。</p> <p>【キーワード】 戦略と戦術の区別 7:1 看護導入 オペレーション</p> <p>【学習の課題】 経営学における基本戦略の着眼点が病院経営の基本戦略設定にも役立つことを理解する。病院におけるオペレーションの意味を確認する。</p> <p>【参考文献】 参考書:『医療経営学(第2版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.42-69)、『1からの病院経営』(pp.4-14)。</p> <p>【学習する上での留意点】 経営学で学ぶ戦略的思考を意識して学習を進めること。</p>	
4 . テ ー マ	病院の会計・財務と経営分析
<p>【学習の目標】 病院の利益管理としての財務会計の有用性を学習する。</p> <p>【学習の内容】 医療機関が持続的に良い医療サービスを提供し続けるには、利益の獲得と両立する医療サービスの内容を吟味する必要がある。達成した利益は財務会計によって明らかになり、利益達成のために何を目的とし管理すればよいかは管理会計によって明らかになる。ここでは継続的な医療機関の運営のための財務会計と管理会計の有用な活用法を模索する。6回と7回とに分けて、医療機関における会計の役割を考察する。6回は財務会計が中心となる。</p> <p>【キーワード】 病院経営と会計 病院経営と財務会計 病院会計準則</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営において財務会計がどのように有効かを認識する。</p> <p>【参考文献】 教科書:第7章、参考書:『ソーシャルビジネスとしての医療経営学』(pp.155-180)</p> <p>【学習する上での留意点】 会計・財務、経営分析の基礎知識を確認するとともに、医療機関の会計ではどう適用されるか確認すること。</p>	
5 . テ ー マ	病院の管理会計と利益管理
<p>【学習の目標】 医療機関の利益管理としての管理会計の有用性を学習する。</p> <p>【学習の内容】 6回に引き続き医療機関における会計の役割を考察する。7回は管理会計が中心となる。管理会計における戦略的意思決定の思考が病院建設そのもの意思決定(施設投資における意思決定)、新しい医療器具導入の意思決定(設備投資の意思決定)にどう活用されるかを考察する。</p> <p>【キーワード】 病院経営と管理会計 病院経営と戦略的意思決定(施設投資、設備投資)</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営において管理会計がどのように有効かを認識する。</p> <p>【参考文献】</p>	

<p>教科書：第 7 章、 参考書：『医療経営学(第 2 版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.75-105)</p> <p>【学習する上での留意点】 管理会計及び利益管理の基礎知識を確認するとともに、病院の会計ではどう適用されるか確認すること。</p>	
6 . テ ー マ	医療とマーケティング
<p>【学習の目標】 経営学におけるマーケティングの思考が公共的機関である医療機関にどう生かされるか考察する。</p> <p>【学習の内容】 近年経営学では、一方的に自社の商品を売り込むのではなく、コミュニケーションを通じて消費者を納得させ潜在的な需要を発掘するコミュニケーション・ツールとしてのマーケティング思考の有効性が見直されている。患者の中に医療不信が根強い場合、医療不信を取り除き、安心して医療機関に通院させるという文脈で、マーケティング思考を公共的な医療機関に導入することは有効であろう。ここではコミュニケーション・ツールとしてのマーケティングと医療機関の経営の関係を考察する。</p> <p>【キーワード】 医療マーケティング サービス・マーケティング ソーシャル・マーケティング</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営においてマーケティングの思考がどのように有効かを認識する。</p> <p>【参考文献】 参考書：『医療経営学(第 2 版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.125-137)、『1 からの病院経営』(pp. 102-120)。</p> <p>【学習する上での留意点】 経営戦略やマーケティング戦略の基礎知識を確認するとともに、医療機関ではその思考がどう適用されるか確認すること。</p>	
7 . テ ー マ	病院の組織と人的資源管理
<p>【学習の内容】 医療機関の過酷な労働条件下、全体的に見て、勤務医や看護師が長年同じ病院にとどまり続けるということは少なくなってきている。一方で安定した医療サービスの提供にあたっては、一定数の優秀な勤務医や看護師の確保が必要条件になる。また、一つの疾病や負傷に複数の医師や看護師が関わる場合、その治療にあたっては、医師相互間の連携や意思の疎通が重要な意味を占める。ここでは、組織論の観点から、優秀な勤務医や看護師の確保に必要なこと、および良質の医療サービスの提供に相応しい組織はいかなるものかを考察する。</p> <p>【キーワード】 人的資本 動機づけ 組織形態(ライン制、事業部制) セカンド・オピニオン</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営において、組織論の思考がどのように有効であることを認識する。</p> <p>【参考文献】 教科書：第 3 章及び第 5 章、 参考書：『医療経営学(第 2 版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.138-156)、『1 からの病院経営』(pp.122-140)。</p> <p>【学習する上での留意点】 経営組織の基礎知識を確認するとともに、医療機関ではその思考がどう適用されるか確認すること。</p>	
8 . テ ー マ	医療の評価及び医療安全管理と医療経営(医療安全管理)
<p>【学習の目標】 医療事故を未然に防ぐために有効な医療安全管理を考察する。</p> <p>【学習の内容】 近年、医療事故の発生急増の問題がマスコミの報道を通じて広く知られることである。人の生死を扱う医療機関の現場というのは、確かに、事故と隣り合わせの場でもある。7 回と 8 回とに分けて、医療事故にかかわる問題を取り上げる。今回はあらかじめ医療事故を未然に防ぐための医療安全管理を未然に防ぐために有効な医療安全管理の問題を考察する。</p> <p>【キーワード】 医療リスク・マネジメント 医療リスク・コミュニケーション モラルハザード インシデント</p> <p>【学習の課題】 医療事故の防止のため、経営学の伝統的な思考であるマネジメントとリスクの共有が有効であることを理解すること。</p> <p>【参考文献】 教科書：第 9 章、 参考書：『医療経営学(第 2 版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.158-168)。</p> <p>【学習する上での留意点】 医療従事者における失敗に関する考え方を明確にしておく。失敗の頻度を下げる方法がすでに開発されていることに注目する。</p>	
9 . テ ー マ	医療安全管理と医療事故訴訟対策
<p>【学習の目標】 医療事故訴訟の実態とその対策について考察する。</p> <p>【学習の内容】 近年、医療事故の発生はマスコミの報道も含めて急増している。確かに、医療事故を未然に防ぐことに越したことはないが、万が一の時に備えてあらかじめ、医療裁判の内容や医療事故にかかる経費を把握しておくことは、通常の医療業務を安定して遂行する上でも有効なことかもしれない。ここでは、近年の医療事故訴訟の実態やそれにかかる諸費用、およびそれに対する対策などを考察する。</p> <p>【キーワード】 民事上の医療事故訴訟 業務上過失致死罪 インフォームド・コンセント 防衛医療</p> <p>【学習の課題】 医療事故やその訴訟に備えて医療機関はどうか対策をとるべきかを考察する。</p> <p>【参考文献】</p>	

<p>教科書：第 10 章、参考書：『医療経営学(第 2 版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.169-185)、</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 医療事故の対策と医療事故訴訟の対策とは必ずしも一致しないことに留意すること。マスコミが医療事故の問題を大々的に取り上げることは医療サービスの提供にとっていいことであるかどうかを考えること。</p>	
10. テーマ	医療従事者と社会のコンフリクト
<p><b>【学習の目標】</b> 医療機関と患者あるいは医療機関と社会との間のコンフリクトとその解消について考察する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 一般に、医者に診断を受けようとする患者の中には医者や治療および医療機関に対し様々な期待や要求を持つ。それに対し、現実には医者や医療機関が行った医療サービスと患者があらかじめもっていた期待や要求に食い違いがある場合、クレームの対象となる。経営学では会社とそれを取りまく市場、顧客、取引先といった経営環境との間に発生する軋轢のことをコンフリクトという。ここで、コンフリクトの発生や認識は何も悪いことではなく、新たな経営のための指針になりうるという考え方もある。ここでは、現代、医療機関を取り巻く種々のコンフリクトとその発展的解消法について考察する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 医師と患者の関係 医療機関と社会のコンフリクト</p> <p><b>【学習の課題】</b> 医師と患者の関係および医療機関と社会の関係で問題になる点を把握して、その発展的解消法を探る。</p> <p><b>【参考文献】</b> 参考書：『医療経営学(第 2 版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.169-185)、『ソーシャルビジネスとしての医療経営学』(pp.129-154)</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 組織経営にはコンフリクトは必ずついて回るものであり、必ずしも悪いことではなく組織人の成長につながる。</p>	
11. テーマ	医師不足の現状と医師のキャリア・パス
<p><b>【学習の目標】</b> 医師のキャリア・パスの現状と医師の地域偏在の現状およびそれらの対策を把握する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 医師の専門性の獲得にとって、国家試験合格後にいかに順当なキャリア・パスを辿るかが重要になる。一方で、日本では出身大学を中心とした医局が独占的に国家試験合格後の就業先を割り振るといった慣行があった。その慣行は医師のキャリア・パスの形成にどのような影響があるか、その問題点を浮き彫りにする。また、医者就業先として、日本では、例えば都会といったある一定の地域に集中する傾向があり、ある地域では医師の数が過剰で、ある地域では医師の数が不足するといった、医者の地域偏在に伴う問題が顕在化している。これがどのような影響を及ぼすかということと、その解決策についても探る。</p> <p><b>【キーワード】</b> 新臨床研修制度 医者の地域偏在 医療の需要と供給のミス・マッチ 医局 医師のキャリア・パス</p> <p><b>【学習の課題】</b> 医療の需要と供給のミス・マッチを解消するため理想となる医師のキャリア・パスは何か。また、医師の地域偏在を減らすためにどのような方策が考えられるか。</p> <p><b>【参考文献】</b> 参考書：『医療経営学(第 2 版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.200-221)、『ソーシャルビジネスとしての医療経営学』(pp.155-180)</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 新臨床研修制度がどのような背景で制定され、実際にどう効果をもたらしているか把握すること。</p>	
12. テーマ	医療システムを支える技術基盤、手術件数と治療成績
<p><b>【学習の目標】</b> 年間手術件数と実際の治療成績の関係について考察する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 病院の「実力」を測る一つの指標として年間手術件数というものがある。しかし、よくよく考えると、患者が受けるべきサービスは医療サービスの質であり、その病院がもつ手術をはじめとした治療の規模ではない。ここでは病院の「実力」を測る年間手術件数の意味と実際の治療の品質の関係について考察する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 年間手術件数 治療成績 在院死亡率</p> <p><b>【学習の課題】</b> 年間手術件数は何をあらわすか、実際の治療成績の評価には何が他に必要か、考える。</p> <p><b>【参考文献】</b> 教科書：第 10 章及び第 11 章、参考書：『医療経営学(第 2 版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.200-221)、</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> なぜ、医療機関が年間手術件数にこだわるのか、そして治療成績との関係を考察すること。</p>	
13. テーマ	混合医療と病院経営
<p><b>【学習の目標】</b> 医療サービスの規制緩和の問題として混合医療の問題を考える。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 現在、医療サービスに関わる規制緩和がとり正されているが、その代表的なものとして混合医療の問題を考える。混合医療が認められるならどの様なメリットがもたらされるか、そのメリットがあるにもかかわらず、なぜ混合医療が認められないか、今後どう改善して行けばよいかについて学習する。</p>	

	<p><b>【キーワード】</b> 混合医療 健康保険 自己負担 平等な医療サービス 自由診療 評価医療 選定医療</p> <p><b>【学習の課題】</b> 混合医療とは何か、そのメリットと認めることの問題点、今後の改善点について確認する。</p> <p><b>【参考文献】</b> 参考書：『医療経営学(第2版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.231-238)。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 平等な医療サービスの観点からも混合医療を評価すること。</p>
<p>14. テーマ</p>	<p>医療機器の内外価格差、及び医療サービスの規制緩和、株式会社による病院運営</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 医療サービスの規制緩和の問題として医療機器の内外価格差と株式会社による病院運営の問題を考える。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 医療サービスに関わる規制緩和に関わる問題として、医療機器の内外価格差の問題と株式会社による病院運営の問題を考える。まず、日本国内と外国とでは医療機器の価格に顕著な差があることを確認する。それを踏まえてその価格差解消の効果および方策を考える。次に、株式会社にいる病院運営については、その達成によるメリット・デメリットを確認する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 内外価格差 営利性 医療自由化</p> <p><b>【学習の課題】</b> 医療機器の内外価格差の規模、その解消の効果、解消へ向けての方策を考える。株式会社による病院運営に関わるメリット、デメリットを考える。</p> <p><b>【参考文献】</b> 参考書：『医療経営学(第2版)－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』(pp.231-241)。『ソーシャルビジネスとしての医療経営学』(pp.199-243)。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 医療の自由化がもたらす課題を把握する。株式会社による病院運営の課題を考察すること。</p>
<p>15. テーマ</p>	<p>総まとめ</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 今まで学習してきたことをまとめる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 医療サービスの公共性とその提供に伴う利益確保のバランスの必要性を再確認する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 持続的な医療サービスの提供 医療サービスの公共性 病院運営と経営学</p> <p><b>【学習の課題】</b> 本科目で学んだことのポイントの再確認</p> <p><b>【参考文献】</b> 教科書：山内一信他編著『医療経営情報学』同友館の全体、配布プリント</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> これまでの学習で理解できたこと、理解できなかった内容を明確にして、理解できなかった点についてはしっかり復習すること。</p>

1. 科目名 (単位数)	医療経済特論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5349
2. 授業担当教員	保原 伸弘・富澤 勇貴			
4. 授業形態	講師における講義、学生の発表、学生間の討論など		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	経済学の基礎的素養があることが望ましいが、講義内で逐次学生のレベルに合わせて教授していくつもりであるから必ずしも必須ではない。ただし、素養習得の意欲は必須である。		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	21 世紀に入って、日本の医療を取り巻く環境は著しく変化し、DPC の導入、新臨床研修制度の導入、国公立病院の法人化など重要な医療システム改革も執り行われている。一方で、医師の地域偏在、医療の需要と供給のミス・マッチ、医療事故報道の急増に伴う医療と社会のコンフリクトが問題になっている。このような複雑な環境の中、医療機関の運営を持続的にいき、安定して良質な医療システムを提供するためには、医療機関の運営に確固たる指針を与えるものが必要であろう。その確固たる指針を与えるものこそ医療経済学である。本講義では、今日の医療機関が抱える様々な問題を経済学 (特にミクロ経済学) の考え方を踏まえて学習する。それにより日本の医療システムが実際に直面する現実の問題に関し、医療経済学がどのように解決の糸口を見出しているか議論する。また、本講義を受講することにより、経済学 (特にミクロ経済学) の考え方が自然と身につくことを期待されたい。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療・福祉機関の存立を支える立場としての経済学の重要性を認識する。</li> <li>2. 現代の医療・福祉機関の運営に必要な公共性と利潤追求とのバランス感覚を養う。</li> <li>3. 一般の財・サービスと医療・福祉機関が生み出すサービスとの間の相違点と類似点を把握する。</li> <li>4. 現在、医療・福祉機関の運営を持続的にやっていく上で、問題となる点を認識する。</li> <li>5. 高齢化などの社会の変化の中で、医療・福祉機関がどのように行われるべきかの考えを持てるようにする。</li> </ol>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	15回の講義の中で、数回、医療経済学にかかわる問題に関わるアサインメント (宿題) を課す。また、最終レポートを課す。 レポート課題：現在医療業界で問題となっている事柄の一つあげ、まずその内容と対策を経済学の始点を踏まえて、叙述・議論しなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 漆博雄著『医療経済学』東京大学出版会 【参考文献】 牛越博文『医療経済学入門』岩波書店 柳野順三著『ひと目でわかる病院業界—激変時代の医療・病院事情がわかる』			
11. 成績評価の方法	最終レポート、アサインメント (宿題)、日常の授業態度 (質問、出席状況等) で評価する。 最終レポート 40% アサインメント 30% 日常の授業態度 (質問、出席状況等) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 理解が不十分な点については、そのまま放置せずに、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。</li> <li>5. 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。</li> <li>6. 単に単位を取るための手段としてではなく、将来医療・福祉業務に携わる際に役立つ有効なセンスを磨いてやるという意気込みで講義に臨んでほしい。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	別途、通知する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	日本の医療保険制度と国民医療費			
【学習の目標】	日本の国民医療費や医療保険制度がどのような状況に置かれているか把握する。それぞれの推移を把握するとともに、資源の効率性と稀少性から保険をどのようにそれらに関わっていけば良いかを把握する。また、医療サービスが他の財やサービスとどのように異なった特徴を持つか確認する。機会費用、完全競争、消費者主権といった経済学の概念も学習する。			
【学習の内容】	日本の国民医療費と医療保険制度の現状を把握する。医療サービスを経済学的な視点から分析するのに必要な機会費用、不確実性、消費者主権といった概念を把握する。			
【キーワード】	国民医療費 医療保険制度 資源の稀少性と効率性 機会費用 不確実性 消費者主権 完全競争 資源配分			
【学習の課題】	医療経済学の学習に先立って、日本の医療システムの現状を把握する。また経済学の基本的な考え方に触れる			
【参考文献】	教科書 1 章			
【学習する上での留意点】	日本の国民医療費や医療保険制度の特色をしっかりと把握すること。経済学の基本的な考え方をしっかりと把握すること。			
2. テーマ	医療サービスの需要			
【学習の目標】	医療サービスの需要の特徴を整理する。			
【学習の内容】	まず、医療サービスの需要の担い手である、消費者行動を学習する。効用、予算制約、需要の弾力性、厚生分析といった一般の財やサービスの消費にもあてはまる概念を学習する。その上で、公共性という一般の財やサービスと異なった特徴を持つ医療サービス独特の需要の弾力性の問題、医療保険を課すことによって生じる厚生損失の問題を取り扱う。さらに、医療サービス独特の需要や消費を特徴づけたグロスマンモデルを紹介する。			
【キーワード】	効用 予算制約 需要の弾力性 厚生損失 医療保険 公共性 グロスマンモデル			
【学習の課題】	医療経営学の研究対象となる医療サービスの需要の特徴を学習する。			
【参考文献】	教科書 2 章			
【学習する上での留意点】	医療サービスの需要の特色を一般的な財・サービスの市場と比較してまとめる。			
3. テーマ	医師誘発需要			
【学習の目標】	医師と患者の間で情報の非対称性が生じうる医療サービスに発生しうる医師誘発需要に関して学習する。			

<p>【学習の内容】 医療サービスはいくら治療に尽力しても成果として結びつかない場合もある。すなわち、サービス内容と成果とがクリアーに対応できない特徴を持つ。このような医療サービスに関わる不確実性を前にして、医師が患者の意向を無視して、必要のない医療サービスを実施する場合もある。これを医師誘発需要という。まず、医師誘発需要とは何かに関して、不確実性、情報の非対称性、プリンシパル・エージェント関係といった経済学の概念も使って整理する。その上で、実際に医師誘発需要が観察されるかを実証分析する。</p> <p>【キーワード】 医師誘発需要 不確実性 情報の非対称性 プリンシパル・エージェント関係</p> <p>【学習の課題】 医師と患者の間で情報の非対称性が生じうる医療サービスに発生しうる医師誘発需要に関して学習する。合わせて、不確実性、情報の非対称性、プリンシパル・エージェント関係といった経済学の概念も整理する。</p> <p>【参考文献】 教科書 3章</p> <p>【学習する上での留意点】 医師誘発需要および、不確実性、情報の非対称性、プリンシパル・エージェント関係といった経済学の概念をしっかりと理解すること。</p>	
4 . テ ー マ	医療保険
<p>【学習の目標】 医療保険制度の存在理由を経済学的視点に立って学習する。また保険にまつわるモラルハザード、逆選択といった問題も考察する。</p> <p>【学習の内容】 医療サービスは第3回で学習したように、結果として生じうる成果も不確実であるが、いつそのサービスを必要とするかどうかという意思決定の段階においても不確実が伴う。このため、医療保険制度が存在する。現代社会には、医療サービスのみならず、様々な保険制度が存在する。今回はそのような保険制度に経済学ではどのような分析がなされているか学習する。また、保険に加入することによって生じる、モラルハザード、逆選択といった問題も考察する。最後にそれらの分析的視点を踏まえ、現行の医療保険制度にどのような問題点があるか、学習する。</p> <p>【キーワード】 医療保険制度 不確実性 保険の経済学 モラルハザード 逆選択</p> <p>【学習の課題】 医療機関の経営において財務会計がどのように有効かを認識する。</p> <p>【参考文献】 教科書 4章</p> <p>【学習する上での留意点】 医療保険制度の存在理由を経済学的視点に立って再確認するとともに、保険にまつわるモラルハザード、逆選択といった問題も考察する。</p>	
5 . テ ー マ	病院の市場行動
<p>【学習の目標】 医療機関の市場行動モデルを学習する。</p> <p>【学習の内容】 医療機関は一般の営利追求企業と違って、非営利性、公共性をももつ。そのような医療機関が市場に存在する理由を市場の失敗、公共財、情報の不確実性といった経済学の観点から考察する。さらに、それらを踏まえて、一般企業の利潤追求モデルとの比較で、医療機関の市場行動モデルはどのようなかを考察する。</p> <p>【キーワード】 市場の失敗、公共財、情報の不確実性 利潤追求モデル 医療機関の市場行動モデル</p> <p>【学習の課題】 医療機関の市場行動モデルとともに、市場の失敗、公共財、情報の不確実性といった経済学の概念を学習する。</p> <p>【参考文献】 教科書 5章</p> <p>【学習する上での留意点】 医療機関の市場行動モデルを一般企業の利潤追求モデルとの比較によりしっかりと把握すること。</p>	
6 . テ ー マ	医療技術の進歩と伝播
<p>【学習の目標】 医療サービスの生産活動を伝統的な経済学の生産関数を使って分析する。</p> <p>【学習の内容】 一般に経済学では生産に貢献する要素を、資本、労働、技術進歩に分け、考察する。医療サービスでもこの枠組みがうまく適合できる。その点をまず、生産等量曲線、費用最小化問題といった経済学の概念も踏まえて確認する。その上で、医療技術の進歩がどのように特徴づけられるかを確認する。さらに医療技術の進歩に伴う医療費の変化の問題、医療技術の伝播の問題、The small Area Variation 現象といった問題を取り扱う。</p> <p>【キーワード】 技術限界代替率 等生産量曲線 医療費を減少（増大）させる技術進歩 Big (Little)/Ticket 技術 医療技術の伝播 The small Area Variation 現象</p> <p>【学習の課題】 医療サービスの生産活動を伝統的な経済学の生産関数を使ってクリアーにする。合わせて、生産関数、生産等量曲線、費用最小化問題といった経済学の概念もマスターする。</p> <p>【参考文献】 教科書 6章</p> <p>【学習する上での留意点】 医療サービスの技術進歩が必ずしも医療費の低減に反映しないことに注意すること。Big (Little)/Ticket 技術や The small Area Variation 現象といった医療サービス独特の概念にも注意すること。</p>	
7 . テ ー マ	医療スタッフの労働市場
<p>【学習の目標】 医療機関における今日的な問題を労働市場の枠組みを使って考察する。</p> <p>【学習の内容】 資本、生産技術に続く、生産要素である、労働について学習する。伝統的な経済学でそのまま考察可能な部分と、医療サービス独特の変形を行った上で考察ができる部分にわけて分析する。医師や患者の不足、医療スタッフの教育という今日的なテーマが経済学を使ってどのように分析できるか確認する。</p> <p>【キーワード】 労働需要 労働供給 需要独占 人的資本 訓練投資 医局制度</p> <p>【学習の課題】 医療機関における医師不足、医療スタッフの教育といった今日的な問題を労働需要、労働供給、需要独占、人的資本、訓練投資といった経済学の概念を使ってクリアーにする。</p> <p>【参考文献】 教科書 7章</p> <p>【学習する上での留意点】 労働市場の基礎知識を確認するとともに、医療サービスではその思考がどう適用されるか確認すること。</p>	
8 . テ ー マ	医療サービス生産の計量分析
<p>【学習の目標】 医療サービスの生産活動がいかに計量分析できるかを確認する。</p> <p>【学習の内容】 医療サービスの生産活動も一般の財やサービスにおける生産活動と同様、計量分析が可能であることを確認する。その場合、規模の経済、範囲の経済、生産要素間の代替可能性、生産フロンティアといった伝統的な経済学の概念が可能であることを確認する。しかし、不確実性の伴う医療サービスの場合、生産フロンティアを一意に確定するのではなく、確率的に変動する事態も織り込む分析（確率的生産フロンティア）も有効であることを確認する。</p> <p>【キーワード】 規模の経済 範囲の経済 生産要素間の代替可能性 生産フロンティア 確率的生産フロンティア</p> <p>【学習の課題】 医療サービスの生産活動の計量分析手法を確認するとともに、規模の経済、範囲の経済、生産要素間の代替可能性、生産フロンティア、確率的生産フロンティアといった経済学の諸概念もマスターする。</p> <p>【参考文献】 教科書 8章</p> <p>【学習する上での留意点】 医療サービスにまつわる不確実性がここでもどのように分析されるか確認すること。</p>	

9 . テ ー マ	医療サービスの経済的評価
【学習の目標】	結果に不確実性が伴う医療サービスの適切な評価法を探る。
【学習の内容】	医療サービスはいくら治療に尽力しても成果として結びつかない場合もあり、結果に不確実性が伴うサービスと位置づけられる。そのため、通常の財・サービスとは異なった独自の評価法が必要になる。まずは、伝統的な経済学ではどのように経済活動を評価するかを学び、その上で医療サービス独特の評価法を QOL(Quality of Life)という概念も導入して確認する。
【キーワード】	費用・便益分析 費用・効果分析 QOL(Quality of Life) スタンダード・ギャンプル タイム・トレードオフ
【学習の課題】	結果に不確実性が伴う医療サービスの適切な評価法を伝統的な経済活動の評価法との比較で学ぶ。
【参考文献】	教科書 9章
【学習する上での留意点】	結果に不確実性が伴う医療サービスの適切な評価をするのにどのような工夫がなされるか注意すること。
10 . テ ー マ	医療における競争と規制
【学習の目標】	不確実性が伴い、また公共性や外部性をもつ医療サービスにおける規制の合理性を考察する。
【学習の内容】	通常の財・サービスにおいて、経済学では一般的に、競争の促進を唱え、また政府等における規制を最小限にすることを唱える。この考え方を成果に不確実性が伴い、また公共性や外部性をもつ医療サービスにそのまま適用しようとすると様々な不都合が生じる場合がある。まずは、政府が規制を施す経済的合理性を確認した後、医療サービスにおける規制の合理性および規制が対象となる場面について学習する。
【キーワード】	公共財 外部性 免許制度 参入障壁 価格規制 診療報酬制度
【学習の課題】	医療サービスにおける様々な規制には合理的根拠があったということを経済学の概念を使って確認する。
【参考文献】	教科書 10章
【学習する上での留意点】	様々な経済学の概念が出てくるから、それについてももしっかり把握すること。
11 . テ ー マ	高齢者医療の経済分析
【学習の目標】	高齢化の実情とそれを支える諸制度の問題を考察する。
【学習の内容】	高齢化は日本をはじめとする先進国では今日的大問題である。高齢化の進行とともに医療サービスの必要性がますます高まることになるが、まずはその現状について確認する。さらに高齢者独特の医療問題を高齢者の所得・資産構成の分析も踏まえて考察する。その上で、所得移転としての医療保険や介護保険の必要性を世代会計という概念を踏まえて学習する。
【キーワード】	高齢化 高齢者の健康特性 高齢者の医療需要 所得移転 介護保険 世代会計
【学習の課題】	今日的大テーマである高齢化の進行を踏まえて、高齢化対策としてどのような保険制度が望ましいか考察する。
【参考文献】	教科書 11章
【学習する上での留意点】	所得移転、世代会計といった考え方についても注意すること。
12 . テ ー マ	介護保険
【学習の目標】	介護の実情とそれを支える介護保険の問題を考察する。
【学習の内容】	高齢化は日本をはじめとする先進国では今日的大問題である。高齢化の進行とともに介護の必要性がますます高まることになるが、まずはその現状について確認する。次に、現金給付か現物給付か、あるいは家族介護にも給付すべきかといった給付方法、給付対象について考察する。さらに介護保険の対象とする介護施設におけるマンパワーの問題、介護保険の運営主体の問題を公平性の始点から考察する。
【キーワード】	介護保険 給付対象 給付方法 マンパワー 保険者 公平性
【学習の課題】	介護保険の範囲（方法、手法）や運営方法を公平性をも踏まえて議論する。
【参考文献】	教科書 12章
【学習する上での留意点】	公平性の観点過多より適切な介護の在り方を考えること。
13 . テ ー マ	医療システムの国際比較
【学習の目標】	医療サービスの国際間を通じて、それぞれの国の特徴を把握する。
【学習の内容】	現在、日本がかかえる医療サービスの現状は、先進国間の比較を通じて明らかにされる場合もある。それを踏まえて、OECD諸国間での医療システム、医療支出、医療成果の比較を行う。それにより日本の医療サービスの特色を浮かびあがらせる。
【キーワード】	保険制度 補助金 医療サービスの価格 乳児死亡率 平均寿命 国内総生産
【学習の課題】	医療サービスの国際間比較を通じて、日本の医療サービスの特徴を明らかにする。
【参考文献】	教科書 13章
【学習する上での留意点】	国際間比較に必要な様々な概念にも注意すること。
14 . テ ー マ	予備日とこれまでのまとめ①
【学習の目標】	今まで学習してきたことをまとめる。
【学習の内容】	医療サービスの公共性とその提供に伴う利益確保のバランスの必要性を再確認する。
【キーワード】	持続的な医療サービスの提供 医療サービスの公共性 病院運営と経済学
【学習の課題】	この科目で学んだことの振り返り
【参考文献】	教科書全体
【学習する上での留意点】	これまでの学習で理解できたこと、未消化なことを明確に認識し、未消化な点についてはしっかり復習すること。
15 . テ ー マ	予備日とこれまでのまとめ②
【学習の目標】	今まで学習してきたことをまとめる。
【学習の内容】	医療サービスの公共性とその提供に伴う利益確保のバランスの必要性を再確認する。
【キーワード】	持続的な医療サービスの提供 医療サービスの公共性 病院運営と経済学
【学習の課題】	この科目で学んだことの振り返り
【参考文献】	教科書全体
【学習する上での留意点】	これまでの学習で理解できたこと、未消化なことを明確に認識し、未消化な点についてはしっかり復習すること。

1. 科目名 (単位数)	オーガニゼーション特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5345
2. 授業担当教員	岡田 広司			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッションを伴ったものにする。授業担当教員が実践した新事業推進組織の事例を加えるため、企業視察なども取り入れる。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>現代社会においてオーガニゼーション、つまり組織はあらゆるところに存在し、それがなくては私たちの生活や事業が成り立たないものとなっている。また、高い効率を達成するためには組織的な管理・運用が必要である。</p> <p>本講義ではオーガニゼーションの基礎から、環境に組み込まれた組織、組織構造のデザインと組織文化、プロセス、組織のダイナミクス、非営利組織など幅広いオーガニゼーションの学習を進めながら、受講者の関心があり、深く関係する領域については、さらに深く学習する。</p> <p>組織論は、経営管理論と経営戦略論さらには事業創造論との関連が深いので、それらの学習を組み込み、受講者の身近で実践的課題を取り上げながら講義を進め、常に社会の実践活動で役に立つ視点からの講義を進める。</p> <p>授業の進め方は、教科書は特に指定することなく、各授業回でテーマに沿った講義資料を提供し、ディスカッションを含めて学習する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オーガニゼーションの枠組みや役割についての基礎的理論を理解する。</li> <li>2. 基礎的理論を基に実践的な経営戦略や経営管理の中で、オーガニゼーションを活用する力を育成する。</li> <li>3. 福祉、介護、医療関連などを中心とした経営組織で活用できる創造力を育成する。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14. 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特に指定しない。毎回、参考資料を配布する。</p> <p>【参考文献】 桑田幸太郎・田尾雅夫著 (有斐閣アルマ) 『組織論』有斐閣、2011 年。          稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝 (有斐閣アルマ) 『経営組織』有斐閣、2012 年。          岡田広司編著『戦略的イノベーションの経営』あるむ、2007 年。          岡田広司編著『マーケティング理論と市場戦略』あるむ、2007 年。          岡田広司著『商品開発とビジネス戦略』あるむ、2005 年。          真野俊樹著『医療マネジメント』日本評論社、2008 年。          西村和人著『介護施設の人事・労務管理と就業規則』日本法令、2011 年。          稲葉元吉著『組織論の日本的展開、サイモン理論を其軸として』中央経済社、2010 年。          ロバート・サイモンズ著『戦略実現の組織デザイン』中央経済社、2008 年。</p>			
11. 成績評価の方法	レポート提出 60% 授業参加態度 30% 授業準備 10%			
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生が背景とする組織は多種に及ぶと思われます。オーガニゼーションの基礎理論や現実の課題を考察しながら、受講生の関心のある課題についてさらに学習を深めます。また、学習に当たっては、授業担当教員が長年企業で取り組んだ組織活動の事例、産学官連携の中で進めてきたバリアフリーの研究などの事例を導入して、実践的で有効的な講義にする。</p> <p>受講生が社会で組織の経営や戦略的に経営管理を考える場合に役立つ授業にしたいと考えている。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	オーガニゼーションの定義と学ぶ意義			
	<p>【学習の目標】 オーガニゼーションの基本的構成要素を理解し、現代社会に生きるなかでこの学問を学ぶ必要があるかを理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業、病院、大学、自治体、労働組合、或いはボランティア団体などの遍在性、組織の高度化や複雑性を学習する。</li> <li>2. オーガニゼーションが個人や社会に与える影響、また消費者として、組織内部の参加者としての役割を学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 組織の時代、組織と現代社会、市場メカニズム</p> <p>【学習の課題】 オーガニゼーション内部の参加者としての経営管理者のあり方</p> <p>【参考文献】 担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。以下、各テーマとも同じ。</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の知る範囲で、身近なオーガニゼーションとの比較をして、関心を持って考察を深める。</p>			
2. テーマ	組織均衡と組織論の概念			
	<p>【学習の目標】 組織均衡論を解説し、それに基づいてオーガニゼーションの有効性や効率性、その限界などを理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織均衡論と組織の有効性と能率、オープニングシステムとしてのオーガニゼーションを学習する。</li> <li>2. オーガニゼーションが存続するための要件、構造概念、短期適応と長期適応の考え方を学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 組織均衡と組織の存続、オープンシステムとしての組織</p> <p>【学習の課題】 組織均衡論が基本的枠組みとする内部環境と外部環境、ミクロ的課題とマクロ的課題に注目する。</p> <p>【参考文献】 担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 組織均衡論の概念をつかむ。これまでに各自が関わった組織と個人との関係などを事例として考察したい。</p>			
3. テーマ	オーガニゼーションの戦略的選択			
	<p>【学習の目標】 オーガニゼーションが経営資源や環境に合理的に適応する戦略的選択の理論を理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織理論の基本的定理と組織による経営環境の戦略的選定、企業ドメインの戦略決定を学習する。</li> <li>2. 組織ドメイン、事業ドメインを生かした市場浸透戦略、市場開拓戦略など、市場戦略を学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 経営戦略、事業ドメイン、マーケティング戦略</p>			

	<p>【学習の課題】 オーガニゼーション機能を効果的に活用するための戦略的思考や創造的思考の重要性を意識したい。</p> <p>【参考文献】 担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 どのような領域においてもオーガニゼーションの戦略的選択が重要であることを、学習を通して体験したい。</p>
4 . テ ー マ	オーガニゼーションへの環境からのコントロール
	<p>【学習の目標】 外部環境によって組織の戦略が制限されること、組織間関係において環境構成者がパワーを行使する可能性について理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資源依存と組織間関係、利害関係組織のありかた、資源依存と外部環境からの統制を学習する。</li> <li>2. 資源の重要性、資源配分と使用に関する戦略、組織の環境戦略について学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 組織間関係、外部環境、環境戦略</p> <p>【学習の課題】 組織は戦略に従い、経営戦略と組織の重要性を意識し、さらに組織間関係のあり方に注目して学習したい。</p> <p>【参考文献】 担当教員が企画・開発して成功した事業のオーガニゼーションに関するプリント及び指示する参考書等を参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 オーガニゼーションは、環境からのコントロールや組織間関係によって、その資質が変わることに注目したい。</p>
5 . テ ー マ	オーガニゼーションの目標と組織有効性
	<p>【学習の目標】 オーガニゼーションの意思決定において外部環境からの影響によりどのような行動をするのかについて理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現実のオーガニゼーションの意思決定をする概念、組織目標の形成と変革、組織における財務目標決定事例を学習する。</li> <li>2. オーガニゼーションにおける有効性指標、組織における有効性に関するモデルを学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 組織有効性指標のダイナミクス、組織目標、財務目標ネットワーク</p> <p>【学習の課題】 組織目標の複雑性を考察し、従業員中心の目標システムの事例などを理解し、組織目標の考え方を理解したい。</p> <p>【参考文献】 担当教員が実践したビジネス組織活動事例に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 オーガニゼーションの目標やその有効性と理論に対して事例との対比を通して理解を深めたい。</p>
6 . テ ー マ	オーガニゼーションの構造とデザイン
	<p>【学習の目標】 オーガニゼーションの基本的構造とそのデザイン及びデザイン要素について理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織の安定した相互依存関係、官僚システム、サイズと組織デザインについて学習する。</li> <li>2. オーガニゼーション成立のデザイン要素、組織の分割、人間の集合としてのオーガニゼーションを学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 組織構造、組織デザイン、官僚制システム</p> <p>【学習の課題】 組織構造の典型的なモデルが官僚制システムである。その肥大化と硬直化に対して、新しいシステムのあり方。</p> <p>【参考文献】 担当教員が実務家として活動したオーガニゼーションに関するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 日本企業が着実に発展した背景にある官僚制システム、ヒエラルキーなどに対して考察したい。</p>
7 . テ ー マ	コンピュータ化と技術革新
	<p>【学習の目標】 コンピュータの導入などによる新しい技術の採用がオーガニゼーションに与えた変革について理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織ドメイン、コミュニケーション・コントロール、技術決定論について学習する。</li> <li>2. コンピュータ導入によるオーガニゼーションの変革、影響について考察し、ジョブ・デザインモデルを学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 コミュニケーションと意思決定、技術革新、コンピュータ化</p> <p>【学習の課題】 コンピュータ導入がもたらすオーガニゼーションにおける変革とジョブ・デザインへの影響</p> <p>【参考文献】 担当教員が体験したコンピュータ導入によるビジネスやジョブ革新に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 コンピュータなどの導入による技術革新は様々な点で有用性をもたらしたが、失ったものもあるのではないかという視点も持ちたい。</p>
8 . テ ー マ	オーガニゼーションと文化
	<p>【学習の目標】 オーガニゼーションの文化とは、構成する人々が共有する価値や信念、行動がもたらすシステムであることを理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動環境として生活空間、組織風土、組織文化の形成を学習する。</li> <li>2. オーガニゼーションの文化形成の解釈として、組織文化と官僚システムとの関係を学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 組織文化、組織のカルチャー、生活空間、組織風土</p> <p>【学習の課題】 オーガニゼーションが持つ組織風土やコミュニケーション・ネットワークがどのようにして組織文化を創り上げて行くのか。</p> <p>【参考文献】 オーガニゼーションがもたらす組織文化の事例テーマや指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 オーガニゼーションが創る文化や風土が組織のあり方や経営管理システムに影響を与えるという点に注目したい。</p>
9 . テ ー マ	モチベーションの理論
	<p>【学習の目標】 欲求説と過程説から成るモチベーション理論を理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織人とは何か、モチベーション管理、適応と不適応について学び、欲求説の理論構造を学習する。</li> <li>2. モチベーションの理論として過程説の理論構造、組織コミットメント、組織変革とモチベーションを学習する。</li> </ol> <p>【キーワード】 モチベーション管理、欲求モデル、組織変革</p> <p>【学習の課題】 欲求モデルと2つのモチベーション理論の関連</p> <p>【参考文献】 企業時代、多くの社員のモチベーション管理を進め、事業に成功した事例資料や指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 動機づけを円滑に推進するような状況整備がモチベーション管理には欠かせない。各自の経験との比較・考察をしたい。</p>

10. テーマ	マネジメント・コントロール
【学習の目標】	オーガニゼーションにおけるマネジメント・コントロールについて理解する。
【学習の内容】	1. オーガニゼーションにおける対人的影響、リーダーシップの資質、コンティンジェンシー・モデルを学習する。 2. 組織におけるリーダーの役割、カリスマ、状況変革者、職場集団のダイナミクスを学習する。
【キーワード】	リーダーシップ、コンティンジェンシー・モデル、カリスマ
【学習の課題】	人が集合すれば、大きな行動力になる反面コンフリクトも生まれる。マネジメント・コントロールの優劣が経営の成否
【参考文献】	担当教員が体験したマネジメント・コントロールに関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	人の集合は、放置すれば烏合の衆である。必ず適切なマネジメントを必要としている。 各自の体験と比較して関心を高める。
11. テーマ	組織の長期適応と発展過程
【学習の目標】	オーガニゼーションの発展段階についての比較モデルを学び、組織の長期適応について理解する。
【学習の内容】	1. 組織の成長、規模の拡大によって生ずる組織変革を理解するためのライフサイクル・モデルを学習する。 2. チャンドラーのモデルなど経営戦略と組織のダイナミクス、組織文化のダイナミクスを学習する。
【キーワード】	ライフサイクル・モデル、経営戦略、組織のダイナミクス、チャンドラー・モデル
【学習の課題】	経営資源蓄積期から始まり、組織形成期、成長期、組織の革新から成るチャンドラー・モデルの考察
【参考文献】	担当教員が組織の変革と企業の発展に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	経営戦略を実施するには適切な組織の変革が重要である。 チャンドラーが言う「組織構造は戦略に従う」の意味に注目したい。
12. テーマ	オーガニゼーション学習と戦略的変革
【学習の目標】	オーガニゼーションの長期適応過程のメカニズムとして組織学習の概念を理解する。
【学習の内容】	1. 個人が経験から学習するように、オーガニゼーションもまた学習するという組織学習の概念を学習する。 2. 組織学習の基本的メカニズム、完全な組織学習サイクル、不完全な組織学習サイクルについて学習する。
【キーワード】	組織学習、組織学習サイクル、組織の戦略
【学習の課題】	組織の戦略、構造、文化、プロセスなどを抜本的に変革する戦略的組織変革への障害
【参考文献】	担当教員が新製品開発など企業で実践した体験と組織の学習に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	完全な組織サイクルと不完全な組織サイクルの違いを明確にしながら、組織学習の基本的メカニズムに留意する。
13. テーマ	非営利組織と公的セクターの組織
【学習の目標】	非営利組織として行政組織、地方自治体について理解する。
【学習の内容】	1. 公的セクターの基本的な成り立ち及び組織と環境について学習する。 2. 行政サービスの構造及び超高齢化社会における地方自治体のあり方を学習する。
【キーワード】	非営利組織、公的セクター、超高齢化社会
【学習の課題】	非営利組織である自治体組織は限られた社会資源を公平に分配しなければならない。 行政サービスのマネジメントに注目したい。
【参考文献】	全国の非営利組織での事例に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	今後 4 人にひとりが 65 歳以上という超高齢社会を考えれば、非営利組織が社会的にその重要性を増すという視点に立ちたい。
14. テーマ	ヒューマン・サービスの組織
【学習の目標】	非営利組織として医療、福祉、介護、いわゆるヒューマン・サービスの組織について理解する。
【学習の内容】	1. ヒューマン・サービス組織及びコストを少なく便益を多くする合理的な形態としての官僚制システムを学習する。 2. 医師、看護師、理学療法士などのプロフェッション集団からなるプロフェッション組織及びその経営管理を学習する。
【キーワード】	ヒューマン・サービス、官僚制システム、プロフェッション集団
【学習の課題】	病院などのヒューマン・サービス組織はプロフェッション組織として、難しい問題を抱えている。そんな経営管理の課題に注目したい。
【参考文献】	介護施設や病院の資料など、担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	超高齢社会を迎え、営利が必ずしも活動の中心にない組織が重要になる。 つまりヒューマン・サービス組織の重要性に留意したい。
15. テーマ	ボランティア組織及びオーガニゼーションの未来と課題
【学習の目標】	非営利組織としてボランティア組織を理解し、今後のオーガニゼーションの発展と課題を洞察する。
【学習の内容】	1. 第 3 セクターとボランティア及びボランティア組織の経営管理について学習する。 2. オーガニゼーションの基本的な考え方の再確認及び組織論の発展と人間観について学習する。
【キーワード】	第 3 セクター、ボランティア組織、ネットワーク組織
【学習の課題】	オーガニゼーションの発展が人間の意思決定プロセスにもたらす変化と効果
【参考文献】	担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	今後社会的に重要になる課題として非企業、非営利のオーガニゼーションに関心を向け、バランス感覚を持って学究する。

1. 科目名 (単位数)	管理会計特論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5347
2. 授業担当教員	保原 伸弘			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	財務会計特論を履修しておくことが望ましい。		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	管理会計は管理と会計が結合された内容である。すなわち経営管理(マネジメント)にどのようにして会計情報を活用するかを考察する。			
8. 学習目標	業績管理会計と意思決定会計を原価計算の基礎的な知識を活用して学習する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎時間に講義内容をまとめレポートとして提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】志村正「基礎から学ぶ管理会計」 2011 年 東京経済情報出版 【参考書】溝口・奥山・田中「管理会計を学ぶ」 税務経理協会 西村・大下編「ベーシック管理会計」 中央経済社			
11. 成績評価の方法	定期試験 60% レポート 15 点 授業中の態度 25%			
12. 受講生へのメッセージ	教科書を精読してください。専門用語は授業終了後、サブノートしておくこと。			
13. オフィスアワー	別途通知する			
14. 学習の展開及び内容【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	管理会計総説			
	【学習の目標】 管理会計の内容や何を学ぶのかを総論的に解説する。 【学習の内容】 歴史、会計の意義、管理会計とは、財務会計と管理会計、管理会計の体系化 【キーワード】 PDCA サイクル、個別計画、意思決定会計、期間計画、業績管理会計、戦略マネジメント 【学習の課題】 マネジメントが組織を管理・運営するに当たって、管理会計はどのような業績を向上するために情報提供できるか。 【学習する上での留意点】 財務会計と管理会計の違いを理解する。			
2. テーマ	利益管理会計			
	【学習の目標】 全社的利益目標の策定のためには、どのような分析や指標が必要かを考察する。 【学習の内容】 利益管理の意義、コスト・ビヘイビア、損益分岐点分析、営業レバレッジ、シミュレーション技法、プロダクト・ミックス 【キーワード】 損益分岐点図表、安全余裕率、営業レバレッジ、プロダクト・ミックス、ROE、EVA 【学習の課題】 利益管理は、全社的な利益目標をいかに実現させるか。 【学習する上での留意点】 利益目標の設定方法について学ぶ。			
3. テーマ	原価管理会計			
	【学習の目標】 原価削減の目標を設定し、これをいかに達成していくかを考える。 【学習の内容】 原価管理の意味、原価目標値の設定、固定予算と変動予算、 【キーワード】 原価センター、標準原価、管理可能日、キャパシティ・コスト、品質コスト、付加価値活動 【学習の課題】 企業の各部門の原価を管理するための、管理会計の概念と手法について考察する。 【学習する上での留意点】 ABC と ABM の違いを理解する。			
4. テーマ	業績管理会計			
	【学習の目標】 各組織ではその業績目標を達成するため、具体的な計画を策定する。目標どおりに達成したかの評価を行うのが、業績管理である。ここでは、業績目標の設定や測定方法を取上げる。 【学習の内容】 業績管理会計の意義、業績評価と業績測定、業績評価と動機づけ、組織形態、責任センター、業績評価等を学ぶ。 【キーワード】 事業部制、責任会計、擬似利益センター、RI、内部振替価格、ミニ・プロフィット・センター、シェアード・サービス 【学習の課題】 組織単位の業績目標がどのように設定され、測定評価されるかを学ぶ。 【学習する上での留意点】 業績目標の設定と測定方法を良く理解する。			
5. テーマ	予算管理			
	【学習の目標】 管理会計の中心テーマである利益計画は、予算によって展開される。そこで企業予算を中心に考察する。 【学習の内容】 予算の意義、予算管理のプロセス、予算編成方針、予算の体系、予算統制 【キーワード】 予算編成方針、損益予算、財務予算、資本予算、ゼロベース予算、参加的予算、予算スラック、ABB 等。 【学習の課題】 不確実性下における予算の対応等を明らかにしていく。 【学習する上での留意点】 予算管理における意義を十分に理解する。			
6. テーマ	予算編成の事例			
	【学習の目標】 企業予算の編成を事例により演習する。 【学習の内容】 売上高予算、製造高予算、売上原価予算、販売費予算、一般管理費予算、総合予算、直接原価計算による予算編成 【キーワード】 販売予測、デルファイ法、操業度、経済的発注量、注文獲得費、注文履行費 【学習の課題】 損益予算の編成の在り方を考える。 【学習する上での留意点】 実際に事例を用いて計算練習すること。			

7 . テ ー マ	標準原価管理と原価企画
【学習の内容】	原価管理の意味、歴史的背景、原価維持と原価改善、標準原価管理、原価標準の設定、IE、標準原価差異、差異の原因分析と調査、原価企画、VE
【キーワード】	原価維持、標準原価カード、IE、例外管理、管理図、原価企画、VE
【学習の課題】	図表で示した製造間接費の差異分析を理解できるようにする。
【学習する上での留意点】	標準原価管理は製造段階での原価維持活動であり、原価企画は開発・設計段階における原価削減活動。
8 . テ ー マ	業務的意思決定会計
【学習の目標】	業務的意思決定の意味とそれを支援する管理会計情報を覚えておく。
【学習の内容】	意思決定と会計情報、経済人モデル、会計分析と経済分析意思決定に関連する原価概念、貢献利益分析と関連原価分析、意思決定ケース
【キーワード】	経済人モデル、増分原価、関連原価、埋没原価、機械原価、貢献利益分析、ボトルネック、リニア・プログラミング
【学習の課題】	意思決定に必要な原価概念と管理会計手法、および意思決定のケースでの手法の適用の仕方を学ぶ。
【学習する上での留意点】	業務的意思決定とは、設備投資をしないでどれだけの業績を向上させられるかについて管理会計手法を用いて意思決定することであることを認識しておくこと。
9 . テ ー マ	設備投資意思決定会計
【学習の内容】	設備投資意思決定の特徴、キャッシュ・フロー、設備投資案の評価、資本予算の編成、事後鑑査
【キーワード】	キャッシュ・フロー、割引キャッシュ・フロー法、割引率、資本コスト、WACC、ハードル・レート
【学習の課題】	設備投資案の意思決定をするために必要な情報を認識する。
【学習する上での留意点】	設備投資案の評価法を知っておくこと。
10 . テ ー マ	バランスト・スコアカード
【学習の目標】	バランスト・スコアカードの意味を知り、財務指標と非財務指標のバランスによる戦略の実行方法を学ぶ。
【学習の内容】	バランスト・スコアカードとは、ビジョンと戦略、4つの視点、戦略マップ。バランスト・スコアカードによる戦略マネジメント、戦略と予算、バランスト・スコアカードと経営品質、バランスト・スコアカードの落とし穴
【キーワード】	4つの視点、戦略目標、戦略マップ、ストレッチ・ターゲット、実施項目、戦略マネジメント、戦略予算、経営品質、
【学習の課題】	スコアカードでは、戦略目標ごとに業績指標、目標値、実施項目、予算が設定されることを理解しておく。
【学習する上での留意点】	BSCは戦略マネジメント・システムの1つとして用いられ、機能していることを認識すること。
11 . テ ー マ	問題練習（1）
【学習の目標】	1～2章の練習問題を解答
【学習の内容】	1章管理会計総説、2章利益管理会計の復習
12 . テ ー マ	問題練習（2）
【学習の目標】	3～4章の練習問題を解答
【学習の内容】	3章原価管理会計、4章業績管理会計の復習
13 . テ ー マ	問題練習（3）
【学習の目標】	5～6章の練習問題を解答
【学習の内容】	5章予算管理、6章予算編成の事例の復習
14 . テ ー マ	問題練習（4）
【学習の目標】	7～8章の練習問題を解答
【学習の内容】	7章標準原価管理と原価企画、8章業務的意思決定会計の復習
15 . テ ー マ	問題練習（5）
【学習の目標】	9～10章の練習問題を解答
【学習の内容】	9章設備投資意思決定会計、10章バランスト・スコアカードの復習

1. 科目名 (単位数)	管理会計特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5347
2. 授業担当教員	城田 吉孝			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	財務会計特論を履修しておくことが望ましい。		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	管理会計は管理と会計が結合された内容である。すなわち経営管理(マネジメント)にどのようにして会計情報を活用するかを考察する。			
8. 学習目標	業績管理会計と意思決定会計を原価計算の基礎的な知識を活用して学習する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎時間に講義内容をまとめレポートとして提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】志村正「基礎から学ぶ管理会計」 2011 年 東京経済情報出版			
11. 成績評価の方法	定期試験 50% レポート 30 点 授業中の態度 20%			
12. 受講生へのメッセージ	教科書を精読してください。専門用語は授業終了後、サブノートしておくこと。			
13. オフィスアワー	別途通知する			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	管理会計総説			
	【学習の目標】 管理会計の内容や何を学ぶのかを総論的に解説する。 【学習の内容】 歴史、会計の意義、管理会計とは、財務会計と管理会計、管理会計の体系化 【キーワード】 PDCA サイクル、個別計画、意思決定会計、期間計画、業績管理会計、戦略マネジメント 【学習の課題】 マネジメントが組織を管理・運営するに当たって、管理会計はどのような業績を向上するために情報提供できるか。 【学習する上での留意点】 財務会計と管理会計の違いを理解する。			
2. テーマ	利益管理会計			
	【学習の目標】 全社的利益目標の策定のためには、どのような分析や指標が必要かを考察する。 【学習の内容】 利益管理の意義、コスト・ビヘイビア、損益分岐点分析、営業レバレッジ、シミュレーション技法、プロダクト・ミックス 【キーワード】 損益分岐点図表、安全余裕率、営業レバレッジ、プロダクト・ミックス、ROE、EVA 【学習の課題】 利益管理は、全社的な利益目標をいかに実現させるか。 【学習する上での留意点】 利益目標の設定方法について学ぶ。			
3. テーマ	原価管理会計			
	【学習の目標】 原価削減の目標を設定し、これをいかに達成していくかを考える。 【学習の内容】 原価管理の意味、原価目標値の設定、固定予算と変動予算、 【キーワード】 原価センター、標準原価、管理可能日、キャパシティ・コスト、品質コスト、付加価値活動 【学習の課題】 企業の各部門の原価を管理するための、管理会計の概念と手法について考察する。 【学習する上での留意点】 ABC と ABM の違いを理解する。			
4. テーマ	業績管理会計			
	【学習の目標】 各組織ではその業績目標を達成するため、具体的な計画を策定する。目標どおりに達成したかの評価を行うのが、業績管理である。ここでは、業績目標の設定や測定方法を取上げる。 【学習の内容】 業績管理会計の意義、業績評価と業績測定、業績評価と動機づけ、組織形態、責任センター、業績評価等を学ぶ。 【キーワード】 事業部制、責任会計、擬似利益センター、RI、内部振替価格、ミニ・プロフィット・センター、シェアード・サービス 【学習の課題】 組織単位の業績目標がどのように設定され、測定評価されるかを学ぶ。 【学習する上での留意点】 業績目標の設定と測定方法を良く理解する。			
5. テーマ	予算管理			
	【学習の目標】 管理会計の中心テーマである利益計画は、予算によって展開される。そこで企業予算を中心に考察する。 【学習の内容】 予算の意義、予算管理のプロセス、予算編成方針、予算の体系、予算統制 【キーワード】 予算編成方針、損益予算、財務予算、資本予算、ゼロベース予算、参加的予算、予算スラック、ABB 等。 【学習の課題】 不確実性下における予算の対応等を明らかにしていく。 【学習する上での留意点】 予算管理における意義を十分に理解する。			
6. テーマ	予算編成の事例			
	【学習の目標】 企業予算の編成を事例により演習する。 【学習の内容】 売上高予算、製造高予算、売上原価予算、販売費予算、一般管理費予算、総合予算、直接原価計算による予算編成 【キーワード】 販売予測、デルファイ法、操業度、経済的発注量、注文獲得費、注文履行費 【学習の課題】 損益予算の編成の在り方を考える。 【学習する上での留意点】 実際に事例を用いて計算練習すること。			

7. テーマ	標準原価管理と原価企画
【学習の内容】	原価管理の意味、歴史的背景、原価維持と原価改善、標準原価管理、原価標準の設定、IE、標準原価差異、差異の原因分析と調査、原価企画、VE
【キーワード】	原価維持、標準原価カード、IE、例外管理、管理図、原価企画、VE
【学習の課題】	図表で示した製造間接費の差異分析を理解できるようにする。
【学習する上での留意点】	標準原価管理は製造段階での原価維持活動であり、原価企画は開発・設計段階における原価削減活動。
8. テーマ	業務的意思決定会計
【学習の目標】	業務的意思決定の意味とそれを支援する管理会計情報を覚えておく。
【学習の内容】	意思決定と会計情報、経済人モデル、会計分析と経済分析意思決定に関連する原価概念、貢献利益分析と関連原価分析、意思決定ケース
【キーワード】	経済人モデル、増分原価、関連原価、埋没原価、機械原価、貢献利益分析、ボトルネック、リニア・プログラミング
【学習の課題】	意思決定に必要な原価概念と管理会計手法、および意思決定のケースでの手法の適用の仕方を学ぶ。
【学習する上での留意点】	業務的意思決定とは、設備投資をしないでどれだけ業績を向上させられるかについて管理会計手法を用いて意思決定することであることを認識しておくこと。
9. テーマ	設備投資意思決定会計
【学習の内容】	設備投資意思決定の特徴、キャッシュ・フロー、設備投資案の評価、資本予算の編成、事後鑑査
【キーワード】	キャッシュ・フロー、割引キャッシュ・フロー法、割引率、資本コスト、WACC、ハードル・レート
【学習の課題】	設備投資案の意思決定をするために必要な情報を認識する。
【学習する上での留意点】	設備投資案の評価法を知っておくこと。
10. テーマ	バランス・スコアカード：(1) バランス・スコアカードとは、(2) ビジョンと戦略
【学習の目標】	バランス・スコアカードの意味を知り、財務指標と非財務指標のバランスによる戦略の実行方法を学ぶ。
【学習の内容】	バランス・スコアカードとは、ビジョンと戦略、
【キーワード】	4つの視点、戦略目標、戦略マップ、ストレッチ・ターゲット、実施項目、戦略マネジメント、戦略予算、経営品
【学習の課題】	スコアカードでは、戦略目標ごとに業績指標、目標値、実施項目、予算が設定されることを理解しておく。
【学習する上での留意点】	BSCは戦略マネジメント・システムの1つとして用いられ、機能していることを認識すること。
11. テーマ	バランス・スコアカード：(3) 4つの視点、(4) 戦略マップ
【学習の目標】	財務・顧客・内部プロセス・学習と成長
【学習の内容】	業績評価を4つの視点からとらえる
【キーワード】	ビジョン・戦略
【学習の課題】	業績指標を理解する
【学習する上での留意点】	成果指標とパフォーマンス・ドライバーの関係を知る
12. テーマ	バランス・スコアカード：(5) 戦略マネジメント (6) 戦略と予算
【学習の目標】	BSCによる戦略マネジメントシステムを知る。
【学習の内容】	創発戦略について学ぶ
【キーワード】	戦略予算
【学習の課題】	戦略予算について知る。
【学習する上での留意点】	戦略マネジメントシステムの仕組みについて理解する。
13. テーマ	バランス・スコアカード：(7) バランス・スコアカードと経営品質
【学習の目標】	経営品質について学ぶ
【学習の内容】	日本経営品質のアセスメント基準の内容について学ぶ。
【キーワード】	日本経営品質賞
【学習の課題】	経営者のリーダーシップ、経営の社旗的責任について理解する。
【学習する上での留意点】	経営品質の内容について明確することができる。
14. テーマ	経営戦略の策定とバランス・スコアカード
【学習の目標】	4つの視点から企業業績を評価することを知る
【学習の内容】	経営戦略の策定
【キーワード】	ドメイン
【学習の課題】	戦略マップの内容について整理する。
【学習する上での留意点】	経営戦略の策定プロセスを明らかにする。
15. テーマ	管理会計のまとめと課題
【学習の目標】	財務会計と管理会計の相違点を理解する
【学習の内容】	管理会計の体系を理解する。
【キーワード】	意思決定会計
【学習の課題】	管理会計情報
【学習する上での留意点】	経営管理機能と管理会計の体系について明らかにする。

1. 科目名 (単位数)	経営財務特論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5348
2. 授業担当教員	平 仁			
4. 授業形態	講義、ディスカッション等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>経営財務論は、「企業価値を高めるためには、財務戦略をどう展開したらよいか」を考察する。本講義は、企業のそのような意思決定に有益な経営財務の理論を学び、実務への応用力を養うことを目的とする。日本における大学院 MBA コースで用いられているテキストをベースとして、標準的な経営財務の理論を一通りカバーする。その上で、これまでの日本企業の財務戦略とその問題点や今後の課題を理論的なフレームワークに基づいて議論する。経営財務論には、その理論体系が企業の現場で活用されているという点では、経済・経営系の学問の中では、現場との関係が強いという特徴がある。同時に、現場で得られた知見のフィードバックが学問の展開につながっているのも特徴であり、こうした相互関係に注視した議論を行う。主要なトピックは以下である。財務諸表の活用方法、そして財務諸表の情報を有効に活用した資本コストの推計、資本コストを用いた投資プロジェクトと企業価値の評価。多様化している資金調達方法の特徴と使い方。また利益還元における配当政策、自社株買い、さらに企業合併と買収 (M&amp;A) 等である。これらに加え、既存の研究成果や学会での議論、分析手法(統計モデル)の基礎などを紹介し、詳細に講義を進める。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポレート・ファイナンスの主要な理論を理解できるようになる。</li> <li>・これらの理論が、実際の企業活動にどう活用されているかを把握できるようになる。</li> <li>・実際の事例を踏まえて、理論で説明できることと、説明がつかない限界について考える。</li> <li>・現場でよく用いられる代表的な分析手法を使えるようになる。</li> <li>・本講義を通じて、自己の研究テーマに対する金融面からの視座を手に入れる。</li> </ul>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14. 学習の展開及び内容」の各テーマを参照のこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p><b>【教科書】</b></p> <p>① 砂川伸幸, 川北英隆, 杉浦秀徳 『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞社, 2003.</p> <p>② Richard A. Brealey, Stewart C. Myers, Franklin Allen (2013), Principles of Corporate Finance, McGraw Hill Higher Education (藤井 眞理子, 国枝 繁樹訳『コーポレートファイナンス(第10版) 上』『コーポレートファイナンス(第10版) 下』日経 BP 社, 2014) (テキストとしては日本語版を用いる)。</p> <p><b>【参考書】</b> 適宜指示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>評価基準</p> <p>レポート 60%</p> <p>日常授業による積極的な発言 40%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>経営財務論は、コーポレートファイナンスと呼ばれる科目とほぼ同内容であり、企業経営や企業財務に活用される、経済学 (ミクロ経済学・マクロ経済学) や金融論、統計学、会計学の知識に基づいた応用領域です。したがって、大学で当該科目を勉強したことがない受講生は、少なくとも、受講前に入門レベルのテキストを一読してくることを求める。また、本学の特徴である双方向対話型授業を効果的に行うためには、事前学習の準備が不可欠です。初学者であっても問題はありますが、大学院における少人数のゼミ形式の授業は、双方向対話型授業の効果がより発揮できる場所ですので、相応の覚悟をもって受講してもらいたい。</p>			
13. オフィスアワー	追って指示する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	経営財務論の概要			
<b>【学習の目標】</b>	経営財務論の概要を体系的に把握できるようになる。企業とステークスホルダーとの関わり合いを軸に、経営財務で扱う問題やそれを議論する視点を獲得する。			
<b>【学習の内容】</b>	企業経営者の役割、企業の目的、企業活動とステークスホルダー、資本市場の効率性、投資家のリスクと企業のリスク、ステークスホルダー間の利害対立問題、経営財務が価値創造に与える効果。			
<b>【キーワード】</b>	ステークスホルダー、リスクとリターン、資本市場、企業価値、価値創造			
<b>【学習の課題】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業活動における経営財務の役割を理解する。</li> <li>・企業とステークスホルダー間の関わり合いが企業活動に与える効果を概観する。</li> </ul>			
<b>【参考文献】</b>	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。			
<b>【学習する上での留意点】</b>	特に関心が高いトピックを認識し、問題意識を持つ。			
2. テーマ	財務諸表の見方とキャッシュフロー、資本コストと価値評価			
<b>【学習の目標】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表の見方の復習。経営財務の意思決定に対してそのデータの使えるようになる。</li> <li>・資金調達のコストである「資本コスト」の大きさは企業価値評価を決定付ける重要な要因であることを理解できるようにする。</li> </ul>			
<b>【学習の内容】</b>	財務三表、キャッシュフローの計算、DCF 法と現在価値、リスクと資本資産評価モデル (CAPM)、総資本コスト (=加重平均資本コスト) (WACC)、DCF 法による企業価値評価の考え方。			
<b>【キーワード】</b>	貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、キャッシュフロー、DCF 法、現在価値、CAPM、WACC			
<b>【学習の課題】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務三表の構造と見方を復習する。</li> <li>・会計で重視する「利益」と経営財務で重視する「キャッシュフロー」との違いを確認する。</li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>DCF 法を使ってキャッシュフローの現在価値を算出できるようになる。</li> <li>WACC の定義と意味、求め方を理解する。</li> </ul> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。</p> <p>【学習する上での留意点】 財務諸表から得られる情報が経営財務の意思決定にどのように役立つかをよく意識して参加すること。</p>
3 . テ ー マ	資本コストと投資決定の方法
【学習の目標】	・企業が投資プロジェクトを決定するための基準を理解できるようになる。
【学習の内容】	正味現在価値法 (NPV 法), 資本コストと撤退基準, 事業ポートフォリオの変化と資本コスト, NPV 法による投資決定, IRR 法と新旧の投資決定基準。
【キーワード】	資本コスト, NPV 法, IRR 法
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPV 法, IRR 法, その他の主な方法の特徴を理解し, それぞれを使用したときのメリット, デメリットを把握する。</li> <li>資本コストの大きさが投資決定にどう影響するか。</li> </ul>
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。
4 . テ ー マ	資本コストと企業経営の実践 (ケーススタディー)
【学習の目標】	ケーススタディーによって理論が実務でどう応用されているかを説明できるようになる。
【学習の内容】	大阪ガスを対象としたケーススタディーを行う。資本コストを意識した事業評価 (SVA) 導入の背景, 社内の反応, SVA が浸透した素地, 事業の選別と撤退。
【キーワード】	ケーススタディー, SVA, 事業評価, 経営計画
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>資本コスト経営とはどのようなものかをケーススタディーにより理解する。</li> <li>事業評価に関する理論が実務でどう使われているかを知る。</li> </ul>
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①を用いる。
【学習する上での留意点】	ディスカッションに積極的に参加し, 事例の把握に努めること。
5 . テ ー マ	資本コストを用いた企業価値評価の推計
【学習の目標】	資本コストを用いた企業価値の評価手法を使えるようになる。
【学習の内容】	具体的なデータから CAPM によって WACC を計算し, それを用いた企業価値の計算方法を実際に示す。WACC を推計するための株価データ等を使った統計モデルを学ぶ。
【キーワード】	CAPM, WACC, フリーキャッシュフロー, 企業価値
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>株価データや財務データを入手し, WACC を推計する。</li> <li>財務データと WACC から, 企業価値を計算する。</li> </ul>
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。
【学習する上での留意点】	作業の具体的な中身と手順をよく理解すること。 実際に作業をしてレポートを提出してもらう予定である。
6 . テ ー マ	資金調達方法と企業価値
【学習の目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な資金調達方法の特徴を確認する。</li> <li>資金調達における負債利用のメリット, デメリットを理解できるようになる。</li> </ul>
【学習の内容】	内部資金調達, 外部資金調達, MM の無関連命題, レバレッジの影響, フィナンシャル・リスク, 負債利用の節税効果, 負債利用とデフォルト・コスト。
【キーワード】	資本調達, 負債調達, 資本構成, MM の無関連命題, レバレッジ, 節税効果, デフォルト・コスト
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>資本調達と負債調達の特徴を確認する。</li> <li>経営財務の核となる理論である MM の無関連命題のエッセンスを理解する。</li> <li>負債利用の特徴を企業価値に与える影響から理解する。</li> </ul>
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。
7 . テ ー マ	最適な資本構成とは
【学習の目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業価値を最大化するような資本構成は, どのような要因に依存するかを理解できるようになる。</li> <li>負債利用には, コーポレート・ガバナンス面の効果があり, これが最適な資本構成に影響することを確認する。</li> </ul>
【学習の内容】	資本構成のトレードオフ理論, ファイナンシャル・フレキシビリティの重要性, コーポレート・ガバナンスと資本構成, 負債利用と資本コストの関係, 無借金経営の意義。
【キーワード】	資本構成, トレードオフ理論, コーポレート・ガバナンス, 負債の節税効果, フィナンシャル・フレキシビリティ
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>最適な資本構成の決定要因である節税効果とデフォルト・コストとはどのようなものか。</li> <li>負債利用の節税効果とデフォルト・コストが企業価値にどう影響するか。</li> <li>負債利用の経営に対する規律付けは, 外部からのコーポレート・ガバナンスと同様の効果を持ちうることを理解する。</li> </ul>
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。
8 . テ ー マ	企業の負債利用の事例 (ケーススタディー)
【学習の目標】	ケーススタディーによって理論が実務に対してどのように応用されているかを把握できるようになる。
【学習の内容】	関西電力と大阪ガスの事例(負債と経営戦略), 花王の事例 (負債利用と資本コスト), 伊勢丹の事例(有利子負債削減), キリンビールの事例 (積極的な負債の利用)。
【キーワード】	経営戦略, 財務戦略, 有利子負債, 資本コスト
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の特質の違いによって, 負債利用の方法が異なることを理解する。</li> <li>事例企業の負債利用が理論と整合的に行われているか, 現実を描写する上で理論の限界がどのようなものかを考察する。</li> </ul>
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①を用いる。
【学習する上での留意点】	ディスカッションに積極的に参加し, 事例の把握に努めること。

9 . テ ー マ	エクイティ・ファイナンスと新しい調達方法
【学習の目標】	・目覚ましい金融技術の進歩は、経営財務にも多大な影響を与えていることを確認する。 ・多様化した資金調達方法の選択肢やその効果を整理する。
【学習の内容】	エクイティ・ファイナンス、メザニン、1株当たりの利益(EPS)の希薄化と投資の長期的効果、マーケット・タイミング、ペッキングオーダー、エクイティ・ファイナンスと利害対立問題、転換社債と証券化。
【キーワード】	エクイティ・ファイナンス、利害対立問題、マーケット・タイミング、転換社債、証券化、ペッキングオーダー
【学習の課題】	・資金調達における新しい考え方や方法を理解する。 ・新しい考え方や方法を既存のものと比較検討し、その利点と弱点を整理する。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献②③を用いる。
10 . テ ー マ	資金調達に関連する既存研究の紹介と現在の論点
【学習の目標】	既存研究の流れと研究の場で行われている現在の議論を把握できるようになる。
【学習の内容】	負債の理論と実証、新規公開企業の資金調達、資本構成とコーポレート・ガバナンス、資金調達方法と株価パフォーマンス、第三者割当増資、転換社債の発行。
【キーワード】	資本構成、IPO、コーポレート・ガバナンス、増資、転換社債
【学習の課題】	・既存研究の成果を整理する。 ・現在議論されている研究テーマとその主要な論点を把握する。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献②③⑥、関連する論文を用いる。
【学習する上での留意点】	本講義のファイナンス分野の研究と自身の研究テーマとの関わりを整理する。
11 . テ ー マ	現金配当
【学習の目標】	ペイアウト政策において、利益等現金の基本的な配当方針を配当政策というが、企業特質の違いによって効率的な配当政策がどう異なるかを理解できるようになる。
【学習の内容】	ペイアウト政策の動向、配当無関連命題、配当シグナル仮説、配当のフリーキャッシュフロー仮説、配当のライフサイクル仮説、市場のセンチメントとケータリング仮説、配当か投資か。
【キーワード】	ペイアウト、配当無関連命題、シグナル仮説、フリーキャッシュフロー仮説
【学習の課題】	・配当無関連命題のエッセンスを理解し、現金配当の経済的機能についての主要仮説を整理する。 ・配当政策が企業価値に与える効果についての考え方を理解する。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。
12 . テ ー マ	自社株買い
【学習の目標】	・自社株買いと現金配当の特質や機能の違いを理解できるようになる。
【学習の内容】	自社株買いの動向、自社株買い無関連命題、自社株買いとリスク・リターン関係、自社株買いのフリーキャッシュフロー仮説、自社株買いシグナル仮説、自社株買いと株価の長期パフォーマンス、金庫株を巡る議論。
【キーワード】	自社株買い、自社株買い無関連命題、金庫株
【学習の課題】	・自社株買いの理論的な特質が現金配当のそれとどう異なるか。 ・実際の企業での使われ方として、現金配当の利用とどう区別されているか。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。
【学習する上での留意点】	自身が投資家の立場に立って企業のペイアウト政策の理解を試みるのも有益である。
13 . テ ー マ	ペイアウト政策に関する既存研究の紹介と現在の論点
【学習の目標】	既存研究の流れ、研究の場で行われている現在の議論を把握できるようになる。
【学習の内容】	ペイアウト政策、配当政策、自社株買いと資本構成、現金配当と自社株買いの違い。
【キーワード】	ペイアウト政策、配当政策、現金配当、自社株買い
【学習の課題】	・既存研究の主要なテーマと分析結果を把握する。 ・現在議論されているテーマの主要な論点を知る。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献②③⑥、関連する論文を用いる。
【学習する上での留意点】	本講義のファイナンス分野の研究と自身の研究テーマとの関わりを整理する。
14 . テ ー マ	企業の現金保有と株式持ち合い
【学習の目標】	現時点では、現金保有と株式持ち合いが企業価値に与える効果についての見解が企業と投資家の間で一致していない。これらの論点を整理する。
【学習の内容】	現金保有を巡る諸仮説、企業の現金保有の必要性、現金保有に対する投資家の懸念、新しい株式持ち合い。
【キーワード】	現金保有、株式持ち合い、企業価値
【学習の課題】	・企業にとって現金保有はどのような意味を持つのか。 ・企業にとって株式持ち合いはどのような意味を持つのか。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。
15 . テ ー マ	M&A 戦略の理論と事例
【学習の目標】	投資家にどのような価値をもたらすかという視点から、M&A の評価方法を理解する。事例をみることで理解を深める。
【学習の内容】	コーポレートファイナンスと M&A、アスティーとエフ・シー・プロダクツ(FDCP)の経営統合、アサヒビールとの和光堂買収、成立しなかった M&A。
【キーワード】	M&A、マルチプル法、シナジー効果
【学習の課題】	・マルチプル法を用いた価値評価の計算方法を理解する。 ・M&A におけるシナジー効果の特徴を事例によって理解する。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考文献①②を用いる。
【学習する上での留意点】	ディスカッションに積極的に参加し、事例の把握に努めること。

1. 科目名 (単位数)	経営財務特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5348						
2. 授業担当教員	土村 宜明									
4. 授業形態	講義, ディスカッション等		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R						
7. 講義概要	<p>経営財務論は、「企業価値を高めるためには、財務戦略をどう展開したらよいか」を考察する。本講義は、企業のそのような意思決定に有益な経営財務の理論を学び、実務への応用力を養うことを目的とする。大学院の MBA コースで用いられているテキストをベースとして、標準的な経営財務の理論を一通りカバーする。その上で、これまでの日本企業の財務戦略とその問題点や今後の課題を理論的なフレームワークに基づいて議論する。経営財務論には、その理論体系が企業の現場で活用されているという点では、経済・経営系の学問の中では、現場との関係が強いという特徴がある。同時に、現場で得られた知見のフィードバックが学問の展開につながっているのも特徴であり、こうした相互関係に注視した議論を行う。</p> <p>主要なトピックは以下である。財務諸表の活用方法、そして財務諸表の情報を有効に活用した資本コストの推計、資本コストを用いた投資プロジェクトと企業価値の評価。多様化している資金調達方法の特徴と使い方。また利益還元における配当政策、自社株買い、さらに企業合併と買収 (M&amp;A) 等である。これらに加え、既存の研究成果や学会での議論、分析手法(統計モデル)の基礎などを紹介し、詳細に講義を進める。</p>									
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営財務の主要な理論を理解できるようになる。</li> <li>・経営財務の理論が実際の企業活動においてどう活用されているかを把握できるようになる。</li> <li>・企業の事例と照らし合わせて、理論で説明できることの限界を考える。</li> <li>・現場でよく用いられる代表的な分析手法を使えるようになる。</li> <li>・本講義を受講することで、自らの研究テーマを深められるようにする。</li> <li>・自らの研究に役立つ分析手法の基礎知識を得る。</li> </ul>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14. 学習の展開及び内容」の各テーマを参照のこと。									
10. 教科書・参考書・ 教材	<p><b>【参考書】</b></p> <p>① 砂川伸幸, 川北英隆, 杉浦秀徳 『日本企業のコーポレートファイナンス』 日本経済新聞社, 2003.</p> <p>② Richard A. Brealey, Stewart C. Myers, Franklin Allen (2013), <i>Principles of Corporate Finance</i>, McGraw Hill Higher Education (藤井 真理子, 国枝 繁樹訳『コーポレートファイナンス(第 8 版) 上』『コーポレートファイナンス(第 8 版) 下』 日経 BP 社, 2007) (日本版は第 8 版).</p> <p>③ Tirole, J (2005), <i>The Theory of Corporate Finance</i>, Princeton University Press.</p> <p>④ Zvi Bodie, Robert C. Merton, David L. Cleeton (2008), <i>Financial Economics (2nd Edition)</i>, Prentice Hall (大前恵一郎訳『現代ファイナンス論 原著第 2 版 意思決定のための理論と実践』ピアソン桐原, 2011).</p> <p>⑤ Stephen A. Ross, Randolph W. Westerfield, Jeffrey Jaffe (2010), <i>Corporate Finance</i>, McGraw-Hill Higher Education; European ed (大野 薫訳『コーポレートファイナンスの原理』金融財政事情研究会, 2007) (日本版は第 7 版).</p> <p>⑥ Constantinides, G., M. Harris, and R. Stulz eds(2003), <i>Handbook of Economics</i>, North Holland, Amsterdam (加藤英明監訳『金融経済ハンドブック 1』丸善, 2006) .</p> <p>※必要な文献と資料に関しては、講義において適宜指示する。</p>									
11. 成績評価の方法	<p>評価基準：</p> <table border="0"> <tr> <td>中間レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業態度等</td> <td>20%</td> </tr> </table>				中間レポート	40%	期末レポート	40%	授業態度等	20%
中間レポート	40%									
期末レポート	40%									
授業態度等	20%									
12. 受講生への メッセージ	<p>経営財務論は、コーポレートファイナンスと呼ばれる科目とほとんど同じ内容であり、企業経営や企業実務に活用される重要な知識体系である。理解の仕方として、経営学的なアプローチと経済学的なアプローチがあるが本質は同じである。本講義を受講するにあたっては、必ずしも高度な数学的知識を必要としないものの、学部レベルの経営財務論、ミクロ経済学、統計学、会計学の基礎知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの入門レベルのテキストを読みこなしていることを期待する。</p>									
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。									
14. 学習の展開及び内容【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】										
1. テーマ	経営財務論の概要									
【学習の目標】	経営財務論の概要を体系的に把握できるようになる。企業とステークスホルダーとの関わり合いを軸に、経営財務で扱う問題やそれを議論する視点を獲得する。									
【学習の内容】	企業経営者の役割, 企業の目的, 企業活動とステークスホルダー, 資本市場の効率性, 投資家のリスクと企業のリスク, ステークスホルダー間の利害対立問題, 経営財務が価値創造に与える効果。									
【キーワード】	ステークスホルダー, リスクとリターン, 資本市場, 企業価値, 価値創造									
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業活動における経営財務の役割を理解する。</li> <li>・企業とステークスホルダー間の関わり合いが企業活動に与える効果を概観する。</li> </ul>									
【参考文献】	上記 10 で挙げた①②を用いる。									
【学習する上での留意点】	特に関心が高いトピックを認識し、問題意識を持つ。									
2. テーマ	財務諸表の見方とキャッシュフロー, 資本コストと価値評価									
【学習の目標】	・財務諸表の見方の復習。経営財務の意思決定に対してそのデータの使えるようになる。									

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金調達のコストである「資本コスト」の大きさは企業価値評価を決定付ける重要な要因であることを理解できるようにになる。</li> </ul> <p><b>【学習の内容】</b> 財務三表、キャッシュフローの計算、DCF 法と現在価値、リスクと資本資産評価モデル (CAPM)、総資本コスト (=加重平均資本コスト) (WACC)、DCF 法による企業価値評価の考え方。</p> <p><b>【キーワード】</b> 貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、キャッシュフロー、DCF 法、現在価値、CAPM、WACC</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務三表の構造と見方を復習する。</li> <li>・会計で重視する「利益」と経営財務で重視する「キャッシュフロー」との違いを確認する。</li> <li>・DCF 法を使ってキャッシュフローの現在価値を算出できるようになる。</li> <li>・WACC の定義と意味、求め方を理解する。</li> </ul> <p><b>【参考文献】</b> 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 財務諸表から得られる情報が経営財務の意思決定にどのように役立つかをよく意識して参加すること。</p>
3 . テーマ	資本コストと投資決定の方法
	<p><b>【学習の目標】</b> 企業が投資プロジェクトを決定するための基準を理解できるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 正味現在価値法 (NPV 法)、資本コストと撤退基準、事業ポートフォリオの変化と資本コスト、NPV 法による投資決定、IRR 法と新旧の投資決定基準。</p> <p><b>【キーワード】</b> 資本コスト、NPV 法、IRR 法</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPV 法、IRR 法、その他の主な方法の特徴を理解し、それぞれを使用したときのメリット、デメリットを把握する。</li> <li>・資本コストの大きさが投資決定にどう影響するか。</li> </ul> <p><b>【参考文献】</b> 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p>
4 . テーマ	資本コストと企業経営の実践 (ケーススタディー)
	<p><b>【学習の目標】</b> ケーススタディーによって理論が実務でどう応用されているかを説明できるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 大阪ガスを対象としたケーススタディーを行う。資本コストを意識した事業評価 (SVA) 導入の背景、社内の反応、SVA が浸透した素地、事業の選別と撤退。</p> <p><b>【キーワード】</b> ケーススタディー、SVA、事業評価、経営計画</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資本コスト経営とはどのようなものかをケーススタディーにより理解する。</li> <li>・事業評価に関する理論が実務でどう使われているかを知る。</li> </ul> <p><b>【参考文献】</b> 上記 10 で挙げた①を用いる。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> ディスカッションに積極的に参加し、事例の把握に努めること。</p>
5 . テーマ	資本コストを用いた企業価値評価の推計
	<p><b>【学習の目標】</b> 資本コストを用いた企業価値の評価手法を使えるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 具体的なデータから CAPM によって WACC を計算し、それを用いた企業価値の計算方法を実際に示す。WACC を推計するための株価データ等を使った統計モデルを学ぶ。</p> <p><b>【キーワード】</b> CAPM、WACC、フリーキャッシュフロー、企業価値</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株価データや財務データを入手し、WACC を推計する。</li> <li>・財務データと WACC から、企業価値を計算する。</li> </ul> <p><b>【参考文献】</b> 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 作業の具体的な中身と手順をよく理解すること。 実際に作業をしてレポートを提出してもらう予定である。</p>
6 . テーマ	資金調達方法と企業価値
	<p><b>【学習の目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な資金調達方法の特徴を確認する。</li> <li>・資金調達における負債利用のメリット、デメリットを理解できるようになる。</li> </ul> <p><b>【学習の内容】</b> 内部資金調達、外部資金調達、MM の無関連命題、レバレッジの影響、フィナンシャル・リスク、負債利用の節税効果、負債利用とデフォルト・コスト。</p> <p><b>【キーワード】</b> 資本調達、負債調達、資本構成、MM の無関連命題、レバレッジ、節税効果、デフォルト・コスト</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資本調達と負債調達の特徴を確認する。</li> <li>・経営財務の核となる理論である MM の無関連命題のエッセンスを理解する。</li> <li>・負債利用の特徴を企業価値に与える影響から理解する。</li> </ul> <p><b>【参考文献】</b> 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p>
7 . テーマ	最適な資本構成とは
	<p><b>【学習の目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業価値を最大化するような資本構成は、どのような要因に依存するかを理解できるようになる。</li> <li>・負債利用には、コーポレート・ガバナンス面の効果があり、これが最適な資本構成に影響することを確認する。</li> </ul> <p><b>【学習の内容】</b> 資本構成のトレードオフ理論、ファイナンシャル・フレキシビリティの重要性、コーポレート・ガバナンスと資本構成、負債利用と資本コストの関係、無借金経営の意義。</p> <p><b>【キーワード】</b> 資本構成、トレードオフ理論、コーポレート・ガバナンス、負債の節税効果、ファイナンシャル・フレキシビリティ</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最適な資本構成の決定要因である節税効果とデフォルト・コストとはどのようなものか。</li> <li>・負債利用の節税効果とデフォルト・コストが企業価値にどう影響するか。</li> <li>・負債利用の経営に対する規律付けは、外部からのコーポレート・ガバナンスと同様の効果を持ちうることを理解する。</li> </ul> <p><b>【参考文献】</b> 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p>
8 . テーマ	企業の負債利用の事例 (ケーススタディー)
	<p><b>【学習の目標】</b> ケーススタディーによって理論が実務に対してどのように応用されているかを把握できるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 関西電力と大阪ガスの事例(負債と経営戦略)、花王の事例 (負債利用と資本コスト)、伊勢丹の事例(有利子負債削減)、キリンビールの事例 (積極的な負債の利用)。</p> <p><b>【キーワード】</b> 経営戦略、財務戦略、有利子負債、資本コスト</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の特質の違いによって、負債利用の方法が異なることを理解する。</li> <li>・事例企業の負債利用が理論と整合的に行われているか、現実を描写する上で理論の限界がどのようなものかを考</li> </ul>

	<p>察する。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた①を用いる。</p> <p>【学習する上での留意点】 ディスカッションに積極的に参加し、事例の把握に努めること。</p>
9 . テ ー マ	エクイティ・ファイナンスと新しい調達方法
	<p>【学習の目標】 ・目覚しい金融技術の進歩は、経営財務にも多大な影響を与えていることを確認する。</p> <p>・多様化した資金調達方法の選択肢やその効果を整理する。</p> <p>【学習の内容】 エクイティ・ファイナンス、メザニン、1 株当たりの利益(EPS)の希薄化と投資の長期的効果、マーケット・タイミング、ペッキングオーダー、エクイティ・ファイナンスと利害対立問題、転換社債と証券化。</p> <p>【キーワード】 エクイティ・ファイナンス、利害対立問題、マーケット・タイミング、転換社債、証券化、ペッキングオーダー</p> <p>【学習の課題】 ・資金調達における新しい考え方や方法を理解する。</p> <p>・新しい考え方や方法を既存のものと比較検討し、その利点と弱点を整理する。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた②③を用いる。</p>
10 . テ ー マ	資金調達に関連する既存研究の紹介と現在の論点
	<p>【学習の目標】 既存研究の流れと研究の場で行われている現在の議論を把握できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 負債の理論と実証、新規公開企業の資金調達、資本構成とコーポレート・ガバナンス、資金調達方法と株価パフォーマンス、第三者割当増資、転換社債の発行。</p> <p>【キーワード】 資本構成、IPO、コーポレート・ガバナンス、増資、転換社債</p> <p>【学習の課題】 ・既存研究の成果を整理する。</p> <p>・現在議論されている研究テーマとその主要な論点を把握する。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた②③⑥、関連する論文を用いる。</p> <p>【学習する上での留意点】 本講義のファイナンス分野の研究と自身の研究テーマとの関わりを整理する。</p>
11 . テ ー マ	現金配当
	<p>【学習の目標】 ペイアウト政策において、利益等現金の基本的な分配方針を配当政策というが、企業特質の違いによって効率的な配当政策がどう異なるかを理解できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 ペイアウト政策の動向、配当無関連命題、配当シグナル仮説、配当のフリーキャッシュフロー仮説、配当のライフサイクル仮説、市場のセンチメントとケータリング仮説、配当か投資か。</p> <p>【キーワード】 ペイアウト、配当無関連命題、シグナル仮説、フリーキャッシュフロー仮説</p> <p>【学習の課題】 ・配当無関連命題のエッセンスを理解し、現金配当の経済的機能についての主要仮説を整理する。</p> <p>・配当政策が企業価値に与える効果についての考え方を理解する。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p>
12 . テ ー マ	自社株買い
	<p>【学習の目標】 ・自社株買いと現金配当の特質や機能の違いを理解できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 自社株買いの動向、自社株買い無関連命題、自社株買いとリスク・リターン関係、自社株買いのフリーキャッシュフロー仮説、自社株買いシグナル仮説、自社株買いと株価の長期パフォーマンス、金庫株を巡る議論。</p> <p>【キーワード】 自社株買い、自社株買い無関連命題、金庫株</p> <p>【学習の課題】 ・自社株買いの理論的な特質が現金配当のそれとどう異なるか。</p> <p>・実際の企業での使われ方として、現金配当の利用とどう区別されているか。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身が投資家の立場に立って企業のペイアウト政策の理解を試みるのも有益である。</p>
13 . テ ー マ	ペイアウト政策に関する既存研究の紹介と現在の論点
	<p>【学習の目標】 既存研究の流れ、研究の場で行われている現在の議論を把握できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 ペイアウト政策、配当政策、自社株買いと資本構成、現金配当と自社株買いの違い。</p> <p>【キーワード】 ペイアウト政策、配当政策、現金配当、自社株買い</p> <p>【学習の課題】 ・既存研究の主要なテーマと分析結果を把握する。</p> <p>・現在議論されているテーマの主要な論点を知る。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた②③⑥、関連する論文を用いる。</p> <p>【学習する上での留意点】 本講義のファイナンス分野の研究と自身の研究テーマとの関わりを整理する。</p>
14 . テ ー マ	企業の現金保有と株式持ち合い
	<p>【学習の目標】 現時点では、現金保有と株式持ち合いが企業価値に与える効果についての見解が企業と投資家の間で一致していない。これらの論点を整理する。</p> <p>【学習の内容】 現金保有を巡る諸仮説、企業の現金保有の必要性、現金保有に対する投資家の懸念、新しい株式持ち合い。</p> <p>【キーワード】 現金保有、株式持ち合い、企業価値</p> <p>【学習の課題】 ・企業にとって現金保有はどのような意味を持つのか。</p> <p>・企業にとって株式持ち合いはどのような意味を持つのか。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p>
15 . テ ー マ	M&A 戦略の理論と事例
	<p>【学習の目標】 投資家にどのような価値をもたらすかという視点から、M&amp;A の評価方法を理解する。事例をみることで理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 コーポレートファイナンスと M&amp;A、アスティーとエフ・シー・プロダクツ(FDCP)の経営統合、アサヒビールの和光堂買収、成立しなかった M&amp;A。</p> <p>【キーワード】 M&amp;A、マルチプル法、シナジー効果</p> <p>【学習の課題】 ・マルチプル法を用いた価値評価の計算方法を理解する。</p> <p>・M&amp;A におけるシナジー効果の特徴を事例によって理解する。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた①②を用いる。</p> <p>【学習する上での留意点】 ディスカッションに積極的に参加し、事例の把握に努めること。</p>

1. 科目名 (単位数)	経済学特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5340
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄			
4. 授業形態	ゼミ方式で行う		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特に指定しない		履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	社会保障については、社会政策学、経済学、社会学、法学など様々な学問分野からアプローチがなされている。本講義では、このうち経済学の視点から社会保障について検討している文献を中心に、その考え方を理解していきたい。ただし、経済学も他の学問分野と同様に、様々な考え方やアプローチがあり、同じ制度や政策に対しても意見の相違が当然のようにみられる。その辺りも経済学を含む、学問の面白みも思っていたきたい。			
8. 学習目標	社会保障制度を含む社会政策の対象分野について、経済学の観点からどのような考え方が示されているのかを理解し、研究テーマについて多角的にとらえる素地を養成する。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での報告を基に授業を進めるので、その準備が求められる。</li> <li>・加えて授業を踏まえたレポートを提出してもらい、授業内でそれを基に議論を行いたい。</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> ニコロス・バー (2007) 『福祉の経済学 21 世紀の年金・医療・失業・介護』光生館 駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂 (2015) 『社会政策 福祉と労働の経済学』有斐閣 <b>【参考書】</b> 小塩隆士 (2013) 『社会保障の経済学 第 4 版』日本評論社 西村周三監修 国立社会保障・人口問題研究所編 (2014) 『社会保障費用統計の理論と分析』慶應義塾大学出版会 権丈善一『再分配の政治経済学シリーズ (I～V)』慶應義塾大学出版会 ※通学課程では、以上の本から選択の上、輪読を行いたい。			
11. 成績評価の方法	授業内での報告 50%、レポート 50%			
12. 受講生への メッセージ	経済学の手法や考え方を、修士論文の作成で直接的に使うことは少ないかもしれないが、研究を進めていく上で、一つの視点に凝り固まらず、様々な視点、考え方に触れておくことは有益ではないかと考える。ぜひ積極的に参加されたい。			
13. オフィスアワー	授業内で通知することになる。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	市場と政府			
	<b>【学習の目標】</b> 資本主義経済において、政府がどのような役割を果たしているかを理解する。 <b>【学習の内容】</b> 市場の特徴や限界を理解し、政府がそれに対してどのような政策を行っているかを理解する。 <b>【キーワード】</b> 情報の不完全性 市場の失敗と政府の失敗 規制と政府 <b>【学習の課題】</b> 資本主義経済における政府の役割をどう考えるか。			
2. テーマ	福祉国家			
	<b>【学習の目標】</b> 福祉国家と呼ばれるような国家が、なぜ第二次世界大戦後に生まれたかを理解する。 <b>【学習の内容】</b> 福祉国家はどのように定義されているかを理解し、その時代的背景を理解する。 <b>【キーワード】</b> ケインズ 「福祉国家の危機」 ロビンフッド機能と貯金箱機能 <b>【学習の課題】</b> 福祉国家はなぜ生まれ、現代経済においてどのような役割を果たしているか。			
3. テーマ	社会保障と税			
	<b>【学習の目標】</b> 政府の所得再分配機能を担う社会保障や税が果たしている機能について、理解する。 <b>【学習の内容】</b> 社会保障と税の違いに留意し、給付付き税額控除など新たな仕組みにも注目する。 <b>【キーワード】</b> 所得再分配 負の所得税 国民負担率 <b>【学習の課題】</b> 社会保障と税は所得再分配において、それぞれどのような役割を持っているか。			
4. テーマ	社会保険と民間保険、公的扶助			
	<b>【学習の目標】</b> 社会保障制度における社会保険の役割を、他の制度との比較の中で理解する。 <b>【学習の内容】</b> 社会保障のなかで、社会保険はどのような役割を果たしているか。また、なぜ民間保険だけでは不十分なのか。 <b>【キーワード】</b> 保険原理と扶助原理 資力調査 税と社会保険料 <b>【学習の課題】</b> 社会保険と民間保険はどこが異なるか。なぜ社会保険が社会保障制度の中心となっているか。			
5. テーマ	格差と貧困			
	<b>【学習の目標】</b> 格差や貧困がどのように発生するかを理解する。 <b>【学習の内容】</b> 古くから存在するはずの格差や貧困がどのように認識され、社会問題化したのかを理解する。 <b>【キーワード】</b> 絶対的貧困と相対的貧困 ジニ係数 生活保護の課題 <b>【学習の課題】</b> 格差問題や貧困問題はなぜ生まれるか。どこまで制度・政策で対応すべきか。			
6. テーマ	失業問題			
	<b>【学習の目標】</b> 資本主義経済において失業がどのように発生するかを理解する。			

【学習の内容】	失業にはいくつかの分類がある。その理解をもとに、失業の発生をとらえる。
【キーワード】	失業の発生 自発的失業と非自発的失業 景気変動
【学習の課題】	失業はなぜ生じるのか。
7 . テーマ	失業保険（雇用保険）の制度設計
【学習の目標】	失業保険の役割について理解する。
【学習の内容】	失業保険は各国でどのように制度化され、どのような問題を抱えているのかを理解する。
【キーワード】	給付日数 モラルハザード 失業保険と失業扶助
【学習の課題】	失業保険が就労に与える影響はどのようなものか。
8 . テーマ	公的医療保険の必要性
【学習の目標】	なぜ医療サービスは公的制度で保障する必要があるのかを理解する。
【学習の内容】	他のサービスと比較した医療サービスの特徴を理解し、公的制度がその特徴にどう対応しているかを理解する。
【キーワード】	医療サービスの特性 高齢者医療 保険者機能
【学習の課題】	医療サービスの特徴は何か。
9 . テーマ	診療報酬と医療機関の選択
【学習の目標】	患者の受ける医療や医療機関は、どのように決定されるのかを理解する。
【学習の内容】	医療保障における診療報酬の位置づけについて、理解する。
【キーワード】	診療報酬の意義 家庭医・ゲートキーパー 混合診療
【学習の課題】	診療報酬は医療保障においてどのような意義を果たしているか。また、医療において「選択」はどれだけ有効か。
10 . テーマ	介護サービスと介護保険
【学習の目標】	介護サービスや介護保険の抱える課題について、理解する。
【学習の内容】	介護問題はどのように発生し、それは医療サービスとはどこが異なるのかを理解する。
【キーワード】	医療と介護の違い 介護サービス供給の問題 介護者の問題
【学習の課題】	今後の介護サービス需要の増加にどう対応していくべきか。
11 . テーマ	公的年金の必要性
【学習の目標】	なぜ公的年金が存在するのか。民間の制度では不十分なのか。
【学習の内容】	公的年金の有用性について理解し、それを高めていくために必要なことについて考える。
【キーワード】	長生きのリスク 老後の生活保障 就労形態と一元化
【学習の課題】	公的年金はなぜ必要か。就労や貯蓄にどのような影響を与えるか。
12 . テーマ	公的年金の制度設計
【学習の目標】	各国の公的年金の仕組みについて理解する。
【学習の内容】	公的年金の財政方式について理解し、実際の制度がどのようにになっているかを理解する。
【キーワード】	積立方式と賦課方式 「世代間再分配」 企業年金・個人年金の可能性
【学習の課題】	なぜ各国の公的年金は賦課方式が中心となっているのか。
13 . テーマ	年金制度と高齢化
【学習の目標】	高齢化が年金制度に与える影響について理解する。
【学習の内容】	高齢化が年金制度に与える影響について、どのような政策対応がなされているのかを理解する。
【キーワード】	マクロ経済スライド 財政検証 高齢者雇用との関連
【学習の課題】	年金制度は高齢化にどう対応して行くのか。
14 . テーマ	子ども・子育て
【学習の目標】	子ども・子育てに対する支援について理解する。
【学習の内容】	子ども・子育ての経済に対する影響について、考える。
【キーワード】	子育て支援と少子化対策 保育サービスの確保 子どもの貧困
【学習の課題】	子育てに政府がどれだけ介入すべきか。また、少子化の原因はどのように考えられるか。
15 . テーマ	これまでのまとめ
【学習の目標】	これまでの学習を踏まえて、レポートとしてまとめることができる。
【学習の内容】	これまでの学習を踏まえて、自分なりの問題意識でレポートをまとめ、授業で発表する。
【学習の課題】	レポートを作成し、発表の準備を整える。

1. 科目名 (単位数)	財務会計特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5343
2. 授業担当教員	平 仁			
4. 授業形態	テキストを中心としたディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>会計を学ぶことは、事業経営に成功するための道しるべを作る作業になる。会計を身につけることは事業を成功に導くために不可欠なことであるが、会計を取めることは会計のルールを覚えることではなく、会計情報を読みこなし、経営改善に役立てられるようにすることであることを忘れてはならない。</p> <p>そこで、本講座では、学部レベルの会計学の一定の知識があることを前提に、会計情報の役立て方をテキストをベースとしたディスカッションによって学び取ってもらう。その上で、一般企業の会計とは異なる目的を持つ社会福祉法人の会計制度について、非営利事業たいならではの特徴を含め、学ぶこととする。</p> <p>社会福祉法人の会計基準は平成 23 年 7 月に改訂され、平成 27 年度予算から全面的に新基準が適用される。そこで、現在適用されている旧基準ではなく、今後適用されていくことになる新基準に基づいた講義を行う。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会計の役割を理解し、事業経営に対する会計の重要性を理解する。</li> <li>2. 会計情報を読み解き、経営改善に役立てられるようになる。</li> <li>3. 一般的な会計基準と社会福祉法人の会計基準の異同を理解する。</li> <li>4. 社会福祉法人の会計基準を理解し、社会福祉法人の経営に役立てられるようになる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサイメントを課すことはないが、予習・復習を前提とした講義であることに留意すること。</p> <p>学期末締切りの課題レポートを課す。レポートは課題に対する的確な意見を求めるため、字数制限を設ける。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p><b>【教科書】</b> 林總『餃子屋とフレンチでは、どちらが儲かるか?』PHP 文庫 2011 年 有限責任監査法人トーマツ編『やさしくわかる社会福祉法人の新しい会計基準』中央経済社、2012 年。</p> <p><b>【参考文献】</b> 会計学初学者については、櫻井久勝・須田一幸編『財務会計・入門【第 8 版】』有斐閣アルマ 2013 年、確井悟史・柴田寛幸『入門会計学テキスト【第 4 版】』中央経済社 2006 年、樹岡源一郎編『図解でナットク! 会計入門』中央経済社 2015 年など、一般的な会計学のテキストは優れた書が多いので、自分でよく見て理解しやすいものを一読して下さい。 その他、講義中に適宜指示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義中の発言 40%</li> <li>2. 課題レポート 60%</li> </ol>			
12. 受講生への メッセージ	<p>将来、独立して、自分の店舗を構える場合には、面倒な総務・経理の事務仕事も自分で行うことが必要になります。そのときに困らないよう、独立前から準備しておくべきでしょう。この講座では、受講生とのディスカッションを交えながら、進めていきます。ペースが速く、本学の特徴である双方向対話型授業を行うためにも、予習を前提とします。学んだことを的確に知識として定着させるためには、間を空けずに復習することが肝要です。予習・復習を怠れば、ついていけなくなる可能性が高いため、予習・復習ができないのであれば、選択しないで下さい。また、大学時代に会計学の講義を受講していない方についてはフォローをしますが、初回講義までに参考文献である入門テキストのいずれかを読んできて下さい。</p>			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	ガイダンス・会計が持つ役割			
	<p><b>【学習の目標】</b> 会計が持つ役割とその目的を理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 会計が持つ情報発信機能と内部管理機能の役割と目的を理解する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 財務会計、管理会計、監査論、税務会計、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、公認会計士</p> <p><b>【学習の課題】</b> 財務会計と管理会計の違い、公認会計士の役割を理解する。</p>			
2. テーマ	会計の本質と損益計算書の本質			
	<p><b>【学習の目標】</b> 損益計算書から読み取ることができるものは何であるかを理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 会計のルールが相対的な真実を求めるものでしかない以上、会計が描き出す会計数値は要約された近似値にすぎないことを理解する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 損益計算書 (PL)、収益、費用、売上総利益、営業利益、経常利益、当期純利益、真实性の原則、継続性の原則</p> <p><b>【学習の課題】</b> 損益計算書が示す経営成績の本質的意味を理解する。</p>			
3. テーマ	貸借対照表を理解する			
	<p><b>【学習の目標】</b> 貸借対照表から読み取ることができるものは何であるかを理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 貸借対照表が資金の運用状況と調達先を示していることを理解する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 貸借対照表 (B/S)、現預金、流動資産、固定資産、繰延資産、流動負債、固定負債、純資産、自己資本、他人資本、純資産利益率 (ROA)、自己資本利益率 (ROE)</p>			

	【学習の課題】 貸借対照表が示す財政状態の本質的意味を理解する。
4 . テ ー マ	キャッシュフロー経営とは何か
	<p>【学習の目標】 キャッシュフロー計算書から読み取ることができるものが何であるかを理解する。</p> <p>【学習の内容】 事業の中で流れているお金の流れの元がどこにあるのかを理解し、損益計算書が示す経営成績や貸借対照表が示す財政状態から示される利益計算と手元に残るはずの現金が感覚としてずれている原因を理解できるようになり、キャッシュフローに基づいた経営ができるようになる。</p> <p>【キーワード】 キャッシュフロー計算書 (C/F)、資金繰り、在庫、資金回転率、利益率、営業循環基準、ワンイヤールール、営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー</p> <p>【学習の課題】 キャッシュフロー計算書が示すデータを経営に生かせるようになる。</p>
5 . テ ー マ	経営計画と月次決算の PDCA サイクル
	<p>【学習の目標】 月次決算の必要性を理解し、経営計画の実効性を高めることができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 月次決算を行うことにより、予算と実績値との異同をチェックし、その原因を考えることによって、経営計画の実効性を高めることができるようになる。</p> <p>【キーワード】 月次決算、年次決算、経営計画、予算、標準原価、PDCA サイクル、</p> <p>【学習の課題】 会計における PDCA サイクルを回せるようになる。</p>
6 . テ ー マ	利益構造と損益分岐点分析
	<p>【学習の目標】 ビジネスモデルの違いによる利益構造の違いを理解する。</p> <p>【学習の内容】 どのようなビジネスモデルを選択するかによって、追求する利益の獲得方法が異なるので、ビジネスモデルと経営戦略がリンクしなければならないことを理解できるようになる。</p> <p>【キーワード】 限界利益、固定費、変動費、損益分岐点、限界利益率、ビジネスモデル</p> <p>【学習の課題】 追求する利益構造に適合したビジネスモデル・経営戦略を採用することができるようになる。</p>
7 . テ ー マ	コーポレートブランド経営と会計の役割
	<p>【学習の目標】 ブランド価値の本質を理解する。</p> <p>【学習の内容】 ブランド価値を高めるための方策としての集中戦略が、財政状態を改善できることを理解し、経営改善に役立てることができるようになる。</p> <p>【キーワード】 ブランド価値、割引現在価値、株主価値、株式時価総額法、ディスカウントキャッシュフロー法 (DCF)、無形資産、知的財産権</p> <p>【学習の課題】 ブランド価値が示すことの本質的な意味を理解する。</p>
8 . テ ー マ	粉飾決算の見破り方
	<p>【学習の目標】 粉飾決算を見破ることができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 粉飾決算の代表的な手口を理解し、不自然な動きを見せる勘定科目に注目できるようになることで、粉飾決算を見破ることができるようになる。会計の専門家になるわけではない本学院生がよく理解しておく必要があるところだ。</p> <p>【キーワード】 粉飾、逆粉在庫の水増し、単価操作、架空取引、材料、仕掛品、製品、商品、売掛金、仮払金、繰延資産、3期比較</p> <p>【学習の課題】 粉飾決算の見破り方を理解する。</p>
9 . テ ー マ	原価管理と活動基準原価計算
	<p>【学習の目標】 製品原価の引き下げのためにできることを理解する。</p> <p>【学習の内容】 製品原価を構成する①工場の維持費、②材料費、③製造スピードの3つを、会計数値により可視化することができるようになることにより、製品原価を引き下げることができるようになる。</p> <p>【キーワード】 原価計算、製品原価、標準原価、活動基準原価計算、リードタイム、ジャストインタイム</p> <p>【学習の課題】 工場の維持費・材料費の引き下げと製造スピードの向上がなぜ製品原価の引き下げにつながるのかを理解する。</p>
10 . テ ー マ	機会損失と意思決定
	<p>【学習の目標】 機会損失の概念を理解し、経営の改善に役立てることができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 製品原価の引き下げのために、人件費等のコストが安い外国等に進出することの是非を判断できるようになる。</p> <p>【キーワード】 機会損失、埋没原価、差額原価、戦略的意思決定、戦術的意思決定、外国進出、生産委託、自製</p> <p>【学習の課題】 機械原価を最小にする判断ができるようになる。</p>
11 . テ ー マ	会計数値の裏側、逆粉飾を見破る
	<p>【学習の目標】 会計数値から分析できることとできないことを区別できるようになり、会計数値をきっかけとして経営改善に役立てることができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 会計の持つ限界を理解した上で、現場で何が起きているのか、机上ではなく、現場に赴いて原因を明らかにすることが、経営改善において最も重要なことであることを理解する。</p> <p>【キーワード】 クレーム、逆粉飾、会計処理の変更、バランスト・スコアカード (BSC)</p> <p>【学習の課題】 会計の持つ限界を理解し、経営の真実の姿を捉えることができるようになる。</p>
12 . テ ー マ	社会福祉法人の財務諸表・公益事業の範囲
	<p>【学習の目標】 一般的な会計と社会福祉法人の会計との異同を理解する。 税法が限定列举する公益事業の範囲と公益事業が行う営利事業に対する課税のあり方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 一般的な会計は営利目的企業を前提として考えているが、社会福祉法人は非営利事業ならではの特徴を持っている。その異同を理解し、それゆえの会計制度の異同を理解する。公益事業の範囲と税金について理解する。</p> <p>【キーワード】 資金収支計算書、事業収支計算書、公益事業、収益事業、流山NPO事件、ペット葬祭料事件</p> <p>【学習の課題】 非営利事業である社会福祉法人ならではの会計制度を理解する。税金が会計に与える影響を考え、公益事業に対する税制を理解する。</p>

13-14.テーマ	社会福祉法人会計の具体的内容
	<p>【学習の目標】 一般企業と社会福祉法人の会計基準の具体的な移動を理解する</p> <p>【学習の内容】 社会福祉法人独特の会計の在り方が一般企業会計とどのように異なるのかを理解する。</p> <p>【キーワード】 徴収不能引当金、基本金、国家補助金等特別積立金、減価償却、リース資産、給与、賞与、みなし役員</p> <p>【学習の課題】 一般の企業会計と社会福祉法人会計の異同を理解し、社会福祉法人の会計担当者となっても対応できるようになる。</p>
15. テーマ	社会福祉法人の新しい経営分析
	<p>【学習の目標】 社会福祉法人の財務諸表を読み取り、経営に活かすことができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 各種の分析手法を理解し、経営改善に活かす方法を理解する。</p> <p>【キーワード】 収益関係指標、収益対費用関係指標、損益分岐点分析、事業計画</p> <p>【学習の課題】 経営改善に活かす会計情報から事業計画書を策定できるようになる。</p>

1. 科目名 (単位数)	社会福祉経営特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5341						
2. 授業担当教員	岡田 広司									
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッションを伴ったものにする。		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R						
7. 講義概要	<p>近年、社会保障分野への構造改革による多様な事業体の参入やサービス提供の多様化など、社会福祉サービスのあり方が大きく変化している。福祉サービスヘニーズの変化するなかで、それを提供する組織と経営のあり方は、社会福祉の進展には重要な課題である。また、社会福祉サービスは、国や地方自治体などの行政組織、社会福祉法人や医療法人、NPO などの非営利組織、一般企業などの営利組織、あるいはボランティアなどによって提供されている。</p> <p>社会福祉サービスの提供においては、国による法制度によって、財源の調達方法や提供方法が定められている。しかしながら、各組織では、国の法制度をそのまま受け入れるのではなくて、夫々工夫して質の高い福祉サービスを実現している。</p> <p>この科目では福祉サービス組織を多角的に捉え、地域、行政、福祉サービス事業者からの多様な要請、政策や制度などを踏まえて、社会福祉の組織の経営に関わる基本的な法制度、運営管理の理論や方法を論考し、受講者の身近で実践的課題を取り上げながら講義を進め、常に社会の実践活動で役に立つ視点からの講義を進める。</p> <p>授業の進め方は、教科書は特に指定することなく、各授業回でテーマに沿った講義資料を提供し、ディスカッションを含めて学習する。</p>									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の組織の経営に関わる基礎的理論を理解する。</li> <li>2. 社会福祉サービスを提供するための財源の仕組みを理解する。</li> <li>3. 福祉、介護、医療関連などを中心とした経営組織で活用できる質の高い管理方法を習得する。</li> </ol>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14. 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特に指定しない。毎回、参考資料を配布する。</p> <p>【参考文献】 福祉臨床シリーズ編集委員会編『福祉サービスの組織と経営』弘文堂、2013 年 小松理佐子編『よくわかる社会福祉運営管理』ミネルヴァ、2012 年 社会福祉法人全国社会福祉協議会「社会福祉学双書」編集委員会編『社会福祉概論Ⅱ』2014 年 岡田広司著『現代マネジメント概論』あるむ、2011 年 岡田広司編著『戦略的イノベーションの経営』あるむ、2008 年 岡田広司編著『マーケティング理論と市場戦略』あるむ、2008 年</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>レポート提出</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>授業参加態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業準備</td> <td>10%</td> </tr> </table>				レポート提出	60%	授業参加態度	30%	授業準備	10%
レポート提出	60%									
授業参加態度	30%									
授業準備	10%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生が将来活動の道標となる社会福祉経営の知識は多種に及ぶと思われます。社会福祉経営の基礎理論や現実の課題を考察しながら、受講生の関心のある課題についてさらに学習を深めます。また、学習にあたっては、授業担当教員が長年企業で取り組んだ経営管理の事例、産学官連携の中で進めてきたバリアフリーの研究などの事例を導入して、社会福祉経営の視座において実践的で有効的な講義にします。</p> <p>受講生が社会で福祉・介護あるいは医療機関などで経営管理を考える場合に役立つ授業にしたい。</p>									
13. オフィスアワー	別途通知する。									
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】										
1. テーマ	オリエンテーション、社会福祉サービス提供組織の沿革									
【学習の目標】	社会福祉サービスの組織と経営の基本的構成要素を理解し、社会福祉経営の重要性と共にこの学問を学ぶ意義を理解する。									
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉サービス提供組織の沿革とその組織を取り巻く背景、組織の高度化や複雑性を学習する。</li> <li>2. 社会福祉サービス提供組織の多元化及び組織の範囲、内部の参加者としての役割を学習する。</li> </ol>									
【キーワード】	福祉サービス、組織の時代、介護サービス									
【学習の課題】	高齢化の進展、家族機能の変化、障害者の自立と社会参加の進展などに伴い、社会福祉経営のあり方									
【参考文献】	担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。以下、各テーマとも同じ。									
【学習する上での留意点】	各自の知る範囲で、身近な社会福祉サービスとの比較をして、関心を持って考察を深める。									
2. テーマ	社会福祉サービス提供組織の役割									
【学習の目標】	社会福祉事業法成立及び介護保険法の成立を解説し、それに基づいて社会福祉サービスの有効性や効率性、その限界などを理解する。									
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉事業法成立までと、成立以降の介護保険成立までの福祉サービス提供組織の役割を学習する。</li> <li>2. 社会福祉契約化時代の到来、介護保険法から障害者総合支援法及び、社会福祉法成立を学習する。</li> </ol>									
【キーワード】	社会福祉法、介護保険法、障害者支援法									
【学習の課題】	社会福祉事業法の成立から介護保険法成立までの過程を、社会福祉制度の充実、福祉サービスの契約化の到来を通じて理解する。									
【参考文献】	担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。									
【学習する上での留意点】	社会福祉サービス提供組織の役割と概念をつかむ。これまでに各自か関わった組織と個人との関係などを事例として考察したい。									

3 . テーマ	社会福祉サービス提供組織の体系と制度
【学習の目標】	社会福祉事業を実施する社会福祉施設を取り巻く環境と現状について理解する。
【学習の内容】	1. 社会背景の変化に伴う社会福祉施設の制度の新設・改変およびその分化を学習する。 2. 地域において福祉サービスを提供する社会福祉法人などの組織に関する制度と役割を学習する。
【キーワード】	社会福祉施設、社会福祉法人、医療法人
【学習の課題】	社会福祉事業実施の場としての社会福祉施設の変化と施設機能の地域化などを学習する。
【参考文献】	担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	社会福祉施設はかつての救済・収容・教導・授産など慈善活動の場から、国の責務とされている社会福祉のあり方を学習する。
4 . テーマ	社会福祉サービス提供組織と地域社会
【学習の目標】	地域の社会福祉の中核を担う社会福祉協議会、さらに NPO の現状、地域社会との関連、非営利組織について理解する。
【学習の内容】	1. わが国固有の民間社会福祉経営組織である社会福祉法人の機能と役割を学習する。 2. 地域福祉領域における福祉サービスの提供組織、非営利組織、市民団体について学習する。
【キーワード】	社会福祉協議会、非営利組織、NPO
【学習の課題】	組織は戦略に従い社会福祉経営の戦略と組織の重要性を意識し、さらに組織間関係のあり方に注目して学習したい。
【参考文献】	担当教員が企画・開発して成功した事業において福祉経営の学習の参考になるプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	社会福祉の組織と経営は、地域行政からのコントロールや組織間関係によってその資質が変わることに注目したい。
5 . テーマ	社会福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論
【学習の目標】	現代社会の組織がどのような役割を果たしているか、また優れた組織を構築するための原理・原則について理解する。
【学習の内容】	1. 現実の社会福祉組織が有効に機能して行くために遂行されなければならない経営管理機能を学習する。 2. 社会福祉における有効性指標、福祉組織における有効性に関するモデルを学習する。
【キーワード】	組織有効性指標のダイナミクス、福祉経営組織目標、財務目標ネットワーク
【学習の課題】	福祉経営組織目標の複雑性を考察し、従業員中心の目標システムの事例などを理解し、福祉組織目標の考え方を理解したい。
【参考文献】	担当教員が実践し、福祉経営に適応されるビジネス組織活動事例に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	社会福祉サービス組織の経営目標やその有効性との理論に対して事例との対比を通して理解を深めたい。
6 . テーマ	福祉サービスの管理と運営に関する基礎理論
【学習の目標】	現代管理論の基礎となった伝統的な基礎理論を理解し、また組織が有効に機能するための管理機能を理解する。
【学習の内容】	1. 科学的な管理や方法初めて提唱したテイラーの科学的管理法などについて学習する。 2. 企業の経営活動を分類し、管理の実践上の原則を提示したファヨールの管理過程論を学習する。
【キーワード】	科学的管理法、管理過程論、人間関係論
【学習の課題】	伝統的な基礎理論を理解することによって、個人の組織への参加意欲や貢献意欲の要因、新しいシステムのあり方。
【参考文献】	担当教員が実務家として活動した社会福祉の経営管理と運営に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	企業組織や経営管理が着実に発展した背景にある官僚制システム、ヒエラルキーなどに対しても考察したい。
7 . テーマ	社会福祉における集団力学とリーダーシップ
【学習の目標】	福祉サービスおよび福祉施設管理における集団力学とリーダーシップに関する理論について理解する。
【学習の内容】	1. 集団力学の基礎理論として、集団の凝集性と生産性、グループダイナミクスについて学習する。 2. リーダーシップ・スタイル論、コンティンジェンシー理論などリーダーシップに関する基礎理論を学習する。
【キーワード】	集団力学、リーダーシップ、コンティンジェンシー
【学習の課題】	多様な個人が集まって形成される集団がもつ性質や作用する集団力学と集団内で発生するコンフリクト
【参考文献】	担当教員が体験したコンピュータ導入によるビジネスやジョブ革新に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	福祉サービスにおいて、集団の業績を高めるための有効なリーダーシップの行動パターンについて考察する。
8 . テーマ	社会福祉サービスの業務運営と経営
【学習の目標】	社会福祉組織の運営と経営の基本的な考え方、社会福祉法人の組織運営と経営を理解する。
【学習の内容】	1. 福祉サービスの組織運営と経営の特徴、公益的活動としての福祉サービスの経営を学習する。 2. 社会福祉法人の経営の原則、コンプライアンス、ガバナンス、経営の透明性の確保などを学習する。
【キーワード】	組織運営、法令順守(コンプライアンス)、組織統括(ガバナンス)
【学習の課題】	社会福祉法人が持つ組織風土やコミュニケーション・ネットワークがどのようにして業務運営を進めて行くか。
【参考文献】	社会福祉サービス組織がもたらす業務運営や企業文化の事例テーマ、指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	福祉サービスにおいて、法令順守やガバナンスがコンプライアンスが経営管理システムに影響を与えるという点に注目したい。
9 . テーマ	NPO 法人およびその他の組織の運営と経営
【学習の目標】	NPO 法人および医療法人の運営と経営を理解し、一般の企業つまり営利法人との相違点を理解する。
【学習の内容】	1. NPO 法人とは何か、NPO 法人の組織運営、特定非営利活動、医療法人改革の要点などを学習する。 2. 福祉サービス提供組織の基盤としての資産と管理、経常的運営財源、使途制限を学習する。
【キーワード】	NPO 法人、医療法人、特定非営利活動
【学習の課題】	従来の社会福祉サービス領域に、営利法人(会社)の介護・福祉サービス事業の参入が進んでいる点にも留意して学習する。

【参考文献】	担当教員の企業時代、当該企業が介護・福祉サービス事業に参入し、成功している。具体的な事例を含めた資料を参照する。
【学習する上での留意点】	市民の権利擁護を図るため、行政や公的組織の監視と改善にあたる福祉オンブズマン組織があるので、その意見なども研究したい。
10. テーマ	社会福祉サービスに求められる財務・会計管理
【学習の目標】	福祉サービスの経営のあり方を理解し、安定的な経営を導くために、財務管理のあり方や財務諸表の活かし方を理解する。
【学習の内容】	1. 社会福祉事業の経営管理、経営戦略、サービス利用者、労働者(職員)、事業者(経営者)のバランスを学習する。 2. 福祉サービス事業における管理会計の必要性を理解し、財務会計及び財務諸表の見方を学習する。
【キーワード】	経営戦略、 財務会計、 管理会計
【学習の課題】	良質なサービスを提供しても、収支が恒常的に赤字や債務超過となるような事業の継続は困難、高い利益を上げて利用者不満の低サービスでは問題である。
【参考文献】	担当教員が体験した事業マネジメントに関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	社会福祉事業・施設のミッションを理解し、常に社会福祉法人会計のあり方に関心を持つ。
11. テーマ	社会福祉サービス提供組織の人事労務管理
【学習の目標】	福祉・介護サービス分野における人事労務管理の管理領域について理解する。
【学習の内容】	1. 福祉・介護サービスの機械化や省力化が難しい極めて労働集約性の高い現状を学習する。 2. 採用管理、人事評価管理、能力開発、メンタルヘルス・マネジメントなど組織のダイナミクスを学習する。
【キーワード】	人事労務管理、 労働集約性、 組織のダイナミクス
【学習の課題】	福祉サービスは人が直接サービスを提供するため人件費率が極めて高い、労働集約性をどう乗り越えるか、新しい仕組みを考えたい。
【参考文献】	担当教員が組織の変革と企業の発展に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	福祉サービスはその政策理念と現実とのギャップの中で、利用者、労働者、事業者の3者が受けるメリットのバランスをどうするか。
12. テーマ	社会福祉サービス提供組織の設置基準と管理体制
【学習の目標】	社会福祉事業と社会福祉を目的にする事業の違い、社会福祉施設の事業の設置管理基準の概要を理解する。
【学習の内容】	1. 社会福祉事業の設置管理基準(人員・設備・運営に関する基準)を学習する。 2. 地方主権一括化法の施行に伴う社会福祉分野の地域主権化の方向性を学習する。
【キーワード】	社会福祉事業、 地域主権化、 設置管理基準
【学習の課題】	地域主権改革により、社会福祉法人の指導監督、社会福祉施設の設置管理基準の制定など、地域への権限移動が進んでいる。
【参考文献】	担当教員が新製品開発など企業で実践した体験と組織の学習に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	社会福祉サービスの提供者としての行政サービスの構造及び超高齢化社会における地方自治体のあり方に常に留意する。
13. テーマ	福祉サービス組織の管理運営の方法と現状
【学習の目標】	社会福祉サービス提供組織におけるコンプライアンスとガバナンスのあり方について理解する。
【学習の内容】	1. 経営組織におけるコンプライアンスとガバナンスの定義について学習する。 2. 福祉サービス提供組織の管理運営の方法、財源と財務管理・会計管理の基本的な考え方を学習する。
【キーワード】	労働環境、 介護保険制度、 人材育成
【学習の課題】	介護保険制度施行後、社会福祉法人にも一般企業同様、社会的責任が問われ法令順守体制の構築が求められているに点に注目したい。
【参考文献】	全国の福祉サービス提供組織での事例に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	質の高い介護サービスの提供にあたって、OJTなど職場内外での、専門性を高める教育訓練の充実が急務となっている点に留意する。
14. テーマ	利用者のニーズとサービスマネジメント
【学習の目標】	福祉サービス提供組織の構成機能である職員、組織、情報、物品、設備などの効率的動員について理解する。
【学習の内容】	1. ドラッカーの理論を参考にしつつ、組織の展開に影響する要素、サービスの質・施設の専門性を学習する。 2. 複雑化・多様化・高度化・深刻化・複雑化している利用者のニーズを分析するマーケティング手法を学習する。
【キーワード】	ドラッカー、 福祉サービス情報、 福祉サービス・マーケティング
【学習の課題】	福祉サービスは、サービス主導でなくニーズ中心でなければならない。利用者が抱えるニーズに関心を持つべきである。
【参考文献】	高齢者や障害者の介護施設や病院の資料など、担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	超高齢社会を迎え、営利が必ずしも活動の中心にない組織が重要になる。つまりヒューマン・サービス組織の重要性に留意したい。
15. テーマ	社会福祉サービス組織の危機管理
【学習の目標】	福祉サービスにおけるリスクマネジメントとその管理体制について理解する。
【学習の内容】	1. 福祉サービス組織の中でのリスクマネジメントに有効なPDCAサイクル手法を学習する。 2. 社会福祉サービス組織の経営の基本的な考え方の再確認、および福祉サービスの質の向上と危機管理について学習する。
【キーワード】	リスクマネジメント、 PDCA サイクル、 ネットワーク組織
【学習の課題】	福祉サービス組織における危機管理は、権利擁護の視点と共に、サービスの質の向上につながる点を重視したい。
【参考文献】	担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。
【学習する上での留意点】	個人情報保護への過剰な反応は却って利用者の権利を阻害する場合がある。適切なサービスと安心利用との均衡性を考察したい。

1. 科目名 (単位数)	非営利企業特論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5350
2. 授業担当教員	菊池 敏夫			
4. 授業形態	講義を主にしつつ、質問、報告、討論の時間をつくり進めていく		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	非営利企業とは何か、営利企業(株式会社など)との相違点を明らかにし、非営利企業の事業分野、経営管理、企業統治問題などに接近していく。その過程で営利企業との比較、法規制、海外の非営利企業の状況への理解を深める			
8. 学習目標	非営利企業への理解を深め、研究上の問題領域、研究テーマの理解を深めるとともに、社会福祉事業の経営管理の担当者として必要な専門知識の習得を目標とする。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題を提供して報告してもらい、レポートを提出する。これは、講義の5回および10回目の時間を実施し、報告内容について質問、討論を行い、コメントを行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 特に使用しない、毎回講義資料を配布、それにもとづいて講義を進める。 【参考書】 Effective Non-Profit Management: Context, Concepts, and Competences Shamima Ahmed, CRC Press, 2013. 他毎回授業で紹介、説明する。			
11. 成績評価の方法	日常の授業参加の積極性 30% 中間報告レポート 35% 最終レポート 35%			
12. 受講生への メッセージ	社会福祉事業を営んでいる主体の多くは非営利企業で、これに株式会社が参入して、「社会的企業」という概念が生まれている。社会福祉事業を営んでいる企業の経営管理、企業統治は営利企業に比べて立ち遅れており研究分野としても多くの研究者に参加してほしい分野である。			
13. オフィスアワー	別途お知らせする			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	非営利企業とは何か、その種類、組織形態、最近の活動状況への理解を深める			
	【学習の目標】 非営利企業への理解 【キーワード】 NPO、NPO 法人、社会福祉法人 【参考文献】 菊池敏夫他「企業統治論」第6章「非営利企業の企業統治」(税務経理協会) 2014。			
2. テーマ	非営利企業を含む社会的企業 (social enterprise) が近年多数設立され活動するようになった背景、理由			
	【学習の目標】 社会的企業という概念、用語が形成された背景への理解 【キーワード】 社会的企業 【参考文献】 「企業統治と経営行動」菊池敏夫編著、2012。第Ⅲ部第3章「社会的企業の経営行動」参照。 「社会的企業の主流化：新しい公共をめざして」OECD 編著、連合総合生活開発研究所訳 (明石書店) 2010。			
3. テーマ	非営利企業と営利企業が区別される根拠、要因は何か			
	【学習の目標】 非営利企業が営利企業と異なる点の基本的理解 【キーワード】 剰余金分配の禁止規定 【参考文献】 菊池敏夫他「企業統治論」第6章、税務経理協会、2014。			
4. テーマ	非営利企業とステイクホルダー (利害関係者) との関係、地域社会との関係への理解			
	【学習の目標】 ステイクホルダーの企業に対する要求と期待への理解を深める 【キーワード】 ステイクホルダー、地域社会関係、顧客 (利用者) 関係 【参考文献】 配布資料にて説明			
5. テーマ	報告、討論、中間レポート			
	【学習の目標】 これまでの授業内容の理解、研究上の関心あるテーマの確認 【参考文献】 配布資料にて説明			
6. テーマ	非営利企業と営利企業における価格、原価、間接費の重要性			
	【学習の目標】 価格、原価、間接費などの関係、原価の内容への理解 【キーワード】 価格、原価、間接費 (間接原価) 【参考文献】 配布資料にて説明			
7. テーマ	非営利企業・営利企業における資本の管理の重要性			
	【学習の目標】 企業にとって資本の管理が確立していないと倒産するという危険への認識 【キーワード】 資本収益性、財務流動性、運転資本 【参考文献】 配布資料にて説明			
8. テーマ	非営利企業における企業統治 (コーポレート・ガバナンス) の認識、営利企業との比較			
	【学習の目標】 非営利企業のガバナンスの状況および問題への認識を深める 【キーワード】 コーポレート・ガバナンス、企業統治 【参考文献】 「企業統治論」税務経理協会、2014、第6章、非営利企業の企業統治			

9 . テーマ	非営利企業の社員総会、理事会と株式会社の株主総会、取締役会との比較
【学習の目標】	社員総会、理事会の機能と権限は、株主総会、取締役会とどのように相違しているかへの理解
【キーワード】	株主総会、社員総会、理事会、取締役会
【参考文献】	配布資料により説明
10 . テーマ	報告、質問、討論、および最終レポートの説明
【学習の目標】	授業内容への理解度、興味あるテーマへの研究の集中の接近
【参考文献】	配布資料により説明
11 . テーマ	非営利企業における中枢機能と組織、営利企業の本社組織との比較
【学習の目標】	方針、戦略、管理などの中枢組織の機能の問題は何か、組織が肥大化していないかの認識
【キーワード】	中枢組織、本社組織
【参考文献】	配布資料により説明
12 . テーマ	社会的企業 (social enterprise) の先進国、発展途上国での発展の状況
【学習の目標】	欧州、アメリカ、および発展途上国における発展の状況への理解
【参考文献】	「企業統治と経営行動」菊池敏夫他編著、第Ⅲ部第 3 章 (文眞堂) 2012。他
13 . テーマ	非営利企業の設立、運営に関する法規制、海外の法規制との比較研究
【学習の目標】	非営利企業の設立・運営の法規、日本の問題、海外の状況への理解
【参考文献】	「非営利企業設立・運営ガイドブック」太田達男著、公益法人協会、2012。他
14 . テーマ	非営利企業に関する最近の研究動向、問題への接近の状況
【学習の目標】	非営利企業に関する内外の研究動向、どんな問題に接近しているかへの理解
【参考文献】	配布資料により説明
15 . テーマ	講義全体の総括、質問、最終レポート提出
【学習の目標】	講義内容の確認、何を問題にしたかを説明、理解を深める
【参考文献】	配布資料により説明

1. 科目名 (単位数)	非営利企業特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5350
2. 授業担当教員	城田 吉孝			
4. 授業形態	講義を主にしつつ、質問、報告、討論の時間をつくり進めていく		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	非営利企業とは何か、営利企業（株式会社など）との相違点を明らかにし、非営利企業の事業分野、経営管理、企業統治問題などに接近していく。その過程で営利企業との比較、法規制、海外の非営利企業の状況への理解を深める			
8. 学習目標	非営利企業への理解を深め、研究上の問題領域、研究テーマの理解を深めるとともに、社会福祉事業の経営管理の担当者として必要な専門知識の習得を目標とする。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	課題を提供して報告してもらい、レポートを提出する。これは、講義の5回および10回目の時間を実施し、報告内容について質問、討論を行い、コメントを行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣 【参考書】 Effective Non-Profit Management: Context, Concepts, and Competences Shamima Ahmed, CRC Press, 2013. 他毎回授業で紹介、説明する。			
11. 成績評価の方法	日常の授業参加の積極性 20% 中間報告レポート 30% 期末試験 50%			
12. 受講生への メッセージ	社会福祉事業を営んでいる主体の多くは非営利企業で、これに株式会社が参入して、「社会的企業」という概念が生まれている。社会福祉事業を営んでいる企業の経営管理、企業統治は営利企業に比べて立ち遅れており研究分野としても多くの研究者に参加してほしい分野である。			
13. オフィスアワー	別途お知らせする			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	非営利企業とは何か：定義と社会的役割を考える			
	【学習の目標】 非営利企業への理解 【キーワード】 NPO、NPO 法人 【参考文献】 教科書第 1 章非営利組織とは何か p 1			
2. テーマ	非営利企業とは何か：制度と仕組み、組織形態			
	【学習の目標】 非営利組織の存在理由 【キーワード】 法人の種類 【参考文献】 教科書第 1 章非営利組織と何か p 1 8			
3. テーマ	非営利組織を立ち上げる			
	【学習の目標】 非営利組織における起業家 【キーワード】アントレプレナー 【参考文献】 教科書第 2 章非営利組織を立ち上げる			
4. テーマ	非営利組織の理解			
	【学習の目標】 組織としての発展と挫折 【キーワード】 ネットワークとしての組織 【参考文献】 教科書第 2 章 非営利組織を立ち上げる			
5. テーマ	報告、討論、中間レポート			
	【学習の目標】 これまでの授業内容の理解、研究上の関心あるテーマの確認 【参考文献】 教科書第 1 章から第 2 章			
6. テーマ	非営利組織を動かす			
	【学習の目標】 組織としての特異性 【キーワード】 ガバナンス 【参考文献】 教科書第 3 章非営利組織を動かす p 6 4			
7. テーマ	非営利組織を動かす			
	【学習の目標】 ミッションの変容 【キーワード】 ミッション 【参考文献】 教科書第 3 章ミッションとボードによる管理 p 7 3			
8. テーマ	非営利組織を機能させる：マネジメントの独自性			
	【学習の目標】 管理の基礎 【キーワード】 マネジメントの独自性 【参考文献】 教科書第 4 章 管理の基礎 p 8 5			

9 . テ ー マ	非営利組織を機能させる：マネジメントコントロール
【学習の目標】	人的資源管理
【キーワード】	リーダーシップ
【参考文献】	教科書人的資源管理 p 1 0 1
1 0 . テ ー マ	報告、質問、討論、および最終レポートの説明
【学習の目標】	授業内容への理解度、興味あるテーマへの研究の集中の接近
【参考文献】	教科書第 3 章第 4 章
1 1 . テ ー マ	非営利組織を生かす：非営利組織の特徴
【学習の目標】	組織と環境
【キーワード】	環境適応
【参考文献】	教科書第 5 章非営利組織の特徴 p 1 1 3
1 2 . テ ー マ	非営利組織を生かす：経営戦略のパターン
【学習の目標】	経営戦略のパターン
【参考文献】	教科書第 5 章ネットワーク形成戦略 p 1 3 3
1 3 . テ ー マ	社会との関係を作る
【学習の目標】	非営利組織とパートナーシップ
【参考文献】	教科書第 6 章行政と連携
1 4 . テ ー マ	組織として維持する
【学習の目標】	財源の確保
【参考文献】	教科書第 7 章評価法
1 5 . テ ー マ	非営利組織の今後を考える：講義全体の総括、質問、レポート提出
【学習の目標】	なぜマネジメントは必要か
【参考文献】	教科書第 8 章 p 1 8 9

1. 科目名 (単位数)	マーケティング特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5344
2. 授業担当教員	城田 吉孝			
4. 授業形態	講義、演習 (学生への質問、討議を中心とする)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>マーケティング戦略は、マーケティング環境を把握し、標的市場を決定し、標的顧客に関するマーケティング情報の収集と分析をおこない、顧客層を満足させるためのマーケティング諸活動の最適な組み合わせ、つまりマーケティング・ミックスを開発することである。</p> <p>本講義では、まず (1) マーケティング概念・コンセプトについて紹介し、マーケティング戦略の体系を解説する。次いで、(2) 市場や消費者の動向を探る手段としてのマーケティング・リサーチについて説明する。そして、(3) マーケティング・ミックス (商品政策、価格政策、チャネル、プロモーション) について考察し、(4) マーケティング組織、消費者行動・消費者問題、利用者満足について考える。最後に、(5) マーケティングの展開としてサービス・マーケティング、グローバル・マーケティング、コーズ・リレーテッド・マーケティング等について解説する。さらに、商品については、福祉サービスの品質についても言及する。</p>			
8. 学習目標	<p>マーケティングは企業経営に欠かすことができないものとなっている。マーケティングの考え方は営利企業だけでなく、病院、自治体、大学などの非営利組織においても必要とされている。この講義では、マーケティングの基本を理解することに努める。次の項目を学習目標とする。</p> <p>(1) マーケティング概念・理念の変遷について説明できるようにする。  (2) マーケティング戦略の体系について説明できるようになる。  (3) マーケティング・リサーチによる情報の収集と課題について学び、発表できるようになる。  (4) マーケティング・ミックスについて学び、自分の意見をレポートにまとめ発表できるようになる。  (5) 企業の社会的責任とマーケティング活動について知り、説明できるようになる。  (6) サービス・マーケティング・ミックスについてまとめ、発表できるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. HP を参考にユニクロとしまむらについて、以下のことを比較して、ユニクロとしまむらのマーケティングの特徴について考察しなさい。</p> <p>(1) 企業概要  (2) 経営理念  (3) 商品管理  (4) 環境問題の取り組み</p> <p>2. 聖路加国際病院のHP を見て運営の基本方針、利用者の権利、義務について特徴を述べなさい。</p> <p>3. マーケティング・ミックスについてまとめ、フォード社とゼネラル・モーターズ社のマーケティングの特徴を述べなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書：購入が必要】</p> <p>宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版、2009 年。</p> <p>【参考文献：読んでおくとよい参考図書】</p> <p>西田・城田編『マーケティング戦略論』学文社、2011 年。  大脇・城田・川邊・玉木『新マーケティング情報論』ナカニシヤ出版、2003 年。  近藤『サービス・マーケティング』生産性出版 2013 年  上田・青木『マーケティングを学ぶ：上：売れるしくみ』中央経済社 2008 年  和田・恩蔵・三浦『マーケティング戦略』有斐閣、2001 年。  東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣ブックス 2008 年  牛窪一省『マーケティングリサーチ』日本経済新聞社、1992 年。  小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞、2009 年。  月泉博『ユニクロVSしまむら』日経ビジネス文庫、2009 年。  太田一樹『現代のマネジメント』晃洋書房、2004 年。  監訳恩蔵直人『社会的責任のマーケティング』東洋経済新報社、2011 年。  社会福祉養成講座編集委員会『福祉サービスの組織と経営』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>レポート1. 20%</p> <p>レポート2. 30%</p> <p>単位認定試験 50%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>1. 自ら学び研究するという意識をもってほしい。  2. 観察力、問題解決能力を高める上からも、積極的な態度で臨むこと  3. 日本経済新聞、日経 MJ など企業動向、マーケティングに関する記事に関心を持つようにする。  4. レポートの提出には期限を厳守。</p>			
13. オフィスアワー	第1回の授業の際に連絡する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	マーケティングの概念について			
【学習の目標】	マーケティングの概念と理念について説明できるようになる。			
【学習の内容】	<p>1. 商業・流通・マーケティングの概念</p> <p>2. マーケティングのタイプ</p> <p>3. マーケティングの重要性</p> <p>4. マーケティングのアプローチ</p>			

	<p>5. マーケティング理念 6. 福祉サービスとマーケティング</p> <p>【キーワード】 マーケティング、マーケティングのタイプ、マーケティング・アプローチ、マーケティング理念</p> <p>【学習の課題】 マーケティング理念の変遷について理解する</p> <p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 武井敏『社会福祉施設経営管理論』全国社会福祉協議会</p> <p>【学習する上での留意点】 マーケティング理念は時代により変化することに注意する。</p>
<p>2. テーマ</p>	<p>マーケティング戦略について</p>
	<p>【学習の目標】 マーケティング戦略が市場需要創造を目的として、標的顧客を選定し、それに対応したマーケティングミックスの展開を説明できるようになる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マネジリアル・マーケティングの成立と体系</li> <li>2. マーケティング環境分析</li> <li>3. 標的市場と市場細分化</li> <li>4. マーケティングミックスの開発</li> <li>5. 競争対応の戦略</li> </ol> <p>【キーワード】 マネジリアル・マーケティング、ミクロ環境、標的市場、市場細分化、マーケティングミックス</p> <p>【学習の課題】 マネジリアル・マーケティングの成立とマーケティング戦略の拡張について理解する</p> <p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年</p> <p>【学習する上での留意点】 マーケティング・マネジメントの成立とマーケティング戦略の拡張、戦略的マーケティングと経営戦略・企業戦略の概念について検討する。</p>
<p>3. テーマ</p>	<p>マーケティング・リサーチ（社会福祉調査を含む）（1）について</p>
	<p>【学習の目標】 マーケティング・リサーチは、企業がマーケティングを展開する諸問題に対して、適切な判断・選択・決断をするための情報を当事者に提供する活動であることを説明できるようになる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティング・リサーチの意義と役割</li> <li>2. マーケティング・リサーチの範囲</li> <li>3. マーケティング・リサーチの手順</li> <li>4. マーケティング・リサーチの方法</li> <li>5. 社会福祉調査の特徴</li> </ol> <p>【キーワード】 マーケティング・リサーチ、市場に関する調査、製品に関する調査、価格政策とプロモーションに関する調査、顧客満足度、面接法、郵送法、電話法、インターネット調査</p> <p>【学習の課題】 マーケティングとマーケティング・リサーチの関係を理解する。</p> <p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 西田・城田編『マーケティング戦略論』学文社 2011 年 大脇・城田・川邊・玉木『新マーケティング情報論』ナカニシヤ出版 2003 年 牛窪一省『マーケティング・リサーチ』日本経済新聞社 1992 年 安藤明之『初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析』日本評論社 2009 年</p> <p>【学習する上での留意点】 マーケティング・リサーチは単なる技術ではなく、問題解決の方法を探る科学であることに注意する。</p>
<p>4. テーマ</p>	<p>マーケティング・リサーチ（社会福祉調査を含む）（2）について</p>
	<p>【学習の目標】 マーケティング・リサーチの成否は、調査票設計にかかっていることを説明できるようになる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調査票の設計：質問文の作成</li> <li>2. 標本調査</li> <li>3. 集計と分析</li> <li>4. 回収率を高めるにはどうするか</li> <li>5. 報告書の作成</li> <li>6. マーケティング・リサーチの現代的課題</li> <li>7. 社会福祉調査をめぐる課題</li> <li>8. ビデオ視聴</li> </ol> <p>【キーワード】 調査票、質問文、選択肢、無作為抽出法、有意抽出方法、回収率、個人情報保護法</p> <p>【学習の課題】 マーケティング・リサーチを実施する場合、標本抽出のため名簿リストから正しい標本を選ぶ困難さを理解する。</p> <p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 西田・城田編『マーケティング戦略論』学文社 2011 年 大脇・城田・川邊・玉木『新マーケティング情報論』ナカニシヤ出版 2003 年 安藤明之『初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析』日本評論社 2009 年 牛窪一省『マーケティング・リサーチ』日本経済新聞社 1992 年 斎藤嘉孝『社会福祉調査』新曜社</p> <p>【学習する上での留意点】 マーケティング・リサーチにおいて統計的調査は集団としての現象を把握するために行うものであって、特定の個人や組織の行動を予測したり説明するものではないことに注意する。</p>
<p>5. テーマ</p>	<p>プロダクト・プランニング（福祉サービスを含む）について</p>
	<p>【学習の目標】 プロダクト・プランニングは、市場にどのような製品・サービス（福祉サービスを含む）を提供するかというマーケティング・ミックスの出発点であり、マーケティングの中心的な活動であると説明できるようになる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロダクト・プランニングとは</li> <li>2. 製品の分類：特に製品とサービスの特徴</li> <li>3. 製品計画の内容</li> <li>4. 新製品開発</li> </ol> <p>【キーワード】 製品の概念、福祉サービス、耐久財、消費財、最寄品、製品ライフサイクル</p> <p>【学習の課題】 製品ライフサイクルを中心としたマーケティング戦略の展開について理解する。</p>

	<p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 武井敏『社会福祉施設経営管理論』全国社会福祉協議会</p> <p>【学習する上での留意点】 製品・サービス（福祉サービス）の分類とその特徴、新製品開発の誕生から廃棄までのプロセスについて注意深く検討する。</p>
6. テーマ	ブランディングについて
	<p>【学習の目標】 なぜブランドが価値をもたらすのか、どうすればそのようなブランドが構築できるのか、そしてブランド戦略はどのように展開するか説明できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1. ブランドの起源、意味、機能とブランディング 2. ブランド価値マネジメント 3. ブランド戦略とブランディング 4. ブランディングの課題：企業の社会的責任とブランディング</p> <p>【キーワード】 ブランド、コーポレート・レピュテーション、ブランド・エクイティ、ブランド階層</p> <p>【学習の課題】 ブランドの意義とブランド価値マネジメント、ブランド戦略について理解する。</p> <p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 加藤・寶田・尾碇編『現代のマーケティング論』ナカニシヤ出版 2006 年 西田・城田編『マーケティング戦略論』学文社 2011 年 小川孔輔『よくわかるブランド戦略』日本実業出版社 2001 年 石井淳蔵『ブランド』岩波新書 2004 年 恩蔵直人『競争優位のブランド戦略』日本経済新聞社 1999 年 デービット・A・アーカー『ブランド優位の戦略』ダイヤモンド社 2004 年 青木・岸・田中『ブランド構築と広告戦略』日本経済新聞社 2002 年</p> <p>【学習する上での留意点】 モノがブランドとなることで商品価値が評価されることに留意する。</p>
7. テーマ	プライシングについて
	<p>【学習の目標】 価格は消費者が商品を購入する判断基準である。価格設定の方式と新製品の価格設定や価格管理についてまとめ、発表することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1. プライシング概念と重要性 2. プライシング政策の目標 3. 価格決定の手順 4. 価格決定の方法 5. 新製品の価格政策 6. 価格管理</p> <p>【キーワード】 プライシング、プライシング政策、利潤の極大化、市場標的の選択、コスト・プラス法、端数価格、入札価格法、プライスライン、上澄み吸収価格政策、浸透価格政策、割引政策、リバート政策、プライスリーダー、再販売価格維持政策</p> <p>【学習の課題】 プライシングの概念と重要性、価格決定の方法、新製品の価格政策、価格安定化政策について理解する。</p> <p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 中村・小堀・田口・松木・石居・城田・長谷川・三浦・有馬・浅野・加藤・寶田『マーケティング論』商学研究社 1994 年</p> <p>【学習する上での留意点】 プライシングではメーカーの価格政策と流通業者の価格政策の特徴について注意する。</p>
8. テーマ	マーケティング・チャネルについて
	<p>【学習の目標】 どのような経路で自社の商品やサービスを提供するのが効果的であるかを決定するのがマーケティング・チャネル政策であり、開放的・選択的・排他的チャネルについて説明できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1. マーケティング・チャネルの課題 2. チャネル構造の選択 3. チャネルの管理 4. 垂直的マーケティングシステム：流通系列化 5. 物流管理活動</p> <p>【キーワード】 チャネルの段階数、開放型チャネル、選択的チャネル、排他的チャネル、チャネルパワー、流通系列化、ロジスティクス</p> <p>【学習の課題】 チャネル構造：チャネルの段階数、流通業者のタイプ、流通業者の数と流通系列化について学習する。</p> <p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 加藤・城田・石居・上田・大浜・岡本『現代マーケティング戦略論』中部日本教育文化会 1997 年</p> <p>【学習する上での留意点】 メーカーがマーケティング・チャネルに流通業者を効果的に利用するシステムについて注意する。</p>
9. テーマ	プロモーションについて
	<p>【学習の目標】 マーケティング・コミュニケーション・ミックスとは、広告、人的販売、セールス・プロモーション、パブリシティ、ダイレクト・マーケティングを最適に組み合わせることであるとまとめ、発表できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1. プロモーションの意義 2. マーケティングコミュニケーション 3. マーケティングコミュニケーションミックス 4. 統合型マーケティングコミュニケーション 5. 広報と広告の違い</p> <p>【キーワード】 広告、販売促進、人的販売、パブリシティ、セールスプロモーション、マーケティングコミュニケーション</p> <p>【学習の課題】 プロモーションは、マーケティング・ミックスの要素でありマーケティングコミュニケーションの一環であることを理解する。</p> <p>【参考文献】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 西田・城田編『マーケティング戦略論』学文社 2011 年</p> <p>【学習する上での留意点】 購買者と広告、人的販売、セールスプロモーション、パブリシティの効果について考える。</p>

10. テーマ	マーケティング組織について
【学習の目標】	従業員を企業内部の顧客ととらえ、従業員の満足度を高めることを目的に行うインターナル・マーケティングについて説明できるようになる。
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織の定義</li> <li>2. マーケティング組織研究の概要</li> <li>3. 新たなマーケティング組織 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) サービス・マーケティング</li> <li>(2) インターナル・マーケティング</li> </ol> </li> </ol>
【キーワード】	マーケティング組織、サービス・マーケティング、インターナル・マーケティング、顧客満足、従業員満足
【学習の課題】	企業のマーケティングにかかわる組織とはどのようなものであるか、その特徴や考え方を検討して、想定する企業にとって最適な組織の形を学習する。
【参考文献】	宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年
【学習する上での留意点】	サービス・マーケティングの研究成果から、企業組織の従業員の態度がサービスの品質に影響を与える要素について考える。
11. テーマ	消費者行動と消費者問題について
【学習の目標】	企業のマーケティング活動の対象である消費者の行動特性と消費者問題が発生する要因を説明できるようになる。
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費者行動の概念</li> <li>2. 消費者行動研究の変遷</li> <li>3. 消費者のライフスタイルと価値観</li> <li>4. 消費者の製品関与とブランド・コミットメント</li> <li>5. 消費者問題について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 消費者問題とは</li> <li>(2) 消費者問題の経過</li> <li>(3) 日本の消費者行政：消費者基本法、企業の消費者対応</li> </ol> </li> </ol>
【キーワード】	消費者、消費者情報処理の概念モデル、ライフスタイル、ブランド・コミットメント、消費者問題
【学習の課題】	消費者の行動特性と消費者問題について理解する。
【参考文献】	宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 尾碕・岩永・岡田・藤沢『マーケティングと消費者行動』ナカニシヤ出版 1992 年 名東孝二編『消費者行動研究』東洋経済新報社 1971 年 柏尾昌哉編『現代社会と消費者問題』大月書店 1995 年 吉田良子編『消費者問題入門』建帛社 2010 年
【学習する上での留意点】	消費者が人間の行動として経済や経営・マーケティング活動に大きな影響を与えている背景を考える。
12. テーマ	グローバル・マーケティングについて
【学習の目標】	グローバル・マーケティングをどのように考えればよいのか、グローバル化と国際化、グローバル・マーケティングと国内マーケティングとの比較を理解し、グローバル企業が、世界各国でビジネスを展開する際に直面する課題について説明できるようになる。
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル・マーケティングの意義</li> <li>2. グローバル市場のリサーチ：マクロ環境分析</li> <li>3. グローバル市場の参入戦略</li> <li>4. 韓国におけるグローバル企業の事例</li> </ol>
【キーワード】	グローバル・マーケティング、マクロ環境、輸出、ライセンス (licensing)、海外直接投資
【学習の課題】	グローバル・マーケティングがどのように遂行され発展してきたかを理解する。
【参考文献】	宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年 小原博『基礎コースマーケティング』新世社 2004 年 加藤・寶田・尾碕編『現代のマーケティング論』ナカニシヤ出版 2006 年 上田・青木『マーケティングを学ぶ (上) 売れる仕組み』中央経済社 2008 年
【学習する上での留意点】	グローバル・マーケティングは、国際化の新たな段階における地球企業のマーケティングであることに留意する。
13. テーマ	関係性マーケティングについて
【学習の目標】	関係性マーケティングは、企業と顧客との関係性、取引先との関係性、資本金・投資家との関係性、社会との関係性などさまざまな次元から論じることができ、その関係性が根底にあるものが信頼であることを説明できるようになる。
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係性マーケティングの誕生</li> <li>2. 関係性マーケティングとは何か</li> <li>3. コミュニ・マーケティング</li> <li>4. 信頼の製販同盟</li> <li>5. 対話するマーケティング</li> </ol>
【キーワード】	インタラクト (interact)、IR(investor relation)、ステイクホルダー (stakeholder)、信頼、口込みコミュニケーション
【学習の課題】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マネジリアル・マーケティングから関係性マーケティングの変化</li> <li>2. コミュニ・マーケティングについて学習する。</li> </ol>
【参考文献】	和田・恩蔵・三浦『マーケティング戦略』有斐閣 2001 年
【学習する上での留意点】	関係性マーケティングは、リレーションシップ・マーケティングのことである。なぜ関係性マーケティングの重要性が高まったのかその背景と身近な企業の提携などについて検討する。

14. テーマ	サービス・マーケティングについて
【学習の目標】	サービス製品の特質、顧客サービスを構成する要素についてまとめ、発表することができるようになる。
【学習の内容】	1. サービス・マーケティングの概要 2. サービス・マーケティング・ミックスの特徴
【キーワード】	サービス財、サービス従事者、サービスエンカウンター（顧客接点）、設備環境の設計
【学習の課題】	サービスの製品設計、サービス従事者、顧客満足と品質保証について理解する。
【参考文献】	近藤『サービス・マーケティング』生産性出版 2013 年 小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞 2009 年
【学習する上での留意点】	サービス経済化の背景は豊かさの効果、人口統計的な変化が要因であること留意する。
15. テーマ	コーズ・リレーテッド・マーケティングについて
【学習の目標】	コーズ・リレーテッド・マーケティング（cause-related marketing : CRM）は社会的・経営的な意義を有し、また構造的にも公益と企業利益の追求という二律背反的利益を追求するマーケティングであることを説明できるようになる。
【学習の内容】	1. コーズ・リレーテッド・マーケティング（cause-related marketing : CRM）の概念 2. CRM の意義と構造・形態 3. CRM の展開と課題
【キーワード】	公益活動援助、企業フィランソロピー（corporate philanthropy）、社会的責任（corporate social responsibility: CSR）、CRM の構図、キャンペー型 CRM
【学習の課題】	コーズ・リレーテッド・マーケティングの沿革や今日のさまざまな取組事例を観察することによって我々の身近な問題として理解する。
【参考文献】	宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング その基礎と展開』ナカニシヤ出版 2009 年
【学習する上での留意点】	コーズ・リレーテッド・マーケティングを成功に導くためには、どのようなシステムが考えられるか、市民にハートヒットする自らのアイデアの創出も念頭において検討する。